HP Universal CMDB

Windows および Red Hat Enterprise Linux オペレーティング・システム向け ソフトウェ・アバージョン: 10.0

モデリング・ガイド

ドキュメント・リリース日:2012 年 6 月(英語版) ソフトウェア・リリース日:2012 年 6 月(英語版)



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有 効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、 および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用 ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2002 - 2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

本製品には 'zlib' 汎用圧縮ライブラリのインタフェースが使用されています。 'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかのご確認には、次のサイトをご 利用ください。

http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの取得登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html(英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。

http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

HPソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HPソフトウェアサポートWebサイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポートケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート 窓口 の検索
- •利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

ー 部を除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDの登録は、次の場所で行います。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html(英語サイト)

アクセスレベルに関する詳細は、以下のWebサイトにアクセスしてください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

目次

モデリング・ガイド	1
目次	5
HP Universal CMDB の概要	16
トポロジ・クエリ言 語 (TQL)	17
トポロジ・クエリ言 語 (TQL) の概 要	17
UCMDBマネージャで TQL クエリを作成	18
TQL クエリ結 果 の表 示	19
compound 関係	20
join 関係	20
クエリ・ノード条件	21
Complex Type 条件	22
サブグラフ定 義	23
更新値ポリシーを使用修飾子	23
TQL クエリの定 義	24
TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加	25
複合関係の定義 - シナリオ	26
結合関係の定義 - シナリオ	29
複合タイプの条件の定義 - シナリオ	
サブグラフの定 義を作 成 する - シナリオ	31
ショートカット・メニュー・オプション	32
属性演算子の定義	36
TQL ログ	
トポロジ・クエリ言 語 のユーザ・インタフェース	40
[計算された関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス	41
[複合関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス	42
[結合関係の追加/編集] ダイアログ・ボックス	45
[関係の追加/編集] ダイアログ・ボックス	47
[関連クエリノードを追加]ウィザード	49

[関連クエリノードのタイプ] ページ	50
[関係タイプ] ページ	51
[関連クエリノードのプロパティ] ページ	52
[関連クエリノードのインスタンス] ページ	54
[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックス	55
条件のプレビュー・ダイアログ・ボックス	57
[要素 インスタンス] ダイアログ・ボックス	58
要素 レイアウト のプレビュー・ダイアログ ボックス	60
[Cl インスタンスをフィルタ] ダイアログ ボックス	61
[関係条件を結合]ダイアログ・ボックス	62
[レイアウト設定]ダイアログ・ボックス	63
[クエリ・ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス	63
[クエリノード タイプの再 設 定] ダイアログ・ボックス	75
[関係のタイプを選択]ダイアログ・ボックス	76
[サブグラフ条件の定義]ダイアログ・ボックス	77
[サブグラフの定 義] ダイアログ・ボックス	78
[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス	80
トラブルシューティングおよび制限事項	80
計算された関係の使用	85
計算された関係の概要	85
計算された関係	85
計算された関係のタイプ	86
ダイレクト・リンクの URL の作成	87
ダイレクト・リンクの生成 – 概要	87
ダイレクト・リンクの生成 – 概要 ダイレクト リンクの生成 – シナリオ	87 88
ダイレクト・リンクの生成 – 概要 ダイレクト リンクの生成 – シナリオ パラメータ値を含むテンプレート へのダイレクト・リンクの作成	87 88 88
ダイレクト・リンクの生成 – 概要 ダイレクト リンクの生成 – シナリオ パラメータ値を含むテンプレート へのダイレクト・リンクの作成 JMX コンソールを使用したダイレクト・リンクのパスワードの暗号化	87 88 88 88
ダイレクト・リンクの生成 – 概要 ダイレクト リンクの生成 – シナリオ パラメータ値を含むテンプレート へのダイレクト・リンクの作成 JMX コンソールを使用したダイレクト・リンクのパスワードの暗号化 [ダイレクト リンクを生成] のユーザ・インタフェース	87 88 88 89 89
ダイレクト・リンクの生成 – 概要 ダイレクト リンクの生成 – シナリオ パラメータ値を含むテンプレート へのダイレクト・リンクの作成 JMX コンソールを使用したダイレクト・リンクのパスワードの暗号化 [ダイレクト リンクを生成] のユーザ・インタフェース [ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス	87 88 88 89 89 89
ダイレクト・リンクの生成 – 概要 ダイレクト リンクの生成 – シナリオ パラメータ値を含むテンプレート へのダイレクト・リンクの作成 JMX コンソールを使用したダイレクト・リンクのパスワードの暗号化 [ダイレクト リンクを生成] のユーザ・インタフェース [ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス ダイレクト・リンクの生成 ウィザード	87 88 88 89 89 89 89 90
ダイレクト・リンクの生成 – 概要 ダイレクト リンクの生成 – シナリオ パラメータ値を含むテンプレート へのダイレクト・リンクの作成 JMX コンソールを使用したダイレクト・リンクのパスワードの暗号化 [ダイレクト リンクを生成] のユーザ・インタフェース [ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス ダイレクト・リンクの生成 ウィザード [コマンドを選択] ページ	87 88 88 89 89 89 90 91

[ダイレクト リンク パラメータ]-[Cl タイプ セレクタ]ページ	94
[ダイレクト リンク パラメータ] - [CII グリッド]ページ	95
[ダイレクト リンク パラメータ] - [影響 マップ]ページ	95
[ダイレクト リンク パラメータ]-[モデル エディタ]	96
[ダイレクト リンク パラメータ]-[クエリ エディタ]	97
[ダイレクト リンク パラメータ] – [関 連 CI]ページ	98
[ダイレクト リンク パラメータ]-[レポート ビューア]ページ	98
[ダイレクト リンク パラメータ]-[レポート ビューア]-[保存済みレポート]ページ	99
[ダイレクト リンク パラメータ]-[Cl プロパティを表示]ページ	99
[ダイレクト リンク パラメータ] – [ビュー トポロジを表 示] ページ	. 100
[ダイレクト リンク パラメータ]ページ – [ビュー エディタ]ページ	. 100
[ダイレクト リンク パラメータ]-[ビュー セレクタ]ページ	101
[ダイレクト リンク パラメータ] – [ビューを表 示] ページ	101
[ダイレクト リンク パラメータ]-[モードで開始]ページ	. 102
[終了] ページ	. 103
ダイレクト・リンクを使用した UCMDB アプレットの埋め込み	. 104
ダイレクト・リンク機能を使用した UCMDB アプレットの埋め込み	104
UCMDB アプレット・タグ – 概 要	. 104
ダイレクト・リンク操作フロー	105
CI セレクタでの作業	. 110
CI セレクタの概要	110
ブラウザ・モード でのビューの表 示	110
検索 モー ドでの CI の検索	. 111
CI セレクタ表 示 オプションの修 正	. 112
CI の選 択 のユーザ・インタフェース	112
[CI条件検索]ダイアログ・ボックス	. 113
CI セレクタ	. 114
[検索を整理]ダイアログ・ボックス	. 121
[ソフトウェア検索を実行] ダイアログ・ボックス	122
[検索条件を保存]ダイアログ・ボックス	. 123
トラブルシューティングおよび制限事項	123
トポロジ・マップの作業	. 124

トポロジ・マップの概要	124
大きなビューの処理	124
トポロジ・マップ・ユーザ・インターフェイス	125
[イメージ] ダイアログ・ボックスにマップをエクスポート	125
レイアウト プロパティダイアログ ボックス	126
メイン・メニュー	138
[印刷] ダイアログ・ボックス	139
[印刷プレビュー]ダイアログ・ボックス	139
[印刷設定] ダイアログ・ボックス	140
ツールバー・オプション	141
[トポロジ マップ] サイド バー	147
モデリング	150
IT ユニバース マネージャ	151
IT ユニバース・マネージャの概要	151
IT ユニバース・マネージャでの作業	152
ツリー構 造を表 示	154
01 での作 世	154
関係での作業	
BI その作業 関係での作業 CMDB での CI と関係の作成	
BIE CI の表示	
関係での作業 開係での作業 CMDB での CI と関係の作成 関連 CI の表示 アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック(ビューの再検出)	
BICOTF業 関係での作業 CMDBでのCIと関係の作成 関連CIの表示 アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック(ビューの再検出) 影響分析結果の取得-シナリオ	
 B (C (O)) (* 1) B (茶 での作 業	
 B (C (O)) 「 * 1 B (R での作 * C (MDB での C) と関係の作成 B 連 C) の表示 アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック(ビューの再検出) 影響分析結果の取得 - シナリオ ビューのスナップショットを取る トポロジ・マップをファイルに印刷して保存 	
 B (C) (C) (F (業)) B (案) での作業 CMDB での CI と関係の作成 B (注) の表示 アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック(ビューの再検出) 影響分析結果の取得 - シナリオ ビューのスナップショットを取る トポロジ・マップをファイルに印刷して保存 IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース 	
 B (C to NF *	
 CI CONF 業 関係での作業 CMDB での CI と関係の作成 関連 CI の表示 アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック(ビューの再検出) 影響分析結果の取得 - シナリオ ビューのスナップショットを取る トポロジ・マップをファイルに印刷して保存 IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース [モデルへの CI の追加] ダイアログ・ボックス [ビューへの CI の追加] ダイアログ・ボックス 	
 CI CONF 業 関係での作業 CMDB での CI と関係の作成 関連 CI の表示 アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック(ビューの再検出) 影響分析結果の取得 - シナリオ ビューのスナップショットを取る トポロジ・マップをファイルに印刷して保存 IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース [モデルへの CI の追加] ダイアログ・ボックス [ビューへの CI の追加] ダイアログ・ボックス [タイムフレームの変更] ダイアログ・ボックス 	
 CI CONF 業 関係での作業 CMDB での CI と関係の作成 関連 CI の表示 アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック(ビューの再検出) 影響分析結果の取得 - シナリオ ビューのスナップショットを取る トポロジ・マップをファイルに印刷して保存 IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース [モデルへの CI の追加] ダイアログ・ボックス [ビューへの CI の追加] ダイアログ・ボックス [CI / 関係の履歴] ダイアログ・ボックス 	156 156 160 161 162 162 164 169 169 169 169 169 169 170 170 171
関係での作業 関連 CI の表示 アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック(ビューの再検出) 影響分析結果の取得 - シナリオ ビューのスナップショットを取る トポロジ・マップをファイルに印刷して保存 IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース [モデルへの CI の追 加] ダイアログ・ボックス [ビューへの CI の追 加] ダイアログ・ボックス [ケイムフレームの変更] ダイアログ・ボックス [ローパティ]ダイアログ・ボックス [構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス	156 160 161 162 162 164 169 169 169 169 169 169 170 170 170 171
B 係 での作業 関係 での作業 CMDB での CI と関係 の作成 関連 CI の表示 アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック(ビューの再検出) 影響分析結果の取得 - シナリオ ビューのスナップショットを取る トポロジ・マップをファイルに印刷して保存 IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース [モデルへの CI の追加] ダイアログ・ボックス [ビューへの CI の追加] ダイアログ・ボックス [レイムフレームの変更] ダイアログ・ボックス [ロノームの変更] ダイアログ・ボックス [株成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス [サブレポートの生成] ダイアログ・ボックス	156 160 161 162 162 164 169 169 169 169 169 169 170 170 170 171 171

[関係の挿入] ダイアログ・ボックス	
[関係] ページ	
[IT ユニバース マネージャ] ページ	181
[新規 CI]/[新規関連 CI]ダイアログ・ボックス	190
[関係]ダイアログ・ボックス	
[影響分析を実行]ダイアログ・ボックス	194
[スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックス	
[ディスカバリのステータスと変更の表示]ダイアログ・ボックス	197
[影響を表示]表示枠	
モデリング・スタジオ	
モデリング・スタジオ概要	
ビュー形 式	
ビジネス・ビューの構 築	
テンプレートとパースペクティブ	
定義済みのフォルダとビュー	
テンプレート・ベース・ビューの作成	
ビジネス CI モデル	
ビジネス CI モデル パースペクティブ・ベース・ビューの作成	
ビジネス CI モデル	
ビジネス CI モデル パースペクティブ・ベース・ビューの作成 隣接検索 CI とウォッチポイント パターン・ビューの作成	
ビジネス CI モデル パースペクティブ・ベース・ビューの作成 隣接検索 CI とウォッチポイント パターン・ビューの作成 テンプレートの作成	205 207 209 213 214
ビジネス CI モデル パースペクティブ・ベース・ビューの作成 隣接検索 CI とウォッチポイント パターン・ビューの作成 テンプレートの作成 パースペクティブの作成	
ビジネス CI モデル パースペクティブ・ベース・ビューの作成 隣接検索 CI とウォッチポイント パターン・ビューの作成 テンプレートの作成 パースペクティブの作成 テンプレート・ベース・ビューの作成	
ビジネス CI モデル パースペクティブ・ベース・ビューの作成 隣接検索 CI とウォッチポイント パターン・ビューの作成 テンプレートの作成 パースペクティブの作成 テンプレート・ベース・ビューの作成 複数 のテンプレート・ベース・ビューの作成	
ビジネス CI モデル パースペクティブ・ベース・ビューの作成 隣接検索 CI とウォッチポイント パターン・ビューの作成 テンプレートの作成 パースペクティブの作成 テンプレート・ベース・ビューの作成 複数 のテンプレート・ベース・ビューの作成 レポート設定の定義	
ビジネス CI モデル パースペクティブ・ベース・ビューの作成 隣接検索 CI とウォッチポイント パターン・ビューの作成 テンプレートの作成 パースペクティブの作成 テンプレート・ベース・ビューの作成 複数 のテンプレート・ベース・ビューの作成 レポート設定 の定義 インスタンス・ベース・モデルの作成	205 207 209 213 214 215 216 217 218 219
ビジネス CI モデル パースペクティブ・ベース・ビューの作成 隣接検索 CI とウォッチポイント パターン・ビューの作成 テンプレートの作成 パースペクティブの作成 テンプレート・ベース・ビューの作成 複数 のテンプレート・ベース・ビューの作成 レポート設定 の定義 インスタンス・ベース・モデルの作成 新規パターン・ベース・モデルの作成	205 207 209 213 214 215 216 217 218 219 220
ビジネス CI モデル パースペクティブ・ベース・ビューの作成 隣接検索 CI とウォッチポイント パターン・ビューの作成 テンプレートの作成 パースペクティブの作成 テンプレート・ベース・ビューの作成 複数のテンプレート・ベース・ビューの作成 レポート設定の定義 インスタンス・ベース・モデルの作成 新規パターン・ベース・モデルの作成 モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成	205 207 209 213 214 215 216 217 218 219 220 221
ビジネス CI モデル パースペクティブ・ベース・ビューの作成 隣接検索 CI とウォッチポイント パターン・ビューの作成 テンプレートの作成 パースペクティブの作成 テンプレート・ベース・ビューの作成 複数のテンプレート・ベース・ビューの作成 レポート設定の定義 インスタンス・ベース・モデルの作成 新規パターン・ベース・モデルの作成 モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成 CI のコレクションに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成	205 207 209 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222
ビジネス CI モデル パースペクティブ・ベース・ビューの作成 隣接検索 CI とウォッチポイント パターン・ビューの作成 テンプレートの作成 パースペクティブの作成 テンプレート・ベース・ビューの作成 複数 のテンプレート・ベース・ビューの作成 レポート設定 の定義 インスタンス・ベース・モデルの作成 新規パターン・ベース・モデルの作成 モデルに基 づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成 CI のコレクションに基 づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成 モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース	205 207 209 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 222
ビジネス CI モデル パースペクティブ・ベース・ビューの作成 隣接検索 CI とウォッチポイント パターン・ビューの作成 テンプレートの作成 パースペクティブの作成 テンプレート・ベース・ビューの作成 複数のテンプレート・ベース・ビューの作成 レポート設定の定義 インスタンス・ベース・モデルの作成 モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成 CI のコレクションに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成 モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース [関数の追加/編集]ダイアログ・ボックス	205 207 209 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 222 222

[選択した項目に対する操作の選択]ダイアログ・ボックス22	26
[関連 CI の条件]ダイアログ・ボックス22	26
[隣接検索パスの作成/編集/保存]ダイアログ・ボックス22	27
[新規ビューの作成]ダイアログ・ボックス22	28
[サイクル定義]ダイアログ・ボックス	28
[非表示 CI]ダイアログ・ボックス22	29
[階層ルール]ダイアログ・ボックス23	30
左側の表示枠	30
[Cl ウォッチポイントの管理]ダイアログ・ボックス2:	35
モデル・エディタ	35
[モデリングスタジオ]ページ	41
[選択済みのCIを含むモデル]ダイアログ・ボックス	42
[新規モデル]ダイアログ・ボックス24	43
[新規パターンビュー]/[新規テンプレート]/[新規パースペクティブ]ダイアログ・ボック ス24	43
[新規ウォッチポイント]ダイアログ・ボックス24	44
[隣接検索パスを開く]ダイアログ・ボックス	45
[パターン ベース モデル スケジューラ]ダイアログ・ボックス	46
[パターン ベース モデル] ウィザード	47
[Clタイプの選択]ページ	48
[クエリの選択]ページ	48
パターン・ビュー・エディタ	49
パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ	53
[クエリノードのグループ化]ダイアログ・ボックス	58
[クエリ/ビュー定 義 プロパティ]ダイアログ・ボックス25	59
[CIを隣接検索]ダイアログ・ボックス	60
[クエリを保存]ダイアログ・ボックス	62
[ビュー/テンプレート/パースペクティブを保存]ダイアログ・ボックス	63
[統合ポイントの選択]ダイアログ・ボックス	64
[カラムコンテンツの並べ替え]ダイアログ・ボックス	64
[テンプレート ベースビュー]ウィザード	65
[テンプレートの選択]ページ	66

[パラメータ値をインポート]ページ	
[パラメータを入力]ページ	268
[ビューの場所を選択]ページ	268
[サマリ]ページ	269
[ビューを保存]ページ	270
[テンプレート パラメータ値]ダイアログ・ボックス	270
TQL クエリ・エディタ	270
[選択済みのClを含むビュー]ダイアログ・ボックス	274
[ウォッチポイントの更新]ダイアログ・ボックス	275
[<クエリ/テンプレート/パースペクティブ名>の依存関係]ダイアログ・ボックス.	276
レポート	277
トポロジ・レポートの概要	277
カスタム・レポートの概要	278
トポロジ・レポートの表 示	278
カスタム・レポートの生成	278
CI の比較	279
スナップショットを比較する	280
Cron 式	
Cron 式 ユーザー・インターフェイスのレポート	281
Cron 式 ユーザー・インターフェイスのレポート エージェント・ステータス・レポート	281 282 283
Cron 式 ユーザー・インターフェイスのレポート エージェント・ステータス・レポート アプリケーション・ブレークダウン・レポート	281 282 283 284
Cron 式 ユーザー・インターフェイスのレポート エージェント・ステータス・レポート アプリケーション・ブレークダウン・レポート アセット・レポート	281 282 283 284 286
Cron 式 ユーザー・インターフェイスのレポート エージェント・ステータス・レポート アプリケーション・ブレークダウン・レポート アセット・レポート 変更済みアプリケーション・レポート	281 282 283 284 286 288
Cron 式 ユーザー・インターフェイスのレポート エージェント・ステータス・レポート アプリケーション・ブレークダウン・レポート アセット・レポート 変更済みアプリケーション・レポート 変更されたビューのレポート	281 282 283 284 286 288 289
Cron 式 ユーザー・インターフェイスのレポート エージェント・ステータス・レポート アプリケーション・ブレークダウン・レポート アセット・レポート 変更済みアプリケーション・レポート で更されたビューのレポート Cl 変更レポート	281 282 283 284 286 288 289 291
Cron 式 ユーザー・インターフェイスのレポート エージェント・ステータス・レポート アプリケーション・ブレークダウン・レポート アセット・レポート 変更済みアプリケーション・レポート 変更されたビューのレポート Cl 変更レポート CMDB 使用率レポート	281 281 282 283 284 286 288 289 291 295
Cron 式 ユーザー・インターフェイスのレポート エージェント・ステータス・レポート アプリケーション・ブレークダウン・レポート アセット・レポート 変更済みアプリケーション・レポート 変更されたビューのレポート CI 変更レポート CMDB 使用率レポート レポート・アーカイブを比較	281 281 282 283 284 286 286 289 291 295 296
Cron 式 ユーザー・インターフェイスのレポート エージェント・ステータス・レポート アプリケーション・ブレークダウン・レポート アセット・レポート 変更済みアプリケーション・レポート 変更されたビューのレポート Cl 変更レポート CMDB 使用率レポート レポート・アーカイブを比較 Cl 比較レポート	281 281 282 283 284 286 286 289 291 295 296 299
Cron 式 ユーザー・インターフェイスのレポート エージェント・ステータス・レポート アプリケーション・ブレークダウン・レポート アセット・レポート 変更済みアプリケーション・レポート 変更されたビューのレポート CI 変更レポート CMDB 使用率レポート レポート・アーカイブを比較 CI 比較レポート	281 282 283 284 286 286 286 289 291 295 296 299 304
Cron 式 ユーザー・インターフェイスのレポート エージェント・ステータス・レポート アプリケーション・ブレークダウン・レポート アセット・レポート 変更済みアプリケーション・レポート 変更されたビューのレポート CI 変更レポート CMDB 使用率レポート レポート・アーカイブを比較 CI 比較レポート スナップショット比較レポート 構成マネージャ・ポリシー・レポート	281 282 283 284 286 286 286 288 289 291 295 296 299 304 307
Cron 式 ユーザー・インターフェイスのレポート エージェント・ステータス・レポート アプリケーション・ブレークダウン・レポート アセット・レポート 変更済みアプリケーション・レポート 変更されたビューのレポート CI 変更レポート CMDB 使用率レポート レポート・アーカイブを比較 CI 比較レポート スナップショット比較レポート 構成マネージャ・ポリシー・レポート	281 281 282 283 284 286 286 288 289 291 295 295 296 299 304 307 309

	依存関係レポート	. 313
	ディスカバリ・エラー・レポート	. 315
	汎用ブレークダウン・レベル	. 317
	ゴールド・マスタ・レポート	318
	ハード ウェア・コンポーネントのサマリ・レポート	320
	影響分析レポート	. 321
	[ジョブ リスト] ダイアログ・ボックス	323
	ネットワーク・デバイスのブレークダウン・レポート	325
	ノード OS のブレークダウン・レポート	. 327
	ノード・サマリ・レポート	. 328
	VLAN によるノード・サマリ・レポート	329
	変更件数レポート	. 330
	認識されたアプリケーション・レポート	332
	[レポートのプロパティ] ダイアログ・ボックス	. 334
	[レポート] ページ	334
	スキャン・ファイル・ステータス・レポート	338
	スキャナ実行詳細レポート	. 340
	スキャナ実行詳細レポート [スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス	. 340 . 341
	スキャナ実行詳細レポート [スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス ソフトウェア使用率レポート	340 . 341 344
	スキャナ実 行 詳 細 レポート [スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス ソフトウェア使 用 率 レポート Solaris ゾーン・レポート	340 . 341 344 345
	スキャナ実行詳細レポート [スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス ソフトウェア使用率レポート Solaris ゾーン・レポート トポロジ・レポート	340 . 341 344 345 346
	スキャナ実行詳細レポート [スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス ソフトウェア使用率レポート Solaris ゾーン・レポート トポロジ・レポート 変更レポートを表示	340 .341 344 345 346 347
	スキャナ実行詳細レポート [スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス ソフトウェア使用率レポート Solaris ゾーン・レポート トポロジ・レポート 変更レポートを表示 VMware ホスト・レポート	340 .341 344 345 346 347 349
	スキャナ実行詳細レポート [スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス ソフトウェア使用率レポート Solaris ゾーン・レポート トポロジ・レポート 変更レポートを表示 VMware ホスト・レポート	340 . 341 344 345 346 347 349 350
	スキャナ実行詳細レポート [スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス ソフトウェア使用率レポート Solaris ゾーン・レポート トポロジ・レポート 変更レポートを表示 VMware ホスト・レポート VMware 仮想センター・レポート	340 . 341 344 345 346 347 349 350 351
	スキャナ実行詳細レポート [スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス ソフトウェア使用率レポート Solaris ゾーン・レポート トポロジ・レポート 変更レポートを表示 VMware ホスト・レポート VMware 仮想センター・レポート ゾーンベースのディスカバリ・エラー・レポート ツールバー・オプション	340 . 341 344 345 346 347 349 350 351 352
響分	スキャナ実行詳細レポート [スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス ソフトウェア使用率レポート Solaris ゾーン・レポート トポロジ・レポート 変更レポートを表示 VMware ホスト・レポート VMware 仮想 センター・レポート ゾーンベースのディスカバリ・エラー・レポート ツールバー・オプション	340 . 341 344 345 346 347 349 350 351 352 356
響影	スキャナ実行詳細レポート [スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス ソフトウェア使用率レポート Solaris ゾーン・レポート トポロジ・レポート 変更レポートを表示 VMware ホスト・レポート VMware 仮想センター・レポート ゾーンベースのディスカバリ・エラー・レポート ツールバー・オプション 計析マネージャの概要	340 . 341 344 345 346 347 349 350 351 352 356 . 356
響影影	スキャナ実行詳細レポート [スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス ソフトウェア使用率レポート Solaris ゾーン・レポート トポロジ・レポート クプレポートを表示 VMware ホスト・レポート VMware 仮想 センター・レポート ゾーンベースのディスカバリ・エラー・レポート ツールバー・オプション 分析 マネージャ 響 ルールの定義 - ワークフロー	340 . 341 344 345 346 347 349 350 351 352 356 . 356 . 357
響影影影	スキャナ実行詳細レポート [スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス ソフトウェア使用率レポート Solaris ゾーン・レポート トポロジ・レポート クプロートを表示 VMware ホスト・レポート VMware 仮想センター・レポート ゾーンベースのディスカバリ・エラー・レポート ツールバー・オプション 計析マネージャ 響分析マネージャの概要 響ルールの定義 - ワークフロー 響分析マネージャのユーザ・インタフェース	340 . 341 344 345 346 347 349 350 350 356 . 356 . 357 359
響影影影	スキャナ実行詳細レポート [スナップショットをReport/スケジュールする]ダイアログ・ボックス ソフトウェア使用率レポート Solaris ゾーン・レポート トポロジ・レポート 変更レポートを表示 VMware ホスト・レポート ゾーンベースのディスカバリ・エラー・レポート ツールバー・オプション オ マネージャの概要 響 カ析 マネージャの概要 響 カ析 マネージャのユーザ・インタフェース [詳細]ダイアログ・ボックス	340 . 341 344 345 346 347 347 349 350 351 356 . 356 . 357 359 359

影

[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックス	366
[影響ルール定義]ダイアログ・ボックス	367
新規影響ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存ウィザード	368
[影響ルールの一般属性]ページ	369
[影響ルールベース クエリ] ページ	370
[影響ルールグループ]ページ	371
Cl タイプ・マネージャ	372
CI タイプの概 要	372
Cl タイプ属 性	373
CI タイプの関係	374
廃止 Cl タイプ	374
システム・タイプ・マネージャ	375
Cl タイプの作 成	375
関係タイプの作成	377
計算された関係タイプの作成	378
リストと一覧の定義の作成	378
列挙定義の作成 – ワークフロー	379
CI タイプと関係の説明を表示	380
Cl タイプ・マネージャのユーザ・インタフェース	380
[属性の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス	381
[関係の追加 / 削除] ダイアログ・ボックス	383
Cl タイプ・マネージャ	384
設定項目タイプ/関係/計算された関係の作成ウィザード	386
[詳細]ページ	387
[属性]ページ	388
[修飾子] ページ	391
[Triplet] ページ	392
[アイコン] ページ	393
[付属メニュー] ページ	394
[デフォルトのラベル] ページ	396
[一致ルール] ページ	397
[リスト / 一覧定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス	398

[Excel への選 択した CIT のエクスポート] ダイアログ・ボックス	401
[PDF への選択した CIT のエクスポート] ダイアログ・ボックス	402
[システム タイプ マネージャ] ダイアログ・ボックス	
エンリッチメント・マネージャ	404
エンリッチメント・マネージャー概要	404
エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ	406
エンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加	409
新規テナント関連付けルールの定義	410
エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェースス	411
[エンリッチメント マネージャ] ページ	412
新規エンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチ ルールとして保存ウィザード	メント・ 419
[ルールー 般 属 性]ページ	419
[ルール ベース クエリ] ページ	421
新規テナント関連付けルール/テナント関連付けルールのプロパティ/テナン 付けルールとして保存ウィザード	ト関連 422
[ルールー 般 属 性] ページ	
[ルール ベース クエリ] ページ	
[クエリノード / 関係の定義] ダイアログ・ボックス	425
[クエリノード定義] - [詳細な属性]ダイアログ・ボックス	
[利用者テナントを更新]ダイアログ・ボックス	428
[利用者テナントを更新]ダイアログ・ボックス	429
HP Universal CMDB データ・モデル	
UCMDB データ・モデルの概要	431
ユニバーサル・データ・モデル(UDM) の概 要	431
UCMDB データ・モデルの UML ツールへのエクスーポート	432
クラス・モデルのエクスポート	432
UML ツールへのエクスポート – 概要	433
クラス・モデルの選択部分のXMLを変換	
UML へのエクスポート・ツールのユーザ・インタフェース	434
UML へのクラス・モデルのエクスポート・ウィザード	434
有効なリンクの選択	435
選択した項目のエクスポート	

ツール・プラグイン入力	
参照情報	
テーブルでの作業	438
カラムのインタフェース	438
[カラムの選択] ダイアログ・ボックス	438
[カラム コンテンツの並 ベ替 え] ダイアログ・ボックス	
正規表現の例	441
正規表現の例	441

HP Universal CMDB の概要

第1章

トポロジ・クエリ言語(TQL)

本章の内容

トポロジ・クエリ言 語 (TQL) の概 要	17
UCMDBマネージャで TQL クエリを作成	
TQL クエリ結 果 の表 示	
compound 関係	
join 関係	
クエリ・ノード条件	21
Complex Type 条件	22
サブグラフ定 義	23
更新値ポリシーを使用修飾子	23
TQL クエリの定 義	
TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加	
複合関係の定義 - シナリオ	
結合関係の定義 - シナリオ	
複合タイプの条件の定義 - シナリオ	
サブグラフの定義を作成する-シナリオ	
ショートカット・メニュー・オプション	
属性演算子の定義	
TQL ログ	
トポロジ・クエリ言 語 のユーザ・インタフェース	40
トラブルシューティングおよび制限事項	80

トポロジ・クエリ言語(TQL)の概要

トポロジ・クエリ言語(TQL)は、IT インフラストラクチャ データを検出,編成,管理するための言語およびツールです。 CMDB からビジネス・サービス・データを取得する TQL クエリを作成できます。 TQL クエリでは、データの監視と管理を容易にするビジュアル表示でデータを表示できます。

本項の内容

- 18ページ「トポロジ・クエリ言 語 (TQL)」
- 18ページ「TQLの役割」

トポロジ・クエリ言語(TQL)

TQLでは、次の2つの重要な機能を追加することによって標準のSQL言語を拡張します。

- TQLを使うことで、実際の相互依存関係を表す構成アイテム(CI)間の概念上の関係を描くことができます。定義済みの演算子を使って、CI間に存在するさまざまな相互接続(関係)を確立し、その結果、インフラストラクチャの設計とパフォーマンスをより正確に表現できます。この表現は、複雑なインフラストラクチャのディスカバリ、配置、クエリ、および管理の基礎となりモデルとなります。
- TQL には、リソースおよびそれらの相互接続を表す視覚的な記号や構文で構成されたグラフィカルな側面があります。このIT インフラストラクチャの視覚化により、IT ビジネス・オペレーションの理解、監視、および管理が簡易化されます。

TQL の役割

TQL には,次に示すようにいくつかの役割があります。

- ビジネス・サービスとしてともに機能する IT アセット間の相互接続を定義,説明するビジネス・サービス・モデルを構築します。ビジネス・サービス・モデルにより,増え続けるインフラストラクチャ・リソースの数と複雑さにも関わらず、ビジネス・サービスのディスカバリと識別が容易になります。ビジネス・サービスを構成するリソースが検出されると、ビジネス・サービス・モデルは、CMDB で整理や管理を行う方法を構成します。
- 常に CMDB を検索し, 管理されたリソースの状態で発生する変更を検出します。このような変更が検出された場合には, 関連するサブシステムに通知されて更新されます。
- CMDB からのビジネス・サービス・データを取得するクエリを作成し、データ監視と管理を容易にするビジュアル表示でデータを表示します。

UCMDBマネージャで TQL クエリを作成

次のマネージャでは、CMDB から特定のデータを取得する TQL クエリを作成し、そのデータを表示できます。

- ・影響分析マネージャ:影響ルールでインフラストラクチャの変更がシステムにどのような影響を与えるかをシミュレートし、問題の真の原因とそれによるビジネスへの影響を究明できます。ルールの作成時にベースのTQL クエリ・タイプを定義しますが、これは新規クエリ、既存クエリのどちらでも可能です。詳細については、356ページ「影響分析マネージャ」を参照してください。
- エンリッチメント・マネージャ:エンリッチメント・ルールを使用すると、CMDBを拡大し、CMDBから CIインスタンスを削除し、またはCMDBにすでに存在しているCIの属性を更新できます。ルールの作成時にベースのTQLクエリ・タイプを定義しますが、これは新規クエリ、既存クエリのどちらでも可能です。詳細については、404ページ「エンリッチメント・マネージャ」を参照してください。
- モデリング・スタジオ: TQL クエリ・エディタを使用して新しい TQL クエリを作成するか、パターン・ビュー・エディタを使用して新規ビュー、テンプレート、パースペクティブの定義時に新しいクエリを作成できます。また、パターン・ビュー・エディタでは各ビューのトポロジ・レポート設定も定義できます。詳細については、200ページ「モデリング・スタジオ」を参照してください。

TQL クエリ結果の表示

結果データを, IT ユニバース・マネージャでビジュアル表示します。結果として得られるトポロジ・マップの構造は、 クエリにより定義されます。ビューには、 クエリ定義に適合する CI と関係だけが表示されます。 ツールバーで [プレビュー] 【「ボタンをクリックして、 クエリの結果を表示し、 IT ユニバース・マネージャ と同じプレビュー表示を開くことができます。 IT ユニバース・マネージャの詳細については、 151ページ「 IT ユニバースマネージャ」を参照してください。

TQL クエリ・タイプと優先度

TQL クエリを定義する場合, [クエリ定義 プロパティ] ダイアログ・ボックスの [タイプ] フィールド で TQL クエリのタイプを定義します。利用可能なクエリ・タイプは次のとおりです。

- ビュー:パターン・ビューのベースとして使用される TQL クエリ。
- インテグレーション:インテグレーションに使用される TQL クエリ。
- ディスカバリ: DFM パターンのベースとして使用される TQL クエリ。
- テンプレート: テンプレートのベースとして使用される TQL クエリ。
- パースペクティブ:パースペクティブのベースとして使用される TQL クエリ。
- 影響分析:影響ルールのベースとして使用される TQL クエリ。これは、影響分析マネージャで作成されるクエリの標準設定タイプです。
- エンリッチメント:エンリッチメント・ルールのベースとして使用される TQL クエリ。これは、エンリッチメント・マネージャで作成されるクエリの標準設定タイプです。

依存関係(表示,テンプレートなど)がある場合,既存のTQL クエリのタイプは変更できません。

インテグレーションを通じてインポートされたクエリにタイプが割り当てられていない場合,そのクエリは 非表示とみなされ,モデリング・スタジオのクエリ・リストには表示されません。クエリ・リストで非表示 のクエリを表示するには,[ユーザ設定]ダイアログ・ボックスの[全般]にある,非表示クエリの設定を変 更します。詳細については,80ページ「[ユーザプリファレンス]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

TQL クエリの優先度も設定できます。この優先度によって、クエリが更新された情報を取り込んで自動的に再実行される頻度が決まります。利用可能な優先度は次のとおりです。

- 低: TQL クエリは 2 分ごとに更新されます。
- 中間: TQL クエリは 30 秒ごとに更新されます。
- 高: TQL クエリは 10 秒ごとに更新されます。
- **高速**: TQL クエリは常時更新されます。
- 非アクティブ: TQL クエリは非アクティブになります。

注:上記の更新時間は平均値です。

TQL クエリの優先度を[**非アクティブ**] に設定するとクエリは非アクティブになり、自動的には実行されませんが、手動でビューを作成する場合には使用できます。

ベースクエリ

[クエリ定義のプロパティ] ダイアログ・ボックスで, TQL クエリのベース・クエリを選択できます。この場合, ベース・クエリはまず IT ユニバース全体に適用され,結果を生成します。その後,新しいクエリはユニ バースのサブセットに適用され,結果の精度をさらに高めます。ベース・クエリを選択すると,クエリ結果 のフィルタリングの精度を高め,一部の事例では結果を迅速に生成できるようになります。

選択するベース・クエリは、アクティブ化する新しいクエリに対し、アクティブかつ持続的でなければなり ません。ベース・クエリが非アクティブで持続的である場合、新しいクエリには [**非アクティブ**] のプライオリ ティが自動的に割り当てられます。

TQL クエリ・スレッド・プール

各 TQL クエリはスレッド・プールからの個別スレッドで計算されます。計算中のTQL クエリが多くある場合は、プール・サイズを拡大してパフォーマンスを改善することができます。[インフラストラクチャ設定マネージャ]で[**TQL スレッドプール サイズ**]設定を編集します。プール・サイズは、1から64の整数に設定できます。値を入力しない場合、プールのサイズは自動的に顧客数で CPU コア数を割った値に設定されます(数値が4以下の場合は最小4スレッドに設定されます)。

compound 関係

compound関係は、トポロジ・グラフ内のパスを表します。compound関係を使うと、ソース CI とターゲット CI の間のパスに許可されているステップを定義できます。

各行は, トポロジ・マップ内でソース CI からターゲット CI に至るパスの許可されている手順の1つを表 します。

Source	Relationship	Target
🖾 lpSubnet	Membership	Node Node
Node Node	Containment	III IpAddress

compound 定義の例については、26ページ「複合関係の定義 - シナリオ」を参照してください。compound 関係の定義の詳細については、42ページ「[複合関係の追加 / 編集] ダイアログ・ ボックス」を参照してください。

join 関係

join関係とは2つのCI間の関係を表す論理的接続です(結合関係は, TQL クエリ結果を含むト ポロジ・マップにのみ表示されます)。CMDBには存在しません。join関係を作成するには, 値を比 較に使用する各クエリ・ノードの属性を定義します。

TQL 結果により, 属性値がjoin定義に定義されている条件を満たしている CI のすべてが取得されます。

たとえば, Created By 属性値が等しい IP アドレス CI に接続されているすべてのノード CI をリンクするjoin定義を作成できます(次の例を参照してください)。

Node	演算子	IpAddress
Created By	等価	Created By

各join定義は、join関係に定義されている条件の1つを表しています。

注:複数の条件を定義できます。

結合定義の例については,29ページ「結合関係の定義 - シナリオ」を参照してください。結合関係 を定義する方法の詳細については、45ページ「[結合関係の追加/編集] ダイアログ・ボックス」を参照 してください。

クエリ・ノード条件

[クエリノードのプロパティ] ダイアログ・ボックスで TQL クエリのクエリ・ノードと関係 に条件を追加 できます。この条件は、クエリで定義した条件に一致する CIと関係のみを取得することで、クエリ結果をフィ ルタリングします。 定義可能な条件にはいくつかのタイプがあります。

- 属性:Clプロパティ値に基づく条件。
- カーディナリティ: 関連するクエリ・ノードの数に基づく条件。
- 修飾子: CI タイプ修飾子に基づく条件。
- エレメント タイプ: CI サブタイプに基づく条件。詳細については,下記を参照してください。
- 識別情報: CI 要素 ID に基づく条件。

それぞれは、ダイアログ・ボックスで別々のタブを持ちます。詳細については、63ページ「[クエリ・ノード / 関係のプロパティ]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

エレメントタイプ条件

エレメント タイプ条件を使用すると、クエリ結果に表示するクエリ・ノードのサブタイプを指定できるようになります。この条件を定義するオプションには、次の2つがあります。

- Simple タイプ条件 simple タイプ条件を使用すると、クエリ結果の選択したクエリ・ノードのすべてのサブタイプを含めるか、そのすべてを除外できます。
- complex タイプ条件 complex タイプ条件を使用すると、クエリ結果に含めるクエリ・ノードの特定のサブタイプを選択できます。詳細については、22ページ「Complex Type 条件」を参照してください。

要素レイアウト

[クエリノード プロパティ] ダイアログ・ボックスの [エレメント レイアウト] タブの TQL クエリで,各クエリ・ノードまたは関係のクエリ結果に含める属性を指定できます。[レイアウトの属性を選択] ラジオ・ボタンを選択し,[CIT] 表示枠で CIT または関係を選択します。Attributes 条件に [特定の属性]を選択した場合,[特定の属性] 表示枠に移動する属性のみが,その要素のクエリ結果に含められます。Attributes 条件に [すべて]を選択した場合,利用可能なすべての属性は、その要素のクエリ結果に含められます。かられます。この場合,[特定の属性を除外する]を選択し、選択した属性を[除外属性] 表示枠に移動できます。

修飾子別に属性を選択するオプションもあります。[**次の修飾子がある属性**] フィールドで修飾子を 選択した場合, [特定の属性] 表示枠で選択した属性に加えて, 選択した修飾子を持つすべての 属性が, その要素のクエリ結果に含められます。この場合も, 属性を[除外する属性] 表示枠に移 動することで, 選択した属性を除外できます。

デフォルトでは、CIT に選択する属性設定は、クエリ結果で自動的にその子孫 CIT に適用されます が、ダイアログ・ボックスの[Element レイアウト] タブにはこの設定は表示されません。たとえば、特定の 属性を[データベース] CIT に含めるよう選択した場合、同じ属性が Oracle CIT ([データベース] の子 CIT)に含められますが、[CIT] 表示枠で Oracle を選択した場合、表示される Attributes 条件は None になります(デフォルトの条件)。 こうして子 CIT 自身にも属性条件を選択できるようになります。親 CIT の属性条件に[すべて] が選択されている場合,子 CIT の[特定の属性] オプションは無効になります。親 CIT の属性条件に[特定の属性] が選択されている場合,子 CIT には [すべて] または [特定の属性] を選択できます。[特定の属性]を選択した場合,属性を[特定の属性]表示枠に移動することで、さらに多くの属性を 追加できます。これらは、親 CIT の設定から継承された属性とともに、クエリ結果に含められます。同様に、属性を[除外する属性] 表示枠に移動することで、子 CIT について除外する属性を、親 CIT の設定から選択できます。属性を選択するための修飾子が親 CIT にある場合、これらも子 CIT に 継承されます。子 CIT の属性選択をフィルタリングするため、さらに修飾子を選択する場合、選択した修飾子の結合セットは、子 CIT の属性選択をフィルタリングするために使用されます。

[クエリノード / 関係タイプの変更] ダイアログ・ボックスを使用して, クエリ・ノード または関係 のタイプを 変更する場合には, その要素の属性選択は失われます。

[エレメント レイアウト] タブの詳細については、71ページ「[要素レイアウト]タブ」を参照してください。

注: レイアウト選択は、ユーザ・インターフェイスのクエリ結果には表示されません。選択した属性のクエリ結果を表示するには、JMX コンソールにアクセスして、TQL サービスを選択し、 calculateTqlAdHocメソッドを起動します。

Complex Type 条件

complex type 条件を使用すると、クエリ結果に含めるクエリ・ノードの特定のサブタイプを選択できます。 CI タイプ・ツリーは、選択したクエリ・ノードのすべてのサブタイプとともに表示されます。 デフォルトでは、表示されたすべてのサブタイプのインスタンスは、クエリ結果に含まれます。 各 サブタイプについて、クエリ結果から該当するサブタイプのインスタンスを除外する [**<サブタイプ>をクエリから除外**]を選択できます。 [**この条件をすべてのサブタイプに再帰的に適用**] チェックボックスをオンにすると、サブタイプのインスタンスと、そのすべての子孫が結果から除外されます。

ツリーからサブタイプを選択し、[この条件を再帰的にすべてのサブタイプに適用] チェック・ボックスをオフにしたまま、[<サブタイプ>をクエリに含める] をオンにした場合、指定されたサブタイプのインスタンスのみが含められ、その子孫のインスタンスは含まれません。

[含める]/[除外する]オプションについては、[条件] 表示枠でさらに選択する箇所があります。[CI タ イプごと]を選択した場合、指定したサブタイプのすべてのインスタンスが結果に含められ、または結 果から除外されます。[修飾子別]を選択し、ポップアップ・リストから修飾子を選択した場合、選択 した修飾子を持つ選択したサブタイプのインスタンスのみが、クエリ結果に含められ、またはクエリ結 果から除外されます。

たとえば, CIT_BとCIT_C は, CIT_A のサブタイプで, CIT_AとCIT_B は修飾子 Q1を持ちます。 可 能なオプション構成の一部を次に示します。

- CIT_A とそのすべての子孫について、除外するを選択する。CIT は含まれない。
- CIT_A (その子孫を含まない)について、除外するを選択する。CIT_B とCIT_C のみが含まれる。
- 修飾子 Q1 を持つ CIT_A とそのすべての子孫について、除外するを選択する。CIT_C のみが含まれる。

注:

- 除外オプションをツリーのルート(つまりオリジナルのクエリ・ノードのCIタイプ)に適用することもできます。[この条件を再帰的にすべてのサブタイプに適用]チェック・ボックスが選択されている場合,結果にCIは含まれません。チェック・ボックスがオフになっている場合,ルートCIタイプのインスタンスは除外されますが、子孫のインスタンスは含められます。
- 要素タイプ条件機能は、モデリング・スタジオでのみ利用できます。モデリング・スタジオで complex type条件を定義し、エンリッチメント・マネージャまたは影響分析マネージャで TQL クエリを修正した場合、条件は上書きされ、有効ではなくなります。複雑な条件が、単純 条件と同じものである場合には、エンリッチメント・マネージャまたは影響分析マネージャの [修飾子]タブで TQL クエリを編集できます。
- クエリ・ノードの修飾子条件を,以前のUCMDBバージョンの機能を使用するよう定義する場合には,[サブタイプをカスタマイズ]を選択し,[CIタイプ] ツリーでルート・クエリ・ノードを選択します。そして[含める]オプションを選択し,[修飾子別]を選択し,必要な修飾子を選択します。同様に,以前のUCMDBバージョンまたはエンリッチメント・マネージャまたは影響分析マネージャで定義した修飾子条件を持つTQL クエリにアクセスする場合,[含める]および[修飾子別]オプションを使用し,条件は[要素タイプ]タブの[サブタイプをカスタマイズ]セクションに表示されます。
- (CIタイプ属性を使用して) coplex type 条件と同じ結果を生成する属性条件を定義する ことも可能なことがあります。しかし、complex type 条件のほうがパフォーマンスは優れていま す。これらの場合、UCMDBは、complex type 条件を、同等のシンプルな条件に置き換え ることで、クエリ計算を自動的に最適化します。クエリがアクティブな場合、次回そのクエリを 開いたときに、TQL 定義に complex 条件が表示されます。

complex type 条件の定義の詳細については、30ページ「複合タイプの条件の定義 - シナリオ」を参照してください。

サブグラフ定 義

サブグラフの定義を使うと,特定のCIに関連する追加のTQLクエリ・データを表すグラフを作成できます。 す。 DFM ジョブにより,TQL クエリとサブグラフの定義の両方で結果が検索されます。 クエリは,サブグ ラフの定義に一致する,定義された深さのすべての関連CIを再帰的に取得します。 サブグラフの定 義の詳細については,78ページ「「サブグラフの定義」 ダイアログ・ボックス」 を参照してください。

グラフでは,特定のクエリ・ノードに接続された関係を定義できます。たとえば,いずれかのクエリ・ノードがノード・タイプである場合は,Windows,ルータ,およびIPアドレスに対して異なる関係を指定できます。クエリ・ノードの属性条件も定義できます。詳細については,77ページ「[サブグラフ条件の定義]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

DFM ジョブにより, サブグラフに定義された条件に一致するデータが取得されます。

サブグラフの定義の例については、31ページ「サブグラフの定義を作成する-シナリオ」を参照してください。

更新値ポリシーを使用修飾子

この修飾子は,値のわずかな差異を許容する属性をマークするために使用します。たとえば,わずかなディスク・サイズの変更(8.00008 GB から8.00009 GB への変更)はレポートする必要がない場合があります。

この修飾子が付けられている属性を更新する場合には、HP Universal CMDB新しい値を古い値と チェックします。このチェックはレコード更新の一部としてサーバ上で実行され、2つの値の差が許容差 異よりも小さい場合は、更新は実行されません(操作は偽の更新とみなされます)。

修飾子を選択すると、「感度以下の値の偏り」のパラメータが適用されます。ボックス内の値を入力 し、「割合」または「絶対値」をドロップダウン・リストから選択します。

[割合]を選択した場合, [感度以下の値の偏り]が0から100の間でなければなりません。この値よりも小さい割合の偏りは偽のアップデートと見なされます。

[絶対値]を選択した場合,次のルールが適用されます。

- 数値属性の場合, [感度以下の値の偏り]は属性と同じタイプでなければならない
- データ属性の場合、[感度以下の値の偏り]は正数でありミリ秒単位で偏りを示すものでなければならない

この値よりも小さい割合の偏りは偽のアップデートと見なされます。

標準設定では, [**更新値ポリシーを使用**]は次の数値属性または日付属性についてのみ有効です。

- CIT :Node
 - MemorySize
 - SwapMemorySize

これらの属性は比較可能修飾子および静的修飾子も含みます。

- CIT:CPU
 - CpuClockSpeed
- CIT:Filesystem
 - Disk_size

修飾子を無効にする:

インフラストラクチャ設定マネージャにアクセスします。[マネージャ]>[管理]>[インフラストラクチャ設定マネージャ]).[ボラティリティを許可]オプションに移動します。値をFalseに変更します。

TQL クエリの定義

このタスクでは, モデリング・スタジオで TQL クエリを作成 する方法について説明します。

注: TQL クエリは,影響ルール,エンリッチメント・ルール,ビュー,テンプレート,パースペクティブの作成時にも作成できます。

本項の内容

- 25ページ「TQL クエリの作 成」
- 25ページ「クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」
- 25ページ「クエリプロパティの設定」

1. TQL クエリの作成

モデリング・スタジオで[新規作成]>[クエリ]を選択して、TQL クエリ・エディタを開きます。詳細については、270ページ「TQL クエリ・エディタ」を参照してください。

2. クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義する TQL クエリ・ノードと関係を追加します。 TQL クエリ・ノードは CI タイプ・マネージャで定義される CIT を表します。関係はノード間の接続を表します。関係は、 クエリ内の TQL クエリ・ノードのペアごとに、一度に1つずつ定義されます。詳細については、 25ページ「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

注: クエリ・ノードからそのノード自身への自己関係も定義できます。

3. クエリプロパティの設定

[クエリ定義プロパティ] 「ボタンをクリックして [クエリ定義プロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。 クエリタイプ, スコープ, 優先度, およびその他のプロパティを設定します。 詳細については, 259ページ「[クエリ/ビュー定義プロパティ]ダイアログ・ボックス」 を参照してください。

TQL クエリ定義の例を次に示します。

関係の方向は、クエリ・ノード間の依存関係を示します。次の例は、クライアントとサーバの 関係によって相互にリンクされた2つのノード、1つのIPサービス・エンドポイント、1つのクラ イアント・ポートを示しています。TQLクエリ結果は、矢印の方向に適合する必要がありま す。



注:TQL クエリはー 定の検証制限を受けます。詳細については,80ページ「トラブルシュー ティングおよび制限事項」を参照してください。

TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

本項では、クエリ・ノードと関係をTQL クエリに追加する方法について説明します。これには影響分析マネージャ、エンリッチメント・マネージャ、モデリング・スタジオが関係します。

注: TQL クエリを有効にするために、TQL クエリが特定の制限に従う必要があります。詳細につ

いては、80ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」を参照してください。

クエリ・ノードと関係を TQL クエリに追加するには、次の手順を実行します。

 影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャで左側の表示枠のツリーから必要なクエリ を選択し、「新規作成」**ボタンをクリックして新しく作成します。

モデリング・スタジオの左側の表示枠で[リソース]タブを選択し、クエリを[リソースタイプ]として選択してツリーから必要なクエリを選択するか、[新規作成]>[クエリ]をクリックして新しいクエリを作成します。

2. 影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャで CI タイプ・セレクタに表示されているツリーから必要な TQL クエリ・ノードを1つ以上クリックして、編集表示枠にドラッグします。モデリング・スタジオの左側の表示枠で [CI タイプ] タブを選択し、必要な TQL クエリ・ノードをツリーから編集表示枠にドラッグします。これらの TQL クエリ・ノードがクエリに含まれます。

フェデレート CI のクエリも行うときは、[クエリノード]を右クリックして [統合ポイントの設定]を選択 します。[統合ポイントの設定] ダイアログ・ボックスから [外部データで使用する統合ポイント]を選 択します。詳細については、264ページ「[統合ポイントの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してく ださい。

- 3. 2つのクエリ・ノードの間に関係を追加するには、次の手順を実行します。
 - CTRL キーを押しながら TQL クエリ・ノードをクリックして必要な TQL クエリ・ノードを選択し、 右クリックして [関係の追加]を選択します。[関係の追加]ダイアログ・ボックスが開きます。必要な関係を選択してください。詳細については、47ページ「[関係の追加/編集]ダイアログ・ ボックス」を参照してください。
 - 関係を作成 アイコンをクリックし、必要なクエリ・ノードの間に線を引きます。[関係のタイプを選択]ダイアログ・ボックスが開きます。必要な関係のタイプを選択してください。詳細については、76ページ「[関係のタイプを選択]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
- 4. [OK]をクリックします。選択したクエリ・ノードが、選択した関係によってリンクされます。

複合関係の定義 - シナリオ

本項では, IP サブネット CIとIP アドレス CI の間に複合関係を形成する,許容される手順の定義方法について説明します。

注:必要な結果に到達するためには、次のそれぞれの手順を実行する必要があります。

IP Subnet CI とIP アドレス CI の間に複合関係を定義するには、次の手順を実行します。

- 1. タイプ・ビューの TQL クエリを作成し, 編集表示枠に次のクエリ・ノードをドラッグします。
 - IP Subnet
 - IP アドレス
- 2. [IP サブネット]と[IP アドレス]のクエリ・ノードを右クリックし, [複合関係の追加]を選択して[複合関係の追加]ダイアログ・ボックスを開きます。
- 3. [追加]

**ボタンをクリックします。エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで [トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。 モデリング・スタジオ内 のテーブルに行が追加されます。 次の選択を行います。

- [ソース] リストで, [IP サブネット] を選択します。
- [ターゲット] リストで, [ノード] を選択します。
- [関係] リストで, [メンバシップ] を選択します。
- 必要な関係の方向を選択します。

エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで [OK] をクリックして変更内容を保存します。

- 4. もう一度[追加] * ボタンをクリックし,次の選択を行います。
 - [ソース] リストで、[ノード]を選択します。
 - [ターゲット] リストで, [IP アドレス] を選択します。
 - [関係] リストで, [包含] を選択します。
 - 必要な関係の方向を選択します。

エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで[OK]をクリックして変更内容を保存します。

次の例は、変更後の複合定義を示しています。

Source	Relationship	Target
🖳 lpSubnet	Membership	Node
Node 📄	Containment	IpAddress

5. [OK]をクリックして、変更内容を保存します。

編集表示枠内のTQLクエリは、次のように表示されます。



- 6. TQL クエリに基づいてビューを作成し,保存します。
- 7. IT ユニバース・マネージャで必要なビューに移動して結果を表示します。ソースおよびターゲット CI の間にフルパスを表示オプションを選択していない場合は、関係の実際の名前ではなく、CI をリンクする関係の名前が Virtual-Compound として結果に表示されます。次の図を参照して ください。



IT ユニバース マネージャから [仮想 - 複合] 関係をダブルクリックしてリンク マップを開くと IP Subnet CIとIP アドレス CI をリンクできる手順を構成する CIと関係が表示されます。



前述の例では、192.168.168.0(IP サブネット)CIは、labm1ccm15(ノード)CIを通じて 192.168.0.1(IP アドレス)CI にリンクされています。

[ソースおよびターゲット CI の間にフルパスを表示]オプションを選択した場合, IT ユニバースマネージャの結果には, CI をリンクする関係の実際の名前と, ソース CI とターゲット CI の間のフル・パスが表示されます。次の図を参照してください。



結合関係の定義 - シナリオ

本項では、**Created by** 属性値が等しい**ノード** CI と IP アドレス CI をリンクする結合関係を定義する 方法について説明します。

注:必要な結果に到達するためには、次のそれぞれの手順を実行する必要があります。

作成者属性値が等しい IP アドレス CI とノード CI をすべてリンクする結合関係を定義するには、次の手順を実行します。

- 1. TQL クエリを作成し,次のクエリ・ノードを CI タイプ・セレクタから編集表示枠にドラッグします。
 - Node
 - IP アドレス
- 2. [ノード] および [IP アドレス] クエリ・ノードを選択し, 右 クリックして [結合関係の追加] ダイアログ・ ボックスを開きます。
- 3. [追加] 📩 ボタンをクリックし, テーブルに行を追加し, 次の操作を実行します。
 - [ノード属性] ボックスで [Created by] を選択します。
 - [演算子] ボックスで, [等しい] を選択します。
 - [IP アドレス属性] ボックスで [Created by] を選択します。

エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャの[関係条件を結合]ダイアログ・ボックス で、これらの選択を行います。 [定義の結合]領域は、次のように表示されます。

Node	演算子	IpAddress
Created By	等価	Created By

4. [OK] をクリックして、変更内容を保存します。

編集表示枠内のTQL クエリは、次のように表示されます。



複合タイプの条件の定義 - シナリオ

本 セクションでは [クエリノード のプロパティ] ダイアログ ボックスで複 合 タイプの条 件 を定 義 する方 法 について説 明します。 この例 では, TQL クエリでノード クエリノード にサブ タイプを追 加します。

複合タイプの条件の定義

- 1. TQL クエリを作成し, [ノード] タイプのクエリ・ノードを編集表示枠にドラッグします。
- クエリ・ノードを右クリックし、[クエリノードのプロパティ]を選択します。[クエリノードのプロパティ]ダ イアログボックスが開きます。
- 3. [要素タイプ]タブから[サブタイプをカスタマイズ]を選択します。
- 4. Cl タイプの表示枠から、[コンピュータ]を選択し、[条件]表示枠から[クエリから<コンピュータ>を除外する]を選択します。[この条件をコンピュータのすべてのサブタイプに再帰的に適用しますす<>]チェックボックスを選択します。クエリ結果からコンピュータ・タイプのすべての Cl とその子孫が除外されます。
- 5. Cl タイプの表示枠から, [Unix]を選択し, [条件] 表示枠から [**クエリに<Unix>を含める**] を選択します。 クエリ結果にすべての Unix Cl が含まれます。
- CI タイプの表示枠から、[IBM Frame]を選択し、[条件]表示枠から[クエリに< IBM Frame>を 含める]を選択します。続いて[修飾子別]から[コンテナ]修飾子を選択します。クエリ結果にす べての IBM Frame CIs とコンテナ修飾子が含まれます。
- CI タイプの表示枠から、[ファイヤーウォール]を選択し、[条件]表示枠から[クェリから<ファイヤーウォール>を除外する]を選択します。[修飾子別]から[HIDDEN_CLASS]と[MAJOR_APP] 修飾子を選択します。クエリ結果からHIDDEN_CLASSとMAJOR_APP 修飾子のすべてのファイヤーウォール CI が除外されます。
- 8. [OK] をクリックして条件を保存し、ダイアログ・ボックスを閉じます。

サブグラフの定義を作成する - シナリオ

本項では、サブグラフの定義を作成する方法について説明します。この例では、TQL クエリの結果として、 包含関係によりビジネス・サービス CI と接続される、深さ3までのすべての CI が取得されます。

注:必要な結果に到達するためには、次のそれぞれの手順を実行する必要があります。

このサンプルのサブグラフの定義を作成するには、次の手順を実行します。

- 1. TQL クエリを作成し、[ビジネスサービス] タイプのクエリ・ノードを編集表示枠にドラッグします。
- 2. [ビジネス サービス] クエリ・ノードを右 クリックし, [サブグラフの定義] を選 択して [サブグラフの定義] ダイアログ・ボックスを開きます。
- 3. [追加] *ボタンをクリックします。エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで [トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオ内のテーブルに行が追加されます。次の選択を行います。
 - [ソース]ドロップダウン・リストで, [管理対象オブジェクト]を選択します。
 - [ターゲット]ドロップダウン・リストで, [管理対象オブジェクト]を選択します。
 - [関係]ドロップダウン・リストで, [包含]を選択します。
 - 関係の方向を左から右に設定します。

エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで [**OK**] をクリックして変更内容を保存します。

[サブグラフの定義]ダイアログ・ボックスが、次のように表示されます。

ソース	関係	ターゲット
it Universe	😭 Container link	iT Universe
iT Universe	😭 Contains	iT Universe
🕥 IT Universe	鈫 Contained	🕥 IT Universe

- 4. [深さ]の設定を[3]に設定します。
- 5. [サブグラフの定義]ダイアログ・ボックスで [OK] をクリックします。

IT ユニバース・マネージャで必要なビューに移動して結果を表示します。



結果として、ビジネス・サービス CI aaaと、Containment 関係によってそれに連続してリンクされる、レベル3までのすべての CI が表示されます。

ショートカット・メニュー・オプション

本項では、TQL クエリのショートカット・メニューのオプションのリストを紹介します。

UI 要 素	詳細
計算さ れた関 係 追加	計算された関係を作成できます。
	 計算された関係を作成する方法の詳細については、392ページ「[Triplet] ページ」を 参照してください。
	 影響モデリングの詳細については、85ページ「計算された関係の使用」を参照してください。
複合 関係 の追	複合関係を使用して2つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。
	詳細については, 42ページ「[複合関係の追加/編集] ダイアログ・ボックス」 を参照してく ださい。

UI 要 素	詳細
加	
結合 関係 の追 加	結合関係を定義できます。各クエリノードの属性を定義して作成します。クエリノードの 値は、連携するときの比較に使用されます。
	詳細については, 45ページ「[結合関係の追加/編集] ダイアログ・ボックス」 を参照してく ださい。
[関 連クエー ドを〕 ウィー ザード	[関連クエリノードを追加] ウィザードが表示されます。 このウィザードでは TQL クエリを作成できます。 詳細については, 49ページ「 [関連クエリノードを追加] ウィザード」 を参照してください。
関係の追	定義済みリストから関係を選択することによって,クエリ・ノードの関係を作成できます。 [関係の追加]ダイアログ・ボックスが表示されます。
加	詳細については,47ページ「[関係の追加/編集] ダイアログ・ボックス」 を参照してください。
	注 :エンリッチメント・マネージャでは, エンリッチメント・モードで作業している場合, このオ プションを設定するとエンリッチメント関係がルールに追加されます。通常のクエリ・ノードと エンリッチメント・クエリ・ノードに適用されます。詳細については, 404ページ「エンリッチメン
	ト・マネージャ」を参照してください。追加した関係には、追加済みであることを示す ンジケータが表示されます。
階層	選択したクエリ・ノードを分離されたクエリ・ノードとして階層に追加します。
加	注 :モデリングスタジオにのみ関連します。
モデル	選択したクエリ・ノードをパターン・ベースのモデルの出力として指定します。
田 ガ に追 加	注 :モデリング・スタジオ内 のパターン・ベースのモデルにのみ関連します。
ノード	 [ノード要素タイプの変更]ダイアログ・ボックスが表示されます。 クエリ・ノードの作成後にク
要素タ イプ/	エリ・ノードのCIタイプを変更できます。詳細については, 225ページ「[ノード要素タイプの変更]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
- 関係タ イプを 変更	注:モデリングスタジオにのみ関連します。
クリア	利用するには、エンリッチメント・マネージャのエンリッチメント・モードで作業しているとき に、クエリ・ノードまたは関係を右クリックします。クエリ・モード/関係のエンリッチ・ルールの 定義をクリアします。詳細については、404ページ「エンリッチメント・マネージャ」を参照し てください。
	エンリッチメント・ルールを使用してクエリ・ノードまたは関係を更新または削除した場合に

モデリング・ガイド

第1章:トポロジ・クエリ言語(TQL)

UI 要 素	詳細
	のみ表示されます。
	注 :エンリッチメント・マネージャにのみ関連します。
コピー/ 貼り付	既存のTQL クエリ・ノードまたは関係を同じクエリ内で,または別のTQL クエリにコピーまたは貼り付けします。
け	コピーした TQL クエリ・ノード または関係には,TQL 定義 がすべて含まれています。
	関係を⊐ピー, 貼り付けするには, 関係の接続先である TQL クエリ・ノードも選択してい る必要があります。接続先の TQL クエリ・ノードがない単独の関係は, ⊐ピーできません。
	複数のTQL クエリ・ノードまたは関係を選択することもできます。
	注 : [コピー] と[貼り付け] オプションは,モデリングスタジオでのみ使用できます。[貼り付け] オプションは,[コピー] オプションを使用して既存の TQL クエリノード または関係をコピーし た後 でのみ利用できます。
影響 を受け るもの	TQL クエリでトリガ影響分析クエリ・ノードになるクエリ・ノードと、システムで発生する変更の影響を受けるクエリ・ノードを定義します。詳細については、366ページ「[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
を定 義	注:影響分析マネージャにのみ関連します。
削除	選択したクエリ・ノード,関係,またはCIが削除されます。
	注:このオプションは,計算された関係には利用できません。
関 係/クエ	利用するには、 エンリッチメント・モードで作業しているときに、 クエリ・ノードまたは関係を 右クリックします。
リノー ドを削 除	CI または関係を CMDB.から削除 するように設計された特定 のエンリッチメント・ルールが 作成されます。通常のクエリ・ノードと関係にのみ適用されます。例えばこのオプションを 使って CMDB から不要なデータを削除できます。詳細については、404ページ「エンリッチ メント・マネージャ」を参照してください。
	削除したクエリ・ノードと関係には、削除済みを示す・インジケータが表示されます。
	注 :エンリッチメント・マネージャにのみ関連します。
関係 を編	[関係タイプを詳細化]ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細については,75ページ 「[クエリノード タイプの再設定]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
集	注:
	• モデリングスタジオには関連しません。
	• このオプションは、選択した関係に子孫がある場合のみ表示されます。
クエリ 結果	このオプションを選択すると、編集表示枠で選択した TQL クエリノードの右に [クエリ結 果で非表示] のインジケータ®が表示されます。
で 要 素を 非表	TQL クエリ・ノード に属 するクエリ結果 は,トポロジ・マップに表 示されません。これは,特 定 の関 係 や TQL クエリ・ノード がクエリの構 築 には必 要 であるが結 果 には必 要 でないと

モデリング・ガイド

第1章:トポロジ・クエリ言語(TQL)

UI 要 素	詳細
示	いう場合に便利です。ビューを有効にするには、少なくとも1つのクエリ・ノードが表示状態である必要があります。
	注 :モデリング スタジオにのみ関連します。
クエリ ノード/ 関係	[クエリノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックスが表示され,選択した TQL クエリ・ノー ドまたは関係の属性条件を定義できます。詳細については,63ページ「[クエリ・ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」 を参照してください。
のフロ パティ	注:このオプションは,計算された関係には利用できません。
クエリ ノード タイプ	[クエリノード タイプの再設定] ダイアログ・ボックスが表示されます。 クエリ・ノードの作成後 にクエリ・ノードの CI タイプを変更できます。 詳細については, 75ページ「[クエリノード タイ プの再設定] ダイアログ・ボックス」 を参照してください。
の冉 設定	注 :このオプションは, CI タイプの子が存在する場合のみ表示されます。 影響分析マネー ジャおよびエンリッチメント・マネージャにのみ関連します。
サブグ ラフを 削除	サブグラフを定義している場合のみ表示されます。詳細については,78ページ「[サブグラフ の定義]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
影響 を受け るもの	該当するクエリ・ノードに適用されている[影響を受けるものを定義]の定義が削除されま す。[影響を受けるものを定義]の定義の詳細については、366ページ「[影響を受けるク エリノード]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
をり セット	注:影響分析マネージャにのみ関連します。
内部	見やすいように、トポロジ・マップの自己参照の関係を四角形に再描画します。
関係 をリ セット	注 :四角形でない自己参照の関係にのみ関連します。
すべて	TQL クエリからクエリノードと関係をすべて選択します。
選択	注 : モデリング スタジオにのみ関連します。
コン	選択したクエリ・ノードをパースペクティブのコンタクト・クエリ・ノードとして指定します。
タクト クエリ	注 :モデリング・スタジオのパースペクティブにのみ関連します。
ノード として 設定	
統合 ポイン	[統合ポイントの選択] ダイアログ・ボックスが表示され, TQL クエリ・ノードの必要なデー タ・ソースを選択できます。
トの設 定	注 :モデリング スタジオにのみ関連します。
クエリ 結果	このオプションを選択すると, TQL クエリ・ノードに属するクエリ結果がトポロジ・マップに表示されます。

UI 要 素	詳細
に要 素を 表示	注 :モデリング スタジオにのみ関連します。
要 インス タンス の 示	[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスが表示され,テーブル内の各クエリ・ノードに対して 検出されたインスタンスがすべて表示されます。詳細については,58ページ「[要素インス タンス] ダイアログ・ボックス」 を参照してください。
ノのメの示 ドワタ る	[テンプレート パラメータ値] ダイアログ・ボックスが表示され, クエリ・ノード のパラメータ値を 設定 できます。 注 :モデリング・スタジオ内 のテンプレート・ベースのビューにのみ関連します。
サブグ ラフ定 義	[サブグラフの定義] ダイアログ・ボックスが表示され,特定のクエリ・ノードに関連する追加の TQL クエリ・データを表すグラフを作成できます。詳細については,78ページ「[サブグラフの定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
関を新/クエ リ・ノー ド 新	エンリッチメント・ルールを使用して CMDB 内の CI 属性の値を更新するか, 現在値が設定されていない属性にデータを追加します。[クエリノード定義 - 属性] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については, 425ページ「[クエリノード / 関係の定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。これは, 通常のクエリ・ノードとエンリッチメント・クエリ・ノードの両方に適用されます。
耓	更新されたクエリ・ノードには,更新されたことを示す マークインジケータが表示されます。 注:エンリッチメント・マネージャにのみ関連します。

属性演算子の定義

本項では、 [サブグラフ条件]ダイアログ・ボックス、 [影響ルール定義]ダイアログ・ボックス、 または [クエリノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックスなど、 さまざまなダイアログ・ボックスで属性条件の定義 に使用する演算子のリストを紹介します。

演算子	詳細
途中で変 更	(日付の属性タイプを選択した場合にのみ表示)[値]ボックスで指定した期間内に 変更されたインスタンスのみが表示されます。
等しい	属性値が[値]ボックスで指定した値に等しいかどうかがチェックされます。
等しい (大 文字小文 字の区別 なし)	属性値が[値]ボックスで指定した値に等しいかどうかがチェックされます。大文字と小 文字は区別されません。
より大きい	属性値が[値]ボックスで指定した値より大きいかどうかがチェックされます。
モデリング・ガイド 第1章:トポロジ・クエリ言語(TQL)

演算子	詳細
	注 :タイプが[文字列]の属性を比較する場合,比較は,文字列のASCII値に基 づきます。
より大きい か等しい	属性値が[値]ボックスで指定した値以上かどうかがチェックされます。
含む	この属性値が選択した値のいずれかに等しいインスタンスのみが表示されます。たとえば、CIの[変更ステータス]が[計画]および[新規]に等しい場合、演算子の含むを[演算子]リストから選択し、[計画]と[新規]の両方を[値]ボックスで選択します。
null	属性値がNULL かどうかがチェックされます。
より小さい	属性値が[値]ボックスで指定した値より小さいかどうかがチェックされます。
	注 :タイプが[文字列]の属性を比較する場合,比較は,文字列のASCII値に基 づきます。
より小さい か等しい	属性値が[値]ボックスで指定した値以下かどうかがチェックされます。
類似	ワイルドカード(%)を使用します。検索対象の名前が一部しかわからないときに類似を使用します。
類似 (大 文字小文 字の区別 なし)	ワイルドカード(%)を使用します。検索対象の名前が一部しかわからないときに[類 似(大文字小文字の区別なし)]を使用します。文字列の大文字と小文字は無視 されます。
等しくない	属性値が[値]ボックスで指定した値に等しくないかどうかがチェックされます。
途中で変 更なし	(日付タイプの属性を選択したときに表示されます)[値]ボックスで指定した期間内 に変更されなかったインスタンスのみが表示されます。

注:

- ・等しくない演算子については、クエリ結果には値が割り当てられていない CI インスタンスからのデータは含まれません。たとえば、システムには次の3つのノードが含まれます。Node1に値Aが割り当てられ、Node2には値Bが割り当てられ、Node3には値は割り当てられていません。この場合、Aと等しくない値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成すると、ノード3には値が割り当てられていないため、ノード2のみがクエリ結果に含まれることになります。
- HP Universal CMDBは、Microsoft SQL ServerとOracle Serverデータベースをサポートしています。Microsoft SQL Serverでは、標準設定で大文字と小文字が区別されません(Oracleデータベースでは大文字と小文字が区別されます)。その結果、Microsoft SQL Serverを使用する場合、等しい演算子を使うと、等しい(大文字小文字の区別なし)演算子と同じクエリ結果が取得されます。たとえば、市属性を選択し、等しい演算子を選択して[値の比較]ボックスにNEW YORKと入力すると、大文字と小文字の区別は無視されて、クエリ結果にはNEW YORK、New York および new york が含まれます。

TQL ログ

本項では、TQL パラメータのログ・ファイルの定義について説明します。

本項の内容

- 38ページ「パターン統計情報ログ」
- 38ページ「監査簡略ログ/監査詳細ログ(TQLの観点)」
- 39ページ「増分統計ログ」
- 39ページ「増分スプリッタ・ログ」
- 40ページ「増分詳細ログ」

パターン統計情報ログ

ログ名は cmdb.pattern.statistics.log です。

ログ・ファイル	詳細
目的	各 TQL クエリの一般的な計算データで、あらかじめ定義された間隔で 更新されます。
情報レベル	次の情報が各 TQL クエリに与えられます。
	• 名前
	• 平均計算時間, 最短計算時間, および最長計算時間
	• 計算の数
	● 最終計算時間
	● 結果の サ イズ
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	利用不可。
基本的なトラブル	 特定のTQL クエリが更新されたかどうかを検証します。
シューティンク	• TQL クエリの計算時間を評価します。
	• TQL クエリの結果のサイズを評価します。

監査簡略ログ/監査詳細ログ(TQLの観点)

ログ名は, cmdb.audit.short.log ログです。

ログ・ファイル	詳細
目的	CMDBの状態の変更, CIタイプの変更, および TQL クエリの結果です。
	このログを使用すると, TQL クエリの結果を追跡できます。

ログ・ファイル	詳細
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	• TQL クエリの最終計算がログに記録されます。
	• 最終の TQL クエリ計算が直前の計算から変化していない場合は、その事実が記録されます。
	 最終のTQL クエリ計算が直前の計算から変化している場合は、CI および関係の結果が詳細ログに記録されます。CI および関係の数は 簡略ログに記録されます。
基本的なトラブル シューティング	 このログを使用して、TQL クエリ・サブシステムがどのような通知を発行したかを確認します。
	 それぞれの結果の最後にあるセクションをチェックします。本項には、 追加、削除、または更新された CI および関係が含まれています。
	 CIT の変化を追跡して、クエリ結果も変化したかどうかを調べます。こうすることで、CIT の変化をクエリ計算の結果に関連付けられます。

増分統計ログ

ログ名は cmdb.incremental.statistics.log です。

ログ・ファイル	詳細
目的	各クエリの計算手順(完全または増分)を追跡します。
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	 日付,時刻,クエリ名,および増分統計の計算が実行されたかどうか (yes/no)が記録されます。
	 増分統計の計算が実行されなかった場合は、その理由、副計算の数(増 分計算にのみ該当)、および完全な計算時間が記録されます。
基本的なトラブ	計算プロセスを監視します。
ルシューティンク	特定のクエリの計算に長い時間がかかる場合は、その計算が完全か増分かを チェックします。
	 完全な計算の場合は、完全な計算が必要かどうかをチェックします。
	• 増分の場合は、実行された副計算の数をチェックします。

増分スプリッタ・ログ

ログ名は cmdb.incremental.splitter.log です。

ログ・ファイル	詳細
目的	増分計算の最中に行われた増分スプリッタの結果を監視します。
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	増分スプリッタによって作成された各クエリ・グラフのクエリ・ノード番号の セットが記録されます。
基本的なトラブル シューティング	増分計算による TQL 結果が誤っている場合は、スプリッタの結果が正しいかどうかを検証します。

増分詳細ログ

ログ名は cmdb.incremental.detailed.log です。

ログ・ファイル	詳細
目的	増分計算プロセスを監視します。
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	それぞれの増分副計算エントリには、次の要素が含まれます。
	 トリガ・クエリ・ノード
	 トリガ・クエリ・ノードと分類された要素の数
	 副計算ステップが、モデルに追加された新しい要素によって行われたか、それとも既存の要素によって行われたか
	• 計算されたクエリグラフ
基本的なトラブル シュ ー ティング	増分計算の基本手順に従います。

トポロジ・クエリ言語のユーザ・インタフェース

本項の内容

- 41ページ「[計算された関係の追加/編集] ダイアログ・ボックス」
- 42ページ「[複合関係の追加/編集] ダイアログ・ボックス」
- 45ページ「[結合関係の追加/編集] ダイアログ・ボックス」
- 47ページ「[関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス」
- 49ページ「[関連クエリノードを追加]ウィザード」
- 55ページ「[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックス」
- 57ページ「条件のプレビュー・ダイアログ・ボックス」

- 58ページ「[要素インスタンス]ダイアログ・ボックス」
- 60ページ「要素レイアウトのプレビュー・ダイアログボックス」
- 61ページ「[CI インスタンスをフィルタ] ダイアログ ボックス」
- 62ページ「[関係条件を結合] ダイアログ・ボックス」
- 63ページ「[レイアウト設定]ダイアログ・ボックス」
- 63ページ「[クエリ・ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」
- 75ページ「[クエリノード タイプの再設定] ダイアログ・ボックス」
- 76ページ「[関係のタイプを選択]ダイアログ・ボックス」
- 77ページ「[サブグラフ条件の定義] ダイアログ・ボックス」
- 78ページ「[サブグラフの定義] ダイアログ・ボックス」
- 80ページ「[ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックス」

[計算された関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CIタイプ・モデルから計算された関係を使用して2つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。

利用	エンリッチメント・マネージャ, 影響分析マネージャ, モデリング・スタジオで利用するには, 次 の手順を実行します。
万 法	エンリッチメント・マネージャ,影響分析マネージャ,またはモデリング・スタジオの編集表示枠 で必要なクエリ・ノードを右クリックし, [計算された関係を追加]を選択します。
	注 :エンリッチメント・マネージャを使用している場合は, 編集表示枠の上部でクエリ・モード を選択して [計算された関係を追加] オプションを表示します。
	データ・フロー管理(DFM)のアダプタ管理で利用するには、次の手順を実行します。
	1. [リソース] 表示枠でアダプタを選択します。
	2. [アダプタ定義] タブで [入力クエリの編集] ボタンをクリックします。[22](【入力クエリ:] ボックスの右) をクリックして [入力クエリの編集] を開きます。
	3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして [計算された関係を追加]を選択します。
関	• 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」
連タ スク	• 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」
	• 24ページ「TQL クエリの定 義 」
	 ●「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド
	• 213ページ「パターン・ビューの作成」
	• 214ページ「テンプレートの作成」
	• 215ページ「パースペクティブの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
2	[すべてを展開]をクリックすると、ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
5	[すべてを折りたたむ]をクリックすると、ツリー内のすべてのフォルダが折りたたまれます。
ツリー ビュー 🔒	[ツリー ビュー]をクリックして,計算された関係ツリーの表示形式を選択します次のオプ ションを利用できます。
	• 表示ラベル別
	 クラス名別
	 旧クラス名別
<計算さ れた関 係ツ リ ー >	2 つのクエリ・ノード間の接続を定義する計算された関係を選択します。
関係の 方向	クエリ・ノード間の依存関係を表す関係の方向です。
関係名	計算された関係の名前です。
関係の 制限	クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係, または自己関係を処理する方法を 定義するオプションを選択します自己関係とは, あるクエリ・ノードから, そのノード自身 につながっている関係のことです。
	注 :このリストは、1つのクエリ・ノードまたは2つの同一クエリ・ノードを選択したときのみ 表示されます。
	• 全関係を許可:すべての関係がウエリ結果に表示されます。
	• 自己関係のみを許可:自己関係(自身へとつながる関係)のみが、クエリ結果に 表示されます。
	• 非自己関係のみを許可:自己関係は、クエリ結果に表示されません。

[複合関係の追加/編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、複合関係を使用して2つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。

利用
 エンリッチメント・マネージャ,影響分析マネージャ,モデリング・スタジオで利用するには、次の手順を実行します。
 エンリッチメント・マネージャ,影響分析マネージャ,またはモデリング・スタジオの編集表示枠で必要なクエリを右クリックし、[複合関係の追加]を選択します。

	注 :エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部でクエリ・モード を選択して [複合関係の追加]オプションを表示します。
	DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順を実行します。
	1. [リソース] 表 示 枠 でアダプタを選 択します。
	2. [アダプタ定義] タブで, 🌽 [入力クエリの編集] ボタン([入力クエリ] ボックスの右) をクリックし, [入力クエリの編集]を開きます。
	3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして [複合関係の追加]を選択します。
重要 情報	複合定義は、必要な数だけ作成できます。
関連	• 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」
タスク	• 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」
	• 24ページ「TQL クエリの定 義 」
	• 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド
	• 213ページ「パターン・ビューの作成」
	• 214ページ「テンプレートの作成」
	• 215ページ「パースペクティブの作成」
関連	・ 20ページ「compound 関係」
情報	 26ページ「複合関係の定義-シナリオ」

UI 要素	詳細
4	複合定義が追加されます。
	影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャでは, [トリプレットの追加]ダ イアログ・ボックスが開きます。 モデリング・スタジオでは, テーブルに標準設定の複合 定義が入力されます。 定義コンポーネントを編集するには, [編集]をクリックしま す。
×	選択した複合定義が削除されます。
Ø	選択した複合定義を編集します。
	影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャでは, [トリプレットの追加]ダ イアログ・ボックスが開きます。 モデリング・スタジオでは, [複合関係条件の定義]ダ イアログ・ボックスが開きます。
最大ス テ ップ 数	CMDB内の2つのCI間でディスカバリ・プロセスに含むことが許可されている最長 パスです。
	標準設定 :5
最小ステップ	CMDB内の2つのCI間でディスカバリ・プロセスに含むことが許可されている最短

モデリング・ガイド

第1章:トポロジ・クエリ言語(TQL)

UI要素	詳細
	パスです。
	標準設定:1
関係	2つのクエリ・ノードを接続する関係です。
関係の方向	クエリ・ノード間の依存関係を表す関係の方向です。
関係名	複合関係の名前です。
関係の制限	クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係, または自己関係を処理する方 法を定義するオプションを選択します自己関係とは, あるクエリ・ノードから, その ノード自身につながっている関係のことです。
	注 :このリストは、1つのクエリ・ノードまたは2つの同一クエリ・ノードを選択したときのみ表示されます。
	• 全関係を許可:すべての関係がクエリ結果に表示されます。
	• 自己関係のみを許可:自己関係(自身へとつながる関係)のみが、クエリ結果 に表示されます。
	• 非自己関係のみを許可:自己関係は、クエリ結果に表示されません。
クエリ結果に 要素を表示	[クエリ結果に要素を表示]を選択すると、結合関係または複合関係に関係するクエリ結果が含まれます。標準設定では、このオプションが選択されています。[クエリ結果で非表示]チェックボックスがクリアされている場合、編集表示枠の関係の名前の左にインジケータ®が表示され、その関係に属するクエリ結果はトポロジ・マップに表示されないことが示されます。
	Node Virtual - Join IpAddress
ソースおよび ターゲット CI の間にフル・ パスを表示	このオプションを選択すると、クエリ結果に、CI をリンクする関係の実際の名前と、 ソース CI とターゲット CI の間の完全 パスが表示されます。
ソース	必須のソース・クエリ・ノードです。
最初の複合 レベルで停 止する	このオプションを選択すると、システムがパス内の1つ目のターゲットに達したとき に、TQL クエリ結果の検索が停止されます。

モデリング・ガイド 第1章:トポロジ・クエリ言語(TQL)



[結合関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは結合関係を定義できます。

利用	エンリッチメント・マネージャ, 影響分析マネージャ, モデリング・スタジオで利用するには, 次の 手順を実行します。
万 法	エンリッチメント・マネージャ, 影響分析マネージャ, またはモデリング・スタジオの編集表示枠 で必要なクエリを右クリックし, [結合関係の追加]を選択します。
	注 :エンリッチメント・マネージャを使用している場合は, 編集表示枠の上部で クエリ・モー ド を選択して [結合関係の追加] オプションを表示します。
	DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順を実行します。
	1. [リソース] 表 示 枠 でアダプタを選 択します。
	2. [アダプタ定義] タブで, 🖉 [入力クエリの編集] ボタン([入力クエリ] ボックスの右)をク リックし, [入力クエリの編集]を開きます。
	3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして [結合関係の追加]を選択します。
重要情報	モデリング・スタジオからダイアログ・ボックスにアクセスした場合,属性および演算子はこのダイ アログ・ボックス内で選択します。 影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャからダ イアログ・ボックスにアクセスした場合,属性および演算子は [関係条件を結合] ダイアログ・ ボックスで選択します。
	注:結合関係条件のタイプ・リストの属性は選択できません。

関	• 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」
連 タ	• 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」
スク	• 24ページ「TQL クエリの定 義」
	• 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド
	• 213ページ「パターン・ビューの作成」
	• 214ページ「テンプレートの作成」
	• 215ページ「パースペクティブの作成」
関	• 20ページ「join 関係」
連 情	• 29ページ「結合関係の定義-シナリオ」
報	

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
+	結合定義を定義します。 影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャでは, [関係条件の結合] ダイアログ・ボックスが開きます。 モデリング・スタジオでは, 選択した 属性および演算子 がリストに追加されます。
×	選択した結合定義が削除されます。
Ø	結合定義を編集します。[関係条件を結合] ダイアログ・ボックスが開きます。
	注 :このオプションはモデリング・スタジオには関連しません。
<クエリ	<end_1> クエリ・ノードの属性を選択します。</end_1>
ノート 1 属性> ボックス	注 :このオプションはモデリング・スタジオでのみ使用できます。
<クエリ	<end_2> クエリ・ノードの属性を選択します。</end_2>
ノード 2 属性> ボックス	注 :このオプションはモデリング・スタジオでのみ使用できます。
<選択し	選択したクエリ・ノード。1つ目の属性は <end_1> に適用されます。</end_1>
たクエリ ノード	
1>カラム	
<選択し	選択したクエリ・ノード。2つ目の属性は <end_2> に適用されます。</end_2>
ノード	
2>カラム	
And	すべての結合定義が、 および 演算子でリンクされます。
	注:モデリング・スタジオには関連しません。

モデリング・ガイド

第1章:トポロジ・クエリ言語(TQL)

UI 要素	詳細
演算子 ボックス	演算子を選択します。利用可能な演算子の詳細については、62ページ「[関係条件 を結合]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	注 :このオプションはモデリング・スタジオでのみ使用できます。
演算子 カ ラ ム	[関係条件を結合]ダイアログ・ボックスで選択した演算子。演算子の定義の詳細については、36ページ「属性演算子の定義」を参照してください。
関係の 方向	クエリ・ノード間の依存関係を表す関係の方向です。
関係名	結合関係の名前です。
関係の 制限	クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係, または自己関係を処理する方法を 定義するオプションを選択します自己関係とは, あるクエリ・ノードから, そのノード自身 につながっている関係のことです。
	注 :このリストは、1つのクエリ・ノードまたは2つの同一クエリ・ノードを選択したときのみ 表示されます。
	• 全関係を許可: すべての関係がクエリ結果に表示されます。
	• 自己関係のみを許可:自己関係(自身へとつながる関係)のみが、クエリ結果に表示されます。
	• 非自己関係のみを許可:自己関係は、クエリ結果に表示されません。
クエリ結 果に関 係を表 示	[クエリ結果に関係を表示]を選択すると、結合関係または複合関係に関係するクエリ結果が含まれます。標準設定では、このオプションが選択されています。このチェックボックスをクリアすると、編集表示枠で選択した関係名の左に[クエリ結果で非表示] インジケータ®が表示されます。関係に属するクエリ結果は、トポロジ・マップに表示されません。
	Node Virtual - Join

[関係の追加/編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリ内の2つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。

利用 エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、およびモデリング・スタジオで利用するに

方法	は、次のいずれかの手順を行います。
	 エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、またはモデリング・スタジオの編集表示枠で必要なクエリを右クリックし、[関係の追加]を選択します。
	• [関係を作成] 🗽 アイコンをクリックし, 必要なクエリ・ノードの間に線を引きます。 [関係のタイプを選択] ダイアログ・ボックスが開きます。 [通常の関係] を選択します。
	注 :エンリッチメント・マネージャを使用している場合は, 編集表示枠の上部でクエリ・モー ドを選択して [関係の追加] オプションを表示します。
	DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順を実行します。
	1. [リソース] 表 示 枠 でアダプタを選 択します。
	2. [アダプタ定義] タブで、 2. [入力クエリの編集] ボタン([入力クエリ] ボックスの右)をク
	リックし、[八 刀 クエリの袖 朱] を用さます。
	9990、[スカウェリの編集]を用きます。 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[関係の追加]を選択します。
重要 情報	3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[関係の追加]を選択します。 このオプションは,選択した2つのクエリ・ノード間(または選択した1つのクエリ・ノード)に 有効な関係がない場合は表示されません。
重情関連	 ・ 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[関係の追加]を選択します。 このオプションは、選択した2つのクエリ・ノード間(または選択した1つのクエリ・ノード)に 有効な関係がない場合は表示されません。 ・ 357ページ「影響ルールの定義-ワークフロー」
重情 関 タ スク	 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして [関係の追加]を選択します。 このオプションは、選択した2つのクエリ・ノード間(または選択した1つのクエリ・ノード)に 有効な関係がない場合は表示されません。 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」
重 情 関 タ ス ク	 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして [関係の追加]を選択します。 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして [関係の追加]を選択します。 このオプションは、選択した2つのクエリ・ノード間(または選択した1つのクエリ・ノード)に 有効な関係がない場合は表示されません。 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」 24ページ「TQL クエリの定義」
重要	 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして [関係の追加]を選択します。 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして [関係の追加]を選択します。 このオプションは、選択した2つのクエリ・ノード間(または選択した1つのクエリ・ノード)に 有効な関係がない場合は表示されません。 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」 24ページ「TQL クエリの定義」 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド
重情 関タスク	 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして [関係の追加]を選択します。 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして [関係の追加]を選択します。 このオプションは、選択した2つのクエリ・ノード間(または選択した1つのクエリ・ノード)に 有効な関係がない場合は表示されません。 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」 24ページ「TQL クエリの定義」 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド 213ページ「パターン・ビューの作成」
重情 関タスク	 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして [関係の追加]を選択します。 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして [関係の追加]を選択します。 このオプションは、選択した2つのクエリ・ノード間(または選択した1つのクエリ・ノード)に 有効な関係がない場合は表示されません。 357ページ「影響ルールの定義-ワークフロー」 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」 24ページ「TQL クエリの定義」 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド 213ページ「パターン・ビューの作成」 214ページ「テンプレートの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要 素	詳細
2	[すべてを展開]をクリックすると、関係ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
1	[すべてを折りたたむ]をクリックすると、関係ツリー内のすべてのフォルダが折りたたまれます。
ツリー ビュー	[ツリー ビュー]をクリックして,関係ツリーの表示形式を選択します。次のオプションを利用 できます。
	• 表示ラベル別
	 クラス名 別
	 旧クラス名別
<関 係ツ	2 つのクエリ・ノード間の接続を定義する関係を選択します。

UI 要 素	詳細
IJ—>	
関係 の方 向	クエリ・ノード間の依存関係を表す関係の方向です。
関係 名	関係の名前です。
関係 の制 限	クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係, または自己関係を処理する方法を定義 するオプションを選択します自己関係とは, あるクエリ・ノードから, そのノード自身につな がっている関係のことです。
	注 :このリストは、1 つのクエリ・ノードまたは2 つの同 ー クエリ・ノードを選択したときのみ表示されます。
	• 全関係を許可:すべての関係がクエリ結果に表示されます。
	• 自己関係のみを許可:自己関係(自身へとつながる関係)のみが、クエリ結果に表示 されます。
	 非自己関係のみを許可:自己関係は、クエリ結果に表示されません。

[関連クエリノードを追加]ウィザード

このウィザードでは TQL クエリを構築できます。

利用 方法	エンリッチメント・マネージャ, 影響分析マネージャ, モデリング・スタジオで利用するには, 次の手順を実行します。
	編集表示枠で, 必要なクエリ・ノードを右クリックし, [関連クエリノードを追加]を選択し ます。
	注 :エンリッチメント・マネージャを使用している場合は, 編集表示枠の上部で クエリ・ モードを選択して [関連クエリノードを追加] オプションを表示します。
	DFM のディスカバリ・コントロール・パネルで利用するには、次の手順を実行します。
	1. [ディスカバリ モジュール]表示枠でジョブを選択します。
	2. [プロパティ] タブで [トリガ クエリ] を選択します。[クエリ エディタを開く] 🥒 ボタンをク リックして, [トリガ クエリ エディタ]を開きます。
	3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして [[関連クエリノードを追加] ウィザード]を選択します。
	DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順を実行します。
	1. [リソース] 表示枠でアダプタを選択します。
	2. [アダプタ定義] タブで, 🧷 [入力クエリの編集] ボタン([入力クエリ] ボックスの右) をクリックし, [入力クエリの編集]を開きます。

	3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして[[関連クエリノードを追加] ウィザード]を選択します。
重要 情報	TQL クエリが空の場合, 左側の表示枠のCI タイプ・セレクタまたは [CI タイプ] タブに表 示されているツリーから編集表示枠に必要な TQL クエリ・ノードをドラッグします。
関連タ	• 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」
スク	● 406ページ「エンリッチメント・ルールの定 義 − シナリオ」
	● 24ページ「TQL クエリの定 義 」
	 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド
	 213ページ「パターン・ビューの作成」
	• 214ページ「テンプレートの作成」
	• 215ページ「パースペクティブの作成」
ウィザー	[関連クエリノードを追加]ウィザードには次のページが含まれています。
ド・マッ プ	「[関連クエリノードのタイプ] ページ」>「[関係タイプ] ページ」>「[関連クエリノードのプ ロパティ] ページ」>「[関連クエリノードのインスタンス] ページ」
関連 情報	17ページ「トポロジ・クエリ言 語 (TQL) の概 要 」

[関連クエリノードのタイプ] ページ

このウィザード・ページでは、クエリ・ノードを TQL クエリに追加できます。

重要情 報	TQL クエリが空の場合は、必要な TQL クエリ・ノードを [構成アイテムタイプ] 表示枠に 表示されているツリーから編集表示枠にドラッグします。
	[関連クエリノードを追加] ウィザードの一般的な情報については, 49ページ「[関連クエ リノードを追加] ウィザード」を参照してください。
ウィザー	「[関連クエリノードを追加]ウィザード」には、次のページが含まれています。
ド・マップ	「[関連クエリノードのタイプ] ページ」 >「[関係タイプ] ページ」>「[関連クエリノードの プロパティ] ページ」>「[関連クエリノードのインスタンス] ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
轚	[すべてを展開]をクリックすると、ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
86	[すべてを折りたたむ]をクリックすると、 ツリー内のすべてのフォルダが折りたたまれます。
עוש–	[ツリービュー]をクリックして,CIタイプ・ツリーの表示形式を選択します。 次のオプションを利用できます。

モデリング・ガイド

第1章:トポロジ・クエリ言語(TQL)

UI要素	詳細			
F'	 表示 ラベル別 			
	 クラス名別 			
	 旧クラス名別 			
	注 :この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。			
<クエリノー ド>必須	関係のカーディナリティを定義します。詳細については、63ページ「[クエリ・ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。			
	 各クエリ・ノードの[<クエリノード>必須] チェック・ボックスを選択にすると、関係の他端にあるクエリ・ノードのインスタンスが最低1つクエリ結果に含まれます。このチェック・ボックスを選択すると、関係にカーディナリティ値1*が設定されます。 			
	 [<クエリノード>必須] チェック・ボックスをクリアにすると、関係にカーディナリティ値 0* が設定されます。 			
<tql クエ<br="">リノ<i>ー</i>ドの</tql>	必要なクエリ・ノードを選択します。選択したクエリ・ノードは, [要素名] ボックスに表示されます。			
階層ツ リー->	このリストには,選択した(ソース)クエリ・ノードに対して有効な関係を持つ CI タイプのクエリ・ノードだけが表示されます。			
	各クエリ・ノードの右に, CMDB に存在する, 該当する CI タイプの CI インスタンスの 数が表示されます。インスタンスの数は, [関連クエリノードを追加] ウィザードを閉じ て再度開いた後にのみ更新されます。			
	注:階層ツリーの最初のクエリ・ノードが標準で選択されています。			
要素名	選択したクエリ・ノードの名前が含まれます(任意指定)。標準設定では、CIタイプ は要素の名前として割り当てられます。			
	TQL クエリ・ノードの名前は, 一意のラベルを付けることによって [要素名] ボックスで 変更できます。これは, TQL クエリに, 同じ CI タイプのクエリ・ノードが複数ある場合 に便利です。			
インスタンス のある CIT のみ表 示	このチェック・ボックスを選択するとCMDBにインスタンスのある CIT のみが表示されます。 このボックスを選択しない場合, ツリーにはソース・クエリ・ノード への有効なリンクのある CIT がすべて含まれます。			
দ ক	注 :[インスタンスのある CIT のみ表示する]チェック・ボックスは,標準設定で選択されています。			

[関係タイプ] ページ

このウィザード・ページでは, 関係を TQL クエリに追加できます。

ページ」 >「[関連クエリノードの

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
ツリー ビュー 🔒	[ツリービュー]をクリックして,関係ツリーの表示形式を選択します。次のオプション を利用できます。
	 表示ラベル別
	 クラス名別
	 旧クラス名別
	注:この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。
<tql クエリ<br="">関係の階層 ツリー></tql>	必要な関係を選択してください。
関係の方向	必要な関係の方向を選択します。方向は、クエリ・ノード間の依存関係を示しま す。
関係名	関係の名前です。
	注:この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。
関係の制限	クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係, または自己関係を処理する方法を定義するオプションを選択します自己関係とは, あるクエリ・ノードから, そのノード自身につながっている関係のことです。
	注:この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。
関係タイプ	選択したクエリ・ノード間の接続を定義する有効な関係です。このボックスには, 関係階層ツリーで選択した関係が表示されます。
	注 :この機能は, エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャでのみ使 用できます。
インスタンスの ある関係の み表示する	CMDB内にインスタンスが存在する関係だけが表示されます。このボックスを選択しない場合、ツリーには選択したクエリ・ノード間の有効な関係がすべて含まれます。

[関連クエリノードのプロパティ] ページ

このウィザード・ページでは、属性条件をクエリ・ノードまたは関係に追加することで、クエリに表示されるクエリ・ノードの数を制限する式を作成できます。

重要情報	モデリング・スタジオからウィザードを利用する場合,このウィザード・ページには3つのタブが表示されます。[属性],[要素タイプ],[要素レイアウト][属性] タブには、以下に説明されている要素が含まれます。[要素タイプ] タブの詳細については、69ページ「[要素タイプ]タブ」を参照してください。[要素レイアウト] タブの詳細については、71ページ「[要素レイアウト]タブ」を参照してください。
ウィ	「[関連クエリノードを追加]ウィザード」には、次のページが含まれています。
ザー ド・	「[関連クエリノードのタイプ] ページ」>「[関係タイプ] ページ」> 「[関連クエリノードのプロパ

Г

ティ] ページ」>「[関連クエリノードのインスタンス] ページ」

UI 要素	詳細
+	属性条件を追加します。
×	属性条件を削除します。
	選択した行を上へ移動します。
\downarrow	選択した行を下へ移動します。
Q	条件定義を表示します。
AND/OR	複数の条件をリンクさせるには, [AND/OR] フィールド内をクリックし, [AND] または [OR] を選択します。
属性名	リストから属性を選択します。
大括弧 ([大括弧] ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
条件	[要素インスタンス]ダイアログ・ボックスで定義した属性条件の定義が含まれています。
サブタイ	選択したCIとその子がトポロジ・マップに表示されます。
フを含め る	注 :このチェック ボックスは, エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャでの み使用できます。
ΝΟΤ	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に[NOT]を選択します。
	注:[NOT]を選択した場合, クエリの結果には, 値が割り当てられていない CI インス タンスのデータは含まれません。たとえば, システムに3つのノードがあり。ノード1には 値 A が割り当てられ, ノード2には値 B が割り当てられ, ノード3には値が割り当てら れていないとします。A に等しい値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成し, [NOT]を選択した場合, ノード3には値が割り当てられていないため、クエリの結果に はノード2のみが含まれます。
演算子	必要な演算子を選択します。詳細については、36ページ「属性演算子の定義」を参照してください。
クエリ結 果に要 素を表 示	[クエリ結果に要素を表示]を選択すると,選択した TQL クエリ・ノードが編集表示枠 に表示されます。このチェックボックスをクリアすると,編集表示枠で選択した TQL クエ リノードの右に [クエリ結果で非表示] のインジケータ®が表示されます。

UI要素	詳細
	IpAddress IpAddress Containment Windows IpSubnet
	定の関係やTQL クエリ・ノードがクエリの構築には必要であるが結果には必要でない という場合に便利です。たとえば、特定のIP アドレスを定義することによって Windows をネットワークに接続しているが、クエリ結果には IP アドレス要素だけを表示 し、Windows 要素を表示したくない場合があります。
値	属性の値を入力または選択します。[値]オプションは、選択した属性タイプに応じて 変わります。

[関連クエリノードのインスタンス] ページ

このウィザード・ページでは, 選択した TQL クエリ・ノードに対して検出されたすべてのインスタンスが テーブルに表示されます。

重要情報	レポートに表示されるカラムは,選択した CI タイプによって異なります。 標準設定では, CI タイプ・マネージャで アセット・データ,管理対象,変更をモニタ, および 比較可能 属性修飾子を使って定義されている属性に対応するカラムのみが,ダイアログ・ ボックスにカラムとして表示されます。詳細については,388ページ「[属性]ページ」を参照し てください。
	必要に応じて [非表示カラムを表示] ボタンをクリックし,可視として定義されているが静的 として定義されていない属性を表示できます。静的属性の詳細については,388ページ 「[属性]ページ」を参照してください。
	注 : [関連クエリノードのインスタンス] ページに含まれる要素の情報については, 58ページ 「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ילי	「[関連クエリノードを追加]ウィザード」には、次のページが含まれています。
ザー ド・ マッ プ	「[関連クエリノードのタイプ] ページ」>「[関係タイプ] ページ」>「[関連クエリノードのプロパ ティ] ページ」>「 [関連クエリノードのインスタンス] ページ」

[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、サブグラフの定義、複合関係、または計算された関係の作成時に、 ソース CI からターゲット CI へのトポロジ・グラフのパスで許容される手順を定義できます。

利	エンリッチメント・マネージャまたは影響分析マネージャで次のことを行います。
用 方 法	 [複合関係の追加]ダイアログ・ボックスで、[追加] [→]ボタンをクリックします。詳細については、42ページ「[複合関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	 ● [サブグラフの定義]ダイアログ・ボックスで、● [追加]をクリックします。詳細については、78ページ「[サブグラフの定義]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	Cl タイプ・マネージャで, [Cl タイプ] 表示枠のドロップダウン・リストから[計算された関係]を
	選択します。 編集表示枠で [トリプレット] ページを選択してから, 📌 [追加] をクリックしま す。
重	トポロジ・グラフに含めるクエリ・ノードと関係を選択します。
要 情 報	重要 : [サブグラフ定 義]ダイアログ・ボックスから[トリプレットの追加]ダイアログ・ボックスに アクセスする場合のみ, [条件]フィールドが表示されます。
関	• 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」
連タ スク	• 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」
	• 24ページ「TQL クエリの定 義 」
	• 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド
	• 213ページ「パターン・ビューの作成」
	• 214ページ「テンプレートの作成」
	• 215ページ「パースペクティブの作成」
関	・ 20ページ「compound 関係」
連 情	 ● 26ページ「複合関係の定義 - シナリオ」
報	● 23ページ「サブグラフ定 義」

UI 要 素	詳細
Ø	選択したソース・クエリ・ノードとターゲット・クエリ・ノードの属性条件を定義します。[サブグラ フの定義] ダイアログ・ボックスから[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスを開くと, [サブグラフ 条件の定義] ダイアログ・ボックスが開きます。[複合関係の追加] ダイアログ・ボックスから[ト リプレットの追加] ダイアログ・ボックスを開くと, [複合関係条件の定義] ダイアログ・ボックスが 開きます。
	[条件] ボタンは, クエリ・ノードをソース・リストまたはターゲット・リストから選択した後に有効

UI 要	
素	詳細
	になります。
	注 :Cl タイプ・マネージャではソース・クエリ・ノードとターゲット・クエリ・ノードの属性条件を定 義できません。
関 係	2 つのクエリ・ノードを接続する有効な関係を選択します。有効な関係のリストは、両方のクエリ・ノードを定義した後でのみ表示されます。
関係の方	必要な方向を選択します。異なる関係の方向を設定すると、異なるクエリ結果が得られる 場合があります。例については、56ページ「複合定義に異なる関係の方向を設定」を参照 してください。
向	注: 係り入下は、シースとダークットを選択するまで空のままになります。
ソー ス	必要なソース・クエリ・ノードを選択します。
ター ゲッ ト	必要なターゲット・クエリ・ノードを選択します。

複合定義に異なる関係の方向を設定

異なる関係の方向を設定すると、異なる TQL 結果が得られます。たとえば、ビジネス環境において、次の図に示すように、CIT aのクエリ・ノードとCIT bのクエリ・ノードを接続する複合関係を作成するとします。深さは5に定義されています(詳細については、79ページ「深度」)。



[トリプレットの追加]ダイアログ・ボックスでは、複合定義を作成して、異なる関係の方向を使用してクエリ・ノード a とb をリンクできます。

複合定義	ソース	ターゲット	関係	関係の方向
#1	クエリ・ノード a	クエリ・ノード c	<関係>	ソース> ターゲット
#2	クエリ・ノード c	クエリ・ノード b	<関係>	ソース> ターゲット
#3	クエリ・ノード c	クエリ・ノード b	<関係>	ソース < ターゲット

• 複合定義1と2の結果,次のクエリが得られます。



• 複合定義1と3の結果,次のクエリが得られます。



• 複合定義 1, 2, および3の結果, 次のクエリが得られます。



条件のプレビュー・ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスは, [クエリノードのプロパティ] ダイアログ・ボックスの [要素タイプ] タブで, 複合タ イプの条件を選択するときに選択した状態を表示します。

利用方法	[クエリノードのプロパティ] ダイアログ・ボックスの [要素 タイプ] タブから [プレビュー]
	ボタン

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI要素	詳細
CI タイプ	条件を定義したサブタイプを表示します。
条件	凡例で定義され、選択した条件のアイコンが表示されます。
適用フィルタ	選択した条件を指定します(例として, CIタイプや修飾子別, または 特定の修飾子別)

[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, 選択した TQL クエリ・ノードに対して検出されたすべての CI インスタンス がテーブルに表示されます。

エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の 利 用 手順を実行します。 方 編集表示枠で、必要なクエリ・ノードを右クリックし、「要素インスタンスの表示」を選択しま 法 す。 注:エンリッチメント・マネージャを使用している場合は,編集表示枠の上部で[クエリ]モード を選択して [要素インスタンスの表示] オプションを表示します。 DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順を実行します。 1. [リソース] 表示枠でアダプタを選択します。 2. [アダプタ定義]タブで、 2 [入力クエリの編集]ボタン([入力クエリ:]ボックスの右)をク リックし, [入力クエリの編集]を開きます。 3. 必要なクエリ・ノードを右クリックし、[要素インスタンスの表示]を選択します。 Integration Studio で利用するには、次の手順を実行します。 ディスカバリ jython アダプタに基 づいて統 合 ポイントを作 成します。 [トリガ Cl インスタンス] メ ニューで[既存のCIを選択]を選択します。 重 テーブルのカラムに、選択した CI タイプの属性が表示されます。表示される属性は、選択し 要 た CI タイプによって異なります。 情 標準設定では, CIT マネージャで [**アセット データ**],[管理対象],および [比較可能] 属性修 報 飾子を使って定義されている属性に対応するカラムのみが、 ダイアログ・ボックスにカラムとし て表示されます。詳細については、388ページ「「属性」ページ」を参照してください。 関 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」 連 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」 タ スク 24ページ「TQL クエリの定 義」 213ページ「パターン・ビューの作成」 214ページ「テンプレートの作成」 215ページ「パースペクティブの作成」 「ポピュレーション・ジョブの操作方法」 (『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド 「データ・プッシュ・ジョブの使用方法」(『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

モデリング・ガイド

第1章:トポロジ・クエリ言語(TQL)

UI 要素	詳細
次の CI インスタンスを表示: Network (5) 🔹	テーブルに表示するCITを指定します。テー ブルには,選択したCITの子も含まれます。
×	選択したCIを削除するときにクリックします。
	[CI プロパティを表示]をクリックすると,選択 した CI の[構成アイテムのプロパティ]ダイア ログ・ボックスが開きます。
	クリックすると, CI インスタンスのリストが更新 されます。
T	選択したクエリ・ノードに表示するCl インスタ ンスをフィルタします。 [Cl インスタンスをフィル タ] ダイアログ・ボックスが開きます。
V	[Cl インスタンスをフィルタ] ダイアログ・ボックス で作成したフィルタ定義をクリアします。
	表示するカラムを選択できます。詳細につい ては, 438ページ「[カラムの選択] ダイアログ・ ボックス」を参照してください。
± 1	CI インスタンスの並べ替え順序を設定できます。詳細については、439ページ「[カラムコンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
Q	[検索]をクリックすると、検索ツールバーが表示されます。
	[メールを送信]をクリックすると、テーブル・ データが電子メールで送信されます。
	テーブルのデータをエクスポートする形式を選 択します。次のオプションを使用できます。
	• [Excel です]テーブルのデータは,スプレッドシートに表示できる.xls(Excel)ファイル形式に整形されます。
	• [PDF]テーブルのデータは、 PDF 形式で エクスポートされます。
	注: PDF にエクスポートする場合,レポー トが読みやすくなるよう表示列の適切な 数を選択します。
	 [csv]テーブルのデータは、スプレッドシート に表示できるカンマ区切り(CSV)テキス ト・ファイル形式に整形されます。

UI 要素	詳細
	注:CSV形式のテーブルのデータを正しく 表示するには、カンマ(,)を区切り文字と して定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変 更するには、コントロール・パネルの[地域 のオプション]を開いて、[数値] タブでカン マが区切り文字の値として定義されてい ることを確認します。Linuxでは、CSV ファイルを開くアプリケーションで区切り文 字を指定できます。
	• [xml]テーブルのデータは、テキスト・エディ タまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。
	ヒント :レポートから HTML コードを抽出す るには, 次の手順を実行します。
	■ ファイルをHTML 形式で保存します。
	■ ファイルを HTML エディタで開きます。
	 ■ 関連するテーブルをターゲット・ファイル にコピーします。
30 ▼ページの行数	各ページに表示する行の数を選択します。 また,手動でページあたりの行数の値を入力 することができます。
🕅 <☐ 3 of 16528 <▷ 🕅	クリックすると、ページごとに結果を移動した り、または最初のページや最後のページに移 動したりできます。
<要素インスタンス>	選択した TQL クエリ・ノードに対して検出さ れた CI インスタンスですインスタンスをダブ ルクリックすると、その CI の [構成 アイテムのプ ロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
<要素インスタンスのショートカット・メニュー>	詳細については、185ページ「IT ユニバース・ マネージャのショートカット・メニュー」を参照し てください。
表示ラベル	トポロジ・マップに表示される CI インスタンス の名前です。

要素レイアウト のプレビュー・ダイアログ ボックス

このダイアログボックスは,選択した要素のクエリ結果に含まれる,[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスの[要素のレイアウト]タブで選択した属性が表示されます。

利用方法	[クエリノードのプロパティ] ダイアログ ボックスの [要素 レイアウト] タブから [プレ
	ビュー] ボタン 🔍をクリックします。

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI要素	詳細
属性 モード	[クエリノードのプロパティ] ダイアログ・ボックスの [要素のレイアウト] タブで 選択した属性の状態が表示されます。
CI タイプ	選択したクエリ・ノードまたは関係のCITが表示されます。
除外された属性	[クエリノードのプロパティ] ダイアログ・ボックスの [要素のレイアウト] タブ で, [除外された属性] 表示枠に表示される属性が表示されます。
修飾子でマークされた 属性	[クエリノードのプロパティ] ダイアログ ボックスの [要素のレイアウト] タブで 選択した修飾子が表示されます。
特定の属性	[クエリノードのプロパティ] ダイアログボックスの[要素のレイアウト] タブで, [特定の属性] 表示枠に表示される属性が表示されます。

[CI インスタンスをフィルタ] ダイアログ ボックス

このダイアログ・ボックスでは、特定の CI に対して条件と値を選択することによって、リストに表示する CI インスタンスの数を減らすことができます。

利用方法	[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで [フィルタ] ¹² ボタンをクリックします。
重要情報	定義したフィルタ条件の説明は、[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスに表示されるテーブ ルのカラムの上に表示されます。たとえば、次の図では、CI タイプが Windows である CI イン スタンスのみを表示するようにフィルタ条件を作成しました。
	Display Label Cl Type Sett Windows
関	• 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」
連 タ	● 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 − シナリオ」
スク	● 24ページ「TQL クエリの定 義 」
	●「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド
	• 213ページ「パターン・ビューの作成」
	• 214ページ「テンプレートの作成」
	• 215ページ「パースペクティブの作成」

UI 要 素	詳細
属性	CI が属する CI タイプの属性がすべて表示されます。
条件	必要な演算子を選択します。詳細については、36ページ「属性演算子の定義」を参照 してください。
NOT	条件および値の否定によって結果をフィルタする場合に選択します。
値	必要な値を選択または入力します。

[関係条件を結合] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、結合関係を使用して2つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。

利用 方法	エンリッチメント・マネージャまたは影響分析マネージャの[結合関係の追加]ダイアログ・ ボックスで, [追加] [・]ボタンをクリックします 。
重要 情報	結合関係条件のタイプ・リストの属性は選択できません。
関連タ スク	 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」 24ページ「TQL クエリの定義」 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<選択 したクエ リノード 1>	選択したクエリ・ノード。1つ目の属性は <end_1> に適用されます。</end_1>
<選択 したクエ リノード 2>	選択したクエリ・ノード。2つ目の属性は <end_2> に適用されます。</end_2>
演算子	次の演算子のいずれかを選択します。
	• 等しい:選択した2つの属性が等しいかどうかがチェックされます。
	• 等しくない:選択した2つの属性が等しくないかどうかがチェックされます。
	• サブストリング:1つ目の属性の値が、2つの属性の値の部分文字列かどうかが チェックされます。

UI要素 詳細

サブストリング(大文字小文字を区別しない):1つ目の属性の値が、2つ目の属性の値の部分文字列かどうかがチェックされます(文字列の大文字と小文字は区別されません)。

重要:演算子の等しくないを使用するときは、結合関係の両側で結果のサイズが制限 されていることを確認してください。膨大な量の結果によりシステムが過負荷になるのを 避けるために、より具体的な条件を定義することをお勧めします。

[レイアウト設定] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、UCMDB API を使用するときに TQL クエリの計算に使用する属性を決定できます。詳細については、『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』の「RTSM(HP Universal CMDB) Web Service API」を参照してください。

利用方法	エンリッチメント マネージャまたは影響分析マネージャの[クエリノード/関係のプロパティ]ダイ アログ・ボックスで [詳細レイアウト設定]をクリックします。
重要情報	このオプションは, CMDB API に問い合わせるときしか関係ないため, ユーザ・インタフェース に対するクエリ結果は, このダイアログ・ボックスで選択する属性の影響を受けません。
関 連タ スク	 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」 24ページ「TQL クエリの定義」 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド 213ページ「パターン・ビューの作成」 214ページ「テンプレートの作成」
	• 215ページ「パースペクティブの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
属性名	属性の名前です。
計算	このチェック・ボックスを選択すると、クエリの計算に属性が含まれます。

[クエリ・ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した TQL クエリ・ノードまたは関係の属性条件を定義できます。

利用 エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次

方法	の手順を実行します。
	編集表示枠で,必要なクエリ・ノードを右クリックし,[クエリノード/関係のプロパティ]を選択します。
	注:エンリッチメント・マネージャを使用している場合は,編集表示枠の上部で[クエリ モー ド]を選択して[クエリノードのプロパティ]オプションを表示します。
	DFM で利用するには、次の手順を実行します。
	1. [アダプタ定義]タブから利用するには、アダプタを選択し、 2012 [入力クエリの編集]ボタン([入力クエリ]ボックスの右)をクリックし、 [入力クエリの編集]を開きます。
	2. 必要なクエリ・ノードまたは関係を右クリックして[クエリノードのプロパティ]または[関 係のプロパティ]を選択します。
関連	• 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」
タスク	• 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」
	• 24ページ「TQL クエリの定 義 」
	 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』)
	• 213ページ「パターン・ビューの作成」
	• 214ページ「テンプレートの作成」
	● 215ページ「パースペクティブの作成」

UI 要 素	詳細
要素名	[要素名]ボックスには、選択したクエリ・ノードまたは関係の名前が表示されます(任意指定)。標準設定では、CI タイプは要素の名前として割り当てられます。TQL クエリ・ノードの名前は、一意のラベルを付けることによって[要素名]ボックスで変更できます。これは、TQL クエリに、同じ CI タイプのクエリ・ノードが複数ある場合に便利です。
要 素 タイ プ	選択したクエリ・ノードの CI タイプを表示します。 クエリ・ノードのタイプを変更する場合,元のタイプの子に変更する場合, サブタイプをドロップダウン・リストから選択します。 注:
	 すでにクエリ・ノードに複合タイプ条件を定義している場合は、クエリ・ノードのタイプを変更すると条件が失われます。
	 この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。
サブ タイ プを める	選択すると、選択したCIとその子がトポロジ・マップに表示されます。
	注 : この機能は, エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャでのみ使用できます。



[属性]タブ

この領域では、クエリに表示されるクエリ・ノードの数を制限するための条件を定義する式を作成できます。クエリ・ノードまたは関係に属性条件を追加して、クエリ結果をフィルタすることもできます。

利用方 法	[クエリノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックスで[属性]タブをクリックします。
重要情 報	このタブは、計算された関係には利用できません。
関連タ スク	 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」 24ページ「TQL クエリの定義」 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』) 213ページ「パターン・ビューの作成」
	 214ページ「テンブレートの作成」 215ページ「パースペクティブの作成」

UI要素	, 詳細
+	定義した属性条件を追加します。
×	属性の定義が削除されます。
♠	選択した行を上へ移動します。
\downarrow	選択した行を下へ移動します。
	ポップアップ・ダイアログ・ボックスに条件が表示されます。
詳細レイ アウト設 定	[レイアウト設定] ダイアログ・ボックスが開きます。 このダイアログ・ボックスでは,サード パーティー製ツールまたはカスタム・ツールで CMDB にクエリを行うときに TQL クエリの計 算で使用する属性を決定できます。
	注 :この機能は, エンリッチメント・マネージャと影響分析マネージャにのみ表示されます。
AND/OR	複数の条件をリンクさせるには、 [AND/OR]フィールド内をクリックし、 [AND]または [OR]を選択します。
属性名	ドロップダウン・リストから属性を選択します。
	注 : float, double, long のいずれかの属性を選択した場合, In 演算子は使用できません。
大括弧 ()	[大括弧]ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
基準	[要素インスタンス]ダイアログ・ボックスで定義した属性条件の定義が含まれています。
標準設 定値	パラメータ化された属性について、パラメータの標準設定値を入力します。
ΝΟΤ	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に[NOT]を選択します。
	注:[NOT]を選択した場合, クエリの結果には, 値が割り当てられていない CI インス タンスのデータは含まれません。たとえば, システムに3つのノードがあり。ノード1には 値 A が割り当てられ, ノード2には値 B が割り当てられ, ノード3には値が割り当てら れていないとします。A に等しい値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成し, [NOT]を選択した場合, ノード3には値が割り当てられていないため, クエリの結果 にはノード2のみが含まれます。
演算子	必要な演算子を選択します。詳細については、36ページ「属性演算子の定義」を参照してください。
	注 :float, double, long のいずれかの属性を選択した場合, In 演算子は使用できません。

モデリング・ガイド

第 1章 : トポロジ・クエリ言 語 (TQL)

UI要素	詳細
パラメータ 化	属性にパラメータ化された値を定義する場合は、 [はい]を選択します。 属性に固定 値を定義する場合は、 [いいえ]を選択します。
	注:この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。
パラメータ 名	属性にパラメータ化された値を定義する場合は、パラメータ名を入力する必要があり ます。
	注:この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。
値	属性の値を入力または選択します。[値] オプションは,選択した属性タイプに応じて 変わります。
	注:キーボードで CTRL+Vを押すと、コピーした値をウィンドウに貼り付けできます。

[カーディナリティ]タブ

この領域 では関係 のカーディナリティを定義します。これにより、 クエリ結果 で関係 の端部に得られる CI インスタンスの数を定義 できます。

利用	[クエリノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックスで[カーディナリティ]タブをクリックします。
方 法	
重要	選択したクエリ・ノードに関連付ける必要な関係を選択します。次に、クエリ結果で関係の 他端に含めるクエリ・ノードの下限と上限を定義します。
情 報	条件を定義する式を作成することによって,関係の接続クエリ・ノードがTQL クエリ結果に 含まれるようにする関係条件を定義できます。例については,69ページ「関係条件の例」を 参照してください。
	注 :このタブはクエリ・ノードが選択されているときにのみ表示されます。
関	• 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」
連 タ	• 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」
スク	• 24ページ「TQL クエリの定 義 」
	 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』)
	• 213ページ「パターン・ビューの作成」
	• 214ページ「テンプレートの作成」
	• 215ページ「パースペクティブの作成」

UI 要素	詳細
+	定義したカーディナリティ定義が追加されます。

UI要素	詳細
×	[カーディナリティ]領域 からカーディナリティ定 義 が削除されます。
1	選択した行を上へ移動します。
¥	選択した行を下へ移動します。
Q	ポップアップ・ダイアログ・ボックスに条件が表示されます。
1*	[最小]ボックスに1を, [最大]ボックスに*を挿入します。
	注:モデリングスタジオにのみ関連します。
0*	[最小]ボックスに0を, [最大]ボックスに*を挿入します。
	注:モデリングスタジオにのみ関連します。
AND/OR	複数の条件をリンクさせるには, [AND/OR]フィールド内をクリックし, [AND]または[OR]を選択します。
大括弧()	[大括弧]ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
基準	[要素インスタンス]ダイアログ・ボックスで定義したカーディナリティ条件の 定義が含まれています。
最大	クエリ結果で関係の他端に含めるクエリ・ノードの上限を定義する値を入 カします。
	注:[最大]ボックスでアスタリスク(*)を使用すると、無限大を表します。
最小	クエリ結果で関係の他端に含めるクエリ・ノードの下限を定義する値を入 カします。
	たとえば、 <end_1> が IpAddress で、<end_2> が Windows の場合、 [最小]ボックスに「1」と入力し、[最大]ボックスにアスタリスク(*)を入力す ると、少なくとも1つの Windows オペレーティング・システムに接続されてい る IP アドレスのみが取得されます(アスタリスクは無限大を表します)。 [最小]ボックスに「3」と入力し、[最大]ボックスにアスタリスク(*)を入力す ると、少なくとも3つの IP アドレスに接続されている Windows オペレーティ ング・システムのみが取得されます。</end_2></end_1>
クエリノード	選択したクエリ・ノードに関連付ける必要な関係を選択します。 リストには,選択したクエリ・ノードにリンクされている関係がすべて含まれます。
NOT	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に[NOT]を選択します。
	注:[NOT]を選択した場合, クエリの結果には, 値が割り当てられていない CI インスタンスのデータは含まれません。たとえば, システムに3つの ノードがあり。ノード1には値Aが割り当てられ, ノード2には値Bが割り 当てられ, ノード3には値が割り当てられていないとします。Aに等しい値

UI要素	詳細
	を持つすべてのノードを取得するクエリを作成し, [NOT]を選択した場合, ノード3には値が割り当てられていないため, クエリの結果にはノード2のみが含まれます。

関係条件の例

関係条件の例は、次の TQL クエリに基づいています。



[関係のカーディナリティ]ダイアログ・ボックスで、クエリに対して次の関係条件を定義します。

- Containment 一最小:2, 最大:4
- Membership 最小:1, 最大:*

OR 演算子を使用すると、次のようにカーディナリティセクションに定義が表示されます。

NOT	(基準)	AND/OR
		Containment (Node, IpAddress) : 24		OR
		Membership (IpSubnet, Node) : 1*		

[Containment (Node, IP Address)] OR [Membership (IP Subnet, Node)]
 は、ノードは2つから4つのIP アドレスを持っているか、またはIP サブネットのメンバである必要があることを意味します。

AND 演算子を使用すると、次のようにカーディナリティセクションに定義が表示されます。

NOT	(基準)	AND/OR
		Containment (Node, IpAddress) : 24		AND
		Membership (IpSubnet, Node) : 1*		

 [Containment (Node, IP Address)] AND [Membership (IP Subnet, Node)]
 は、ノードは2つから4つのIP アドレスを持ち、かつIP サブネットのメンバでもある必要があることを 意味します。

[要素タイプ]タブ

この領域では, tab 選択したクエリ・ノードまたは関係のサブタイプ条件を指定できます。

利用方法	[クエリノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックスで[要素タイプ]タブをクリックしま す。
重要情報	このタブはモデリング・スタジオでのみ使用できます。

	このタブは、計算された関係には利用できません。
関連タ	 24ページ「TQL クエリの定義」
スク	• 213ページ「パターン・ビューの作成」
	• 214ページ「テンプレートの作成」
	• 215ページ「パースペクティブの作成」
	• 30ページ「複合タイプの条件の定義-シナリオ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要 素	詳細
<凡 例>	サブタイプの横に選択した条件に応じたアイコンが表示されます。
	• 🔎子孫なしのサブタイプを含みます。
	● 🕸 子 孫 ありのサブタイプを含 みます。
	• 🥬 子 孫 なしのサブタイプを除 外します。
	🔹 🏁 子孫ありのサブタイプを除外します。
[CI タ イプ]/ [関 係] ウィン ドウ	[サブタイプをカスタマイズ]を選択した場合, [Cl タイプ]ウィンドウに, 選択した Cl タイプ のすべてのサブタイプのツリーが表示されます(関係については, [関係]ウィンドウに選択 した関係のすべてのサブタイプのツリーが表示されます)。[条件]ウィンドウで条件を選択 したら, [プレビュー]ボタン をクリックして[条件のプレビュー]ダイアログ・ボックスを開きま す。
[条 件] ウイン ドウ	詳細については, 70ページ「[条件] ウィンドウ」を参照してください。
サブタ イプを カスタ マイズ	複合タイプ条件を設定する場合は[サブタイプをカスタマイズ]を選択します。 下記のとおり, [CI タイプ]/[関係] ウィンド ウのツリーから必要なサブタイプを選択し, [条件] ウィンドウから条件を選択します。
要素タ イプ	簡易タイプ条件を設定する場合は[要素タイプ]を選択します。選択した CI タイプのす べてのサブタイプを含める場合は、 [サブタイプを含める] チェック・ボックスを選択します。 す べてのサブタイプを含める場合は、 チェック・ボックスをクリアしてください。

[条件]ウィンドウ

UI要素	詳細
この条件を<選択した CI タイプ>のすべての	選択した CI タイプの指定条件を CI タイプの子孫すべてに再帰的に適用する場合にこのチェック・ボックスを選択します。

モデリング・ガイド 第1章:トポロジ・クエリ言語(TQL)

UI 要素	詳細
サブタイプに再帰的に 適用します	
CI タイプ別	クエリ結果で選択した CI タイプのすべてのインスタンスを含めるか除外す る場合に[CI タイプ別]を選択します。
修飾子別	クエリ結果で選択した特定修飾子付きCIタイプのすべてのインスタンス を含めるか除外する場合に[修飾子別]を選択します。修飾子一覧の ポップアップが表示されます。選択したサブタイプに必要な修飾子を選択 します。修飾子の詳細については、73ページ「[修飾子]タブ」を参照し てください。
条件	 選択した CI タイプの条件を選択します。次のオプションを利用できます。 なし:この CI タイプには条件選択がありません。この CI タイプのインスタンスはおよびすべての子孫がクエリ結果に含まれます。ただし、この CI タイプの親タイプが除外選択されており[再帰的に適用]チェック・ボックスが選択されている場合はこの限りではありません。 クエリに<選択したサブタイプ>を含めます。選択した CI タイプのインスタンスがクエリ結果に含まれます(選択した条件に基づく)。このオプションが該当する状況の例には、CI タイプの親が除外選択されており[再帰的に適用]チェック・ボックスが選択されている場合があります。クエリ結果に指定したものを除いて親 CI タイプのすべてのサブタイプを除外するように、特定のサブタイプを含めることもできます。 クエリから<選択したサブタイプ>を除外します。選択した CI タイプのインスタンスがクエリ結果に指定したものを除いて親 CI タイプのすべてのサブタイプを除かします。

[要素レイアウト]タブ

この領域では、選択したクエリ・ノードまたは関係のクエリ結果で帰された属性値を選択できます。

利用方法	[クエリノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックスで[要素タイプ]タブをクリックします。
重要情報	特定 CIT のクエリ結果に含める属性を選択した場合, この選択は子孫 CIT にも適用され ます。 [条件] ウィンドウで, 手動で子孫 CIT の特定の属性を除外することができます。
	このオプションは, CMDB API のクエリ時 にのみ該 当します。 ユーザ・インターフェースのクエリ 結果 は, このダイアログ・ボックスで選 択した属 性の影 響 は受 けません。
	このタブはモデリング・スタジオでのみ使用できます。
	このタブは,計算された関係には利用できません。
関	 24ページ「TQL クエリの定 義」
連タ スク	● 213ページ「パターン・ビューの作成」

- 214ページ「テンプレートの作成」
- 215ページ「パースペクティブの作成」
- 30ページ「複合タイプの条件の定義-シナリオ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要 素	詳細
<凡 例>	サブタイプの横に選択した属性条件に応じたアイコンが表示されます。
	• 🔎 このサブタイプのすべての属性を含めます。
	• 喩 このサブタイプの選択した属性のみが含まれます。
[CI タ イプ]/ [関 係] ウィン ドウ	[レイアウトの属性を選択]を選択した場合, [Clタイプ]ウィンドウに, 選択した Clタイプ のすべてのサブタイプのツリーが表示されます(関係については, [関係]ウィンドウに選択 した関係のすべてのサブタイプのツリーが表示されます)。[条件]ウィンドウで条件を選択 したら, [プレビュー]ボタン をクリックして[条件のプレビュー]ダイアログ・ボックスを開きま す。
[条 件] ウィン ドウ	詳細については, 72ページ「[条件] ウィンドウ」を参照してください。
<u>属性</u> なし	[属性なし]を選択した場合,選択したクエリ・ノードまたは関係について,クエリ結果に 属性値が返されません。
レイア ウト 性 選 択	[レイアウトの属性を選択]を選択した場合,選択したクエリ・ノードまたは関係のクエリ 結果に含める属性を選択できます。

[条件]ウィンドウ

UI要素	詳細
属性条件	次のオプションのいずれかを選択します。
	• なし:選択した要素のクエリ結果に属性は含まれません。
	• すべて :選択した要素に定義されたすべての属性がクエリ結果に含まれます。
	• 特定の属性:選択した要素のクエリ結果に選択した属性のみが含まれます。
次の修飾子の属性。	特定の修飾子の付いた属性を含めることができます。 省略ボタンをク リックすると、利用可能な修飾子のダイアログ・ボックスが表示され必要な
UI要素	詳細
----------------	---
	修飾子を選択することができます。
	注: この機能は、 [属性]条件で[特定の属性]を選択した場合にのみ 表示されます。
利用可能な属性	選択した要素に使用できる属性がすべて表示されます。
除外属性	[属性]条件に[すべて]を選択した場合,属性を[除外属性]表示枠 に移動することで,選択した属性を除外できます。
	親 CIT から属性選択を継承した CIT の[属性]条件として [特定の属性] を選択した場合,属性を[除外属性] 表示枠に移動することで選択から特定の属性を除外できます。
	または、CITの選択修飾子付き属性を選択した場合は、属性を[除外 属性]表示枠に移動することで、一部の属性を選択から除外できます。
	属性は、矢印ボタンを使用して表示枠内外に移動できます。
特定の属性を除外す る	[利用可能な属性]および[除外属性]表示枠および矢印ボタンを有効 化するにはこのチェック・ボックスを選択します。
	注: この機能は、 [属性]条件で[すべて]を選択した場合にのみ表示されます。
特定の属性	選択したノードに関してクエリ結果に含められる属性が表示されます。 属性は、矢印ボタンを使用して表示枠内外に移動します。
	注: この機能は、 [属性]条件で [特定の属性]を選択した場合にのみ 表示されます。

[修飾子]タブ

この領域では、tab 選択したクエリ・ノードまたは関係の修飾子条件を定義できます。たとえば、修飾子を使用して、CITを abstract として定義できます。これは、そのCIT からインスタンスを作成できないことを意味します。

利用方 法	[クエリノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックスで[修飾子]タブをクリックします。
重要情	標準設定では、複数選択すると条件がOR演算子でリンクされます。
報	注 : このタブは, エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャでのみ使用でき ます。
関連タ	• 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」
スク	• 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」
	• 24ページ「TQL クエリの定 義 」
	 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガ イド』)

- 213ページ「パターン・ビューの作成」
- 214ページ「テンプレートの作成」
- 215ページ「パースペクティブの作成」

UI 要素	詳細
ABSTRACT_ CLASS	この CIT のインスタンスは作成 できません。
BLE_LINK_ CLASS	HP Business Service Management にのみ関連します。
CONTAINER	この修飾子は, Membership(メンバシップ), Composition(コンポジション), Containment(コンテインメント)など, 包含関係を表す関係に割り当てられます。
HANDLER	HP Business Service Managementにのみ関連します。
HIDDEN_ CLASS	この CIT のインスタンスは, アプリケーションのどこにも表 示されません。
MAJOR_APP	この修飾子が割り当てられた CI タイプは, [アプリケーション ブレークダウン]概要レポートに表示されます。詳細については, 284ページ「アプリケーション・ブレークダウン・レポート」を参照してください。
MODELING_ ENABLED	CIT をモデリング・スタジオのモデルとして機能させることができます。詳細につい ては, 205ページ「ビジネス CI モデル」を参照してください。
NETWORK_ DEVICES	ネットワーク・デバイスを表す, すべての CI タイプに共通の修飾子です。ネット ワーク・デバイスに関連する TQL クエリに使用でき, クエリの CI タイプの代替と して機能します。
無効な修飾子	このチェック・ボックスを選択すると、要素は、選択した修飾子のリストに修飾 子がない場合にのみクエリ結果に含まれます。
PM_SUSPECT	HP Business Service Management にのみ関連します。
READ_ONLY_ CLASS	この CIT は編 集 できません。
RECURSIVE_ DELETE	関係に適用されます。関係の一方の端でCIが削除されると、システムにより 関係の他端のCIがチェックされます。ほかのどのCIとも関係付けられていない場合、このCIも削除されます。
	注: この18 師 十 はモナリング・スタンオの修 師 十一 筧 にのみ表 示されます。
STRONG_ CONTAINMENT	関係に適用されます。 end2の root_container 属性に end1の ID が割り当て られたことを示します。

[ID]タブ

この領域では、選択した TQL クエリ・ノードに対して検出されたインスタンスの要素 ID に従って TQL クエリ結果をフィルタできます。

利用方法	[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスで [ID]タブをクリックします。
重要情報	左右の矢印を使用して, 必要な要素を左側の[オプション ID]表示枠から右側の[選択 された ID]表示枠に移動して, TQL クエリ結果に含める要素を定義します。 注 :このタブはクエリ・ノードが選択されているときにのみ表示されます。
関 連タ スク	 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」 24ページ「TQL クエリの定義」 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』) 213ページ「パターン・ビューの作成」 214ページ「テンプレートの作成」 215ページ「パースペクティブの作成」

含まれている要素は次のとおりです(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<ツールバー>	ツールバー・ボタンの説明は、58ページ「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」 を参照してください。
[オプション ID] 表 示枠	選択した TQL クエリ・ノードに対して検出されたインスタンスがすべて表示されます。
[選択された ID] 表示枠	TQL クエリ結果に含める要素を定義するのに使用する要素が表示されます。

[クエリノード タイプの再設定] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリの作成後に TQL クエリ・ノードの Cl タイプを変更できます。

利用	影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャで必要なクエリ・ノードを右クリック	
方法	[クエリノード タイプの再設定]を選択します。	
	注 :エンリッチメント・マネージャを使用している場合は, 編集表示枠の上部でクエリ・モード を選択して [クエリノード タイプの再設定] オプションを表示します。	
重要	CI タイプを CI タイプの子 のいずれかのタイプに変 更 できます(存在する場合)。そのような	
情報	CI タイプが存在しない場合, このオプションは表示されません。	

関連	• 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」
タ スク	• 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」
	• 24ページ「TQL クエリの定 義 」
	• 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド
	• 213ページ「パターン・ビューの作成」
	• 214ページ「テンプレートの作成」
	• 215ページ「パースペクティブの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
<選択元の CI タイプのリスト>	必要な CI タイプを選択します。

[関係のタイプを選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、作成する TQL 関係のタイプを選択できます。

利用 方法	影響分析マネージャ, エンリッチメント・マネージャ, およびモデリング・スタジオの編集表示
	枠で, ツールバーにある [関係を作成] 🊺 ボタンをクリックし, 2 つのクエリ・ノードの間に線 を引きます。 [関係 のタイプを選択] ダイアログ・ボックスが自動的に開きます。
重要	次の関係のタイプのいずれかを選択します。
情報	• 通常の関係:詳細については、47ページ「[関係の追加/編集] ダイアログ・ボックス」を 参照してください。
	• 結合関係:詳細については、45ページ「[結合関係の追加/編集] ダイアログ・ボックス」 を参照してください。
	• 複合関係:詳細については、42ページ「[複合関係の追加/編集] ダイアログ・ボック ス」を参照してください。
	• 計算された関係:詳細については、41ページ「[計算された関係の追加/編集]ダイア ログ・ボックス」を参照してください。
関連 タスク	• 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」
	• 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」
	• 24ページ「TQL クエリの定 義 」
	• 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド
	• 213ページ「パターン・ビューの作成」
	• 214ページ「テンプレートの作成」
	• 215ページ「パースペクティブの作成」

[サブグラフ条件の定義] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、 クエリに表示されるクエリ・ノードの数を制限するための条件を作成できます。

利用方法	影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャでは, [トリプレットの追加] ダイアログ・ ボックスで [条件] 🖉 をクリックします。
	モデリング・スタジオでは, [サブグラフの定義]ダイアログ・ボックスで [条件] 🥒 をクリックしま す。
重	次のタブが表示されます。
要 情 報	 属性:クエリ・ノードと関係に対して属性条件を定義できます。[属性]タブの要素の説明は、下の表を参照してください。
TA	• [修飾子](エンリッチメント マネージャおよび影響分析マネージャ)選択したクエリ・ノードまたは関係の修飾子条件を定義できます。詳細については, 73ページ「[修飾子]タブ」を参照してください。
	• [要素タイプ](モデリングスタジオ)選択したクエリ・ノードまたは関係のサブタイプの条件を 定義できます。詳細については, 69ページ「[要素タイプ]タブ」を参照してください。
題	• 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」
連 タ	• 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」
スク	• 24ページ「TQL クエリの定 義 」
	 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド
	• 213ページ「パターン・ビューの作成」
	• 214ページ「テンプレートの作成」
	 「Microsoft Internet Information Services (IIS) Discovery」(『HP Universal CMDB Discovery and Integration Content Guide』)
	● 215ページ「パースペクティブの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
÷	サブグラフ条件の定義が追加されます。
×	サブグラフ条件の定義が削除されます。
	選択した行を上へ移動します。
\checkmark	選択した行を下へ移動します。
Q	サブグラフ条件の定義が表示されます。

モデリング・ガイド

第1章:トポロジ・クエリ言語(TQL)

UI 要素	詳細
AND/OR	複数の条件をリンクさせるには, [AND/OR] フィールド内をクリックし, [AND] または [OR]を選択します。
属性名	リストから属性を選択します。
大括弧 ()	[大括弧] ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
СІТ	[ソース]リストと[ターゲット]リストから選択した CIT が含まれています。
	注 :このオプションは, モデリング・スタジオからダイアログ ボックスを利用する場合には該 当しません。
条件	[要素インスタンス]ダイアログ・ボックスで定義した属性条件の定義が含まれています。
NOT	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に[NOT]を選択します。
	注:[NOT]を選択した場合, クエリの結果には, 値が割り当てられていない CI インス タンスのデータは含まれません。たとえば, システム内に3つのノードがあるとします。ノー ド1には値 A が割り当てられ, ノード2には値 B が割り当てられ, ノード3には値が 割り当てられていないとします。Aに等しい値を持つすべてのホストを取得するクエリを 作成し, [NOT]を選択した場合, ノード3には値が割り当てられていないため, クエリ の結果にはノード2のみが含まれます。
演算子	必要な演算子を選択します。詳細については、36ページ「属性演算子の定義」を参照してください。
値	属性の値を入力または選択します。[値] オプションは,選択した属性タイプに応じて 変わります。

[サブグラフの定 義] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、特定のCIに関連する追加のTQL クエリデータを表すグラフを作成できます。

利用 方法	エンリッチメント・マネージャ,影響分析マネージャ,モデリング・スタジオで利用するには,次の手順を実行します。
	編集表示枠で必要なクエリ・ノードを右クリックし, [サブグラフの定義]を選択します。
	注 :エンリッチメント・マネージャを使用している場合は, 編集表示枠の上部でクエリ・モー ドを選択して [サブグラフの定義] オプションを表示します。
	DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順を実行します。
	1. [リソース] 表 示 枠 でアダプタを選 択します。
	2. [アダプタ定義] タブで, 🖉 [入力クエリの編集] ボタン([入力クエリ] ボックスの右)をク リックし, [入力クエリの編集]を開きます。
	3. 必要なクエリ・ノードを右クリックして [サブグラフの定義]を選択します。
重要	次のアイコンが、サブグラフを定義するクエリ・ノードの横に表示されます。

情報	
関連	• 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」
タスク	• 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」
	• 24ページ「TQL クエリの定 義」
	• 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド
	• 213ページ「パターン・ビューの作成」
	• 214ページ「テンプレートの作成」
	• 215ページ「パースペクティブの作成」
関連	• 23ページ「サブグラフ定義」
情報	• 31ページ「サブグラフの定義を作成する-シナリオ」

UI 要 素	】 詳細
÷	サブグラフの定 義 が追 加されます。 エンリッチメント・マネージャおよび影 響 分 析 マネージャで は, クリックすると[トリプレット の追 加] ダイアログ・ボックスが開きます。 モデリング・スタジオで は, クリックするとテーブルに行 が追 加されます。
×	サブグラフの定義が削除されます。
Ø	サブグラフの定 義 を編 集 できます。 影 響 分 析 マネージャおよびエンリッチメント・マネージャで は, クリックすると[トリプレット の編 集] ダイアログ・ボックスが開 きます。 モデリング・スタジオで は, クリックすると[サブグラフ条 件 の定 義] ダイアログ・ボックスが開 きます。
深度	DFM プロセスに含める必要がある CMDB の2 つの CI 間で許可されている最長パス(つまり,最も接続の多いクエリ・ノード)の数です。
	標準設定 :5
要条件が在す	[サブグラフ条件の定義]ダイアログ・ボックスで,サブグラフの定義のソース,関係,または ターゲットのいずれかに属性条件が定義されている場合は,緑色のアスタリスクがその横に 表示されます。詳細については,77ページ「[サブグラフ条件の定義]ダイアログ・ボックス」 を参照してください。
関係	ソースからターゲット・クエリ・ノードへの接続に選択されている関係です。
関係 の方 向	選択されている関係の方向です。クエリ・ノード間の依存関係を示します。
ソース	選択されている必要なソース・クエリ・ノードです。
ター ゲット	選択されている必要なターゲット・クエリ・ノードです。

[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、システムのプリファレンスをリセットできます。

利用方法	[ツール] > [ユーザ プリファレンス] を選択するか、またはステータス・バーで [ユーザ プリファレンスの構成] ボタン 「「をクリックします。
重要情報	選択したプリファレンスはすべて(特定のウィザード・ページを表示するかどうかや,警告メッ セージのプリファレンスなど)システムに保存されます。このダイアログ・ボックスでは,これらのプ リファレンスをリセットできます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<左側の表示枠>	編集するプリファレンスページを選択します。次のオプションを利用できます。
	• ウィザード プリファレンス特定のウィザードページを表示または非表示に定義できます。
	• オプション メッセージ プリファレンス特定のメッセージを表示または非表示 に定義できます。
	• ディスカバリ プリファレンス下記を定義できます。
	■ 特定のディスカバリーの警告メッセージを表示または非表示
	■ 必要な初期設定の外部エディタ(メモ帳など)
	■ 基本または詳細 ディスカバリー・モードを使用するかどうか
	• 一般 一般的なアプリケーションの環境設定を定義することができます。
	• レポート初期設定で選択されたカスタム・レポートのカテゴリを設定することができます。
<プリファレンス リス ト>	警告メッセージとユーザが選択したプリファレンスのリストです。
適用フィルタ	オプションのリストをフィルタするための検索語を入力します。
すべてリセット	クリックすると、すべてのプリファレンスが標準設定値にリセットされます。
ページのリセット	クリックすると、選択したプリファレンスが標準設定値にリセットされます。

トラブルシューティングおよび制限事項

本項では、トポロジ・クエリ言語のトラブルシューティングと制限事項について説明します。

• TQL クエリ, ビュー, 影響 ルールなどのリソース作成時は, リソース名の最後にスペースがないよう にしてください。

- マルチテナンシ環境では、TQL クエリ名に@文字を含めることはできません。
- モデリング管理者のビューで作業中, CMDBにCIを追加するとき, または既存のCIを更新する ときにエラーログにオブジェクトがデータベース内にありませんと示された場合は, JMX コンソールに アクセスして [service = DAL services] から次の手順を実行します。
 - rebuildModelViews
 - rebuildModelDBSchemaAndViews
- TQL クエリを有効にするために、TQL クエリが特定の制限に従う必要があります。

本項の内容

- 81ページ「検証制限について」
- 82ページ「影響分析 TQL クエリの検証」
- 83ページ「エンリッチメント TQL クエリの検証」

検証制限について

影響分析, ディスカバリ, およびエンリッチメント TQL クエリ・タイプを有効にするには, これらが次の制限に従っている必要があります。

- 一意の名前: TQL クエリ要素は一意の名前である必要があります。
- 自己関係: TQL クエリは自己関係を含むことができません。つまり、次の例に示すように、関係 がクエリ・ノードから、そのクエリ・ノード自身につながっていてはいけません。



■ 環状図:次の例に示すように, TQL クエリ構造は閉じた円にはできません。



クエリ・ノードとグループの分離:すべてのTQL クエリ・ノードは互いにリンクされている必要があります。つまり、次の例に示すようにTQL クエリは分離されたクエリ・ノードやグループを含むことはできません。



影響分析 TQL クエリの検証

影響分析 TQL クエリは次の制限にも従っている必要があります。

- クエリ・ノードの数:影響分析 TQL クエリは、少なくとも2つのクエリ・ノードで構成されている必要があります。
- トリガと影響を受けるクエリ・ノードが接続されていること:起動されるクエリ・ノードから影響を受けるクエリ・ノードまでの関係のパスがある必要があります。
- 影響分析トリガとして機能するクエリ・ノードの選択:影響分析トリガとして機能するクエリ・ノードを選択するときは、クエリ・ノードは次の制限に従う必要があります。
 - 複数のクエリ・ノードをトリガとして選択できます。ただし、1つのクエリ・ノードを影響を受けるクエリ・ノードおよびトリガの両方として定義することはできません。
 - クエリ・ノードに, 下限が0の関係がある場合(つまり, 関係の一端にクエリ・ノードがリンクさ

れていないかもしれない場合),他端にリンクされているクエリ・ノードは根本原因クエリ・ノードになれません(TQL クエリに存在するかどうかわからないため)。下限の詳細については、67ページ「[カーディナリティ]タブ」を参照してください。たとえば、構成アイテムは、最小0でクエリ・ノードに接続されているため、根本原因クエリ・ノードまたは影響を受けるクエリ・ノードのいずれにもできません。



注: 非表示クエリ・ノードは、根本原因クエリ・ノードまたは影響を受けるクエリ・ノードになれません。

► トリガ・クエリ・ノードと影響を受けるクエリ・ノードの間の接続:定義するトリガ・クエリ・ノードと影響を受けるクエリ・ノードは、起動されたクエリ・ノードから影響を受けるクエリ・ノードに関係のパスによって接続されている必要があります。

エンリッチメント TQL クエリの検証

エンリッチメント TQL クエリは,次の制限に従っている必要があります。

必須な要素:必須でないクエリ・ノードにはエンリッチメントは実行できません。必須でないクエリ・ノードとは、TQLクエリ結果に必ずしも表示されないクエリ・ノードのことです。

例 1:この例では、TQL クエリ結果はA およびB, またはA およびC です。このため、エンリッチ メント・クエリ・ノードをクエリ・ノードB またはC に追加できません。これらは必須な要素ではな いためです。クエリ・ノードA にはエンリッチメント・クエリ・ノードを追加できます。このクエリ・ノード は常にTQL クエリ結果に表示されるためです。エンリッチメント・クエリ・ノードと関係を追加する 方法の詳細については、409ページ「エンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加」を参照してください。



例 2:この例では、AとBの両方がTQL クエリ結果に常に表示される必須な要素です。Cの みが、カーディナリティが0なので必須な要素ではありません。このため、Cにはエンリッチメン ト・クエリ・ノードを追加できません。



第2章

計算された関係の使用

本章の内容

計算された関係の概要	85
計算された関係	
計算された関係のタイプ	86

計算された関係の概要

計算された関係は、パスが CI タイプ・マネージャで関係が基づいているトリプレットに対し定義された 条件を満たしている、2つの CI の間の接続を表します。トリプレットを定義する方法の詳細は、392 ページ「[Triplet] ページ」を参照してください。

CI タイプ・モデルのほかの関係と同様,計算された関係を使用して TQL クエリを作成できます。これ により,エンリッチメント・ルール,影響ルールおよびビュー・ルールは計算された関係をベースにすること ができます。

計算された関係の方向は、CIタイプ・モデルから得られる物理的な関係の方向と必ずしも同じであるとは限りません。計算された関係のベースとなるトリプレットの定義方法に応じて、2つのCIの間には関係が1つ以上存在する可能性があります。

影響モデルで,ビジネス環境内のIT インフラストラクチャCIの伝播の方向を決定できます。影響の 方向は,CI タイプ・モデルから得られる物理的な関係の方向と必ずしも同じであるとは限りません。

影響モデルでは,影響レイヤを使用して伝播方向を変更します。影響レイヤは,伝搬が発生する アプリケーションで使用されます。物理的な関係の方向とは無関係に,影響レイヤを使用して影響 の方向を変更できます。

すべての KPI 伝搬は影響モデルの影響を受けます。サービス状況内の KPI 伝搬の詳細について は、サービス状況の使用の「伝搬ルール」を参照してください。サービスレベル管理内の KPI 伝搬の 詳細については、サービス・レベル管理の使用の「伝搬ルール」を参照してください。

計算された関係

影響レイヤは,影響ルールで構成されています。影響ルールは, CI タイプ・マネージャで定義されま す。詳細については, 392ページ「[Triplet] ページ」を参照してください。

計算された関係は, 1つ以上のトリプレットで定義されます。 各トリプレットは次のコンポーネントで定義されます。

- 1つのソース CI タイプ
- 1つのターゲット CI タイプ
- 2 つの CI タイプをリンクする物理的な関係タイプ(包含など)

• 必須の方向方向は、ソース CI とターゲット CI 間の物理的な関係の方向と同じまたは反対の、 いずれの可能性もあります。

計算された関係は、クラス・モデル内から物理的な関係によって定義されるため、その存続期間は物理的な関係の存続期間によって決まります。クラス・モデルの物理的な関係が削除されたときは、対応する計算された関係もすべてのビュー結果から削除されます。

注: CI タイプ・マネージャで新しい CI タイプまたは関係を作成する場合は, 適切なトリプレット を定義する必要があります。

トリプレット定義の例:

💿 Web Service	D Link	💭 RunningSoftware	\rightarrow

計算された関係のタイプ

Impacted By という,標準で用意されている計算された関係があります。Impacted By には2つの サブタイプが含まれており,それぞれが異なるタイプの依存関係(完全な依存と潜在的な依存)を表 します。

- Impacted by (Directly)
- Impacted By (Potentially)

第3章

ダイレクト・リンクの URL の作成

本章の内容

ダイレクト・リンクの生成 – 概要	87
ダイレクト リンクの生成 – シナリオ	88
パラメータ値を含むテンプレートへのダイレクト・リンクの作成	88
JMX コンソールを使用したダイレクト・リンクのパスワードの暗号化	89
[ダイレクト リンクを生 成] のユーザ・インタフェース	89

ダイレクト・リンクの生成 – 概要

ダイレクト・リンクを使用することで、別のユーザを HP Universal CMDB 内の特定のターゲット・ビューまたは CI に誘導する URL を作成できます。

次のような URL を作成 できます。

 HP Universal CMDBで特定のHP Universal CMDBビューまたは CI を直接開きます。これにより ユーザは、HP Universal CMDBコンテキストで検索 せずにHP Universal CMDBから情報を取得で きるようになります。

注:特定のビューまたは CI を直接 HP Universal CMDBで開くには, [コンテキスト リンクで 開く]オプションを使用します。詳細については, 91ページ「[コマンドを選択] ページ」を参照し てください。

- HP Universal CMDBとの統合を可能にします。
 - [埋め込みリンク]オプションを使用して URL を作成した場合は, 最初にHP Universal CMDB ログイン・ページが表示されます。ログイン名とパスワードを入力すると, ターゲット・ページがブラ ウザに表示されます。

注: ブラウザでターゲット・ページを開くには, [埋め込みリンク]オプションを使用します。詳細については, 91ページ「[コマンドを選択]ページ」を参照してください。

URLの作成時には次のことができます。

- URLを電子メール受信者に送信する
- URL をクリップボード にコピーする
- URLをテストして, ターゲット・アプリケーション・ページが見 つかるか確認 する

URL の送信先となるユーザには、ターゲット・ページを開くのに十分な権限が割り当てられているアカウントが必要です。ターゲット・ビューへのアクセスが必要なユーザおよびユーザ・グループには、適切な表示権限および編集権限を適用する必要があります。[マネージャ]>[セキュリティ]>[ロールマネー

ジャ]を選択します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の "Roles Manager Page"の「How to Assign Permissions」を参照してください。

注: [Link to this Page]機能を使用して、ブラウザのターゲットHP Business Service Managementページを開くことができます。[Link to this Page]機能を使用すると、HP Business Service Managementの別のアプリケーション・ページにアクセスできますが、特定のCIまたは ビューにアクセスすることはできません。詳細については、『プラットフォーム管理』の「Linking to a Specific Page」を参照してください。

ダイレクト リンクの生成 – シナリオ

本シナリオでは、ダイレクト・リンクを生成して特定のCIのURLを電子メールで別のユーザに送信する方法について説明します。

Jane Harrison は ABC ソフトウェアという会社のシニア・エンジニアです。彼女は、自分が作成した ビューで問題のある CI を発見しました。そこで、HP ServiceCenterを通じてその同じビューを使用し ている Henry Jones に、この問題のある CI のことを知らせようと思いました。彼女が作成したビューに は何百もの CI が含まれているため、Henry がその特定の CI を探すのに多くの時間を割かなくてもい いように、CI の URL を電子メールで Henry に送信することにしました。

Jane は IT ユニバース・マネージャの[編集]メニューから[ダイレクト リンクの生成]を選択しました。そして、[コマンドの選択]ページで[コンテキストリンクで開く]を選択し、[ビューを表示]オプションを選択してから[次へ]をクリックしました。

[ダイレクト リンク パラメータ – ビューを表示]ページでは、Jane 自身が作成したビューと問題のある CIを選択し、Henry が CIを開くモードとして[トポロジの表示]を選択しました。URL が作成されたの で、Jane は問題のある CI へのリンクを電子メールで Henry に送信しました。

詳細については、90ページ「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」を参照してください。

パラメータ値を含むテンプレートへのダイレクト・リンクの作 成

このタスクでは、URLにパラメータ値を指定してテンプレートへのダイレクト・リンクを生成する方法について説明します。

本項の内容

- 88ページ「テンプレートへのダイレクト・リンクを作成する」
- 88ページ「URLを編集する」
- 89ページ「ブラウザに URL を貼り付 ける」
- 1. テンプレートへのダイレクト・リンクを作成する

IT ユニバースマネージャの[編集]>[ダイレクト リンクの生成]ウィザードを選択します。[コマンドの選択]ページで、[埋め込みリンク]を選択します。オプションのリストから[ビュートポロジを表示]を選択します。[ダイレクトリンクパラメータ]ページで、ドロップダウン・リストから必要なテンプレートを選択します。

2. URL を編集する

ウィザードが完了したら、 [URL をコピー]をクリックして、メモ帳などのテキスト・エディタに URL に 貼り付けます。

次のテキストをURLの末尾に追加します。

¶ms=[parameter1=value1,parameter2=value2]

ここで、parameter1 および parameter2 は選択したテンプレートのパラメータ名、value1 および value2 はパラメータに入力する値です。

注:特殊文字はURL エンコーディングを使用して入力する必要があります。前述の例では、[文字のURL エンコーディングは %5B,]文字のURL エンコーディングは %5D, コンマの URL エンコーディングは %2C です。このため、入力する実際のテキストは次のようになります。

&¶ms=%5Bparameter1=value1%2Cparameter2=value2%5D

3. ブラウザに URL を貼り付ける

ブラウザに URL を貼り付 けます。HP Universal CMDB

JMX コンソールを使用したダイレクト・リンクのパスワードの 暗号化

このタスクでは、JMX コンソールを使用してダイレクト・リンク内に含まれるパスワードを暗号化する方法について説明します。

JMX コンソールを使用してダイレクト・リンクのパスワードを暗号化するには,次の手順を実行します。

- 1. Web ブラウザを起動してhttp://<サーバ名>:<ポート番号>/jmx-console に移動します。ここで, <サーバ名>は, HP Universal CMDB がインストールされているマシンの名前です。
- 2. [UCMDB-UI]の下で, [UCMDB Integration]を検索します。
- 3. getEncryptedPasswordForURL でユーザ名と暗号化するパスワードを入力します。
- 4. [Invoke]をクリックして暗号化された文字列を表示します。

[ダイレクト リンクを生成] のユーザ・インタフェース

本項の内容

- 89ページ「[ダイレクト リンクの生 成] ダイアログ・ボックス」
- 90ページ「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」

[ダイレクト リンクの生 成] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, ユーザに送信して HP Universal CMDBにアクセスできるようにするための URL を作成できます。

利 [モデリング]メイン・メニューから、 [編集]>[ダイレクト リンクの生成]を選択します。 90ページ

用方法	「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」 でダイレクト・リンクのパラメータを設定した後, [完了] ページで[完了]をクリックします。
Ж	また, IT ユニバース・マネージャの[CI の選択]ツールバーの[ビューへのダイレクト リンクを生
	成]ボタン「早をクリックします。
関 連	88ページ「ダイレクト リンクの生 成 – シナリオ」
タ スク	

UI 要素	詳細
詳細設定	エンド・ユーザがアクセスできるように、ダイレクト・リンクを作成し、ビューやCIなど特定の要素を選択できます。詳細については、90ページ「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」を参照してください。
	注: この機能は、IT ユニバース・マネージャの[CI の選択]ツールバーから[ダイレクト リンクの生成]ダイアログ・ボックスにアクセスする場合にのみ関連します。
URL をコ ピー	URL がクリップボード にコピーされます。
詳細	URL に含まれるパラメータについて説明します。 パラメータの選択の詳細については, 91 ページ「[コマンドを選択] ページ」を参照してください。
リ ンク URL	作成された URL で,指定のHP Universal CMDB機能にアクセスします。
URL を メー ル	リンクの URL が含まれた電子メールが開きます。
URL をテ スト	指定されたアプリケーション・ページが見つかるかどうか URL が検査されます。

ダイレクト・リンクの生 成 ウィザード

このウィザードでは,別のユーザを HP Universal CMDB内の特定のターゲット・ビューまたは CI に誘導する URL を作成できます。

利用 方法	[モデリング]メイン・メニューから, [編集]>[ダイレクト リンクの生成] を選択します。
重要	標準設定では、このウィザードは[ようこそ]ページを表示するように設定されています。[よ

情報	うこそ]ページを表示しないようにするには, [次回からこのページを表示しない]チェック・ボ タンを選択します。
関連 タスク	88ページ「ダイレクト リンクの生成 – シナリオ」
ウィ ザー ド・ マップ	[ダイレクト リンクの生成]ウィザードには次の項目が含まれます。 「[コマンドを選択] ページ」(<[コンテキストリンクで開く]オプション> および<[埋め込みリ ンク]オプション >)>「[終了] ページ」

[コマンドを選択] ページ

このウィザード・ページでは、URLに追加する必要のある必須パラメータを選択できます。

次の2種類のリンクを作成できます。

- コンテキスト・リンクで開く:HP Universal CMDBコンテキストである必要なしに、特定のビューまた は CI を直接 HP Universal CMDB に開くURL を作成します。
- 埋め込みリンク:HP Universal CMDB アプレットを外部アプリケーションに埋め込むことができる URLを作成します。

重要 情報	標準設定では, このウィザードは[ようこそ]ページを表示するように設定されています。 [ようこそ]ページを表示しないようにするには, [次回からこのページを表示しない] チェック・ボタンを選択します。
ウィ ザー ド・ マップ	[ダイレクト リンクの生成]ウィザードには次の項目が含まれます。 「[コマンドを選択]ページ」(<[コンテキストリンクで開く]オプション> および<[埋め込みリ ンク]オプション >)>「[終了] ページ」
関連 情報	90ページ「ダイレクト・リンクの生 成 ウィザード」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<左側の表 示枠>	選択したコマンドのイラストです。
CII グリッド	CMDB で見つかった,選択した CI タイプとその子のすべての CUI インスタンスを表示する URL を作成します。詳細については、95ページ「[ダイレクト リンク パラメー タ] - [CII グリッド]ページ」を参照してください。 注:[埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
CI の選択	選択したビューの CI を表示する CI の選択を外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、93ページ「[ダイレクト リンク パラメータ]-[CI の選 択]ページ」を参照してください。
	注:[埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。

UI要素	詳細
CI タイプ・セ レクタ	CI タイプ・セレクタを外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、94ページ「[ダイレクト リンク パラメータ]-[CI タイプ セレクタ] ページ」を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
詳細	選択したコマンドの説明です。
影響 マップ	影響 マップを外部 アプリケーションに埋め込む URLを作成します。詳細について は、95ページ「[ダイレクト リンク パラメータ] - [影響 マップ]ページ」を参照してくださ い。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
モデル・エ ディタ	モデル・エディタを, モデル・エディタの CI の選択 で選択した CI を強調表示して外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については, 96ページ「[ダイレクト リンク パラメータ]-[モデル エディタ]」を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
クエリ・エディ タ	選択した TQL クエリが表示されているモデル・エディタを外部アプリケーションに埋め 込む URL を作成します。詳細については,97ページ「[ダイレクト リンク パラメータ]- [クエリ エディタ]」を参照してください。
	注:[埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
関連 CI	選択したビュー内で選択した CI とその直接の隣接を表示するトポロジ・マップを開く URLを作成します。詳細については、98ページ「[ダイレクト リンク パラメータ] – [関 連 CI]ページ」を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
レポート・ ビューア	特定のレポートを開くURLを作成します。詳細については, 98ページ「[ダイレクト リンク パラメータ]-[レポート ビューア]ページ」を参照してください。
	注:[埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
レポート・ ビューア - 保存済みレ	保存済みのトポロジまたはカスタム・レポートを開くURLを作成します。詳細については,99ページ「[ダイレクト リンク パラメータ]-[レポート ビューア]-[保存済みレポート]ページ」を参照してください。
<u>м</u> –г	注:[埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
CI プロパ ティを表示	CI プロパティを表示する URL を作成します。詳細については,99ページ「[ダイレク トリンクパラメータ]-[CI プロパティを表示]ページ」を参照してください。
	注:[埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
ビュ ー を表 示	選択したビューおよび, 任意でそのビューに事前に選択したクエリ・ノードを表示する URLを作成します。詳細については, 101ページ「[ダイレクト リンク パラメータ] – [ビューを表示]ページ」を参照してください。
	注:[コンテキストリンクで開く]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
ビュートポロ	選択したビューのトポロジ・マップを表示し、そのトポロジ・マップを外部アプリケーショ

UI 要素	詳細
ジを表 示	ンに埋め込む URL を作成します。詳細については、100ページ「[ダイレクトリンクパ ラメータ] – [ビュートポロジを表示]ページ」を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
モードで開 選択したページで HP Universal CMDB を開くURL を作成します。詳細につい は、102ページ「[ダイレクト リンク パラメータ]-[モードで開始]ページ」を参照し さい。	
	注:[コンテキストリンクで開く]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
ステップ	手順の現在のステップ。
ビュー エディ タ	モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタで特定のビューを開くURLを作成します。詳細については、100ページ「[ダイレクトリンクパラメータ]ページ – [ビューエディタ]ページ」を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。
ビュー・セ レクタ	ビュー・セレクタを外部アプリケーションに埋め込み,アプリケーション内でビューを選択,表示できるようにする URL を作成します。詳細については,101ページ「[ダイレクトリンク パラメータ]-[ビュー セレクタ]ページ」を参照してください。
	注: [埋め込みリンク]オプションを選択した場合にのみ使用できます。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[CI の選択]ページ

このウィザード・ページでは,選択したビューの CI を表示する CI の選択を外部 アプリケーションに埋め込む URL を作成できます。

ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択] ページ」([埋め込みリンク]>[Clの選択])「[終了] ページ」
重要情 報	 [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、90ページ「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成 するときは [完了]をクリックします。詳細については、89ページ「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
複数選択を許可	CIの単一選択または複数選択を可能にします。
選択されたビュー	CIを選択する必要のあるビューを選択します。
	 をクリックして、 [ビュー セレクタ]ダイアログ・ボックスを開きます。 CIの選択に表示するビューを選択します。
	• 選択したビューを削除するには、 🔀 をクリックします。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[CI タイプ セレクタ]ページ

このウィザード・ページでは,外部アプリケーションに埋め込むことができる,選択した CI タイプの階層 ツリーまたはリストへの URL を作成できます。

重要情 報	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については, 90ページ「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」を参照してください。
	• ジィッードを閉じていてときに成するとさば[元] ジャジジジンじょす。計幅については、89ページ「[ダイレクトリンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択] ページ」([埋め込みリンク]>[Cl タイプ セレクタ])「[終了] ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
CI タイプ・セレクタ モード	選択した CI タイプが階層 ツリーまたはリストで表示されます。
非表示 CIT(ツリー のみ)	 ツリーに表示しない CI タイプを選択します。 ● ● をクリックすると、[CI タイプ セレクタ]ダイアログ・ボックスが開きます。 >>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>
	 ・ 選択した CI タイプを削除するには、
ルート CI タイプ (ツ リーのみ)	階層 ツリーで, ルート CI タイプとして使用する CI タイプを選択します。
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
	● 選択した CI タイプを削除するには、 [×] をクリックします。標準設定は [構成アイテム]です。
選択モード	CI タイプの単一選択または複数選択を可能にします。
選択不可の CIT	ツリーで選択できない CI タイプを選択します。
('')	 をクリックすると、[Cl タイプ セレクタ]ダイアログ・ボックスが開きます。 ツリーで選択できない Cl タイプを選択します。
	• 選択した CI タイプを削除するには、 🞽 をクリックします。
可視 CIT(リストの	CI タイプ・リストに表示する CI タイプを選択します。
ማ)	 をクリックすると、[CI タイプ セレクタ]ダイアログ・ボックスが開きます。 CI タイプ・リストに表示する CI タイプを選択します。
	• 選択した CI タイプを削除するには、 ×をクリックします。

UI要素	詳細
	注 :CIT をリストに表示することを選択した場合は、少なくとも1つのCIタイプを選択する必要があります。

[ダイレクト リンク パラメータ] - [CII グリッド]ページ

このウィザード・ページでは, CMDB で見 つかった, 選 択した CI タイプとその子 のすべての CI インスタン スを表示 できます。

重要情 報	 [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、90ページ「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、89ページ「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択] ページ」([埋め込みリンク]>[CII グリッド])「[終了] ページ」
関連情 報	58ページ「[要素 インスタンス] ダイアログ・ボックス」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
クラス・タイプ	必要な CI タイプを選択します。
	• 必要な CI タイプを選択するときは 🔤 をクリックします。
	• ボックスを削除するには、 🞽をクリックします。

[ダイレクト リンク パラメータ] - [影響 マップ]ページ

このウィザード・ページでは、影響分析マネージャで定義した影響分析ルールを実行できます。作成 された URL では、選択した重大度および状態に対するトリガ CI の影響を受けるすべての CI のシ ミュレーションが表示されたトポロジ・マップを埋め込むことができます。詳細については、194ページ 「[影響分析を実行]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

重要情 報	 [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、90ページ「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」を参照してください。 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、89ページ「[ダイレクトリンクの生成]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択] ページ」([埋め込みリンク]>[影響マップ])「[終了] ページ」

関連情	151ページ「IT ユニバース マネージャ」
報	

UI 要 素	詳細
CI タイ	影響分析結果に表示しない CI タイプを選択します。
プでフィ	• 必要な CI タイプを選択するときは 🔤 をクリックします。
ルタ	• 選択した CI タイプを削除するには、 ×をクリックします。
ル <u>ー</u>	影響ルールを実行できる場所を定義できます。
バンドル	
重	ドロップダウン・リストで必要な重大度を選択します。
皮	注 :状態の重大度リストは,システム・タイプ・マネージャで定義されます。詳細について は,375ページ「システム・タイプ・マネージャ」を参照してください。
	たとえば、トリガ・クエリ・ノードの重大度を「変更なし」以外として定義する影響ルールを影響分析マネージャで作成するとします(367ページ「「影響ルール定義」ダイアログ・ボックス」 を参照してください)。この場合、「No Change」以外の重大度(たとえば、「Plan」)を選択 すると、条件が一致し、シミュレートされたシステム内の変化が起動されます。
	詳細については、194ページ「[影響分析を実行]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
トリ ガ CI	• をクリックして、影響マップでトリガとして使用する CI を選択します。これらの CI は、 システムに対するシミュレートされた変更を表します。 [CI の選択] ダイアログ・ボックスが 開きます。 [CI の選択] 表示枠の使用方法の詳細については、114ページ「CI セレクタ」 を参照してください。
	• 選択した CI を削除するには、 ×をクリックします。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[モデル エディタ]

このウィザード・ページでは, モデル・エディタを, モデル・エディタの CI の選択 で選択した CI を強調表示して外部 アプリケーションに埋め込むことができます。

重要情 報	 [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、90ページ「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成 するときは[完了]をクリックします。詳細については、89ページ「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウィザー	「[コマンドを選択] ページ」([埋め込みリンク]>[モデルエディタ])「[終了] ページ」

ド・マッ プ	
関連情 報	205ページ「ビジネス CI モデル」

UI要素	詳細
モデル名	モデル・エディタに表示するモデルを選択します。
	 ・ をクリックして、[Select Model]ダイアログ・ボックスを開きます。 モデル・エディタに表示するモデルを選択します。
	• 選択したモデルを削除するには、 🞽をクリックします。
選択された検索中 CI	モデル・エディタのCIの選択で強調表示するCIを選択します。
	• をクリックして, CI の選択を開きます。
	• 選択した CI を削除するには、 🞽 をクリックします。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[クエリ エディタ]

このウィザード ページでは, 選択した TQL クエリが表示されているモデル・エディタを外部 アプリケーションに埋め込むことができます。

重要情 報	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については,90ページ「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成 するときは[完了]をクリックします。詳細については、89ページ「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択] ページ」([埋め込みリンク]>[クエリエディタ])「[終了] ページ」
関連情 報	205ページ「ビジネス CI モデル」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
クエリ名	モデル・エディタに表示するモデルを選択します。
	 をクリックして、[Select Query]ダイアログ・ボックスを開きます。モデル・ エディタに表示するクエリを選択します。
	• 選択したクエリを削除するには、 🞽をクリックします。

[ダイレクト リンク パラメータ] – [関連 CI]ページ

このウィザード・ページでは、特定のCIと、わずか1つの関係という距離でそのCIにリンクされているすべてのCIが表示されたトポロジ・マップを外部アプリケーションに埋め込むことができます。

重要情 報	 [ダイレクト リンクの生 成]ウィザード の全 般 的な情報については、90ページ「ダイレクト・リンクの生 成 ウィザード」を参照してください。 ウィザードを閉じて URL を作 成 するときは [完了]をクリックします。詳細については、89ページ「[ダイレクトリンクの生 成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択] ページ」([埋め込みリンク]>[関連 Cl])「[終了] ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
СІ	トポロジ・マップに表示する CI のタイプを選択します。
	 必要な CI タイプを選択するときは
	• [Cls]ボックスの値を削除するときは、 🞽をクリックします。
CI タイプでフィルタ	1つ以上のCIタイプの関連CIにトポロジ・マップの結果を制限します。
	• 必要な CI タイプを選択するときは
	• [CI タイプでフィルタ]ボックスの値を削除するときは、 ×をクリックします。
表示に限定	特定のビューの関連 CI にトポロジ・マップの結果を制限します。
	 必要なビューを選択するときは をクリックします。[ビュー セレクタ]ダイ アログ・ボックスが開きます。
	• [次のビューに結果を制限]ボックス内の選択したビューを削除するときは、 メをクリックします。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[レポート ビューア]ページ

このウィザード・ページでは、特定のレポートを開くURLを作成できます。

重要情 報	•	[ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については,90ページ「ダイレク ト・リンクの生成ウィザード」 を参照してください。
	•	ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細について は,89ページ「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」 を参照してください。

ウィザー	「[コマンドを選択] ページ」([埋め込みリンク]>[レポート ビューア])「[終了] ページ」
ド・マッ	

UI要素	詳細
レポート・	必要なレポート・タイプを選択します。 各レポート・タイプの詳細については, 277ペー
タイプ	ジ「レポート」 を参照してください。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[レポート ビューア]-[保存済みレポート] ページ

このウィザード・ページでは、保存済みのトポロジまたはカスタム・レポートを開くURLを作成できます。

重要情 報	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については, 90ページ「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、89ページ「[ダイレクトリンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択] ページ」([埋め込みリンク]>[レポート ビューア]-[保存済みレポー ト])「[終了] ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
レポート	必要な保存済みレポートを選択します。
	• - をクリックして, [レポートの選択]ダイアログ・ボックスを開きます。 必要なトポロジまたはカスタム・レポートを選択します。
	 ● 選択したレポートを削除するには、 をクリックします。 保存済みレポートの詳細については、277ページ「レポート」を参照してください。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[CI プロパティを表示]ページ

このウィザード・ページでは、既存のCIの基本情報を表示できます。

重要情 報	•	[ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については,90ページ「ダイレク ト・リンクの生成ウィザード」を参照してください。
	•	ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細について は, 89ページ「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択] ページ」([埋め込みリンク]>[Cl プロパティを表示])「[終了] ページ」
関連情 報	173ページ「[構 成 アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス」

UI要素	詳細
ソース CI のオブジェク ト ID	必要な CI を選択します。
	 ソース CI を選択してそのオブジェクト ID を取得するときは ・ をクリック します。 「ソース CI の選択]ダイアログ・ボックスが開きます。 詳細につ いては、 114ページ「CI セレクタ」 を参照してください。
	• [ソース CI のオブジェクト ID]ボックスの値を削除するときは、 ×をク リックします。

[ダイレクト リンク パラメータ] – [ビュートポロジを表示]ページ

このウィザード・ページでは, 選択したビューのトポロジ・マップを表示し, そのトポロジ・マップを外部アプリケーションに埋め込むことができます。

重要情 報	 [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、90ページ「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」を参照してください。 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、89ページ「[ダイレクトリンクの生成]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択] ページ」([埋め込みリンク]>[ビュートポロジを表示])「[終了] ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
次のビューのトポロジを 表示	 URL によって開く必要があるビューを選択するには をクリックします。 [ビュー セレクタ]ダイアログ・ボックスが開きます。
	• ビュー ボックス内の選択したビューを削除するときは、 ×をクリックします。

[ダイレクト リンク パラメータ]ページ – [ビュー エディタ]ページ

このウィザード・ページでは, モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタで特定のビューを開くURL を作成できます。

重要情 報	 [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、90ページ「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、89ページ「[ダイレクトリンクの生成]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択] ページ」([埋め込みリンク]>[ビュー エディタ])「[終了] ページ」
関連情 報	201ページ「ビジネス・ビューの構 築」

UI要素	詳細
ビュー名	• URL によって開く必要があるビューを選択するにはを選択するには
	• [ビュー名]ボックス内の選択したビューを削除するときは、 ×をクリックします。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[ビュー セレクタ]ページ

このウィザード・ページでは、ビュー・セレクタを外部 アプリケーションに埋め込み、そのアプリケーションでビューを選択、表示するようにできます。

重要情 報	 [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、90ページ「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」を参照してください。
	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、89ページ「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択] ページ」([埋め込みリンク]>[ビュー セレクタ])「[終了] ページ」
関連情 報	201ページ「ビジネス・ビューの構 築 」

[ダイレクト リンク パラメータ] – [ビューを表示]ページ

このウィザード・ページでは,特定のビュー,および任意でそのビューで選択した特定のノードのURL を作成できます。ビューが開くと,選択した CI がビュー内で選択された状態になります。ビューは IT ユ ニバース・マネージャ内で開きます。

重要情	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については, 90ページ「ダイレク
報	ト・リンクの生成ウィザード」を参照してください。

	 ウィザードを閉じて URL を作成 するときは[完了]をクリックします。詳細については、89ページ「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択] ページ」([コンテキストリンクで開く]>[ビューを表示])「[終了] ページ」

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI要素	詳細
<左側の表 示枠>	選択したオプションのイラストです。
詳細表示枠 (可視性)	IT ユニバース・マネージャの[詳細表示枠]を表示または非表示にします。
ビュ ー 結果か ら CI を選択	CIを選択してそのオブジェクト IDを取得するときにクリックします(任意指定)。 ビューが開くと、選択した CI がビュー内で選択された状態になります。
	 ターゲット・ビューで必要な CI を選択してそのオブジェクト ID を取得 するときは
	• [ビュー結果 から CI を選択]ボックス内の選択した CI のオブジェクト ID を削除 するときは ^業 をクリックします。
選択された	URL で開くターゲット・ビューです。
	 ● URL で開くターゲット・ビューを選択するときは
	• [Selected view]ボックス内の選択したビューを削除するときは、 ×をクリックします。
ビューモード	次のビュー・オプションを使用できます。
	• トポロジの表示:ビュー内の全レイヤが表示されます。
	• ビュー内の関連項目:現在のビュー内の選択された CI とその直接の隣接が表示されます。
	• CMDB 内の関連項目: CMDB 内の選択された CI とその直接の隣接が表示 されます。

[ダイレクト リンク パラメータ]-[モードで開始]ページ

このウィザード・ページでは,たとえば[モデリングスタジオ]ページなど,選択したページで UCMDB アプリケーションを開始できます。

重要情	• [ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については, 90ページ「ダイレク
報	ト・リンクの生成 ウィザード」を参照してください。

	 ウィザードを閉じて URL を作成するときは[完了]をクリックします。詳細については、89ページ「[ダイレクトリンクの生成]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウィザー ド・マッ プ	「[コマンドを選択] ページ」([コンテキストリンクで開く]>[モードで開始]ページ)「[終了] ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<左側の表示枠>	選択したモードのイラストです。
初期モード	選択したモードで UCMDB アプリケーションを開始します。

[終了] ページ

これは[ダイレクト リンクの生 成] ウィザード の最後のページです。ウィザードを閉じて URL を作 成 するときは[完了]をクリックします。[ダイレクト リンクの生 成] ダイアログ・ボックスが開きます。

重要情 報	[ダイレクト リンクの生成]ウィザードの全般的な情報については,90ページ「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」を参照してください。
ウィザー	「[コマンドを選 択] ページ」(<[コンテキストリンクで開く]オプション> および<[埋め込み
ド・マップ	リンク]オプション >) >「 [終了] ページ」

第4章

ダイレクト・リンクを使用した UCMDB アプレットの埋め込み

本章の内容

ダイレクト・リンク機能を使用した UCMDB アプレットの埋め込み	104
UCMDB アプレット・タグ – 概要	.104
ダイレクト・リンク操作 フロー	105

注:この章は、統合開発者にのみ関係があります。

ダイレクト・リンク機能を使用した UCMDB アプレットの埋め込み

ダイレクト・リンクを使用して UCMDB アプレットを外部 アプリケーションに直接埋め込むことができます。 ダイレクト・リンクは、 ダイレクト・リンク・ウィザードを使用して作成する URL です。 詳細については、 90ページ「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」 を参照してください。

UCMDB アプレットは、次の方法で埋め込むことができます。

 URL そのものを使用して、CMDBのコンテンツを外部アプリケーションに表示します。たとえば、ダイレクト・リンク・ウィザードでURLを作成して、特定のCIプロパティを表示できます。HP Universal CMDBで有効でない場合、ログイン・ページが開きます。

注: URL を使用した統合を可能にするには、Iframe または新規ウィンドウでリンクを開く必要があります。この場合、クロスサイト・スクリプティングに関する問題により、UCMDB アプレットを Javascript を使用して管理することはできません。たとえば、オブジェクト ID を使用して特定 CI プロパティを表示する URL を使用する場合、同じ URL を使用して他の CI プロパティを表示することはできません。

UCMDB アプレット・タグを使用して、UCMDB アプレットを外部アプリケーションに埋め込みます。これにより、統合開発者はHP Universal CMDB ユーザ・インタフェースの一部を独自のアプリケーションの一部として表示できます。また、Javascriptを使用した埋め込みHP Universal CMDB ユーザ・インタフェースとのやり取りが可能になります。

UCMDB アプレット・タグ – 概要

UCMDB アプレット・タグは、UCMDB アプレットの実行に必要な環境(HTML, Javascript, および サーバ・セッションのパラメータ)を作成します。次のいずれかの場合、タグの背後にあるコードにより、HP Universal CMDB サーバにログインできます。

- ログイン・パラメータが指定されていて、ユーザがまだログインしていない
- clear session パラメータが true である。

ユーザ・セッションが確立されると、JSP プロセッサが結果を出すまで、タグは必要なアプレット環境 (HTML および Javascript コード)の記述を続けます。生成された HTML ページには、指定したサー バから UCMDB アプレットをロードするのに必要な Javascript コードが含まれます。エラー発生時に は、指定されたエラー文字列がページに印刷されます。この文字列は、userErrorMessage パラメー タを使用してカスタマイズできます。また、エラー処理シナリオを開始するための HTML 要素 および HTML ラップ Javascript コードを含むことがあります。

UCMDB アプレット・タグのユース・ケース

```
<ucmdb:ucmdb_applet
serverConnectionString="http://labm3mam17.devlab.ad:8080"
serverType="UCMDB"
directLinkParameters="initViewName=NetworkTopology"
userName="user-name" userPassword="password" customerId="1"
encoded="false" printDebugLogs="true" userErrorMessage="This is
your general error" navigation="false" clearSessionCookies="false"
command="ShowCISelector"/>
```

注意: directLinkParameters は、ダイレクト・リンク・ウィザードで作成された URL から取得します。各パラメータの値を、表示どおりにタグに挿入します。上記に表示されてないパラメータ値が URL に含まれている場合、それらをコピーして、タグの directLinkParameters 行に追加します。ダイレクト・リンクを作成する方法の詳細については、90ページ「ダイレクト・リンクの生成ウィザード」を参照してください。

UCMDB アプレット・タグは **<HP Universal CMDBルート・フォルダ>\deploymdb-ui\WEB-**INF\tagsmdb_applet.tag にあります。

UCMDB アプレット・タグを外部 アプリケーション・サーバにコピーできます。次の場合, UCMDB アプレット・タグは HP Universal CMDB サーバからのログイン・データを要求します。

- 外部アプリケーション・サーバが JSP タグとやり取りできる場合。
- 外部アプリケーション・サーバおよびブラウザがHP Universal CMDB サーバにアクセスできる場合。

ダイレクト・リンク操作フロー

本項では,ダイレクト・リンクを使用して UCMDB アプレットを外部 マシンに埋め込むさまざまなシナリオを説明します。

本項の内容

- 106ページ「通常のログイン」
- 105ページ「ダイレクト・リンク操作フロー」
- 105ページ「ダイレクト・リンク操作フロー」

通常のログイン

このフローでは、HP Universal CMDB サーバへの通常のログインについて説明します。これは、ダイレクト・リンク・フローの基本情報となります。



- 1. ダイレクト・リンク URL をブラウザに入力して、HP Universal CMDB サーバにログインします。
- 2. ブラウザはログイン要求をHP Universal CMDB サーバに送信します。
- 3. サーバはユーザの資格情報を確認し、必要に応じてユーザ・セッションを作成します。
- 4. サーバは要求された HP Universal CMDB の最初のページを返します。
- 5. ブラウザは code base location パラメータ(このパラメータは, JVM に UCMDB アプレット・ファイ ルのロード 元を指示します)を HP Universal CMDB サーバとして指定して, Java 仮想マシン (JVM)をロードします。
- 6. UCMDB アプレット・ファイル(jars) およびデータが、HP Universal CMDB サーバとブラウザにロード された JVM 間で転送されます。

この時点で, UCMDB アプレットがロードされ, HP Universal CMDB がやり取りするサーバとして認識されます。

ダイレクト・リンク URL を使用した UCMDB アプレットの埋め込み

このフローでは、ダイレクト・リンクを使用して、新しいブラウザ・フレームで UCMDB アプレットを開く(指

HP Business Service Management/HP 外部 アプリケーション Universal CMDB ブラウザ サーバ 2 IFrame/New ブラウザ・ウィンドウ 5 -7-8 JVM 9

定したコンテキストで開く)方法を示します。

- 1. 外部アプリケーションに、UCMDB アプレットの表示を必要とするページがあります。
- 2. 返されたページには、Iframe または新しいブラウザ・ウィンド ウでダイレクト・リンクを開くディレクティ ブが含まれます。
- 3. ブラウザは, ダイレクト・リンクをフレーム URL として新しいフレーム(Iframe または新しいウィンドウ)を開きます。
- 4. 新しいフレームは、ダイレクト・リンクを HP Universal CMDB サーバに送信します。
- 5. ユーザがまだ HP Universal CMDB, HP Universal CMDB はログイン・ページを表示し, ユーザが 資格情報を入力してログイン・ボタンをクリックするまで待機します。
- 6. 必要に応じて、ユーザ・セッションが作成されます。
- 7. HP Universal CMDB サーバは、UCMDB アプレットをロード するディレクティブを含 むページを返します。
- 8. ブラウザはページを処理します。UCMDB アプレットをロードするディレクティブを見つけたら、ブラウザは JVM を起動します。次にブラウザは、HP Universal CMDB サーバの場所を "コード・ベース" として指定したパラメータなどの必須 パラメータを JVM に渡します。
- 9. UCMDB アプレット・ファイル(jars) およびデータが、HP Universal CMDB サーバとブラウザにロード

された JVM 間で転送されます。

注意: HP Universal CMDB サーバは、ブラウザ・マシンからアクセスできる必要があります。

UCMDB アプレット・タグを使用した UCMDB アプレットの埋め込み

このフローでは、UCMDB アプレット・タグをダイレクト・リンクとともに使用して、外部アプリケーション・ ページに UCMDB アプレット(指定したコンテキストで開いた)を埋め込む方法を示します。



- 1. UCMDB アプレット・タグが,外部アプリケーションの処理済み JSP に格納されます。
- 2. UCMDB アプレット・タグは指定されたパラメータを使用して、HP Universal CMDB サーバへの HTTP/HTTPS 接続を作成し、アプレット HTML スニペット・コードを要求します。
- ユーザがまだログインしていない場合、UCMDB アプレット・タグのパラメータが使用されます(この 手順の参照情報については、タグ自体を参照してください)。ログインに失敗すると、UCMDB ア プレット・タグは、事前設定されているエラー・メッセージまたはUCMDB アプレット・タグのパラメー タで指定されたエラー・メッセージを返します。
- HP Universal CMDB サーバは、UCMDB アプレットをロードする HTML スニペット・コードを(埋め込み Javascript とともに)返します。これで、外部アプリケーションはこのスニペット・コードをページに実装し、ページをブラウザに送信できます。
- 5. 外部 アプリケーションは, HTML スニペット・コードを含む完了 ページをブラウザに送信します。
- 6. ブラウザはページを処理します。 UCMDB アプレットをロードする HTML スニペット・コードを見つけ
たら、ブラウザは JVM を起動します。次にブラウザは、HP Universal CMDB サーバの場所を" コード・ベース"として指定したパラメータなどの必須パラメータを JVM に渡します。

- 7. UCMDB アプレット・ファイル(jars) およびデータが, HP Universal CMDB サーバとブラウザにロード された JVM 間で転送されます。
 - 注意: HP Universal CMDB サーバは、ブラウザ・マシンおよび外部アプリケーション・マシンの 両方からアクセスできる必要があります。

第5章

CI セレクタでの作業

本章の内容

CI セレクタの概要	110
ブラウザ・モード でのビューの表 示	110
検索モードでの CI の検索	111
CI セレクタ表 示 オプションの修 正	
CI の選択のユーザ・インタフェース	
トラブルシューティングおよび制限事項	123

CI セレクタの概要

注: CI の選択は,前のバージョンの HP Universal CMDB ではビュー・エクスプローラと呼ばれていました。

CI の選択では、HP Universal CMDB 内のIT ユニバース・モデルの要素をビューを使って表示します。HP Universal CMDB では、CI の選択は IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオの左側の 表示枠に表示されます。

CI の選択でビューを選択すると、CI 間で定義されている関係に従って、ビューに含まれている構成ア イテム(CI)が階層ツリー形式で表示されます。TQL クエリに一致する CI が見つからない場合は、 ビューは空の場合があります。ビューの詳細については、201ページ「ビュー形式」を参照してください。

CI の選択を使用し、ビューを選択して CI を検索できます。ビューを選択して、 CI のリストの参照や、 名前または CI タイプで特定の CI の検索を行うことができます。後で使うために検索条件を保存す ることもできます。

CI の選択のコンポーネントの詳細については、112ページ「CI の選択のユーザ・インタフェース」を参照してください。

ブラウザ・モードでのビューの表示

CIの選択を参照モードに設定すると、選択したビューの内容を表示できます。参照モードでのCIの 選択のユーザ・インタフェースの詳細については、114ページ「CIセレクタ」を参照してください。

本項の内容

- 111ページ「前提条件」
- 111ページ「表示するビューの選択」

1. 前提条件

[CIの選択]表示枠で, [ビューの参照]モードを選択します。

2. 表示するビューの選択

省略記号のボタンをクリックして [ビューセレクタ] ダイアログ・ボックスを開き,表示するビューを選択します。選択したビューの名前が[ビュー] ボックスに表示されます。ビュー内の CI は, [CI の選択] 表示枠の下部にある CI ツリーに表示されます。HP Universal CMDB で他のアプリケーションに移動しても, このビューが選択された状態が維持されます。

検索モードでの CI の検索

CI の選択の検索ツールを使用すると、特定のCIを検索できます。検索はCMDB 全体で実行されます。CIの選択の検索ツールのユーザ・インタフェースの詳細については、114ページ「CI セレクタ」を参照してください。

本項の内容

- 111ページ「前提条件」
- 111ページ「CI名による検索」
- 111ページ「構成アイテムタイプによる検索」
- 111ページ「検索の実行と結果の並べ替え」
- 112ページ「高度な検索の実行」

前提条件

[CIの選択]表示枠で[CIの検索]モードを選択し、[簡易]タブを選択します。

CI名による検索

名前を使って CI を検索するには、 [CI 名] ボックスに CI の名前, または名前の一部を表す文字列 を入力します。検索結果には、入力文字列を名前のどこか(定義したほかの検索条件の境界内) に含む、すべての CI が返されます。

注: CI名による検索のオプションでは、大文字と小文字は区別されません。

構成アイテムタイプによる検索

[CI タイプ]ボックスを使用して CI を検索できます。この検索では、 [CI タイプ]ボックスで指定したタイプの CI が返されます。

省略記号のボタンをクリックして, 🔤 必要な CI タイプを選択します。 [CI タイプ]ボックスに CIT を手動で入力することはできません。

[Cl タイプ]ボックスで Cl を定義したら、異なるアプリケーションに移動するまで、または異なる値を定義するまで、HP Universal CMDB によって選択内容が記憶されます。

検索の実行と結果の並べ替え

検索を実行します。結果は[CIの選択]表示枠の下部に表示され、エントリごとに CI名とタイプが 示されます。検索結果を並べ替えるには、該当する見出しをクリックします。 結果リストから必要な CI を選択する場合, 右表示枠は使用しているコンテキストに選択した CI の 詳細を表示します。ビューのコンテキストの CI を参照するには, CI を右クリックし, [Locate CI in View]を選択します。 CI の選択は参照モードに戻り, ビューのツリーで CI が選択された状態で, CI を含むビューを表示します。

検索結果で CI を選択すると、トポロジ・マップに、その CI が CMDB 内の関連する CI とともに表示されます。

(任意指定)[保存]ボタンをクリックして検索条件を保存し、 し検索名を入力します。詳細については、123ページ「[検索条件を保存]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

高度な検索の実行

ほかの検索オプションでは、 [詳細]タブを選択できます。 CI条件検索の詳細については、 113ページ 「[CI条件検索]ダイアログ・ボックス」を参照してください。 実行中のソフトウェア検索の詳細について は、 122ページ「[ソフトウェア検索を実行]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

CI セレクタ表示オプションの修正

CI の選択の表示オプションは変更できます。これらのオプションは、インフラストラクチャ設定マネージャで設定します。

注意: インフラストラクチャ設定マネージャで特定の設定を変更すると, HP Universal CMDB のパフォーマンスが低下する場合があります。設定を変更する際は, まずHP ソフトウェ ア・サポートまたは HP プロフェッショナル・サービス担当者にお問い合わせください。

本項の内容

- 112ページ「前提条件」
- 112ページ「選択した設定の変更」
- 1. 前提条件

[マネージャ]>[管理]>[インフラストラクチャ設定マネージャ]の順に選択して、インフラストラクチャ設定マネージャにアクセスします。

2. 選択した設定の変更

次の設定を変更できます。

- **すぐに表示される子の数**: CIの選択で親クエリ・ノードを展開したときに即座に表示される子の数。
- 子の最大数: CIの選択の親クエリ・ノードの下に表示される子の最大数。
- 最大検索結果サイズ:1回の検索操作で返されるCMDB インスタンスの最大数。
- 最近使ったビューリストのサイズ:ユーザごとに格納する最近使ったビューの最大数。

CIの選択のユーザ・インタフェース

本項の内容

- 113ページ「[CI条件検索]ダイアログ・ボックス」
- 114ページ「CI セレクタ」
- 121ページ「[検索を整理]ダイアログ・ボックス」
- 122ページ「[ソフトウェア検索を実行]ダイアログ・ボックス」
- 123ページ「[検索条件を保存]ダイアログ・ボックス」

[CI条件検索]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、属性条件、関連 CI、または関連 CI の属性条件に基づいて CI を検索できます。

利用方 [CIの選択]で、検索モードの[**詳細**]タブを選択し、[CI条件検索]の横の省略記号 **法** のボタンをクリックします。

UI 要 素	詳細
+	属性条件を追加するときにクリックします。
×	選択した行を削除するときにクリックします。
	選択した行を上に移動するときにクリックします。
\downarrow	選択した行を下に移動するときにクリックします。
Q	属性条件リストのプレビューを表示するときにクリックします。
属性	ドロップダウン・リストから属性を選択します。
20	注: [属性名]リストから[表示ラベル]を選択する場合, CI名/関連するCI名を使用し て[Display Label Like ignore case]条件を追加できるので, [演算子]リストに演算 子[類似 (大文字小文字の区別なし)]が表示されません。
CI 名	検索するCIの名前を入力します。
CI タイ プ	省略記号のボタン 🔤 をクリックして、 ツリーから CI タイプを選択します。
統合 ポイン ト	フェデレート CI で検索も実行する場合は,省略記号のボタン 🔤 をクリックして, CI の ターゲット統合ポイントを選択します。
	注 : 切断された統合ポイントを検索に選択すると、検索の実行時にエラーメッセージが 表示され、ローカルの検索結果を表示するどうかを質問してきます。
演算 子	ドロップダウン・リストから演算子を選択します。

モデリング・ガイド 第5章: CI セレクタでの作業

UI 要 素	詳細
関連 する CI 名	検索する関連 CI の名前を入力します。
関連 する CI タイ プ	省略記号のボタン 🔜 をクリックして, 関連 CI を検索条件 とした検索のための CI タイプ をツリーから選択します。
関係 タイプ	省略記号のボタン 🔤 をクリックして, 関連 CIを検索条件とした検索のための関係をツ リーから選択します。
CI 条 件で 検索	指定した条件でCIを検索するときに選択します。
関連	指定した条件で、CIに関連するCIを検索するときに選択します。
CI 条 件で 検索	注:[属性名]リストから[表示ラベル]を選択する場合,CI名/関連するCI名を使用し て[Display Label Like ignore case]条件を追加できるので,[演算子]リストに演算 子[類似 (大文字小文字の区別なし)]が表示されません。
関連 CI 条 件で 検索	指定した CI または CI タイプに関連する CI を検索するときに選択します。
値	属性条件の値を入力します。

CI セレクタ

ビューを選択して CI を検索できます。

利用方法	[IT ユニバース マネージャ]ページとモデリング・スタジオの左 側 の表 示 枠 に表 示 されます。
重要情報	CIの選択では、ビューの参照モードとCIの検索モードの2つの機能を使用できます。 ビューの参照モードでは、ビューを検索、表示したり、ビューを参照して特定のCIを検索できます。ショートカット・メニューからCIに対する操作を実行することもできます。 CIの検索モードでは、CMDB内のCIを、名前やCIタイプで検索できます。
関 連タ スク	110ページ「ブラウザ・モードでのビューの表示」 111ページ「検索モードでのCIの検索」

ビューの参照モード

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	クリックすると, ほかのユーザによって変更された可能性がある階層 ツリー構造のデータ内容が更新されます。
	[テンプレート パラメータを表示]をクリックすると[テンプレート パラ メータ値]ダイアログ・ボックスが開き, 選択したテンプレートのパラ メータを編集できます。
	注 : このボタンは, テンプレートが選択されている場合のみ有効で す。
⇒	[選択した CI をモデルビューに追加]をクリックすると, 選択した CI が現在のモデルまたはビューに追加されます。
	注:このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
(p	[関連 CI としてモデルに追加]をクリックすると, 選択した CI が関 連 CI としてモデルに追加されます。
	注:このボタンは、モデリング・スタジオのモデル・エディタでのみアク ティブになります。
69	[選択したモデルを新しいタブで開く]をクリックすると, 選択したモ デルがモデル・エディタで開きます。
	注 : このボタンは, モデリング・スタジオでモデルを選択している場合 のみアクティブになります。
	[選択した CI を含むモデルを表示]をクリックすると, 選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。
	注:このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
T.	IT ユニバース・マネージャでは, これは[ビュー定義の表示]を表し ており, 現在のビューに対するモデリング・スタジオのビュー定義に 直接移動できます。
	モデリング・スタジオでは,これは[選択されたビューを開く]を表して おり,選択したビューをエディタ表示枠で開きます。
j e	[選択した CI/モデルを含むビューを表示]をクリックすると、選択した CI またはモデルを含むビューのリストが表示されます。
	注:このボタンは, モデリング・スタジオにのみ表示されます。
1	[選択したモデルのビューを生成]をクリックすると、[新規ビューの 作成]ダイアログ・ボックスが開き、選択したモデルに基づいてビュー を構築できます。
	注 : このボタンは, モデリング・スタジオでモデルを選択している場合 のみアクティブになります。

UI要素	詳細
(1)	[ディスカバリおよび変更のサマリを表示]をクリックすると、最初に CIを検出した DFM ジョブを手動で開始することによって、選択し たビュー内のすべての CI が再検出されます。詳細について は、197ページ「[ディスカバリのステータスと変更の表示] ダイアログ・ ボックス」を参照してください。
	注 :このボタンは, IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。
ß	[ビューへのダイレクト リンクを生成]をクリックすると、 ダイレクトリンクの生成を使用してビューへのダイレクト・リンクを作成 できます。
	注 :このボタンは, IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。
£ 1	ブラウズ結果のエクスポートの形式を選択します。 次のオプションを 使用できます。
	 Excel: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる.xls (Excel) ファイル形式に整形されます。
	• PDF :テーブルのデータは, PDF形式でエクスポートされます。
	注:CIを PDF 形式にエクスポートする場合,エクスポート可能な最大 CI 数はエクスポートする CI に関連付けられたテキストの量に応じておよそ20,000 CI です。レポートが読みやすくなるよう表示列の適切な数を選択することも重要です。
	• RTF : テーブルのデータは, リッチ・テキスト 形 式 でエクスポートされます。
	 CSV: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ 区切り(CSV)テキスト・ファイル形式に整形されます。
	注:CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,)を区切り文字として定義する必要があります。Windows で は、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロー ル・パネルの[地域のオプション]を開いて、[数値]タブでカンマ が区切り文字の値として定義されていることを確認しま す。Linux では、区切り文字はCSV ファイルを開くアプリケー ションで指定できます。
	• XML: テーブルのデータは, テキスト・エディタまたは XML エディ タで開くことができる XML ファイルとして整形されます。
	ヒント : HTML コードをレポートから抽出するには,次の手順を実 行します。
	■ ファイルを HTML 形式 で保存します。
	■ ファイルを HTML エディタで開きます。
	■ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。
	スナップショットを使用するには、 [スナップショット]ボタンをクリックします。 次のオプションを利用できます。

UI要素	詳細
	 スナップショットを保存する:選択して[スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックスを開き、ビューのスナップショットを保存します。詳細については、196ページ「[スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	• スナップショットを比較する:スナップショット比較レポートを実行 する場合に選択します。詳細については、304ページ「スナップ ショット比較レポート」を参照してください。
	 スナップショットをスケジュールする:選択すると、「ジョブのスケジュール」ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、341ページ「「スナップショットをReport/スケジュールする」ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	 スケジュールされたスナップショット・ジョブを表示:選択すると、 [ジョブリスト]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、323ページ「[ジョブリスト]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	注 :このボタンは, IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。
	[ビュー ベース レポート]をクリックすると,選択したビューのトポロ ジ・レポートが表示されます。
	注 :このボタンは, IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。
	[アセット レポート]をクリックすると,選択したビューのアセット・レ ポートが開きます。詳細については,286ページ「アセット・レポート」 を参照してください。
	注 :このボタンは, IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。
•••	[ビュー]ボックスの右にある省略記号のボタンをクリックすると, [ビュー セレクタ]ダイアログ・ボックスが開きます。 フォルダ・ツリーを 参照して,表示するビューを見つけることができます。
	[検索]ボックスに入力した文字列の次の検索結果または前の 検索結果に移動できます。
<ci></ci>	現在選択されているビューに含まれている CI です。
<ツールチップ>	カーソルを CI に合わせると, 関連する CI タイプのツールチップが表示されます。
検索	[検索]ボックスに CI 名またはその一 部を入 力して, CI ツリーで CI を検索します。
ビュー ビュー	[ビュー]ボックスには、現在選択されているビューが表示されます。 表示するビューを選択するには、 [ビュー]ボックスの右側にある下 矢印をクリックします。これにより、 ごく最近にアクセスしたビューを 含むビューの簡略リストが表示されます。 リストの下部にある矢印 をクリックすると、 リスト全体をスクロールできます最近アクセスした

UI要素	詳細
	ビューは, ドロップダウン・リストの上部の分割線の上に表示されま す。ビューの完全なリストは, 分割線の下に表示されます。
	あるいは, カーソルをリスト内に合わせ, ビューの名前を入力しま す。入力した最初の数文字が既存のエントリに一致する場合 は, HP Universal CMDB によりビューの名前の残りが入力されま す。同じ文字で始まる名前を持つビューが複数存在する場合 は, 一致するビューがすべてリストに表示されます。
	注: [ビュー]ボックスで選択したビューがロードに失敗した場合 は, [表示]ボックスの値が標準設定(空白)の選択範囲に設定 されています。

CIの検索モード

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
	[検索結果をテーブルで表示]をクリックすると、別の表示枠が開 いて検索結果に含まれる CI がテーブルに表示されます。
	注:このボタンは, IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。
>	[選択した CI をモデル/ビューに追加]をクリックすると, 選択した CI が現在のモデルまたはビューに追加されます。
	注:このボタンは, モデリング・スタジオにのみ表示されます。
() Q	[関連 CI としてモデルに追加]をクリックすると, 選択した CI が関 連 CI としてモデルに追加されます。
	注:このボタンは、モデリング・スタジオのモデル・エディタでのみアク ティブになります。
60	[選択したモデルを新しいタブで開く]をクリックすると,選択したモ デルがモデル・エディタで開きます。
	注 : このボタンは, モデリング・スタジオでモデルを選択している場合のみアクティブになります。
	[選択した CI を含むモデルを表示]をクリックすると,選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。
	注:このボタンは, モデリング・スタジオにのみ表示されます。
1 T	[選択した CI/モデルを含むビューを表示]をクリックすると, 選択 した CI またはモデルを含むビューのリストが表示されます。
	注:このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
1	[選択したモデルのビューを生成]をクリックすると、[新規ビューの 作成]ダイアログ・ボックスが開き、選択したモデルに基づいて

UI要素	詳細
	ビューを構 築 できます。
	注 :このボタンは, モデリング・スタジオでモデルを選択している場合のみアクティブになります。
2	検索結果のエクスポートの形式を選択します。 次のオプションを 使用できます。
	 Excel: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる.xls (Excel) ファイル形式に整形されます。
	• PDF: テーブルのデータは, PDF 形 式 でエクスポートされます。
	注:CIを PDF 形式にエクスポートする場合,エクスポート可 能な最大 CI 数はエクスポートする CI に関連付けられたテキ ストの量に応じておよそ20,000 CI です。レポートが読みやすく なるよう表示列の適切な数を選択することも重要です。
	• RTF:テーブルのデータは、リッチ・テキスト形式でエクスポート されます。
	 CSV: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ 区切り(CSV)テキスト・ファイル形式に整形されます。
	注:CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ(,)を区切り文字として定義する必要があります。Windowsでは、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの[地域のオプション]を開いて、[数値]タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。.Linuxでは、区切り文字はCSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。
	• XML: テーブルのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディ タで開くことができる XML ファイルとして整形されます。
	ヒント :HTML コードをレポートから抽出するには, 次の手順を 実行します。
	■ ファイルを HTML 形式で保存します。
	■ ファイルを HTML エディタで開きます。
	■ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。
	クリックして[検索の整理]ダイアログ・ボックスを開き,保存した検索のリストから検索を編集または削除します。
*	クリックして、検索結果領域を展開または折りたたみます。
٩	クリックすると、検索が実行されます。検索結果は、[CIの選択] 表示枠の下部に表示されます。
	クリックして、後で使用するために現在の検索条件を保存しま

モデリング・ガイド 第5章: CI セレクタでの作業

UI要素	詳細
	す。
	[検索]フィールドに入力した文字列の次の検索結果または前の検索結果に移動できます。
<検索結果>	検索の実行後,結果は[CIの選択]表示枠の下部にリストされ ます。結果は,次の2つのカラムに表示されます。
	• 名前: CI の名前が含まれます。
	• CI タイプ : CI の CI タイプが含まれます。
	CI またはビューの名前が短縮されている場合は、ポインタをエントリに合わせると完全な名前が表示されます。検索結果を並べ替えるには、該当する見出しをクリックします。
[詳細]タブ	次の詳細検索オプションを利用できます。
	 CI条件検索: 属性条件, 関連 CI, または関連 CI の属性 条件に基づいて CI を検索できます。
	 実行中のソフトウェア検索:ホストで実行されているアプリケーションを検索条件にしてホストを検索できます。また、アプリケーションが実行されているホストを検索条件にしてアプリケーションを検索できます。
	検索ごとに、省略記号のボタン・をクリックして検索ダイアロ
	グ・ボックスを開きます。検索を実行した後, [保存]ボタン をクリックします。後で使用するために検索内容を保存します。
CI 名	名前でCIを検索するには、検索するCIの名前を入力します。
Cl タイプ	CI タイプで CI を検索するには、省略記号のボタンをクリックして [構成アイテムタイプの選択]ダイアログ・ボックスから CI を選択し ます。
検索	[検索]ボックスに CI 名または CI 名の一部を入力して, モデル 内の CI を検索します。
検索	保存した検索のドロップダウン・リストから検索を選択します。
検索結果数	[検索]ボックスの下の検索結果数には、検索で検出された CI の合計数が表示されます。
[簡易]タブ	[簡易]タブでは、標準の検索機能を使用できます。詳細な検索オプションを使用する場合は、[詳細]タブをクリックします。

ショートカット・メニュー・オプション

メニュー項目	詳細
<it ユニバース・マ<br="">ネージャのショート カット・メニュー・オプ ション></it>	IT ユニバース・マネージャのトポロジ・マップの通常のショートカット・メニュー は, CI の選択からも利用できます。 メニュー・オプションの詳細について は, 181ページ「[IT ユニバース マネージャ]ページ」 を参照してください。
追加	選択したCIが現在のモデルまたはビューに追加されます。
	注:この機能は、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
関連 CI としてモデ	選択した CI が関連 CI として現在のモデルに追加されます。
ルに追加	注:この機能は、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
選択したモデルの ビューを生成	選択すると,現在のモデルに基づいてビューが作成されます。[新規ビューの作成]ダイアログ・ボックスが開き,適用するパースペクティブを選択できます。
	注:この機能は、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
選択した モ デルを新 しいタブで開く	選択したモデルがモデル・エディタの新しいタブで開きます。
	注:この機能は、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
含まれるモデルを表 示	[選択した CI を含むモデルを表示]を選択すると、選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。
	注:このオプションは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
含まれるビューを表 示	[選択した CI/モデルを含むビューを表示]を選択すると、選択した CI またはモデルを含むビューのリストが表示されます。
	注:このオプションは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。

[検索を整理] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、保存した検索のリストから検索を編集または削除できます。

利用方法	[CIの選択]で[保存した検索のリストを管理]ボタン ¹¹² を選択します。
------	---

UI 要素	詳細
0	クリックして, 選択した検索を編集します。 簡易検索の場合は, [CI 簡易検索]ダイアロ グ・ボックスが開き, CI の名前 やタイプを編集できます。 CI 条件検索の場合は, [CI 条件 検索]ダイアログ・ボックスが開きます。
×	選択した検索を削除する場合にクリックします。

モデリング・ガイド 第5章: CI セレクタでの作業

UI 要素	詳細
譜	クリックすると,検索ツリーが展開されます。
5	クリックすると、検索ツリーが折りたたまれます。
<検 索ツ リー>	保存したすべての検索がツリー形式で表示されます。
検 索	[検索]ボックスに検索名または検索名の一部を入力して、リスト内を検索します。
次を 検 索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
前 回 検 索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の前の項目を検索するときにクリックします。

[ソフトウェア検索を実行] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, ホストで実行されているアプリケーションを検索条件にしてホストを検索 できます。また, アプリケーションが実行されているホストを検索条件にしてアプリケーションを検索でき ます。

利用 [CIの選択]で、検索モードの[詳細]タブを選択し、[実行中のソフトウェア検索]の横 方法 の省略記号のボタンをクリックします。

UI 要 素	詳細
ホスト 名	検索するノードの名前を入力します。
実行中 のソフト ウェア	ドロップダウン・リストから実行中のソフトウェア CIを選択します。 注:ドロップダウン・リストには、利用可能な実行中のソフトウェア CI タイプの正確なリス トが表示されないことがあります([任意]オプションのみが表示される)。この場合、ホスト 名検索のみを実行します。
検索対 象	[実行中のソフトウェア]または[ノード]を選択します。 注:特定のノードで実行されている実行中のソフトウェアCIを検索するには、ノード名 を入力し、必要な実行中のソフトウェアCIを選択して検索を実行します。

[検索条件を保存] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、後で使用するために現在の検索条件を保存できます。

利用方法	[CIの選択]の検索モードで, [保存]ボタン をクリックします。
利用力法	[CIの選択]の検索モードで, [保存]ボタン 🛄 をクリックします。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
既存のクエ リ	既存の検索のリストがソリー形式で表示されます。
名前	現在の検索の名前を入力します。
検索	[検索]ボックスに検索名または検索名の一部を入力して、リスト内を検索します。
次を検索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
前回を検 索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の前の項目を検索するときにクリックします。

トラブルシューティングおよび制限事項

本項では, CIの選択のトラブルシューティングと制限事項について説明します。

本項の内容

利用できないビューとCI

次の理由から, [CIの選択]の[ビュー]リストに CMDB内のすべてのビューが表示されない場合や, ビューの内容が表示されない場合があります。

- [ビュー]リストには、必要な権限をユーザが持っているビューだけが含まれます。同様に、検索モードは、[検索を許可]全般アクション権限を持っている場合のみ利用できます。権限を設定するには、[マネージャ]>[管理]>[ロールマネージャ]を選択します。詳細については、「ロール・マネージャ」の「How to Assign Permissions」を参照してください。
- 現在非アクティブなビューは、[ビュー]リストに赤色に表示されますが、これらのビューを選択することはできません。IT ユニバース・マネージャでは、非アクティブなビューは淡い色のテキストで表示されます。
- 標準で用意されているビューで、ユーザがライセンスを持っていないビューは、[ビュー]リストに表示 されますが、これらのビューには CI は含まれていません。標準で用意されているビューの詳細につ いては、204ページ「定義済みのフォルダとビュー」を参照してください。

注: 1つ以上のクエリ・ノードを TQL クエリから削除した後,変更内容をビューに更新するのに時間がかかる場合があります。この間,削除した CI はビューに表示されています。ビューが更新される前に、削除した CI を選択すると、エラー・メッセージが表示されます。[更新]ボタンをクリックしてビューを更新してください。



トポロジ・マップの作業

本章の内容

トポロジ・マップの概要	. 124
大きなビューの処理	. 124
トポロジ・マップ・ユーザ・インターフェイス	. 125

トポロジ・マップの概要

トポロジ・マップは、ビューのグラフィック表示を提供します。ビューの1レイヤ内のすべてのCIがアイコンで表され、それらをつなぐ線がCI間の関係を表します。トポロジ・マップ内でも、左の表示枠の[CIの選択]でも、CIを選択できます。[CIの選択]でドリル・ダウンして、ビューの別のレイヤをトポロジ・マップに表示することもできます。

CI のラベルがアイコンの下に表示されます。[ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックスの [全般] で, 行 ごとの最大文字数と最大行数を設定できます。詳細については, 80ページ「[ユーザプリファレンス] ダ イアログ・ボックス」を参照してください。

ビューの階層 セットによって作成された,別の CI 階層を持つ CI は,トポロジ・マップで下 矢印 アイコンと,すべてのサブレイヤの CI の合計数を表示するカウント・インジケータとともに表示されます。 矢印をクリックして,サブレイヤに含まれる CI を表示できます。



192.168.214.0/2

CI アイコンにポインタを置いたままにすると、CI の詳細がツールチップに表示されます。カウント・インジ ケータにポインタを置いたままにすると、CI の下にある CI のブレークダウンが CI タイプごとにツールチッ プに表示されます。

トポロジ・マップは, IT ユニバース・データに変更があった場合, 自動的かつ動的に更新されます。 データ・フロー管理プロセスにより検出された新しい CI などがこの例です。

トポロジ・マップの上にあるツールバーとメイン・メニューを使って, ズームイン, トポロジ・マップのレイアウトの変更, トポロジ・マップの印刷ができます。このほかに, トポロジ・マップまたは CI の選択で CI を右 クリックすると表示されるショートカット・メニューから使用できる機能もあります。

大きなビューの処理

トポロジ・マップでは,単一のレイヤに 900 個を超える CI が含まれているビューは表示 できません。 CI の数が 900 個を超えるレイヤを含んでいるビューを選択すると、トポロジ・マップの表示が空白になります。 900 を超える CI があるレイヤは、テキスト・モードでテーブルに表示 できます。

トポロジ・マップで大きなビューを表示するには、次のいずれかの方法を使用します。

- モデリング・スタジオでビューを再定義して, TQL クエリの結果を減らします。詳細については, 225 ページ「[ノード要素タイプの変更]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
- ビューのレイヤの CI を再分配するには、ビューに異なる階層を定義します。階層の定義の詳細 については、202ページ「ビュー階層の設定」を参照してください。
- 設定パラメータで,許可されるCIの最大数を設定しなおします。インフラストラクチャ設定マネージャの[Visualization Settings]にある[TS の最大オブジェクト数 GUI]パラメータを選択します。 ただし、レイヤあたりのCIの最大数を増やすと、トポロジ・マップの再描画が非常に遅くなる可能性があります。

インフラストラクチャ設定マネージャの詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「インフラストラクチャ設定マネージャのユーザ・インタフェース」を参照してください。

トポロジ・マップ・ユーザ・インターフェイス

本項の内容

- 125ページ「[イメージ] ダイアログ・ボックスにマップをエクスポート」
- 126ページ「レイアウト プロパティダイアログボックス」
- 138ページ「メイン・メニュー」
- 139ページ「[印刷] ダイアログ・ボックス」
- 139ページ「[印刷プレビュー] ダイアログ・ボックス」
- 140ページ「[印刷設定] ダイアログ・ボックス」
- 141ページ「ツールバー・オプション」
- 147ページ「[トポロジ マップ] サイドバー」

[イメージ] ダイアログ・ボックスにマップをエクスポート

このダイアログ・ボックスでは、トポロジ・マップをファイルに保存できます。

利用方法	トポロジ・マップから [操作]>[画像にマップをエクスポート] を選択します。	
関連タスク	169ページ「トポロジ・マップをファイルに印刷して保存」	

UI要素	詳細
実際のサイズ	グラフ・ノード のサイズが最大になるようにしてビューを保存します。
現在のズームレベル	ビューをトポロジ・マップに表示されているとおりに保存しま す。たとえば、[インタラクティブズーム]モードを使って ビューの倍率を下げていた場合は、保存されたビューで もグラフ・ノードが小さく表示されます。詳細について は、143ページ「インタラクティブ・ズーム」を参照してください。

UI 要素	詳細
ታスタム	[幅] ボックスと[高さ] ボックスで,保存するビューのサイズ を指定します。
ファイル名	必要なファイル名と保存場所を指定します(または、[参 照]をクリックしてファイルと保存場所を検索します)。
キャンバスにフィット	ビューを拡大または縮小して表示枠にぴったり合わせます。
画像品質	印刷するマップの品質です。[高], [中], または[低]を選 択します。
選択済みオブジェクトのみ	マップ内で選択されているグラフ・ノード/CIとそれらの関係だけを保存します。
タイプ	必要なファイル形式を選択します。
可視ウィンドウのみ	グラフのうち表示枠内に表示されている部分だけを保存 します。

レイアウト プロパティ ダイアログ ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ビュー内の特定のレイヤのレイアウトをカスタマイズして、可能な範囲内 で最大限明確なプレゼンテーションを実現することによって、管理対象のデータをより的確に把握し て監視できるようになります。

利用方法	[レイアウト]> [レイアウト プロパティ] を選択します。
重要情	レイヤー内に表示されるグラフのノードおよび関係の論理的な位置を割り当てることによっ て, ビューのレイヤーのレイアウトを定義します。 レイヤのレイアウトをカスタマイズするには, 標 準設定値を変更します。
報	レイアウト定義の設定は,特定のレイヤに対してのみできます。定義を別のレイヤや別の ビューに対して保存することはできません。
	パラメータ値はピクセル数です。

[グローバル]タブ

この領域では、グローバルなレイアウト・パラメータを定義できます。

利用方法	[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで [グローバル] タブをクリックします。
重要情報	[グローバル] タブでは, レイアウトのグローバルな設定を定義できます。

UI 要 素	詳細
描画 に フィッ	次のいずれかのオプションを選択して、レイアウトを調整します。
	• 用紙にフィット: レイアウトを画面の用紙に合わせます。
۲	• 印刷にフィット: レイアウトを印刷ページに合わせます。
	• フィットなし:レイアウトを変更しません。
ラベリ ング	[ラベリングの実行]を選択して, レイアウトの再描画時にラベルが表示されるようにしま す。このフィールドが選択されていないと, 再描画レイアウトにラベルは表示されません。
スタイ ル	[スタイルを強制的に適用]を選択し、選択したレイアウトをトポロジ・マップのネストされた すべてのレイヤに適用します。

[すべてのスタイル]タブ





UI 要 素	詳細
ン ポー	非 接 続 グラフ内 のコンポーネント間 の間 隔 は,各 コンポーネント のサイズに基 づいた定 数 値 と比 例 値 で構 成 されます。
ネント	[コンポーネントの検出]を選択すると,非接続コンポーネントを表示できます。 すべてのコン ポーネントを一緒にレイアウトすることも,ほかのコンポーネントに関係なく個別にレイアウトす ることもできます。 コンポーネントのグループ化を選択すると,各コンポーネントがレイアウトさ れ,その後一緒にまとめられます。
	[コンポーネントの検出] が選択されている場合,次の設定の値を入力します。
	 ■ コンスタント スペーシング:それぞれの非接続コンポーネントの周囲の固定間隔(水平および垂直)を設定します。 標準設定値:20
	 プロポーショナルスペーシング:それぞれの非接続コンポーネントの周囲の間隔(水平および垂直)を,コンポーネントのサイズとの比率で設定します。 標準設定値:0.05
切断	非接続グラフ内のグラフ・ノード間の間隔は、各グラフ・ノードのサイズに基づいた定数値と 比例値で構成されます。
され た ノー ド	[切断されたノードの検出]を選択すると,非接続グラフ・ノードを表示できます。非接続グラ フ・ノードをグループ化して1つのコンポーネントにすることも,各ノードを個別にレイアウトする こともできます。
	[切 断されたノードの検出] が選 択されている場合,次の設定の値を入力します。
	 コンスタントスペーシング:それぞれの非接続グラフ・ノードの周囲の固定間隔(水平および垂直)を設定します。 標準設定値:20
	 プロポーショナルスペーシング:それぞれの非接続グラフ・ノードの周囲の間隔(水平および垂直)を、コンポーネントのサイズとの比率で設定します。 標準設定値:0.05
余白ス	レイアウトの右, 左, 上, 下の余白スペーシングの値を入力します。



[円形]タブ

利用方法	利用方法:[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで [円形] タブをクリックします。
重要情報	[円形]タブは, 選択するグループ化オプションに基づいて, グラフのノードをいくつかのグループ またはクラスタにまとめます。これは特に, リングおよびスター・ネットワーク・トポロジと, リンク分 析に適しています。







[階層的]タブ

利用方法	[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで [階層的] タブをクリックします。
重要情報	[階層的] タブでは, 組織または情報管理システムの依存関係, プロセス・モデル, ソフトウェ ア呼び出しグラフ, およびワーク・フローを表す優先順位関係を表示します。 階層レイアウトで は, グラフ・ノードを異なるレベルに配置することで依存関係が強調されます。

UI 要素	詳細
後方エッジ	階層レイアウト内で逆行関係がどのように表示されるかを指定します。
	次のオプションのいずれかを選択します。

モデリング・ガイド 第6章:トポロジ・マップの作業

UI要素	詳細
	• 最小後方エッジ:レイヤ内に表示される逆行関係の数を最小に設定します。
	• フィードバックフローの最適化:レイヤ内に表示される逆行関係の数を最大に設定します。このモードはフロー・チャートに適しています。
水平ス	各レベルの隣り合う2つのグラフ・ノード間の水平方向の最小間隔を設定できます。
ペーシンク 	次の設定の値を入力します。
	 Between Graph Nodes: レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に水平方向の間隔を設定します。 標準設定値:28
	 エッジ間:この設定は、[ルーティング]>[直交型]を選択した場合にのみ使用できます。 グラフ内のエッジ間の水平方向の間隔を設定します。 標準設定値:12
レイアウト 品質	生成されたレイアウトの品質を、アプリケーションのニーズに合うように調節します。この品質は、レイアウトの生成に使用されたステップまたはメソッドの数を反映しています。たとえば、高品質にすると表示がより明瞭になりますが、レイアウトの設定にかかる時間が長くなります。
	次のオプションのいずれかを選択します。
	• ドラフト:([中間]および[プルーフ]よりも早く)高速に結果を生成します。
	F37 F
	• 中間:[ドラフト]と[プルーフ]を組み合わせたような結果を生成します。グラフのレ イアウトの精密度は[ドラフト]と[プルーフ]の中間になります。
	• プルーフ:より洗練された結果を生成しますが、より多くの時間がかかります。
	注 :これらの品質設定それぞれによる速度と結果の差異は、レイアウトされているグ ラフの性質によって変わります。各オプションを試した上で、どの設定が一番有用かを 決めてください。
レベルの配	グラフ・ノードを垂直方向に位置合わせする方法を設定できます。
直 	次のオプションのいずれかを選択します。
	 上。次の図では、階層の同じレベルにある各グラフ・ノードの上端で位置合わせ されています。

UI要素	詳細
	 中央。次の図では、階層の同じレベルにある各グラフ・ノードの中央で位置合わせされています。
	 下。次の図では、階層の同じレベルにある各グラフ・ノードの下端が位置合わせ されています。
方向	階層の向きを設定できます。
	次のオプションのいずれかを選択します。
	• 上から下:子は親の上に配置されます。
	• 左から右 :子は親の左に配置されます。
直交ルー ティング - 固定ノー ドサイズ	この設定は、[ルーティンク]>[直交型]を選択した場合にのみ使用できます。 グラフ・ ノードのサイズを維持します。 グラフ・ノードの同じ側に複数の関係が接続されるとき に、指定した関係の間隔設定を維持する必要があり、レイアウト内のグラフ・ノード のサイズを拡大できるようにする場合は、このオプションをクリアします。
ポリライン ルーティン グ - ベンド 間 のスペー シング	この設定は, [ルーティング]>[ポリライン]を選択した場合にのみ使用できます。ポリライン・ルーティングでは, 任意の角度で曲がる1つ以上の直線分としてエッジ(連結線) がルーティングされます。エッジ(連結線)が重なり合わないように, パス・ノードが自動 的に追加されます。

モデリング・ガイド 第6章:トポロジ・マップの作業

UI要素	詳細
	標準設定値:12
ルーティン	レイアウトのルーティング・タイプを選択します。次のオプションを使用できます。
,	● 直交型
万 向 付 け のないレイ アウト	階 圏 のレヘル構 架 にエッンの方 回 を使 用しません。
変数レベ ルスペー	可変レベル間隔では、レベル間のエッジの密度に従って、隣り合う2つのレベル間の 間隔を調整します。
シング	図中のエッジが直交ルーティングされている場合は、これによってレベル間にルーティン グされた水平方向のエッジ間に必要な垂直方向の間隔が確保されます(上から下 または下から上のレイアウトで)。
	ポリライン・ルーティングの場合は、可変レベル間隔を使うことによって、密度の高い 図でも各エッジを区別しやすくなります。
垂直ス ペーシング	異なるレベルにある隣り合う2つのグラフ・ノード間の垂直方向の最小間隔を設定 できます。
	次の設定の値を入力します。
	 Between Graph Nodes: レベル内の各グラフ・ノードの周囲に垂直方向の間隔を設定します。 標準設定値: 28
	 エッジ間:この設定は、[ルーティング]>[直交型]を選択した場合にのみ使用できます。 グラフ内のエッジ間の垂直方向の間隔を設定します。 標準設定値:12

[直交型]タブ

利用方法:[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで [直交型] タブをクリックします。

利

用方法	
重 要 情 報	[直交型] タブでは、直交線レイアウトのルート関係を水平方向と垂直方向で設定できます。この結果、関係を示す線の折れ曲がりは常に90度になります。

UI 要 素	詳細
固定 ノドイ イ	グラフ・ノード のサイズを維持します。 グラフ・ノード の同じ側に複数の関係が接続されるとき に,指定した関係の間隔設定を維持する必要があり, レイアウト内のグラフ・ノード のサイズ を拡大 できるようにする場合は, このオプションをクリアします。
大 王 大	グラフ・ノード間の水平方向の最小距離を設定できます。
サス	次のオプションのいずれかを選択します。
ペーシンガ	 Between Graph Nodes: レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に水平方向の間隔を設定します。
9	標準設定値 :20
	• エッジ間:レイヤ内の要素間の水平方向の間隔を設定します。
	標準設定值:12
レイ アウ ト 品	生 成されたレイアウトの品質を, アプリケーションのニーズに合うように調節します。 この品質は, レイアウトの生成に使用されたステップまたはメソッドの数を反映しています。 たとえば, 高品質にすると表示 がより明瞭になりますが, レイアウトの設定にかかる時間が長くなります。
筫	次のオプションのいずれかを選択します。
	• ドラフト:レイアウトを下書き品質に設定します。
	• 中間 :レイアウトを中間品質に設定します。
	• 最高 :レイアウトを最高品質に設定します。
垂	グラフ・ノード間の垂直方向の最小距離を設定できます。
直 スペーシ	次のオプションのいずれかを選択します。
	 Between Graph Nodes: レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に垂直方向の間隔を設定します。
9	標準設定値 :100

UI 要 素	詳細
	• エッジ間:レイヤ内の要素間の垂直方向の間隔を設定します。
	標準設定値: 20

[対称]タブ

利用 方法	[レイアウト プロパティ]ダイアログ・ボックスで[対称]タブをクリックします。
重要	[対称]タブでは, 複雑なネットワークをわかりやすくビジュアル化して表示します。 対称レイ
情報	アウトでは, グラフ内に存在する対称性が強調されます。





[ルーティング] タブ

利用 方法	[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで [ルーティング] タブをクリックします。
重要	[ルーティング] タブでは,原則としてグラフ・ノードの位置はそのままで,線が直交するように
情報	ルーティングしなおすことができます。

UI 要素	】 詳細
ノド置固定	表示内のすべてのグラフ・ノードの位置を維持します。レイアウトを改良する必要があり、レ イアウト内のグラフ・ノードを移動できるようにする場合は、このオプションをクリアします。重 なり合いを避け、折れ曲がりの数が最少になるように、最小限の移動が行われます。
固定 ノドイ イ	グラフ・ノードのサイズを維持します。 グラフ・ノードの同じ側に複数の関係が接続されるときに、指定した関係の間隔設定を維持する必要があり、レイアウト内のグラフ・ノードのサイズを拡大できるようにする場合は、このオプションをクリアします。
水	グラフ・ノード間の水平方向の最小距離を設定できます。

UI 要素	詳細
平ス	次のオプションのいずれかを選択します。
ペー シン グ	 Between Graph Nodes: レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に水平方向の間隔を設定します。
	標準設定値 :20
	• エッジ間:レイヤ内の要素間の水平方向の間隔を設定します。
	標準設定値:12
垂	グラフ・ノード間の垂直方向の最小距離を設定できます。
直ス ペ ー	次のオプションのいずれかを選択します。
シン グ	 Between Graph Nodes: レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に垂直方向の間隔を設定します。
	標準設定值:20
	• エッジ間:レイヤ内の要素間の垂直方向の間隔を設定します。
	標準設定値: 12

メイン・メニュー

この機能には、トポロジ・マップの作業のためのオプションが含まれます。

利用 方法	画面の左上にあります。
重要	メイン・メニューの各ドロップダウン・リストに含まれている個々のオプションについては, 141
情報	ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。

UI 要素	詳細
編集	トポロジ・マップ用の選択オプションが含まれています。
エディタ・ アイテム	現在のマネージャ用のトポロジ・マップ・ショートカット・メニュー・オプションが含まれています。
	注 :このド ロップダウンは, CI タイプ・マネージャには表 示 されません。
レイアウ	トポロジ・マップのレイアウトを変更するためのオプションが含まれています。
۲ ۲	注:このドロップダウンは、レポートには表示されません。
マネー ジャ	さまざまな UCMDB モジュールへのリンクが含まれています。

UI 要素	詳細
操作	トポロジ・マップを印刷またはエクスポートするためのオプションが含まれています。
リソース	現在のマネージャ用の左表示枠ショートカット・メニュー・オプションが含まれています。
	注 : このドロップダウンは, IT ユニバース・マネージャ, レポートには表示されません。 CI タ イプ・マネージャでは, これは CI タイプ と呼ばれます。
ツール	ユーザ・プリファレンス・ツール, ユーザ・プロファイル, ログ設 定 ツール, および画 面 キャプ チャ・ツールが含まれます。
ビュー	モジュールの各表示枠の表示/非表示を切り替えられます。

[印刷] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、トポロジ・マップの内容を印刷できます。

利用方法	[操作]>[印刷] を選択します。
重要情報	トポロジ・マップの印刷結果は, 画面キャプチャとほぼ同じです。したがって, 印刷前に次の 作業を行うことをお勧めします。
	 印刷設定を定義し、必要に応じてトポロジ・マップの内容を整理します。詳細については、140ページ「[印刷設定] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	 トポロジ・マップの内容を印刷用に整理します。それには、[レイアウト]オプションと[レイアウト プロパティ]を使用します。レイアウト・オプションの詳細については、144ページ「レイアウト・プロパティ」を参照してください。レイアウト・プロパティの詳細については、126ページ「レイアウト プロパティダイアログボックス」を参照してください。
関連タスク	169ページ「トポロジ・マップをファイルに印刷して保存」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
部数	印刷する部数を入力します。
プロパティ	必要に応じてドキュメントのプロパティを定義します。

[印刷プレビュー] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、印刷前にトポロジ・マップの内容をプレビューできます。

利用方法	[操作]>[印刷プレビュー]を選択します。
------	-----------------------

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

メニュー項 目	詳細
4	マップを印刷します。詳細については, 139ページ「[印刷] ダイアログ・ボックス」 を参照 してください。
•	マップをズーム・アウトして表示します。
•	マップの特定の詳細にズーム・インします。
8	ビュー全体を表示枠内にぴったり収めます。

[印刷設定] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、トポロジ・マップの印刷設定を定義できます。

利用方法	[操作]>[印刷設定]を選択します。
関連タスク	169ページ「トポロジ・マップをファイルに印刷して保存」

UI 要素	詳細
実際のサイズ	ビューを実際の大きさで印刷します。
色	テキストの色を設定します。
フォント	必要なフォントを設定します。
ページ設定	印刷設定を定義します。
ペ—ジ	マップを行と列に分割し,各セクションを別々に印刷します。[ページ カラム] ボック スと[ページ行] ボックスに,それぞれ列数と行数を入力します。
位置	キャプションの位置を[位置]リストから選択します。
背景を印刷	ビューの背景を印刷します。
境界を印刷	マップを境界線付きで印刷します。境界線の色を選択するには、 [色]をクリックします。
印刷キャプ ション	テキスト領域にキャプションを入力し, [フォント]をクリックして使用するカスタム・フォ ントを選択します。
描画全体を 印刷	クロップ・マークを印刷します。

UI 要素	詳細
現在の印刷 範囲を印刷	選択したグラフ・ノードとその関係を印刷します。
現在のウィン ドウを印刷	ビューの表示枠内に表示されている部分を印刷します。
トンボを印刷	ビューの全体を印刷します。
ページ番号を 印刷	ページ番号を印刷します。
ズームレベル	現在のズーム・レベルでビューを印刷します。

ツールバー・オプション

トポロジ・マップの各ツールバー・オプションについて、次の表で説明します。

ボタン	オプション名	このオプションの機能
ł	追加数	エンリッチメント・ルールの結果として作成されたインスタンスの数を計算します。 作成された TQL クエリ・ノード・インスタンスおよび関係の数は、次の図のように エンリッチメント・クエリ・ノードまたは関係の横に表示されます。
		IpSubnet(0) * Membership(51) * New Node(51)
	詳細表示 枠	けです。 [詳細表示枠]を画面の下部中央に表示するか非表示にするかを切り替えま す。 利用方法:[表示] > [詳細表示枠]を選択します。
	クエリ結果 数を計算す る	各 TQL クエリ・ノード/関係について, 見つかったインスタンスの数を計算します。
	ラベルの長さ を変更/ラベ ルプロパティ	ラベルに含める最大文字数を入力します。 利用方法:IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオで, [レイアウト]>[ラ

ボタ		
シ	オプション名	このオプションの機能
	の変更	ベルプロパティの変更]を選択します。その他のマネージャでは、[レイアウト]> [ラベルの長さを変更]を選択します。
	CI タイプ・ツ	CIタイプ・セレクタを画面の右に表示するか非表示にするかを切り替えます。
	у <u>—</u>	利用方法:[表示] > [Cl タイプ ツリー]を選択します。
		注:モデリング・スタジオでは、このオプションは [CI タイプ] と呼ばれます。
Îx	関係を作成	ほとんどのマネージャでは、2 つの既存の TQL クエリ・ノードの間に関係を作成 します。詳細については、25ページ「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追 加」を参照してください。
		IT ユニバース・マネージャで,既存 CI間の関係を作成します。詳細については,158ページ「既存のCIの関連付け」を参照してください。
×	選択した項 目の削除	IT ユニバース・マネージャから CI を削除するか, 影響分析マネージャまたはエン リッチメント・マネージャから TQL クエリ・ノードを削除します。
	マップをドラッ	ビューをドラッグします。
	9	利用方法:[モード:] ボックスのドロップダウン・メニューを開くか, または [ドラッグ・ マップの>表示]を選択します。 IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオ で, [レイアウト]>[ドラッグ・モード]を選択します。
4 1	レイヤを 1 つ ドリル・ダウン	トポロジ・マップ内の1つ下のレベルに移動します。このオプションは、ビューの階層を設定して作成された、別のCIレイヤが下位に存在する場合にのみ有効になります。階層設定の詳細については、202ページ「ビュー階層の設定」を参照してください。
		注:このオプションは IT ユニバース・マネージャでのみ表示されます。
Â60	関連 CI の 取得を無効 化/有効化	CIの選択で新しいCIを選択するときに、関連するCIでのトポロジ・マップの再 描画の無効化と有効化を切り替えます。
		注 :このオプションは [関連 CI] タブの IT ユニバース・マネージャでのみ表示され ます。
	エンティティ・ ツリー	マネージャ固有のエンティティ・ツリーを画面の左に表示するか非表示にするか を切り替えます。
		利用方法:[表示] > [エンティティ ツリー]を選択します。
		注 : モデリング・スタジオでは、 左表 示 枠 (リソース, Cl タイプ, Cl の選 択)の各 タブが別 個 のオプションとして表 示されます。
	画像にマップ をエクスポー	トポロジ・マップをファイルに保存します。詳細については,125ページ「[イメージ] ダイアログ・ボックスにマップをエクスポート」を参照してください。
	F	利用方法:[操作] > [画像にマップをエクスポート] を選択します。
8	ウィンドウに	マップ全体を表示枠内にぴったり収めます。

ボタ		
ン	オプション名	このオプションの機能
	合わせる	利用方法:[レイアウト]>[ウィンドウに合わせる]を選択します。
	ダイレクト・リ ンクの生 成	ビューまたは CI へのダイレクト・リンクを生成します。
		利用方法:[編集] > [ダイレクト リンクの生成] を選択します。
Ŷ	レイヤを1つ 上げる	トポロジ・マップ内の1つ上のレベルに移動します。このオプションは、ビューの階層を設定して作成された、別のCIレイヤが上位に存在する場合にのみ有効になります。階層設定の詳細については、202ページ「ビュー階層の設定」を参照してください。
		注:このオプションは IT ユニバース・マネージャでのみ表示されます。
	マップからす べての継承	Inheritance_f 関係と、その接続クエリ・ノードの表示 / 非表示を切り替えます。
	を非表示	利用方法:[レイアウト] > [マップからすべての継承を非表示]を選択します。
		注 : このオプションがツールバーに表示されるのは, CI タイプ・マネージャだけで す。
	全クエリ・ノー	CI/CIT/クエリ・ノード/パターン・ラベルの表示/非表示を切り替えます。
	ドのラベルを 非表示	利用方法:[レイアウト] > [全クエリノードのラベルを非表示]を選択します。
		注:このオプションは, IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは利用できません。
	全関係ラベ	関係ラベルの表示と非表示を切り替えます。
	ルを非表示	利用方法:[レイアウト] > [全関係ラベルを非表示]を選択します。
		注:このオプションは, IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオではエッジの ラベルを非表示という名前になっています。
	全関係を非	表示されているマップ内の関係の表示/非表示を切り替えます。
	表示	利用方法:[レイアウト] > [全関係を非表示] を選択します。
		注 : このオプションは, IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは利用で きません。
2ª	[関連 CI を	[関連 CIを取得]表示枠の表示/非表示を切り替えます。
	取得]表示 枠の表示 / 非表示	注 :このオプションは [関連 CI] タブの IT ユニバース・マネージャでのみ表示され ます。
	インタラクティ ブ・ズーム	 クリックしてマウス・ポインタを上に移動すると、表示倍率が低くなります。
		 クリックしてマウス・ポインタを下に移動すると、表示倍率が高くなります。
		利用方法:[モード] ボックスでド ロップダウン・メニューを開くか, [表示] > [インタ ラクティブズーム]を選択します。

ボタン	オプション名	このオプションの機能
		注 :このオプションは, IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは利用できません。
	レイアウト・プ ロパティ	クエリ・ノードのポジションとビューの関係を割り当て、ビューのレイヤ・レイアウトを 定義します。詳細については、126ページ「レイアウト プロパティダイアログボック ス」を参照してください。
		利用方法:[レイアウト] > [レイアウト プロパティ]を選択します。
	レイアウト	リストからレイアウト表示を選択します。次のオプションを使用できます。
		• [階層レイアウト]トポロジ・マップ内の優先関係を表示できます。
		• [直 交 ルーティングを持つ階 層レイアウト]水平線と垂直線のみで構成されるエッジで階層レイアウトを表示し、交差する右側の角度を形成します。
		• [対称型レイアウト]複雑なネットワークをわかりやすくビジュアル化して表示 できます。
		• [円型レイアウト] ラフのノードをグループまたはクラスタにグループ化します。
		• [直交レイアウト]水平線と垂直線のみで構成されるエッジでレイアウトを表示し, 交差する右側の角度を形成します。
		各オプションの詳細については、126ページ「レイアウト プロパティ ダイアログ ボックス」を参照してください。
		注 : このレイアウト・オプションは, エンリッチメント・マネージャ, CIT マネージャ, 影響分析マネージャでのみ使用されます。
	ログ設定	[ログ設 定] ダイアログ・ボックスが開きます。
		利用方法:[ツール] > [ログ設定] を選択します。
	マップ概要	トポロジ・マップのコピーを表示する小さなボックスが開きます。この機能は、大きなビューで表示をズーム・インしているときに便利です。
		利用方法:[レイアウト] > [マップ概要]を選択します。 IT ユニバース・マネージャ とモデリング・スタジオで, [レイアウト] > [マップ概要を表示]を選択します。
	ワークスペー スの最大化/ ワークスペー スの復元	トポロジ・マップの通常表示と全画面表示を切り替えます。
	ナビゲーショ ン	時計回りで次の接続された CI/CIT/TQL クエリ・ノードにポインタを移動します。
		 関係を左クリックすると、時計回りに次のCI/CIT/ノード/パターンへ移動します。
		 CI/CIT/クエリ・ノード/パターンを右クリックすると、時計回りに次のCI/CIT/ ノード/パターンへの方向(関係)が強調されます。
ボタ		
-------------	------------	---
シ	オプション名	このオプションの機能
		利用方法:[モード]ボックスでドロップダウン・メニューを開くか, [表示]>[ナビ ゲーション]を選択します。
		注:
		 このオプションは、関係で接続されているCI/CIT/クエリ・ノード/パターンだけ に使用できます。
		 このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは利用できません。
eř	新規 CI	新規の関連付けされていない CI を作成します。詳細については, 154ページ 「CI での作業」を参照してください。
		注 : このオプションがツールバーに表示されるのは, IT ユニバース・マネージャだけ です。
6	新規関連 Cl	新規の関連 CI を作成します。詳細については, 154ページ「CI での作業」を 参照してください。
		注 : このオプションがツールバーに表示されるのは, IT ユニバース・マネージャだけ です。
	中央に配置	選択したCI/CIT/クエリ・ノード/パターンをマップの中央に配置します。
		利用方法:[レイアウト] > [中央に配置]を選択します。
		注 : このオプションは, IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは利用で きません。
	印刷	トポロジ・マップの内容を印刷します。詳細については, 139ページ「[印刷] ダイ アログ・ボックス」を参照してください。
		利用方法:[操作] > [印刷] を選択します。
	印刷プレ	マップの内容を印刷前にプレビューできます。
	21-	利用方法:[操作] > [印刷プレビュー]を選択します。
	印刷設定	トポロジ・マップの印刷設定を定義します。詳細については, 140ページ「[印刷 設定] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
		利用方法:[操作] > [印刷設定]を選択します。
∆ <u>/a</u>	エンリッチメン	CMDB からのエンリッチメント・ルールが作成したインスタンスを削除します。
	▶ 結果を削 除する	注 :このオプションがツールバーに表示されるのは, エンリッチメント・マネージャだけです。
	画面キャプ	画面キャプチャ・ツールを使用して、画面のスナップショットを取ります。
	チヤ	利用方法:[ツール] > [画面キャプチャ] を選択します。
k	選択	単一のCI/CIT/TQL クエリ・ノード,または複数のCI/CIT/TQL クエリ・ノードを

ボタ		
シ	オプション名	このオプションの機能
		選択します。
		利用方法:[モード]ボックスでドロップダウン・メニューを開くか, [表示]>[選択] を選択します。IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオで, [レイアウト>選 択モード]を選択します。
	すべて選択	選択したレイヤ内のすべてのCIと関係を選択します。
		利用方法:[編集] > [すべて選択]を選択します。
		注 : このオプションは, IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは利用で きません。
	全クエリノー	選択したレイヤ内のすべてのクエリ・ノードを選択します。
	ドを選択	利用方法:[編集] > [全クエリノードを選択]を選択します。
		注 :このオプションは, IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは利用で きません。
	カラムの選 択	表示するカラムを選択できます。詳細については,438ページ「[カラムの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
		注 :このオプションは IT ユニバース・マネージャのテキスト・モード でのみ表示され ます。
۲	変更時間 枠の設定	[時間枠を変更]ダイアログ・ボックスが開き,追加または変更した CI インジ ケータの表示時間を設定できます。
		注 : このオプションがツールバーに表示されるのは, IT ユニバース・マネージャだけ です。
ā.	削除の候補	アイコン 🧓 がついた削除候補の CI を現在のビューで識別します。
	ど 衣 小	注 : このオプションがツールバーに表示されるのは, IT ユニバース・マネージャだけ です。
٩	[スケジュール 情報を表 示]	選択したジョブのスケジュール情報を表示します。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「「ディスカバリスケジューラ」ダイ アログ・ボックス」 を参照してください。
		注 : このオプションは, DFM の [依存関係 マップ] タブのツールバーに表示されま す。詳細については, 『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[依 存関係 マップ]タブ」を参照してください。
≞↑	カラム コンテ ンツの並 ベ	表示されているカラムの順序を設定できます。詳細については,439ページ「[カ ラムコンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	督え	注 :このオプションは IT ユニバース・マネージャのテキスト・モード でのみ表示され ます。
	そろえる	角度がある2つのクエリ・ノード間の選択した関係をまっすぐにできます。

ボタ		
ź	オプション名	このオプションの機能
		利用方法:[レイアウト] > [そろえる] を選択します。
		注 : このオプションは, エンリッチメント・マネージャと影響分析マネージャでのみ 使用できます。
	ユーザ・プリ ファレンス	[ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックスが開き,そこで警告メッセージのプリファ レンスをリセットできます。詳細については,80ページ「[ユーザプリファレンス] ダイ アログ・ボックス」を参照してください。
		利用方法:[ツール] > [ユーザプリファレンス]を選択します。
	ユーザ・プロ ファイル	[ユーザ・プロファイル] ダイアログ・ボックスが開き,現在ログインしているユーザの ユーザ詳細情報が表示されます。
		利用方法:[ツール] > [ユーザプロファイル]を選択します。
	ズーム イン	トポロジ・マップ内の拡大する部分をクリックし,選択の矩形で囲むことによって,その部分を拡大表示できます。選択した領域は,トポロジ・マップに収まる 最大の倍率で表示されます。
		利用方法:[モード] ボックスでドロップダウン・メニューを開くか, [表示] > [ズーム イン] を選択します。 IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオで, [レイアウ ト] > [ズーム イン] を選択します。

[トポロジ マップ] サイドバー

トポロジ・マップの各 サイド バー・オプションについて,次の表で説明します。 [トポロジ マップ] サイド バーは, IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオに表示 されます。

ボタン	オプション名	このオプションの機能
»	レイアウト ツールバーを右 / 左 <i>へ</i> 移動	サイドバーを画面の右側または左側に移動します。
€	ズーム イン/ズーム アウト	トポロジ・マップでズーム・インまたはズーム・アウトします。 注:地図全体が表示枠に表示されている場合,ズーム・アウ ト機能は無効になります。
>	選択モード / ドラッグ・モー ド	トポロジ・マップで選択モードとドラッグ・モードを切り替えます。
	最適なレイアウトを取得す	トポロジ・マップを更新し、レイアウトを最適化します。

ボ タ		
ン	オプション名	このオブションの機能
	るため更新	
	ウィンド ウに合わせる	マップ全体を表示枠内にぴったり収めます。
	マップ・レイアウトを変更	マップ・レイアウトを選択します。次のオプションを利用できます。
		• 🏯 [階層レイアウト]トポロジ・マップ内の優先関係を表示で きます。
		• ^{「1} [直交ルーティングを持つ階層レイアウト]水平線と垂直 線のみで構成されるエッジで階層レイアウトを表示し、交差 する右側の角度を形成します。
		• に [円 形レイアウト]グラフのノードをグループまたはクラスタに グループ化します。
		• ^{[読} [直行レイアウト]水平線と垂直線のみで構成されるエッジでレイアウトを表示し、交差する右側の角度を形成します。
		• !! [対称型レイアウト]複雑なネットワークをわかりやすくビジュアル化して表示できます。
122	マップ設定:	次の設定を修正できます。
		• ² エッジのラベルを非表示すべての関係のラベルを非表示 にします。
		• エッジの強調表示を有効化 選択したクエリ・ノードのすべての関係を強調表示します。
		• 三 ラベルを表示 / 非表示 トポロジ・マップの凡例の表示/ 非表示を切り替えます。
Ĩ	マップ・ツール	次のツールが利用できます。
		•
		• 📼 [印刷]トポロジ・マップを印刷します。
		• 🔝 [画像ICマップをエクスポート]トポロジ・マップをファイルに 保存します。
82	すべてのグループを展開:	トポロジ・マップですべての CI グルーピングを展開します。
		注:このオプションは、グルーピング・オプションが選択されている

ボタン	オプション名	このオプションの機能
		場合にのみ利用できます。
5	すべてのグループを折りた	トポロジ・マップですべての CI グルーピングを折りたたみます。
	<i>1</i> =0	注 : このオプションは, グルーピング・オプションが選択されている 場合にのみ利用できます。



第7章

IT ユニバース マネージャ

本章の内容

IT ユニバース・マネージャの概要	151
IT ユニバース・マネージャでの作業	152
ツリー構造を表示	154
CI での作業	154
関係での作業	156
CMDB での CI と関係 の作 成	160
関連 CI の表示	161
アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック(ビューの再検出)	162
影響分析結果の取得 - シナリオ	164
ビューのスナップショットを取る	169
トポロジ・マップをファイルに印刷して保存	169
IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース	169

IT ユニバース・マネージャの概要

IT ユニバース・マネージャにより, IT ユニバース・モデルのコンテンツを管理できます。 次に, このアプリ ケーションの基本機能を示します。

- 関係を作成せずに CI を作成: CMDB に追加する新しい CI を個々に定義して,新しい関係が作成されないようにできます。詳細については,154ページ「非関連 CI の作成」を参照してください。
- 対応する関係を持つ CI を作成:新しい CI を定義して既存の CI に関連付けることで、新しい CI と新しい関係を CMDB に定義できます。詳細については、155ページ「関連 CI の作成」を参照してください。
- 既存のCIを追加して, 追加した CI の関係を作成: CI を既存のCI に関連付けると, 既存の CI に対して新しい関係を作成できます。詳細については, 158ページ「既存のCI の関連付け」 を参照してください。
- CIの削除: CIをCMDBから削除できます。詳細については、155ページ「CIの削除」を参照してください。
- 影響分析結果の取得:ビューに定義した影響ルールを実行すると、定義された特定の変化がシステムに及ぼす影響をシミュレートし、変化の根本原因を発見できます。影響ルールの詳細については、356ページ「影響分析マネージャの概要」を参照してください。

ビューのスナップショットを取る: HP Universal CMDBでは、ビューのステータスを別の時点で取得したステータスと比較して、1つのスナップショットに表示できます。スナップショットを取る方法の詳細については、169ページ「ビューのスナップショットを取る」を参照してください。

IT ユニバース・モデルの作 成

CMDB内のITユニバース・モデルには、HP Universal CMDB内で動作するCI生成ツールによって 生成されたCIと関係が含まれています。ほとんどのCIと関係は、次のいずれかのソースから発生し ます。

- データフロー管理(DFM): 社内のインフラストラクチャ内で検出された IT リソースやトポロジに基づいて、CI と関係を自動的に作成します。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「「データ・フロー管理の概要」」を参照してください。
- IT ユニバース マネージャ:ビジネスの論理要素や物理要素を表す CI と関係を手動で作成できます。詳細については、154ページ「CI での作業」を参照してください。
- [エンリッチメント マネージャ]: エンリッチメント TQL クエリに定義されているエンリッチメント・クエリ・ ノードの属性からデータを受け取ることで, CI と関係を CMDB に追加できます。詳細について は、404ページ「エンリッチメント・マネージャ」を参照してください。

IT ユニバース・マネージャでの作業

IT ユニバース・マネージャでは, ビューレベルでデータを分析します。ビューは, IT ユニバースのサブセットで, 特定の対象領域に関連する CI だけが含まれています。 すべてのビューは, ビューの内容を決定するパターンに基づいています。

- パターン・ビューとテンプレート・ベース・ビューは、ビューの構造を定義するTQL(トポロジ・クエリ言語)クエリから構築されます。ビューには、クエリ定義に適合するCIと関係だけが表示されます。
- パースペクティブ・ベース・ビューは、 CI のグループを選択し、パースペクティブを適用することによって 手作業で構築します。パースペクティブとは、ビューに含まれる関連 CI の定義に使用するパターンです。

ビューの各タイプに応じたエディタを使うことによって, すべてのビューはモデリング・スタジオで構築します。 異なる種類のビューと, それぞれの機能については, 201ページ「ビュー形式」を参照してください。

注:ビューを編集するには、ビューの更新権限が必要です。必要な権限がない場合は、HP Universal CMDBの管理者にお問い合わせください。

DFM で作成した CI は, CI(およびその関係) がビューの TQL 定義に適合するように, 各ビューに自動的に追加されます。 [CI の選択] でビューを開くと, そのビューの TQL クエリにより, 定義されている パターンにー致する CI が存在するかどうか, CMDB にクエリされます。 一致する CI が見つからない場合 (プロセスがまだ実行されていない DFM プロセスのビューのときなど), ビューは空の状態のままになります。

フェデレート・データ・ソースの統合ポイント全体で実行するようにクエリを定義することにより,外部 データ・ソース(フェデレート CI)からの CI をビューに含めることもできます。 フェデレート CI は, フェデレー ト・ソースから取られたことを示す矢印 アイコンとー 緒にビュー内に表示されます。



フェデレート・データ・ソースの詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「「Integration Studio の概要」」を参照してください。

IT ユニバース・マネージャのビューで作業しているときに新しい CI を定義すると、CI(およびすべての関連付けられた関係)が CMDB に作成されます。CI は、現在のビューの TQL 仕様を満たしている場合のみビューに追加されます。

作成した CIと関係が TQL の要件を満たしていない場合,その CIと関係は CMDB 内に作成されますが,ビューには表示されません。同様に,既存の CI をビュー内の CI に関連付け,新しいパターンが TQL の要件を満たしていない場合,関連付けた CI はビューに表示されませんが,その関係は作成されています。

テンプレートとテンプレート・ベース・ビュー

テンプレートを IT ユニバース・マネージャで開くと、パターン・ビューのようにトポロジ・マップでテンプレート が表示されます。[CI の選択]ツールバーの[テンプレート パラメータを表示]ボタン ^(P)をクリックすると、 [テンプレート パラメータ値]ダイアログ・ボックスが開き、テンプレート・パラメータの値を変更してトポロ ジ・マップ内の表示結果を変更できます。さまざまなパラメータ値を試してトポロジ・マップがどう変わる のかをご覧ください。なお、変更はテンプレート 自体に保存 することはできません。選択したパラメータ とともにテンプレート・ベース・ビューに表示結果を保存 するには、[テンプレート パラメータ値]ダイアロ グ・ボックスで[ビューに名前を付けて保存]ボタンをクリックします。

ITトポロジ・マネージャ内のテンプレートへのダイレクト・リンクを作成して, パラメータ値を直接 URL に 挿入することもできます。 詳細については, 88ページ「パラメータ値を含むテンプレートへのダイレクト・リ ンクの作成」 を参照してください。

ビューのライフサイクル

ー 定 期間, [CI の選 択] からビューへのアクセスがなければ, システムのメモリを節 約 するためにビュー はクリアされます。ただし, ビューは CMDB からは削 除されていないので, そのビューをクリックすると再 び取 得 できます。 未 使 用 のビューをクリアする標 準 設 定 の期間 は 1 時間 です。

注:永続として定義されているビューはクリアされることはなく、常にメモリに保持されます。

非表示ビュー

非表示ビューのバンドルを定義してそのバンドルにビューを割り当てると、IT ユニバース・マネージャに 表示されない非表示ビューとしてビューを指定できます。

ビューを非表示ビューとして指定するには、次の手順を実行します。

- 1. インフラストラクチャ設定マネージャで、[CIの選択に含まれる非表示のパンドル名]を選択します。
- 2. 標準設定値として新規バンドル名を入力し,設定を保存します。
- 3. 関連するビューをモデリング・スタジオで開き、ツールバーの[定義プロパティの表示]ボタン⁽¹⁾をクリックします。
- 4. [定義プロパティの表示]ダイアログ・ボックスで,非表示ビューのバンドルを選択しそのバンドルに ビューを割り当てます。

ツリー構造を表示

ビューは, IT ユニバース・マネージャの左表 示枠 に階層 ツリー形式 で表示されます。 これをビュー エク スプローラ(または CI の選択) と呼びます。 これをビュー エクスプローラ(または CI の選択) と呼びます。 ビューの名前は, ツリー上部の[ビュー] ボックスに表示され, ビュー内の CI を格納するフォルダとして 機能します。

[CI の選択]ツリーの最初のレベルは、 ルート CI のクエリ・ノードから構成されています。 ルート CI は、 ビューのサブツリーの起点です。 ビューには、 任意の数のサブツリーが含まれます。 ルート CI の下には 分岐 CI があり、 各分岐の末端の最終クエリ・ノードであるリーフ CI まで展開されます。

サブツリー内の各レベルの CI は、そのすぐ上の分岐上にある CI に関連付けられているとみなされます。この関係付けは、一般に依存関係を表しています。したがって、上位の(ルート CI に近い)分岐 はビジネス・プロセス内の1つ下の(リーフ CI に近い)分岐上にある CI に依存するビジネスのコンポー ネントを表します。たとえば、アプリケーションはそのアプリケーションを実行するサーバに依存します。

上位クエリ・ノードと下位クエリ・ノードの関係付けは,親子関係と呼ばれます。親 CI は多くの関係 付けられた子 CI を持つことができ,子 CI は親に動作ステータスを渡します。

ツリーのトポロジは、そのビューに定義された階層によって決定されます。パターン・ビューでは、これら は特定のビューに対して定義されます。テンプレート・ベース・ビューやパースペクティブ・ベース・ビューの 階層は、テンプレートまたはパースペクティブの一部として定義されます。階層定義の詳細について は、202ページ「ビュー階層の設定」を参照してください。

CI での作業

IT ユニバース・マネージャでは, 関連 CI および非関連 CI の作成, CI の削除, CI プロパティの編集, エイジング・メカニズムを使用した古い CI の削除を行うことができます。

本項の内容

- 154ページ「非関連 CI の作成」
- 155ページ「関連 CI の作成」
- 155ページ「CIの削除」
- 155ページ「CI プロパティ」
- 156ページ「エイジング・メカニズムを使った期限切れ CI の削除」

非関連 CI の作成

IT ユニバース・マネージャで新規 CI を定義するには, ツールバーで[新規 CI]ボタン ²⁰をクリックしま す。 [新規 CI]ダイアログ・ボックスが開き, 新しい CI プロパティを定義できます。 CMDB に CI が作成 されます。 詳細については, 190ページ「[新規 CI]/[新規関連 CI]ダイアログ・ボックス」 を参照してく ださい。

注: CI は, ビューのパターン, テンプレート, またはパースペクティブの仕様に適合する場合にの みビューに追加されます。

この方法で作成された CIは, CMDB に存在するほかの CIと関係を持たない独立したエンティティとして追加されます。

関連 CIの作成

新しいCIが、既存のCIの親、子、または兄弟として追加されるように定義できます。

新しい関連 CIを定義するには、次の手順を実行します。

- 1. 新しい CIを関連付ける CIをビューで選択します。
- 2. ツールバーの[新規関連 CI] ³ボタンをクリックします。
- 3. [新規関連 CI]ダイアログ・ボックスで、CI プロパティと関係を定義します。詳細については、190 ページ「「新規 CI]/「新規関連 CI]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

CIと関係がCMDBに作成されます。

注: CI と関係は、ビューのパターン、テンプレート、またはパースペクティブの仕様が一致した場合のみビューに追加されます。

CI の削除

CIを削除するには、IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニューで[CMDB から削除]を選択します。CI が CMDB およびすべてのビューから削除されます。CI に子 がある場合は、親 CI を削除しても子は自動的には削除されません。ビュー内で親 CI と、親 CI とともに表示される子 CI の関係を削除せずに親 CI を削除すると、子 CI はビューに表示されなくなります。

子 CI がほかのビューに表示されていない場合,子 CI はビューに表示されませんが CMDB には残されています。それらの子 CI は, パターン要件を満たした場合にそのビューに表示されるようになります。

このルールの例外は,子 CIと親 CIの関係が Composition の場合です。この場合は,親 CIが削除されると,それに含まれている CIも CMDB から削除されます。たとえば,ノード CIが子 CPU CIの コンテナである場合,ノード CIが削除されると,CPUも CMDB から削除されます。

DFM プロセスによって作成された CI を削除すると、次に DFM が実行されるときに CI が復元され(CI がまだ有効であった場合),関連するすべてのビューに再び表示されます。

CIプロパティ

Cl プロパティは, IT ユニバース・マネージャで編集できます。 Cl プロパティは複数のカテゴリに分割され て[新規 Cl]ダイアログ・ボックスに表示されます。

- CI の一般 プロパティは, すべての CI で共通です。一般 プロパティには, CI の作成中に自動的に 定義されるものと, [新規 CI]ダイアログ・ボックスで手動による定義が必要なものがあります。
- CIT 固有のプロパティは、CIタイプ・マネージャでCIT 定義の一部として作成されます。CIT 固有のプロパティの値は、DFM 中に検出されたCIから取得されます。インフラストラクチャ内のエンティティを表すためにCIを手動で作成する場合は、これらの値を手動で入力することもできます。詳細については、372ページ「CIタイプ・マネージャ」を参照してください。
- キー プロパティには一般 プロパティと CIT 固有のプロパティがあり、CI タイプのインスタンスを作成するために値を割り当てる必要があります。

IT ユニバース・マネージャから[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスにアクセスして CI プロパ ティを表示するには、CI を右 クリックして[**プロパティ**]を選択するか、[詳細]表示枠で[プロパティ]タブ をクリックします。CI の編集に必要な権限を持っている場合は、CI プロパティを編集することもできま す。CI プロパティの詳細については、173ページ「[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス」を参 照してください。 CIT 固有のプロパティは、[カテゴリ分け済み]ボタンを使用してプロパティを並べ替えると、[構成アイ テムのプロパティ]ダイアログ・ボックスの特定のプロパティ・セクションに表示されます。自動的に作成さ れた CI プロパティには編集できるものもありますが、CI が[Allow CI Update](全般プロパティ)に設 定されている場合は、DFM が CI を更新するときに変更内容を上書きする場合があります。選択し たプロパティの説明は、[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスの下部にある詳細領域で確 認できます。

DFM CI の CIT 固有 のプロパティには,変更を監視するように標準で設定されるものがあります。これらのプロパティが修正された場合は,変更に関する情報を CI 変更レポートで表示できます。詳細については,291ページ「CI 変更レポート」を参照してください。

エイジング・メカニズムを使った期限切れ CIの削除

CI または関係が一定期間,更新またはリフレッシュされていない場合(CI が DFM によって再検出されておらず,かつ手動更新が実施されていないときなど),エイジング・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルとエイジング・メカニズム」を参照してください。

注: CIに適用される次の操作は、フェデレート CIでは実行できません。

- CI プロパティの編集
- CIの削除
- 別のCIとの関係の作成
- CI履歴の表示
- ディスカバリ・ジョブへの CI の追加
- ディスカバリ・ジョブからの CI の削除

関係での作業

CMDB における CI 間の関係の多くは、DFM などによって自動的に作成されます。また、IT ユニバース・マネージャ、エンリッチメント・マネージャ、影響分析 マネージャ、モデリング・スタジオでは、手動で関係を作成することもできます。

本項の内容

- 156ページ「関係の作成」
- 157ページ「階層関係の作成」
- 158ページ「既存のCIの関連付け」
- 158ページ「ビュー階層の設定」
- 158ページ「関連 CI の表示」
- 159ページ「関係の削除」
- 159ページ「レイヤ間の関係」

関係の作成

関係を作成するには、[CIの選択]表示枠またはトポロジ・マップで1つまたは複数のCIを右クリックし、ショートカット・メニューで[CIに関連付け]を選択します。トポロジ・マップでは、ツールバーの[関係

を作成]ボタン 🚺 を使用してビュー内の2つのCIの間に線を引くことによって,2つのCIの関係を定 義できます。 いずれの操作でも[関係を挿入]ダイアログ・ボックスが開きます。 詳細については,178 ページ「[関係の挿入]ダイアログ・ボックス」 を参照してください。

CMDB内のCIとほかのCIとの間で必要な数の関係を作成できます。新しい各関係は、独自のエンティティとしてCMDB内に存在し、ITユニバース・マネージャで編集可能な独自のプロパティを持っています(173ページ「[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス」を参照してください)。各関係が異なる関係のタイプに基づいている場合は、2つの同じCIの間に複数の関係を作成することもできます。次の例では、host7はBackboneとTalkの2つの関係をswitch3に対して持っています。



階層関係の作成

CIをITユニバース・マネージャの別のCIに関連付けることにより、CI間に階層関係(親子関係)を 作成し、1つのCIがほかのCIの影響を受けるようにします。

この方法で定義された関係は、関係タイプ[Usage](関係が2つの非モニタリングCI間の場合)または関係タイプ[Monitored By](関係内の子 CI がモニタ・タイプCI の場合)に制限されますが、特定のタイプのCI間では、ほかの関係タイプが使用されます。たとえば、2つのノード CI 間で関係を定義する場合、複数の関係タイプが可能になります。



注:子 CIを親 CI に関連付ける場合, CMDB内でその関係が作成されます。このため,子は,関係が存在するすべてのビューにおいて親 CI に影響を与えるとともに,子と関係がTQL クエリに一致するすべてのビューに表示されます。

既存のCIの関連付け

[関係を挿入]ダイアログ・ボックスを使用すると、既存のCIを関連付けることができます。このダイアログ・ボックスには、次の2つのモードがあります。

- 関連付けるCIを選択する。
- 元のCIと関連付けるCIの関係を定義する。

関連付ける CI を選択する場合, 複数の CI をビューから選択して元の CI に関連付けることができま す。ただし, 一度の操作で関連付ける CI はすべて, 同じ関係のタイプを持っている必要があります。 たとえば, [Usage]関係を使用する CI を, [Monitored By]関係を使用する CI と同じ操作で関連 付けることはできません。

注: SiteScope のモニタ CI は, RTSM 内からほかの CI に関連付けないでください。SiteScope 内から SiteScope モニタ CI へのリンクのみを作成してください。

ビュー階層の設定

ビューのクエリ・ノード 定義と関係 定義を設定した後は、そのビューに対して階層を設定できます。これにより、選択した CI が異なるレベルで表示されるようになり、ビュー内の CI の組織構造を定義できます。階層を定義しなかった場合、トポロジ・マップまたはテーブルは標準で、クエリ結果に含まれるすべての CI を 1 つのレベルで表示します。たとえば、クエリ結果にノードとIP Subnet が含まれる場合、トポロジ・マップまたはテーブルではどちらの CI タイプも同じレベルで表示されます。

注:トポロジ・マップで1つのレイヤに表示できるCIの最大数は900個です。ビューに900個を 超えるCIが存在するレイヤがある場合, 階層が変更されるまで, そのビューはトポロジ・マップに 表示されません。ただし, 900個を超えるCIが存在するレイヤは, テキスト・モードのテーブルに は表示できます。

階層設定の詳細については、202ページ「ビュー階層の設定」を参照してください。

関連 CIの表示

選択した CI に関連する CI はすべて, トポロジ・マップで表示できます。ビューで CI を選択し, [**関連** CI] タブを選択します。[関連 CI を取得] 表示枠では, 表示範囲を選択できます。[**表示**]を選択 すると, トポロジ・マップには, 選択した CI とビュー内の関連 CI だけが表示されます(ビュー階層内の 位置は関係しません)。[CMDB]を選択すると, 選択された CI と CMDB 内の関連 CI すべてが表 示されます。[関連 CI を取得] 表示枠の結果に CI タイプごとのフィルタを適用して, CI にパースペク ティブを適用することもできます。詳細については, 189ページ「[関連 CI を取得] 表示枠」を参照し てください。

[CMDB]ダイアログ・ボックスの[関連 CIを取得]を使用して, [関連 CI]を表示することもできます。 詳細については, 177ページ「[CMDB からの関連 CIの取得]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

関係の削除

トポロジ・マップには,現在のビューに含まれる CI の関係だけが表示されます。ただし,同じ関係がほかのビューにも含まれる場合があます。IT ユニバース・マネージャで関係を削除すると,その関係は CMDB とすべてのビューから削除されます。

関係を削除した場合、ビューのパターンに一致する場合には、関係の対極にある CI はビューに表示された状態になる場合があります。ただし、削除した関係が composition link である場合、ターゲット CI もともに削除されます。

パースペクティブ・ベース・ビューでは, モデリング・スタジオのパースペクティブ・ベース・ビュー・エディタで ビューから非 表 示 にすることによって, CI をビューから完 全 に削 除 できます(CMDB からは削 除されま せん) 。

DFM プロセスによって作成された関係を削除すると、次に DFM が実行されるときに関係が復元され (関係がまだ有効であった場合),関連するすべてのパターン・ビューに再び表示されます。

ビューからサブツリーまたは複数のCIと関係を削除するには、数分かかることがあります。

レイヤ間の関係

ー 定の状況において、IT ユニバース・マネージャはビューの1つのレイヤにある CI 間の関係を表示しますが、その関係には、そのレイヤにある CI 間の実際の関係ではなく、むしろビューのさらに深いレイヤにある CI 間の関係が反映されます。そのような関係をレイヤ間関係と呼びます。

たとえば次のビューでは、2 つのノード CI が依存関係でお互いに関連し合っています。また、それぞれがメンバシップ関係によって IP Subnet に関連付けられ、ノードが IP Subnet の下のレイヤになるよう にビュー階層が定義されます。



IT ユニバース・マネージャでビューを削除すると、実際の関係はビューの下層レイヤにある CI 間にのみ存在するとしても、異なる IP Subnet の下のノード CI 間の関係が、親 IP Subnet 間の関係としてビューの上層レイヤに表示されます。 IP Subnet 間のフル・パスを表示するには、関係をダブルクリックしてください。

別の形態のレイヤ間関係は、上層レイヤにある同タイプの複数の親 CI の下に同じ CI が表示され る場合に発生します。そのような場合は、階層定義に従って、子 CI とその関係がビュー内で複製さ れます。そのような子 CI の関係により、親 CI の間でレイヤ間関係が作成されます。このタイプのレイ ヤ間関係を重複メタリンクと呼びます。

たとえば次のビューでは、1 つのノード CI が階層内の2 つの IP Subnet CI の下に存在しています。そのためこのノードとその子は、各 IP Subnet の下に1回ずつ、ビュー内に2回表示されます。各ノードは他方の IP Subnet 以下のノードの子 CI に事実上関連付けられており、これにより、2 つの IP Subnet 間でレイヤ間関係が生成されます。



レイヤ間関係と重複メタリンクは、トポロジ・マップにグレーで表示されます。IT ユニバース・マネージャ では、レイヤ間関係の場合に次のオプションを選択できます。

- なし:全レイヤ間関係を非表示
- Inter Layer: 重複メタリンクではなく、最初のタイプのレイヤ間関係を表示します。
- フル: 重複メタリンクを含むすべてのレイヤ間関係を表示します。

レイヤ間関係のツールチップは、その関係が表す内部関係を示します。内部関係が1つだけの場合は、関係ラベルにその関係タイプが表示されます。複数の内部関係がある場合は、ラベルが[中間 層]となり、ツールチップにすべての内部関係が一覧表示されます。内部関係の数が10を超える場合は、最初の10件のみが表示され、さらに内部関係が存在することが注記に示されます。

CMDB での CI と関係の作成

このタスクでは, 関連 CI と非関連 CI, および CI 間の関係を CMDB 内に作成する方法について説明します。

本項の内容

- 161ページ「新しい非関連 CI の定義」
- 161ページ「新しい関連 CI の定義」
- 161ページ「既存のCIの関係付け」

新しい非関連CIの定義

ツールバーの[**新規関連 CI**]ボタン³⁰をクリックします。 [新規関連 CI]ダイアログ・ボックスで, CIタイ プをツリーから選択し, 新しい CI プロパティを定義します。 詳細については, 190ページ「[新規 CI]/ [新規関連 CI]ダイアログ・ボックス」 を参照してください。

新しい関連CIの定義

ツールバーの[新規関連 CI]ボタン ³⁰ボタンをクリックします。[新規関連 CI]ダイアログ・ボックス で, CIタイプをツリーから選択し,新しいCIプロパティを定義します。ダイアログ・ボックスの[関係] ページで,関係のタイプを選択してプロパティを定義します。詳細については,190ページ「[新規 CI]/ [新規関連 CI]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

既存のCIの関係付け

ビューで CI を選択します。CI を右クリックして[CI に関連付け]を選択します。[関係を挿入]ダイア ログ・ボックスで、ターゲット CI を選択します。ダイアログ・ボックスの[関係]ページで、関係のタイプを 選択してプロパティを定義します。詳細については、178ページ「[関係の挿入] ダイアログ・ボックス」を 参照してください。

関連 CIの表示

次の手順で, IT ユニバース・マネージャで関連 CI を表示するオプションについて説明します。

- 161ページ「関連 CI の表示」
- 161ページ「表示範囲の選択」
- 162ページ「関連 CI のフィルタ処理」
- 162ページ「CI へのパースペクティブの適用」

関連 CIの表示

IT ユニバース・マネージャで、トポロジ・マップまたは CI の選択 で CI を選択して、 [関連 CI] タブを選

択します。 [関連 CI の取得を有効化]ボタン 🚱 をクリックします。 選択した CI とその関連 CI が表示されます。 [CI の選択] から別の CI または複数の CI を選択すると、 それに応じて表示 が変更されます。

注:関連 CIの内容は、マップ・モードまたはテキスト・モードで表示できます。

[関連 CIを取得]ユーザ・インタフェースの詳細については、189ページ「[関連 CIを取得]表示枠」 を参照してください。

表示範囲の選択

[関連 CI を取得]表示枠で, 関連 CI の表示範囲を選択します。[**関連 CI を表示**]ボタンをクリックします。選択した範囲に応じて, 表示内容が変更されます。

関連 CI のフィルタ処理

[CI タイプで関連する CI をフィルタリング] セクションで, 関連 CI で表示する CI タイプを選択します。 [関連 CI をフィルタ] ボタンをクリックします。フィルタ処理の結果がタブに表示されます。上記で選択 した範囲は適用されたままで, 選択したフィルタに応じて表示内容が削減されます。

CI へのパースペクティブの適用

[Apply Perspectives to CI] セクションで,選択した CI に適用 するパースペクティブを選択します。 [パースペクティブを適用] ボタンをクリックします。結果 がタブに表示 されます。

注:この機能は、範囲として[CMDB]が選択されている場合にのみ有効です。

アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック(ビューの 再検出)

アプリケーションの所有者または管理者は、アプリケーションに発生する問題を常に把握している必要があります。たとえば、ディスカバリが正しく機能していて、現在の設定でアプリケーション・データベースに接続できることを知っておく必要があります。本項では、アプリケーションのディスカバリの現在のステータスをチェックする再検出手順を実行する方法について説明します。

注:

- セットアップと設定は、UCMDB管理者が実行します。詳細については、162ページ「前提条件」を参照してください。
- 再検出は、アプリケーションの所有者または管理者が実行します。詳細については、163 ページ「ビューへのアクセス」を参照してください。
- この手順を実行するのに、データ・フロー管理(DFM)の知識は必要ありません。
- 標準設定では、10,000個より少ないCIを含むビューに対して再検出手順を実行できます。この数値を変更する方法の詳細については、197ページ「重要情報」を参照してください。

本項の内容

- 162ページ「前提条件」
- 163ページ「ビューへのアクセス」
- 163ページ「ビューに結果を表示」
- 163ページ「再検出のスケジュール設定」
- 1. 前提条件

注:この手順は、UCMDB管理者が実行します。

a. DFM で, アプリケーションを検出する必要があるジョブを含むモジュールを作成します。詳細 については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「モジュール/ジョブベースの ディスカバリ・ワークフロー」を参照してください。

- b. モジュールとすべてのジョブをアクティブにします。 ジョブは, アクティブな状態にしておく必要があ ります。
- c. モジュールがエラーなく実行されたことを確認します。詳細については、HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイドの「エラー・メッセージの概要」および「「ディスカバリモジュール/ジョブ -詳細]タブ」を参照してください。
- d. アプリケーションのエラーを修正し、次の実行時にDFM でエラーが検出されないことを確認します。

注意: アプリケーションの所有者は, DFM によってエラーが報告されている場合は, ビューを再検出できません。エラーのないベースラインを設定する必要がありま す。

- e. モデリング・スタジオで,再検出対象のアプリケーション Cl(1 つまたは複数)を含むビューを定 義します。これらは,アプリケーションを検出するジョブをアクティブにするときに作成される Cl です。詳細については,213ページ「パターン・ビューの作成」を参照してください。
- f. アプリケーションの所有者にビューの名前を通知します。

2. ビューへのアクセス

注:このステップは、アプリケーションの所有者または管理者が実行します。

IT ユニバース・マネージャで,再検出対象のアプリケーション CI を含むビューにアクセスします。詳細については,111ページ「検索モードでの CI の検索」を参照してください。

3. ビューに結果を表示

a. 完全なアプリケーションをチェックします。[CIの選択]ツールバーで[ディスカバリおよび変更の

サマリを表示]ボタン きをクリックします。 [ディスカバリのステータスおよびビューの変更を表示]ダイアログ・ボックスが表示されます。 ダイアログ・ボックスには、 DFM によってジョブのディスカバリが最後に実行されたときの、ビュー内で CIを検出したジョブと CI に関する情報が表示されます。 詳細については、 197ページ「「ディスカバリのステータスと変更の表示] ダイアログ・ボックス」 を参照してください。

ディスカバリを実行するには、 [検出を再実行]ボタンをクリックします。 ジョブとトリガ CI に関す る情報を表示するには、 リンクを使用してドリル・ダウンします。 詳細については、 『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』の「エラー・メッセージの概要」 を参照してく ださい。

b. アプリケーションの特定のコンポーネントをチェックします。コンポーネントのCIを[トポロジマップ]表示枠で選択し、[詳細]表示枠に[ディスカバリ]タブを表示します。詳細については、197ページ「[ディスカバリのステータスと変更の表示]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

複数のCIを再検出するには、CTRLキーを押してCIを選択し、[ディスカバリ]タブを表示します。

ディスカバリを実行するには、[検出を再実行]ボタンをクリックします。

4. 再検出のスケジュール設定

再検出手順を実行する頻度について,スケジュールを設定できます。[ジョブ定義]ウィンドウ

で, [ビューでディスカパリを再実行]アクションを選択します。詳細については, 「[ジョブ定義]ダイ アログ・ボックス」を参照してください。

影響分析結果の取得 - シナリオ

影響分析マネージャでは、特定のインフラストラクチャの変化がシステムに及ぼす影響をシミュレート できる影響ルールを作成できます。影響ルールの結果は、IT ユニバース・マネージャに表示されます。 このタスクの影響分析結果は、接続されているノードに CPU 操作の変化がどのような影響を与える かを示してします。

本項の内容

- 164ページ「影響分析 TQL クエリの定義」
- 164ページ「影響ルールの定義」
- 166ページ「モデリング・スタジオでのビューの作成」
- 166ページ「影響分析結果の取得」
- 1. 影響分析 TQL クエリの定義

影響分析 TQL クエリを定義するには、影響ルールを作成し、次にクエリを定義する TQL クエリ・ ノードと関係を追加する必要があります。

影響分析 TQL クエリを作成するには、 [マネージャ]> [モデリング]> [影響分析マネージャ]を 選択します。 クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、 25ページ「TQL クエ リへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

影響分析 TQL クエリの例:

この影響分析 TQL クエリでは、CPU とノードを Composition 関係 でリンクします。



2. 影響ルールの定義

影響 ルールを定義するときは、クエリ・ノード間で必須の因果関係を指定する必要があります。1 つのクエリ・ノードをトリガすなわちシステムに加える変更を示すクエリ・ノードとして、別のクエリ・ ノードをその影響を受けるものとして定義します。

トリガとして定義するクエリ・ノードを右クリックし、[影響を受けるものを定義]を選択して、[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックスを開きます。トリガ・クエリ・ノードの影響を受けるクエリ・ノードを選択して、[次へ]をクリックします。次に、[追加]ボタンをクリックして、[影響ルール定

義]ダイアログ・ボックスを開き、影響を受けるクエリ・ノードを定義する条件を設定します。影響 ルールを定義する方法の詳細については、367ページ「[影響ルール定義]ダイアログ・ボックス」 を参照してください。

注:影響ルール定義の[変更]状態オプションは影響分析には関係しなくなりました。サポートされる状態は[操作]のみです。

影響ルールの例:

[影響ルール定義]ダイアログ・ボックスの[条件]領域で,システムの変更シミュレーションが 起動される条件を定義します。ダイアログ・ボックスの下部で,影響を受けるクエリ・ノードに 対する影響の重要度を定義します。

この例の状態の影響ルールでは、CPU動作が標準状態でないときにノードに影響があります。トリガの重要度が100%に設定されているため、ノードの重大度はCPUの重大度と同じになります。この重大度は影響分析の実行時に決まります。

▲ 影響ルー ノ	「定義」
詳細:	
条件	
状態:	operation
演算子:	等価
値の比較:	Normal
対象範囲	
◉ 任意	
() † ≪ र	
◯ 範囲	0 % - 100 %
〇固定され	た重大度: Critical ▼
◉ 重大度は	トリガの重大度との相対値 (%): 100
	OK (キャンセル)

結果のTQL クエリでは、トリガ・クエリ・ノードとして定義されたクエリ・ノードの横に上向き矢印が表示され、影響を受けるクエリ・ノードとして定義されたクエリ・ノードの横に下向き矢印が表示されます。



3. モデリング・スタジオでのビューの作成

モデリング・スタジオに移動し, 定義した影響 ルールの TQL クエリとー 致するビューを作成します。 詳細については, 249ページ「パターン・ビュー・エディタ」を参照してください。

4. 影響分析結果の取得

[マネージャ>[モデリング]>[IT ユニバースマネージャ]を選択し、[CIの選択]から必要なビューを選択します。影響分析結果を取得するには、トポロジ・マップ内のトリガとなる CI インスタンスに対して影響ルールを実行する必要があります。トリガ CI を右クリックし、[影響分析を実行]を選択して[影響分析を実行]ダイアログ・ボックスを開きます。影響ルールを実行する方法の詳細については、194ページ「[影響分析を実行]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

影響分析結果の取得例:

Composition の関係によって接続されている CPU とノードを含む,影響分析 TQL クエリが 作成されています。 CPU クエリ・ノードはトリガ・クエリ・ノードとして定義され,タイプ・ノード のクエリ・ノード は影響を受けるクエリ・ノードとして定義されています。

このクエリには、次の影響ルールが定義されています。

🏄 影響ルー	・ 定義 X	
詳細:		
条件		
状態:	operation	
演算子:	等価	
値の比較:	Normal	
対象範囲		
● 任意		
○ † ≪ र		
〇範囲	0 % - 100 %	
◯ 固定きれ	た重大度: Critical ▼	
◎ 重大度は	トリガの重大度との相対値 (%): 100	
	OK キャンセル	

ビューから CPU CI を右 クリックし、 [影響分析を実行]を選択して[影響分析を実行]ダイ アログ・ボックスを開きます。トリガの重大度を、 [標準]以外の値に設定します。

🛃 影響分析を実行								×
🦕 影響分析	を実行							
▶ 影響分析の	トリガと、実行する・	→連の影響ル~	ールを選択しま	इ ज				
トリカの重べ度								
Normal Warni	ng(1) Warning(2)	Minor(3)	Minor(4)	Minor(5)	Minor(6)	Major(7)	Major(8)	Critical
Correlation Rules								
● すべての影響ル	レール							
○ 特定のバンドル	内の影響ルールのみ							
影響ルールのバン	ドル:							v
				ビューで表;	示 マップを	「表示」レポ	「ートを生成」	キャンセル

結果を表示するには、次のいずれかをクリックします。

ビューで表示: この場合は、ビュー内のすべてのCIにステータスが割り当てられます。CPU CI(重大度が変更されたもの)に接続しているノード CI だけが影響を受けます。 [影響分析を実行]ダイアログ・ボックスで、トリガの重大度がオレンジ色を割り当てた



を実行]ダイアログ・ボックス」を参照してください

ビューのスナップショットを取る

IT ユニバース・マネージャでビューのスナップショットを取って保存し、スナップショット比較レポートを使っ て、異なる時間に取られた同じビューのスナップショットどうしを比較できます。ビューのスナップショットを 取る方法の詳細については、196ページ「[スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックス」を参照し てください。比較したビューの実際の差異を表示する方法の詳細については、304ページ「スナップ ショット比較レポート」を参照してください。

トポロジ・マップをファイルに印刷して保存

トポロジ・マップの内容を印刷し、それをファイルに保存できます。印刷する前に、要件に従って印刷 設定を定義し、トポロジ・マップの内容を整列することをお勧めします。印刷設定を定義する方法の 詳細については、140ページ「[印刷設定]ダイアログ・ボックス」を参照してください。印刷の前にトポ ロジ・マップの内容をプレビューする方法の詳細については、139ページ「[印刷プレビュー]ダイアログ・ ボックス」を参照してください。トポロジ・マップの内容を印刷する方法の詳細については、139ページ 「[印刷]ダイアログ・ボックス」を参照してください。トポロジ・マップをファイルに保存する方法の詳細に ついては、125ページ「[イメージ]ダイアログ・ボックスにマップをエクスポート」を参照してください。

IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容

- 169ページ「[モデルへの CI の追加] ダイアログ・ボックス」
- 170ページ「[ビューへの CI の追加] ダイアログ・ボックス」
- 170ページ「[タイムフレームの変更] ダイアログ・ボックス」
- 171ページ「[CI / 関係の履歴] ダイアログ・ボックス」
- 173ページ「[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス」
- 177ページ「[サブレポートの生成] ダイアログ・ボックス」
- 177ページ「[CMDB からの関連 CI の取得] ダイアログ・ボックス」
- 178ページ「[関係の挿入]ダイアログ・ボックス」
- 181ページ「[IT ユニバースマネージャ]ページ」
- 190ページ「[新規 CI]/[新規関連 CI]ダイアログ・ボックス」
- 194ページ「[影響分析を実行]ダイアログ・ボックス」
- 196ページ「[スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックス」
- 197ページ「「ディスカバリのステータスと変更の表示」ダイアログ・ボックス」
- 198ページ「[影響を表示]表示枠」

[モデルへの CI の追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI をモデルに追加できます。

利用	[マネージャ]>[モデリング]>[IT ユニバース マネージャ]を選択します。 CI の選択で CI
方法	を右クリックし, [モデルに CI を追加]を選択します。
重要 情報	この機能は, インスタンス・ベース・モデルにのみ関連します。 パターン・ベース・モデルに選択した CI を追加することはできません。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
<モデル・ツリー>	[既存のモデル]が選択されている場合, ツリーからモデルを選択します。
新規 CI プロパティの定 義	[新規モデル]が選択されている場合, モデルの名前とプロパティを定義 します。
既存の モ デル	選択した CI を既存のモデルに追加するには、 [既存のモデル]を選択します。
新規モデル	選択した CI を新規モデルに追加するには、 [新規モデル]を選択しま す。
CI タイプの選択	[新規モデル]が選択されている場合,モデルのCIタイプを選択します。

[ビューへの CI の追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CIをパースペクティブ・ベース・ビューに追加できます。

利用 [マネージャ]>[モデリング]>[IT ユニバース マネージャ]を選択します。 CI の選択で CI を 方法 右 クリックし, [ビューに CI を追加]を選択します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
<ビューのツ リー>	[既存のビュー]が選択されている場合, ツリーからビューを選択します。
既存の ビュー	選択した CI を既存のパースペクティブ・ベース・ビューに追加するには, [既存の ビュー]を選択します。
新規ビュー	選択した CI を新しいパースペクティブ・ベース・ビューに追加するには, [新規 ビュー]を選択します。
ビュー名	[新規ビュー]が選択されている場合,ビューの名前を編集します。

[タイムフレームの変更] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、トポロジ・マップの変更を表示するとともに、表示する変更の時間枠を設定できます。

利 [マネージャ]>[モデリング]>[IT ユニバース マネ·	ージャ]を選択します。 メイン・ツールバー
---------------------------------	-------------------------------

用 方 法	または IT ユニバースのステータス・バーで, [変更時間枠の設定]ボタン
重要は	トポロジ・マップに変更インジケータが表示されている場合, IT ユニバースのステータス・バー には[変更時間枠はアクティブです]というメッセージが表示されます。
1 育 報	インジケータを非表示にするには、ダイアログ・ボックスを開き[変更を表示しない]を選択す
	るか, IT ユニバースのステータス・バーから[変更時間枠のリセット]ボタンのを選択します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
選択した時間枠 に応じた変更の まっ	このオプションを選択すると、選択した期間中に追加または変更された各 CIの横に、次のインジケータを表示します。
衣 小	 ・ ・ ・
	 ▲ 変更された CI のインジケータ
	ドロップダウン・リストから期間を選択します。 [カスタム]を選択した場合,省
	略記号ボタン 🔤 をクリックして[開始日付]および[終了日付]フィールドを 選択します。 ビューの CI に対する選択期間中の変更がマップに表示されま す。
	インジケータが表示されているときにそのインジケータをクリックすると,選択した 期間中のその CI の履歴を表示する[CI 履歴]ダイアログ・ボックスが開きます。
変更を表示しな い	このオプションを選択すると、変更インジケータを非表示にできます。

[CI / 関係の履歴] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、変更があった CI または関係の属性、および2つの構成ファイルの違いが表示されます。

利用	 IT ユニバース・マネージャの CI の選択またはトポロジ・マップで、選択した CI または関係を 右クリックし、[CI 履歴]を選択します。
万 法	 データ・フロー管理で、 [検出済み Cls]ダイアログ・ボックスで Cl を右 クリックし、 [Cl 履歴] を選択します。
	注: CI および関係の履歴データは, IT ユニバース・マネージャの[詳細]表示枠の[履歴]タブ にも表示されます。
重要情報	すべての CI および関係 属性は、 CI タイプ・マネージャで [履歴用の追跡ではありません]修飾 子でマーキングされている属性を除き、履歴に含まれています。詳細については、 381ページ 「[属性の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
Ø	[更新]をクリックするとテーブル内のデータが更新されます。
Q	構成ファイルの内容の2つの履歴エントリの相違を表示します。 この機能は、次の状況で使用します。
	 タイプが[構成ドキュメント]である CI の[Document Content] 属性の2つの履歴エントリを選択して,相互に比 較する。
	 タイプが[構成ドキュメント]である CI の[Document Content] 属性の1つの履歴エントリを選択して、その CI の 現在の内容と比較する。
	[相違を表示]ボタンをクリックするとVisualdiff レポートが開きま す。このレポートには、2つのエントリの比較が表示されます。2つ 目のエントリに追加したテキストは、黄色で強調表示されま す。1つ目のエントリから削除したテキストは、赤色で強調表示 されます。エントリ間の違いは、緑色で強調表示されます。
8	テーブルのデータをエクスポートする形式を選択します。 次のオプ ションを使用できます。
	• Excel : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示 できる .xls(Excel) ファイル形式に整形されます。
	• PDF : テーブルのデータは, PDF 形式でエクスポートされま す。
	注: PDF にエクスポートする場合,レポートが有効となるよう,常識的な範囲の表示列数を選択します。
	• RTF : テーブルのデータは, リッチ・テキスト形式 でエクスポート されます。
	 CSV: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り(CSV)テキスト・ファイル形式に整形されます。
	注:CSV形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ(,)を区切り文字として定義する必要があります。Windowsでは、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの[地域のオプション]を開いて、 [数値]タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linuxでは、区切り文字はCSVファイルを開くアプリケーションで指定できます。
	• XML: テーブルのデータは, テキスト・エディタまたは XML エ ディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。
	ヒント : HTML コードをレポートから抽出するには,次の手順 を実行します。
	■ ファイルをHTML 形式で保存します。
	■ ファイルをHTML エディタで開きます。

UI 要素	詳細
	■ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。
属性	属性の名前です。
日付の変更	最後に変更が行われた日付です。
適用フィルタ	次のフィルタの1つまたは複数を使って, テーブル内のデータが フィルタ処理されます。
	• 時間範囲でフィルタ: [Cl 履歴]を表示する期間を選択します。
	• 変更タイプ:テーブルに表示する変更のタイプを選択します。
	• 属性:テーブルに表示する属性のタイプを選択します。
更新者	変更理由が示されます。 たとえば, このフィールド にはユーザまた は DFM ジョブの名前が含まれます。
新規値	属性の新しい値です。
旧值	属性の古い値です。

[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、既存のCIまたは関係の基本情報を表示、編集できます。

利用	[マネージャ]>[モデリング]>[IT ユニバース マネージャ]を選択し, 次のいずれかを使用し ます。
万 法	 トポロジ・マップまたは CI の選択で CI を選択します。[詳細]表示枠で、[プロパティ]タブを選択し[編集]をクリックします。
	• CIの選択またはトポロジ・マップで CI を右 クリックし, [プロパティ]を選択します。
重	[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスには、次の2種類のプロパティがあります。
要 情 報	 一般プロパティ: CI または関係に関する一般情報が含まれています。これらのプロパティは、すべての CIT に共通しており、後述のようにドキュメント化されています。
	 CIT 固有のプロパティ:特定のCIに固有のプロパティが含まれています。これらのプロパティは、CIまたは関係のタイプによって異なるため、ドキュメント化されていません。
	プロパティをカテゴリごとに並べ替える場合, CIT 固有のプロパティはリストの上部に表示され, 一般プロパティは下部に表示されます。
	選択したプロパティの説明は、ダイアログ・ボックスの下部にある説明領域に表示されます。 説明領域を表示するには、 [説明表示の切り替え]ボタンをクリックします。
	必須フィールドにはアスタリスクが示されています。
	注 : HP Universal CMDB では,サロゲート・ペアおよび結合文字は完全にはサポートされ ていません。

連情報

関 「CI ライフサイクルとエイジング・メカニズム」(『HP Universal CMDB 管理ガイド』)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
run.	クリックすると, プロパティがカテゴリごとに表示されます。
₽↓	クリックすると、 プロパティがアルファベット 順に表示されます。
i	[CI プロパティ]ダイアログ・ボックスの下部にある説明領域の表示と非表示が切り替わります。
*	[展開]をクリックすると、プロパティをカテゴリごとに表示したときに、 プロパティ・ツリーが 展開されます。
*	[折りたたみ]をクリックすると、プロパティをカテゴリごとに表示したときに、 プロパティ・ツリーが折りたたまれます。
者 エクスボ	、テーブルのデータをエクスポートする形式を選択します。 次のオプションを使用できます。
	• Excel:テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる.xls(Excel)ファイル形式 は整形されます。
	 PDF: テーブルのデータは、PDF形式でエクスポートされます。 注 PDFにエクスポートする場合、レポートが有効となるよう、常識的な範囲の 表示列数を選択します。
	• RTF:テーブルのデータは、リッチ・テキスト形式でエクスポートされます。
	 CSV: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り(CSV)テキスト・ファイル形式に整形されます。
	注: CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ(,)を区切り文字と して定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変更 するには、コントロール・パネルの[地域のオプション]を開いて、[数値]タブでカンマ が区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linux では、区切り文 字は CSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。
	• XML: テーブルのデータは, テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。
	ヒント :HTML コードをレポートから抽出するには、次の手順を実行します。
	■ ファイルをHTML形式で保存します。
	■ ファイルを HTML エディタで開きます。
	■ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。
<クイック・	[Quick filter]ボックスに文字列を入力して、 プロパティ名 および値をフィルタ処理しま

UI要素	詳細
フィルタ>	す。 左 端 のボックスをクリックして, フィルタ・オプションのド ロップダウン・メニューを開きま す。
	• [すべて]を選択すると、プロパティ名およびプロパティ値内のフィルタ文字列が検索されます。[名前]を選択すると、プロパティ名内のフィルタ文字列のみが検索されます。[値]を選択すると、プロパティ値内のフィルタ文字列のみが検索されます。
	• [大文字小文字を区別する]を選択すると、入力されたとおりのフィルタ文字列が 検索されます。[Case insensitive]を選択すると、フィルタ文字列の大文字小文 字は考慮されません。
	 [Use wild cards]を選択すると、フィルタ文字列内でワイルドカード記号*を使用できます。
	• [Match from start]を選択すると、プロパティ名またはプロパティ値の先頭のフィル タ文字列が検索されます。[Match exactly]を選択すると、完全に一致するフィ ルタ文字列が検索されます。[Match anywhere]を選択すると、プロパティ内のす べてのフィルタ文字列が検索されます。
Actual Deletion Period	CI または関係が削除されるまでの日数です。
Allow Cl Update	このオプションを選択すると, DFM プロセスが検出した情報を使用して, CI または関係のプロパティを自動的に更新できます。 DFM プロセスによって提供されたプロパティの値を変更した場合, 値は検出された値によって上書きされます。
	このオプションをオフにすると, CI または関係 のプロパティは, DFM プロセスによって上 書きされません。
適用	[適用]をクリックすると、CIまたは関係のプロパティに加えた変更内容が保存されます。
CI タイプ	CIまたは関係のタイプ(読み取り専用の値)。HP Universal CMDBのCITの詳細 については、372ページ「CIタイプ・マネージャ」を参照してください。
Created By	CI または関係を手動で作成した管理者のユーザ名です(該当する場合)(読み取り専用の値)。
Create Time	CIまたは関係が作成された日時です。
Deletion Candidate Period	エージング・メカニズムが有効なときに CI が削除候補になってからの期間です。
詳細	CIまたは関係の簡単な説明です。
表示ラベ ル	CIの選択に表示されるCIまたは関係の名前です。
編集	[詳細]表示枠の[プロパティ]タブではCIプロパティを表示できますが, 編集すること

UI 要素	, 「詳細」
	はできません。[編集]をクリックして[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスを 開き,そこでプロパティを編集できます。
エイジング の有効化	CI または関係が一定期間, 更新またはリフレッシュされていない場合(CI がDFM によって再検出されておらず, かつ手動更新が実施されていないときなど), エイジン グ・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルとエイジング・メカニズム」を参照し てください。
	true の場合 :この CI または関係のエイジング・メカニズムは有効になっています。
	標準設定値 :False:DFM CI の標準設定値は True です。
	注:
	 エージング・メカニズムが無効の場合、このフィールドは無視されます。
	 このフィールドは、特定のCIに対してのみ表示されます。
Global Id	CMDB内のCIまたは関係の内部 ID(読み取り専用の値)です。
最終アクセ ス日時	DFM による更新または検出時に、CI または関係が最後にアクセスされた時刻です。このフィールドは、特定のCI または関係に対してのみ表示されます。
	このパラメータは, エージング・メカニズムによって使用されます。詳細については, 『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルとエイジング・メカニズム」 を参照し てください。
	注:標準設定では、このプロパティはディスカバリ・ジョブまたはインテグレーションの実行によって CI が検出されるたびに更新されます。このプロパティがディスカバリ・ジョブまたはインテグレーションによって更新されないようにするには、データ・フロー管理モジュールの[アダプタ管理]> [アダプタ構成]タブで、[Update last access time]オプションをクリアします。詳細については、HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイドの「[アダプタ構成]タブ」を参照してください。
Last Modified Time	CIまたは関係のプロパティが最後に更新された日時です。
Name	CIまたは関係の名前です。
Note	CIまたは関係に関する、ほかの情報を入力できます。
Origin	CI または関係を自動的に作成したソース,あるいは CI または関係が作成されたア プリケーションの ID(読み取り専用の値)です。
リセット	[リセット]ボタンをクリックすると、CI または関係の元のプロパティ設定が復元されます。
Updated by	CIまたは関係のプロパティを更新した管理者のユーザ名です。
ューザラベ ル	CI または関係の表示ラベルを定義できます。値が入力されていない場合, CI名が 標準設定ラベルとして表示されます。

ショートカット・メニュー

メニュー項目	詳細
プロパティ名 と値をコ ピー	選択したプロパティの名前と値がメモリにコピーされます。

[サブ レポート の生 成] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI のサブ・レポートを生成できます。

利用方法	IT ユニバース・マネージャで, トポロジ・マップまたは CI の選 択 で CI を右 クリックして, [サブ レ ポートを生成]を選 択します。
重要情報	サブ・レポートでは、選択した CI にパースペクティブを適用し、結果をレポート形式で表示できます。 リストからパースペクティブを選択し、 [OK]をクリックします。 サブ・レポートが別のウィンドウに表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
<利用可能なパースペクティブのリ スト>	リストには, レポートのプロパティでサブ・レポートのパースペク ティブとして指定されているパースペクティブのみが表示されま す。選択した CI タイプにー 致するパースペクティブのみが表 示されます。
詳細	選択したパースペクティブの説明です。

[CMDB からの関連 CI の取得] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, CMDB で指定した CI に関連する CI を, マップ形式またはテーブル形式 で表示 できます。

利用方法	IT ユニバース・マネージャで, 対象のCIを右クリックして[関連 CIを取得]を選択します。
重要情報	[CMDB から関連 CIを取得]ダイアログ・ボックスは, IT ユニバース・マネージャの[関連 CI]タ ブのスタンドアロン・バージョンです。 [関連 CIを取得]表示枠内の機能を使用して,表示 内容を制御できます。詳細については, 189ページ「[関連 CIを取得]表示枠」を参照して ください。
	[CMDB から関連 CIを取得]ダイアログ・ボックスでは, 関連 CIの表示範囲を選択できません。範囲は CMDB 全体となります。
	注 :テキスト・モード形式には、 [要素インスタンス]ダイアログ・ボックスで使われているアイコ

	ンが使用されます。詳細については, 58ページ「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」 を参照してください。
関連タスク	161ページ「関連 CI の表示」

[関係の挿入] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CIの選択で選択したCIに、CIを関係付けることができます。

利用方法	IT ユニバース・マネージャで, トポロジ・マップまたは CI の選択で CI を右クリックして, [CI に 関連付け]を選択します。
重要情報	2つの CI の間に関係を作成するには、 CI の選択またはトポロジ・マップでソース CI を選択 し、ショートカット・メニューで[CI に関連付け]を選択します。 ダイアログ・ボックスの最初の ページ([CI の選択]ページ)で、ターゲット CI (1つまたは複数)を選択します。 次に、 [関 係]をクリックし、ダイアログ・ボックスの2ページ目で関係のタイプを選択します。
	また, ツールバーの[関係を作成]ボタン ♪ をクリックし, 2 つの CI の間に線を引くことによっ て, 2 つの CI の間に関係を視覚的に作成することもできます。この場合, [関係を挿入]ダ イアログ・ボックスの小型版が開き, 次のタブが表示されます。
	• 関係の選択:利用可能な関係のタイプを含むツリーが表示されます。必要な関係を選択してください。
	注 : 選択した関係をダブルクリックすると,標準設定のプロパティを使用して保存できま す。
	• 関係のプロパティ:選択した関係のプロパティが表示されます。180ページ「[関係のプロパティの定義]表示枠」に説明されている方法で、プロパティを編集できます。
関 連 タ スク	160ページ「CMDB での CI と関 係 の作 成 」
関	 114ページ「CI セレクタ」
連	▲ 179ページ[[関係] ページ」
情 報	

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
⇒	クリックすると、左側の表示枠で選択した CI が[ターゲット CI]表示枠に追加されます。

UI 要素	詳細
Ų	クリックすると,選択した CI が[ターゲット CI]表示枠から削除されます(CI は CMDB からは削除されません)。
ターゲット CI の選択	ビュー ツリーに表示するビューを選択し, [ターゲット CI]表示枠に移動する CI を 選択します。
	[ターゲット CI の選択]表示枠の詳細については、114ページ「CI セレクタ」を参照してください。
ソース CI	ソース CI として選択した CI です。
ターゲット CI	選択したCIが関係のターゲットCIとして表示されます。

[関係] ページ

このページでは, 元の CI と, ダイアログ・ボックスの[CI の選択]ページで選択した CI の間に作成する 関係を定義できます。

利用方法	[関係を挿入]ダイアログ・ボックスで[関係]ボタンをクリックします。
重要情報	複数の関係を定義するときは、関係ごとに異なる説明とプロパティ値を定義できます。その 場合は、ここではプロパティの定義は省略して、関係の作成後に各関係を個別に編集し ます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

[関係の選択]表示枠

UI 要素	詳細
方向	関係の方向を選択します。
	ー 部の関係タイプ(Composition , またはグループ CI とモニタ CI の間など) については, 1 方 向しか利 用 できません。
関係	元の CI と関係付け先の CI の間に作成する関係のタイプを定義します。 リストからオプ ションを選択してください。
ソース CI	関係の1つ目のCIの名前が表示されます。これはビューで選択したCIです。
タ ー ゲッ ト Cl	元のCIに関連付けられる、関係の2つ目のCIの名前が表示されます。

[関係のプロパティの定義]表示枠

UI要素	詳細
Actual Deletion Period	エイジング・メカニズムが有効なときに、関係を削除するまでの期間です。
Allow Cl Update	値がtrueに設定されていると、DFM プロセスによって関係が自動的に更新されます。
Created By	関係を手動で作成した管理者のユーザ名(該当する場合)です。
Create Time	関係が作成された日時です。
Deletion Candidate Period	関係が削除候補になった後の日数です。
詳細	関係の詳細な説明です。
Destination Network Address	ルート・リンクに対してのみ定 義します。 このルートの設 定 先 となる宛 先 のネット ワーク・アドレスを示します。
エイジングの 有効化	CI または関係が一定期間, 更新またはリフレッシュされていない場合(CI がDFM によって再検出されておらず, かつ手動更新が実施されていないときなど), エイジ ング・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。詳細については, 『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルとエイジング・メカニズム」を参照 してください。
	true の場合 :この CI または関係のエイジング・メカニズムは有効になっています。
	標準設定値 :False。DFM CI の標準設定値は True です。
	注:
	 エージング・メカニズムが無効の場合、このフィールドは無視されます。
	 このフィールドは、特定のCIに対してのみ表示されます。
最終アクセ ス日時	DFM による更新または検出時に、関係が最後にアクセスされた時刻です。この フィールドは、特定の CI に対してのみ表示されます。
	このパラメータは,エージング・メカニズムによって使用されます。詳細については, 『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルとエイジング・メカニズム」 を 参照してください。
Last Modified Time	関係のプロパティが最後に更新された日時です。
Must	値を true に設定すると、親 CI のステータスの計算にパーセンテージ・ルールを使用 するときに子 CI が有力になります。 CI のステータスが低い場合、親は子 CI のス
UI 要素	詳細
---------------	---
	テータスを取り,必要な場合にはパーセンテージ・ルールの計算を上書きする必要 があります。これは、重要な CI に重点を置くのに便利です。たとえば、データベース に障害が発生した場合に、サブツリー内のほかの CI のステータスに関係なく、デー タベース CI に[Must]を定義して、サブツリーの上位までステータスを[致命的]にす る必要がある場合があります。
	関係に定義した must ステータスは、その関係にのみ適用され、子 CI のほかの関 係では使用されません。このフィールドは、HP Business Service Management を使 用している場合にのみ関連します。
Name	関係の簡単な説明です。 値を入力しなければ, 名前の代わりに関係のタイプが 使用されます。
Note	関係に関する、ほかの情報を入力できます。
Origin	関係を自動的に作成したソース,または関係が作成されたアプリケーションの ID です。
Updated By	CI プロパティを更新した管理者のユーザ名です。
ユーザラベ ル	関係の表示ラベルを定義できます。値が入力されていない場合,関係名が標準 設定ラベルとして表示されます。
Weight	重み付けの値を入力すると、親 CI のステータスの計算にパーセンテージ・ルールを 使用するときに、パーセンテージの計算で子 CI に重みが付けられます。たとえば、 子 CI に3の重みを付けると、重み付けのない兄弟と比べて、親のステータスの計 算に3倍の影響があります。
	関係に定義した重み付けは、その関係にのみ適用され、子 CI が持っている、ほかの関係では使用されません。このフィールドは、HP Business Service Managementを使用している場合にのみ関連します。

[IT ユニバース マネージャ]ページ

このページでは、CIと関係をビューで定義、管理できます。

利用方法	[ナビゲーション メニュー]から[IT ユニバース マネージャ]を選択するか, [マネージャ]>[モデリン グ]>[IT ユニバース マネージャ]を選択します。
重	[IT ユニバース マネージャ]ページには次 の表 示 枠 があります。
要 情 報	 CI セレクタ:選択したビューの CI が表示されます。ドロップダウン・リストからビューを選択するか、特定の CI を検索できます。詳細については、114ページ「CI セレクタ」を参照してください。
	• トポロジ マップ:選択したビューの CI がマップ・モードまたはテキスト・モードで表示されます。

- [詳細]表示枠:選択した CI またはビューのプロパティ,履歴,およびディスカバリが表示されます。
- 関連 CI を取得:この表示枠は、[トポロジマップ]の[関連 CI]タブからアクセスできます。 タブ内の表示内容を制御します。

IT ユニバース・マネージャでは、新しい CI の作成、既存の CI の変更、または CI の削除を行えます。これらのアクションはすべて、IT ユニバース・モデル全体に直接影響します。たとえば、 ビューで CI を削除すると、その CI は IT ユニバース・モデルから削除され、いずれのビューにも 表示されなくなります。

トポロジ マップ

この領域には,現在選択しているビューの CI がグラフィック形式またはテーブル形式で表示されます。標準設定では, CI はグラフィック形式で表示されます。

利用方法	[マネージャ]>[モデリング]>[IT ユニバース マネージャ]を選択します。
重要情報	[トポロジマップ]ショートカット・メニューをカスタマイズすると、ほかのコマンド(ping, プログラムの 実行, URL の表示など)を CI タイプ・マネージャ内から追加できます。詳細については、386 ページ「設定項目タイプ/関係/計算された関係の作成ウィザード」を参照してください。 注:グループ化されている CI およびその関係については、ショートカット・メニューの全オプション がアクティブになるわけではありません。グループ化されている CI は、CI の選択およびトポロジ・ マップで括弧内に表示されます。グループ化されている CI へのリンクをダブルクリックすると、リ ンク・マップを開いて個々の CI と関係を表示することができます。リンク・マップで CI または関 係を右 クリックすると、通常のショートカット・メニューを表示できます。グループ化されている CI の詳細については、258ページ「[クエリノードのグループ化]ダイアログ・ボックス」を参照してく ださい。
関連情報	124ページ「トポロジ・マップの作業」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
^{囲 マップ} マップ・モード	[マップ]をクリックすると、CIの選択したレイヤがトポロジ・マップ形式 で表示されます。
	注 :ビューで選択したレイヤが大きすぎてトポロジ・マップ形式で表示 できない場合は, テキスト形式でレイヤを表示するためのリンクととも にメッセージが表示されます。
^{いってもスト} テキスト・モード	[テキスト]をクリックすると,選択したレイヤにある CI の属性プロパ ティがテーブル形式で表示されます。
	テキスト・モードのツールバー・アイコンの詳細については, 58ページ

UI要素	詳細
	「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
汰の CIインスタンスを表示: Network (5) 🗾	テーブルに表示するCITを指定します。 テーブルには,選択した CIT の子も含まれます。
	注:このオプションは,テキスト・モードでのみ表示されます。
<現在位置表示リスト>	トポロジ・マップ上部にある現在位置表示リストは、選択したレイヤ へのパスに対する、ビューの各レイヤ内の関連するクエリ・ノードを示 します。パス内の最初の項目は最上位レイヤです。また、下のレイ ヤから CIを選択するとき、親 CI が現在位置表示パス内の次の項 目になります。パス内のいずれかの項目をクリックすると、トポロジ・ マップ内のそのレイヤが表示されます。
<ci タイプ属性=""></ci>	テキスト・モードで表示されるカラムは、選択した CI の CIT 属性を 表しています。
<グループ化>	トポロジ・マップ内の CI は, ビュー定義で選択したデフォルト・グルー プ化に従って表示されます。 IT ユニバース・マネージャでビューを消費 するときは,別のグループ化方法を手動で選択します。 次のオプショ ンを使用できます。
	• レイヤでグループ化: CIタイプの[レイヤ]属性の値に従って CI をグループ化します。
	• CI タイプ別グループ: CI タイプに従って CI をグループ化します。
	 分類でグループ化: CI タイプの[分類] 属性の値に従って CI を グループ化します。
	• グループ化なし: CI をグループ化しません。
	注:
	 このオプションはマップ・モードのみで使用できます。
	 グループ化オプションを選択すると、各グループには、グループ内のCIの数を表示するインジケータが含まれます。グループに多数のCIが含まれている場合、形式が破損して表示され、グループ名とカウント・インジケータしか表示されません。[+]記号ボタンをクリックしてグループを展開し、すべてのCIを表示します。インフラストラクチャ設定マネージャの[初めにグループ最大 CI しきい値を展開します]設定を修正することで、自動グループ折りたたみのCI しきい値を設定できます。
<it ステータス<br="" ユニバース="">バー></it>	トポロジ・マップ下 のステータス・バーには,次 のプロセスのステータスが 表示されます。
	• 影響分析がアクティブかどうか
	• 変更時間枠がアクティブかどうか
	• 削除の候補が表示されているかどうか

UI要素	詳細
	• データが最後に更新された時刻
<凡例>	CIの横に表示されるアイコンは、次の特別な状態を表します。
	• 追加済み:変更時間枠がアクティブなとき, CI が追加されたこと を表します。
	• 削除の候補: CI が削除の候補であることを表します。
	• 変更済み:変更時間枠がアクティブなとき, CI が変更されたこと を表します。
	• レイヤを1つドリル・ダウン。仮想レイヤ上のCI下にCIがあることを示します。
	• 外部 : CI がフェデレート CI であることを表します。
	• 影響済み:影響分析がアクティブなとき,影響を受けた CI を示します。
	• 影響済みかつトリガ:影響分析がアクティブなとき,影響を受けたトリガ CI を示します。
	 メモ: CI にメモが追加されたことを表します。
	• トリガ:影響分析がアクティブなとき,トリガ Cl を示します。
<メイン・メニュー>	詳細については、138ページ「メイン・メニュー」 を参照してください。
<クエリノード>	トポロジ・マップ内 のクエリ・ノード は, CI を表します。
	ポインタをクエリ・ノードの上に置くと, CI のタイプを説明するツール チップが表示されます。
<関係>	トポロジ・マップ内のリンクは、関係を表します。
	ポインタを関係の上に置くと,関係のタイプを説明するツールチップが 表示されます。
	注:計算された関係を選択すると、ツールバーの[削除] ツールバー
	の 🞽 ボタンが無効になります。
<ツールバー>	詳細については, 141ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
	注:ダイレクト・リンクを通じてトポロジ・マップにアクセスするときは、関連 CI マップからのオプションがツールバーに表示されます。詳細については、177ページ「[CMDB からの関連 CI の取得] ダイアログ・ ボックス」を参照してください。
<ツールチップ>	ポインタを CI に合わせると、CI データを示すツールチップが表示されます。 ツールチップは、次のいずれかの修飾子よってマークされる CI について、すべての属性を表示します。
	• 比較可能

UI要素	詳細
	 アセット データ
	● 管理対象
	カウント・インジケータを保持した場合は, ツールチップは, その下に ある CI タイプ別 CI のブレークダウンを表示します。 グループ化オプ ションを選択した場合は, グループ上にポインタを保持して, グルー プ内の CI タイプ別 CI ブレークダウンをツールチップで表示します。
<[トポロジ マップ]サイド バー>	詳細については, 147ページ「[トポロジマップ] サイドバー」を参照し てください。
関連 CI	[関連 CI]タブをクリックすると、ビュー内または CMDB 全体に対し て,選択された CI の相互依存関係が表示されます。[関連 CI を 取得]表示枠で,表示範囲を制御できます。
結果の表示	[結果の表示]タブをクリックすると、ビュー内の全レイヤが表示されます。

IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー

[IT ユニバース マネージャ]ページには次の要素 があり、[CIの選択]表示枠または[トポロジマップ] で、CI または関係を右 クリックすると表示 されます。

メニュー 項目	Ě 詳細
アクショ	次のオプションのいずれかを選択します。
ン	• ディスカバリ ジョブへの CI の追加: [ディスカバリジョブへの CI の追加]ダイアログ・ボック スが表示され,選択した CI の DFM ジョブを手動で呼び出すことができます。 このオプ ションを使用すると、利用可能な DFM ジョブの1つを通じて、 CI に関する追加の情報を検出できます。
	 ディスカバリ ジョブからの CI の削除: [ディスカバリジョブからの CI の削除]ダイアログ・ ボックスが表示され, CIを DFM ジョブから手動で削除できます。
	 ディスカバリステータスの表示:選択したCIの[ディスカバリステータス]ダイアログ・ボックスが開きます。
	• CI 資格情報を開く:[プロトコルパラメータ]ダイアログ・ボックスが表示され,該当 CI に対して以前に定義した資格情報の詳細を表示できます。変更を行うことはできま せん。このオプションは、資格情報プロパティを持つ CI のみに関係しています。
	詳細については,『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[プロトコルパ ラメータ]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	 Edit Cl Credentials: [資格情報の選択]ダイアログ・ボックスが表示され、別の資格 情報セットを選択したり既存の資格情報を編集したりできます。このオプションは、資格情報プロパティを持つ Cl のみに関係しています。
	詳細については,『HP Universal CMDB Discovery and Integration Content Guide』

メニュー 項目	詳細
	に記載のサポートされているプロトコルを参照してください。
モデル に CI を追加	選択した CI を新規または既存のモデルに追加します。
CI の ビュー への追 加	選択した CI を新規または既存のパースペクティブ・ベース・ビューに追加します。
テナン トを割 り当て	[テナントを割り当て]ダイアログ・ボックスが開き, テナントを CI に割り当てることができます。
	注:このオブジョンは、マルチナナンシーの有効時にのみ使用できょう。
CI 関 係履 歴	[CI履歴]ダイアロク・ボックスが表示されます。詳細については、171ページ [CI/関係の履歴]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
CI 比 較レ	選択した CI に対して CI 比較レポートを実行します。詳細については, 299ページ「CI 比較レポート」を参照してください。
ホート	注:このオプションは、1 つまたは2つの CI が選択されている場合にのみ有効です。
CMDB	選択した CI または関係をビューおよび CMDB から削除できます。
から削 除	注 :親 CI を削除すると、選択した CI およびその子 はビューから削除されますが、 データ ベースからは選択した CI のみが削除されます。
サブレ ポート を生成	[サブレポートを生成]ダイアログ・ボックスを開きます。 ここで, CI のパースペクティブを選択 して,サブレポートを作成できます。 詳細については, 177ページ「[サブレポートの生成] ダイアログ・ボックス」 を参照してください。
関連 CI を 取得	[CMDB から関連 CIを取得]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については, 177ペー ジ「[CMDB からの関連 CI の取得]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ラベル	次のオプションのいずれかを選択します。
	• ラベルを編集:[ラベルを編集]ダイアログ・ボックスが開き, CI の名前を編集できます。
	 標準設定ラベルに戻す:CI名がCMDBの標準設定値にリセットされます。
CI を 結合	[Clを結合]ダイアログ・ボックスを開きます。ここで,実行中ソフトウェア,ノード,ビジネス 要素 Clを手動で結合できます。
	[CI を結合]ダイアログ・ボックスで, メイン CI とする CI を 1 つ選択する。その他の CI (結 合 CI) は, メイン CI に結合されます。 CI は次のように結合されます。
	 ・ メイン CI に存在しない結合 CI プロパティがメイン CI にコピーされます。

メニュー 項目	詳細
	 メイン CI と結合 CI の両方に存在するプロパティは、定義済みの調整プロパティに 従って結合されます。
	■ すべての CI が同じプロパティを持つ場合は、メイン CI プロパティが保持されます。
	 各 CI が異なるプロパティを持つ場合は、高いプロパティを持つ CI プロパティが使用 されます。
	結合の後, メイン CI のグローバル ID が保持され, 結合 CI が削除されます。
	注:
	 このオプションは、タイプ「実行中ソフトウェア」、「ノード」、または「ビジネス要素」の少なくとも2つのCIを選択した場合にのみ関連します。CIが結合されるのは、そのCIタイプが[クラスモデル]内で同じブランチにある場合のみです。
	• CI 結合すると, 該当 CI を含むビューのトポロジが更新されます。
	例:
	Node Cl IP 1.1.1 IP 2.2.2. IP 2.2.2. IP 2.2.2. IP 1.1.1 IP 1.1.1 IP 1.1.1 IP 1.1.1 IP 2.2.2.
Note	次のオプションのいずれかを選択します。
	• メモを追加:編集ボックスが開き、メモを CI に追加できます。
	• メモを削除:選択した CI のメモに保存されているテキストがすべて削除されます。
プロパ ティ	選択した CI または関係の[プロパティ]ページが表示されます。詳細については, 173 ページ「[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス」 を参照してください。
CI に 関連 付け	[関係を挿入]ダイアログ・ボックスが開きます。 詳細については,178ページ「[関係の挿入] ダイアログ・ボックス」 を参照してください。
影響 分析を 実行	影響分析マネージャで定義した影響ルールを実行できます。 [影響分析を実行]ダイア ログ・ボックスが表示されます。 詳細については,356ページ「影響分析マネージャ」を参 照してください。
	注 :影響分析結果を表示できるのは、影響分析マネージャで該当するビューに影響 ルールを定義した場合のみです。

メニュー 項目	詳細
複合 パスを 表示	複合関係に対してのみ表示されます。選択した関係のリンク・マップが表示され, 複合 関係に含まれる CI が表示されます。
影響を 表示	影響ルールで根本原因 CI として定義された CI を選択し,その影響を受けたすべての CI とそのステータスを別のウィンドウに表示できます。
	このオプションが表示されるのは、次の場合だけです。
	 影響分析マネージャで選択したビューの影響ルールを定義した後(詳細については、356ページ「影響分析マネージャ」を参照してください)。
	• [影響分析を実行]ダイアログ・ボックスで[ビューで表示]をクリックした後。
	• 影響分析結果がトポロジ・マップに表示された後。
	たとえば(IP アドレス CI に対して)影響 ルールが定義され、その IP アドレスにリンクされた ノード、ポート、およびクライアント・サーバ・システムがそのルールから影響を受けるように 指定されたとします。
	この場合は, [影響を表示]オプションを使用すると, IP アドレスCIの影響を受けるすべ てのCIを表示できます。
根本 原因を 表示	このオプションを使用すると、一連の影響ルールから影響を受ける CI に関する根本原因 情報を取得できます。 [根本原因を表示]の出力には、 CI に影響を与える一連のトリ ガ CIT または影響を受ける CIT を示す論理マップが表示されます。
	根本原因 CI は, 別のウィンドウに表示されます。この CI に影響ルールが1つだけ定義 されている場合は, [影響分析]ウィンドウが直接表示されます。
	このオプションが表示されるのは、次の場合だけです。
	 影響分析マネージャで選択したビューの影響ルールを定義した後(詳細については、356ページ「影響分析マネージャ」を参照してください)。
	• [影響分析を実行]ダイアログ・ボックスで[ビューで表示]をクリックした後。
	• 影響分析結果がトポロジ・マップに表示された後。
	表示されるウィンドウには, 根本原因 CI と影響ルール・チェーン内のほかのすべての CIT が含まれます。
	影響ルールによってトリガまたは影響を受ける,特定のCIに関する情報を表示するには,CIに接続している関係をダブルクリックします。マップが表示されます。

詳細表示枠

UI 要 素	詳細
[ディ スカ バ リ ブ	選択した CI の DFM 実行 ステータスが表示されます。 詳細については,「「[ディスカバリのステータスと変更の表示] ダイアログ・ボックス」」および『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「「[ディスカバリ モジュール/ジョブ - 詳細] タブ」」を参照してください。
[履 歴] タブ	選択した CI の履歴が表示されます。詳細については, 171ページ「[CI / 関係の履歴] ダイ アログ・ボックス」 を参照してください。
[プ ロパ ティ] タブ	選択した CI プロパティ([構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスに表示されるのと同 じプロパティ)を表示します。 プロパティは[プロパティ]タブで表示できますが, プロパティを編 集するにはこのダイアログ・ボックスを開く必要があります。 詳細については, 173ページ「[構 成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

[関連 CIを取得]表示枠

この表示枠では、選択した CIの関連 CIを表示するさまざまなオプションを制御できます。

利用方法	IT ユニバース・マネージャの[関連 CI]タブに表示されます。非表示の場合は、ツールバーの [関連 CI を取得]表示枠ボタン ² をクリックすると表示されます。
重 要	次のコントロールを使用して, [関連 CI]タブ内の表示を制御できます。
情	 表示範囲の設定
報	• CI タイプ別の関連 CI のフィルタ処理
	• 選択した CI へのパースペクティブの適用
	複数のCIの関連 CIを同時に表示できます。CTRL キーを使用して, [CIの選択]またはト ポロジ・マップで複数のCIを同時に選択します。
	注:統合 CI に対する[関連 CI を取得]検索の実行も選択できます。フェデレート・データ・ ソースの CI が検索結果に含まれる場合,これらは,矢印とともにトポロジに表示され,フェ デレート CI であることが示されます。ただし,フェデレート CI の関連 CI を表示することはでき ません。
関連タスク	161ページ「関連 CI の表示」

UI 要素	詳細
\bigcirc	前の検索結果を表示します。
\Diamond	次の検索結果を表示します。
Ŷ	このボタンが選択されている場合, 関連 CI が現在の結果に追加されます。選択 されていない場合は, 現在の表示内容がクリアされ, 新しい関連 CI のみが表示 されます。
\$]	検索結果に統合 CIを含める場合は、 [関連する CI のターゲット統合ポイントを 選択します]をクリックし、ポップアップ・ダイアログ・ボックスから必要な統合ポイント を選択します。
	注:切 断された統合ポイントを検索に選択すると、検索の実行時にエラーメッ セージが表示され、ローカルの検索結果を表示するどうかを質問してきます。
Apply perspectives to CI	選択した CI に適用するパースペクティブをリストから選択します。 リストには,選択した CI に関連するパースペクティブのみが表示されます。選択した CI は,選択したパースペクティブの内容として使用され,ビューの結果が表示されます。
	注: パースペクティブの適用は,範囲として CMDB が選択されている場合にのみ 有効です。範囲に[ビュー]が選択されている場合,この機能は非アクティブです。
CI タイプで関 連する CI を フィルタリング	関連 CI の結果に表示する CI タイプをリストから選択します。 選択した CI タイプのみが結果に表示されます。
範囲の選択	関連 CIの表示範囲を選択します。
	• ビュー:選択したビュー内のすべての関連 CI。
	• CMDB :CMDB内のすべての関連 CI。
	注 :この機能は, ショートカット・メニューから開いた[CMDB から関連 CIを取得]ダ イアログ・ボックスでは使用できません。
関連 CI を表 示	クリックすると,選択した範囲に応じて関連 CI が表示されます。

[新規 CI]/[新規関連 CI]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい CI または新しい関連 CI を定義できます。

	[新規 CI プロパティの定義]領域でプロパティを編集します。 下のテーブルには, すべての CI に共通するプロパティが表示されます。 また, 各 CI に固有のプロパティもあります。
	関連 CI を作成する場合は, [関係]ボタンをクリックしてダイアログ・ボックスの関係モードに 移動します。関係を選択してプロパティを編集します。
関 連 タ スク	160ページ「CMDB での CI と関 係 の作 成 」
関	 114ページ「CI セレクタ」
 情	• 192ページ「[関係]ダイアログ・ボックス」
報	• 「CI ライフサイクルとエイジング・メカニズム」(『HP Universal CMDB 管理ガイド』)

UI 要素	詳細
Actual Deletion Period	エイジング・メカニズムが有効なときに、 CI を削除してからの期間です。
Allow Cl Update	値がtrueに設定されている場合,このオプションは、DFM プロセスが検出した情報を 使用して CI プロパティを自動的に更新できます。DFM プロセスによって提供された プロパティの値を変更した場合,値は検出された値によって上書きされます。
	値がfalseに設定されていると、CI プロパティはDFM プロセスによって上書きされません。
Created By	手動で CI を作成した管理者のユーザ名(該当する場合)です。
Create Time	CI が作成された日時です。
Deletion Candidate Period	エージング・メカニズムが有効なときに CI が削除候補になってからの期間です。
詳細	CIの説明です。
表示ラベ ル	トポロジ・マップに表示される CI のラベルです。
エイジング の有効化	CI または関係が一定期間, 更新またはリフレッシュされていない場合(CI が DFM によって再検出されておらず, かつ手動更新が実施されていないときなど), エイジン グ・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルとエイジング・メカニズム」を参照し てください。
	true の場合 :この CI または関係 のエイジング・メカニズムは有効になっています。

UI要素	詳細
	標準設定値 :False。DFM CIの標準設定値は True です。
	注:
	 エージング・メカニズムが無効の場合、このフィールドは無視されます。
	 このフィールドは、特定のCIに対してのみ表示されます。
削除の候 補:	CI が削除の候補かどうかを表します。
最終アクセ ス日時	DFM による更新または検出時に,CI が最後にアクセスされた時刻です。このフィー ルドは,特定のCI に対してのみ表示されます。
	このパラメータは,エージング・メカニズムによって使用されます。詳細については,『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルとエイジング・メカニズム」を参照し てください。
Last Modified Time	CIプロパティが最後に更新された日時です。
名前	CIの名前です。
Note	CI に関する、ほかの情報を入力できます。
Origin	CIを自動的に作成したソース,またはCIが作成されたアプリケーションのIDです。
関係	関連 CI については, [関係]をクリックしてダイアログ・ボックスの関係モードに移動します。
CI タイプの 選択	新しい CI の CI タイプをツリーから選択 できます。 選択した CI またはビューに利用で きる CI タイプが, CI タイプ・ツリーでアクティブになります。 ほかの CI タイプは, 淡い色 のテキストで表示されて選択できません。
	CI タイプ・ツリーを現在のビューからの CI タイプに制限するには,右側の[現在の ビューからの CI タイプ]を選択します。 すべての CI タイプをツリーに表示するには, [す べての CI タイプ]を選択します。
Updated By	CI プロパティを更新した管理者のユーザ名です。
ューザラベ ル	CIの表示ラベルを定義できます。値が入力されていない場合, CI名が標準設定ラベルとして表示されます。

[関係]ダイアログ・ボックス

このページでは、新しい CI とビューで選択した CI 間の関係、および関係のプロパティを定義できます。

利用方法	[新規関連 CI]ダイアログ・ボックスで[関係]ボタンをクリックします。
重要情報	このページは,新しい関連 CI でのみ表示されます。

UI 要素	詳細
Allow Cl Update	値がtrueに設定されていると、DFM プロセスによって関係が自動的に更新されます。
CI の定 義	[CI 定義]をクリックすると、ダイアログ・ボックスの CI プロパティ・モードに戻ります。
Created By	関係を手動で作成した管理者のユーザ名(該当する場合)です。
Create Time	関係が作成された日時です。
詳細	関係の説明です。
方向	ドロップダウン・リストで関係の方向を選択します。
エイジン グの有 効化	CI または関係が一定期間,更新またはリフレッシュされていない場合(CIがDFMに よって再検出されておらず,かつ手動更新が実施されていないときなど),エイジング・ メカニズムによって CIが CMDB から削除されます。詳細については,『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルとエイジング・メカニズム」を参照してください。
	true の場合:このCIまたは関係のエイジング・メカニズムは有効になっています。
	標準設定値 :False 。DFM CI の標準設定値は True です。
	注:
	 エージング・メカニズムが無効の場合、このフィールドは無視されます。
	 このフィールドは、特定のCIに対してのみ表示されます。
最終アク セス日	DFM による更新または検出時に,関係が最後にアクセスされた時刻です。このフィー ルドは,特定の関係に対してのみ表示されます。
圩	このパラメータは,エージング・メカニズムによって使用されます。詳細については,『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルとエイジング・メカニズム」 を参照して ください。
Must	値をtrue に設定すると、親 CI のステータスの計算にパーセンテージ・ルールを使用する ときに子 CI が有力になります。CI のステータスが低い場合、親は子 CI のステータスを 取り、必要な場合にはパーセンテージ・ルールの計算を上書きする必要があります。こ れは、重要な CI に重点を置くのに便利です。たとえば、データベースに障害が発生し た場合に、サブツリー内のほかの CI のステータスに関係なく、データベースCI に [Must]を定義して、サブツリーの上位までステータスを致命的にする必要がある場合 があります。 関係に定義した Must ステータスは、その関係にのみ適用され、子 CI のほかの関係 では使用されません。このフィールドは HP Business Service Management を操作する ときのみ関連します。

UI 要素	詳細
名前	CI の名 前 です。
Network Address	ルート・リンクに対してのみ定義します。 このルートの設定先となる宛先のネットワーク・ アドレスを示します。
Note	CIに関する、ほかの情報を入力できます。
Origin	関係を自動的に作成したソース, または関係が作成されたアプリケーションの ID で す。
関係	2つの CI の間に作成する関係のタイプを定義できます。
ソ ― ス CI	関係の1つ目のCIの名前です。これはビューで選択したCIです。
ターゲッ ト Cl	関係の2つ目のCIの名前です。これは作成中の新しいCIです。
Updated By	関係のプロパティを更新した管理者のユーザ名です。
Update Time	CIプロパティが最後に更新された日時です。
ユーザラ ベル	関係の表示ラベルを定義できます。
加重	重み付けの値を入力すると、親 CI のステータスの計算にパーセンテージ・ルールを使用するときに、パーセンテージの計算で子 CI に重みが付けられます。たとえば、子 CI に3の重みを付けると、重み付けのない兄弟と比べて、親のステータスの計算に3倍の影響があります。
	関係に定義した重み付けは、その関係にのみ適用され、子 CI のほかの関係では使用されません。このフィールドは HP Business Service Management を操作するときのみ関連します。

[影響分析を実行]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、影響分析マネージャで該当のビューに定義した影響ルールを実行できます。

利用方法	[マネージャ]> [モデリング]> [IT ユニバース マネージャ] を選択します。トポロジ・マップでトリ ガ・クエリ・ノードを右 クリックして[影響分析を実行]を選択するか, [IT ユニバース マネー ジャ]ステータス・バーで[直ちに影響分析を実行]ボタン [▶] をクリックします。
畺	次のことが行えます。
要 情 報	 トリガ CI の影響を受けるすべての CI を新しいウィンドウに表示できます。マップ内の関係は、影響ルールを表します。関係の名前は、影響分析マネージャで定義された影響ルールの名前です。詳細については、196ページ「マップを表示」を参照してください。
	• 影響を受ける CI のステータスがどのように影響を受けるかをシミュレートできます。詳細に

関連	示されます。詳細については、356ページ「影響分析マネージャ」を参照してください。 164ページ「影響分析結果の取得 - シナリオ」
	 ついては、195ページ「ビューで表示」を参照してください。 シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内のCIのリストを表示するレポートを生成できます。詳細については、195ページ「レポートを生成」を参照してください。 注:このダイアログ・ボックスは、該当のビューに影響ルールが定義されている場合にのみ表

UI 要素	詳細
すべての影響ルール	選択すると、影響分析のすべての影響ルールを実行します。
レポートを生成	影響分析レポートを生成します。このレポートに表示される情報は、次のように分かれています。
	• CIT 別のグループ化:影響を受けるすべてのCI(シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内のCI)。CIT で並べ替えられます。
	• 影響を受けるアプリケーション:影響を受けるすべての CI のうち,特定のビジネス・サービスに属するもの。
	 トリガ CI:システムに加える変化を表す CI。
	影響分析レポートの詳細については、321ページ「影響分析レポート」を 参照してください。
影響ルールの心ドル	影響分析で必要な影響ルールを含むバンドルを選択します。
特定のバンドル内の 影響ルールのみ	影響分析の指定されたバンドルから影響ルールを実行する場合に選択 します。
ビューで表示	選択した状態に関して,影響を受ける CI のステータスがどのように影響 を受けるかをシミュレートできます。トポロジ・マップには,トリガ CI のステー タスに加えて,その影響を受ける CI の全ステータスが表示されます。
	トポロジ・マップには、次の影響分析インジケータも表示されます。
	 トリガ CI は、この ▲ インジケータでマークされます。
	 影響を受け、トリガにもなる CI は、この 1 インジケータでマークされます。
	 ● 影響を受ける CI は、この → インジケータでマークされます。
	注:ここに表示されるステータスと各ステータスを表す色は、システム・タイ プ・マネージャでその状態の重大度リストに定義されたものです。詳細に ついては、398ページ「「リスト / 一覧定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボック

UI要素	詳細
	ス」を参照してください。
マップを表 示	影響ルールを選択して,選択した状態に関してトリガ CI の影響を受け るすべての CI のシミュレーションを,新しいウィンドウに表示できます。この CI に影響ルールが1 つだけ定義されている場合は,[影響ルール]ウィン ドウが直接表示されます。詳細については,198ページ「[影響を表示] 表示枠」を参照してください。
	マップ内の関係は、影響ルールを表します。また関係の名前は、影響分析マネージャで定義された影響ルールの名前です。
	注:[マップを表示]では、複数のトリガの結果を表示できます。
トリガの重大度	スケールから必要な重大度を選択します。
	注:状態の重大度スケールは、システム・タイプ・マネージャで定義されま す。詳細については、375ページ「システム・タイプ・マネージャ」を参照して ください。
	たとえば影響分析マネージャでは、トリガ・クエリ・ノードの重大度を[注意 域(1)]以外に定義する影響ルールを作成できます。この場合、[注意 域(1)]以外の重大度(たとえば[警戒域(3)])を選択すると、条件が 一致し、シミュレートされたシステム内の変化が起動されます。
	詳細については、367ページ「[影響ルール定義]ダイアログ・ボックス」を 参照してください。

[スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ビューのスナップショットを取り、保存できます。

利用方法	IT ユニバース・マネージャで, [CI セレクタ]の[スナップショット]ボタン <mark>に</mark> をクリックし, [スナッ プショットを保存する]を選択します。
重要情報	スナップショット比較レポートを使うと,異なる時間に取られた同じビューのスナップショットどう しを比較できます。詳細については,304ページ「スナップショット比較レポート」を参照してく ださい。
関連タスク	169ページ「ビューのスナップショットを取る」

モデリング・ガイド 第7章:ITユニバースマネージャ

UI 要素	詳細
詳細	スナップショットの説明です(任意指定)。
Note	スナップショットに関するメモです(任意指定)。
ビュー名	CI の選択に表示されるビューの名前です。 このフィールドは編集できません。

[ディスカバリのステータスと変更の表示] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、 CI およびジョブをビューで再検出 することによって、 アプリケーションなどに対する最近の変更を調べることができます。

利	IT ユニバース・マネージャの場合
用 方	• ビューの CI をすべて再検出するには, [CI の選択]ツールバーで[ディスカバリおよび変
法	更のサマリを表示]ボタン ¹⁰⁰ をクリックします。 [ディスカパリのステータスと変更の表示]ダ イアログ・ボックスが表示されます。
	 1つまたは複数のCIをビューで再検出するには、CIを選択して、[詳細]表示枠の [ディスカバリ]タブを表示します。
画画	標準設定では, 10,000個より少ない CI を含むビューに対して再検出手順を実行できます。
惰 報	ビューで再検出できる CI の数を増やすには、次の手順を実行します。
	 インフラストラクチャ設定マネージャにアクセスします([管理]>[インフラストラクチャ設定 マネージャ])。
	2. インフラストラクチャ設定テーブルで, [再検出をサポートするビュー内の最大 CI 数]設 定を選択します。
	3. [値]カラムをクリックして数値を変更します。
	4. サーバを再起動して変更内容を反映させます。
	インフラストラクチャ設定マネージャの操作の詳細については,『HP Universal CMDB 管理 ガイド』の「「インフラストラクチャ設定マネージャ」」を参照してください。
関 連タ スク	162ページ「アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック(ビューの再検出)」
関 連 情 報	「[ディスカバリモジュール/ジョブ - 詳細]タブ」(『 HP Universal CMDB データ・フロー管 理ガ イド』)

UI要素	詳細
Ø	クリックすると, 選択した CI のステータスが更新されます。

UI要素	詳細
	このボタンは、再ロードするデータがないときには無効になっています。
٢	クリックすると、ディスカバリが再実行されます。
ビュー上 のディスカバ リ進 行 ステータス	詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[ディ スカバリモジュール/ジョブ-詳細]タブ」を参照してください。
ビューに関する変更 履歴	詳細については、171ページ「[CI/関係の履歴]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

[影響を表示]表示枠

このページでは、トリガ CI のステータスと、その影響を受ける CI のすべてのステータスを表示 するウィンドウが開きます。

利	[影響分析を実行]ダイアログ・ボックスで[マップを表示]をクリックします。
用 方 法	影響分析がすでにアクティブになっている場合は,[IT ユニバース]ステータス・バーから[影響 分析はアクティブです]リンクをクリックします。
电声	次のタブを利用できます。
要 情	• 影響の結果:選択した CI に影響を受けるすべての CI のマップを表示します。
報	• トリガ CI : 選択したトリガ CI の情報をテーブルで表示します。
	影響分析結果を表示できるのは,影響分析マネージャで該当するビューに影響ルールを 定義した場合のみです。詳細については,356ページ「影響分析マネージャ」を参照してく ださい。
	影響 ルールによってトリガまたは影響を受ける,特定のCIに関する情報を表示するに は,CIに接続している関係をダブルクリックします。 マップが表示されます。
	マップ内の関係は、影響ルールを表します。関係の名前は、影響分析マネージャで定義された影響ルールの名前です。
萬	164ページ「影響分析結果の取得 - シナリオ」
連 タ スク	

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<凡例>	CIの横に表示されるアイコンは、次の特別な状態を表します。
	• 追加済み:変更時間枠がアクティブなとき, CIが追加されたことを表します。
	• 削除の候補: CI が削除の候補であることを表します。
	• 変更済み:変更時間枠がアクティブなとき, CI が変更されたことを表します。

モデリング・ガイド 第 7章 : IT ユニバース マネージャ

UI要素	詳細			
	• レイヤを1つドリル・ダウン。仮想レイヤ上のCI下にCIがあることを示します。			
	• 外部: CI がフェデレート CI であることを表します。			
	• 影響済み:影響分析がアクティブなとき,影響を受けた CI を示します。			
	• 影響済みかつトリガ:影響分析がアクティブなとき、影響を受けたトリガ CI を示します。			
	• メモ: CI にメモが追加されたことを表します。			
	• トリガ:影響分析がアクティブなとき、トリガ CI を示します。			
<関係>	これらの関係は、影響分析マネージャで定義した影響ルールを表します。詳細については、367ページ「「影響ルール定義」ダイアログ・ボックス」を参照してください。			
<ステータス と各 ステー タスを表す 色 >	表示されるステータスと各ステータスを表す色は、システム・タイプ・マネージャでその 状態の重要度リストに定義されたものです。詳細については、398ページ「[リスト / 一覧定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス」 を参照してください。			
<ツール バー>	[影響を表示]表示枠のツールバーには, [IT ユニバースマネージャ]ツールバーのボ タンのほとんどがあります。			
<[トポロジ マップ] サイ ド <i>バー</i> >	詳細については、147ページ「[トポロジマップ] サイドバー」を参照してください。			

第8章

モデリング・スタジオ

本章の内容

モデリング・スタジオ概要	
ビュー形式	
ビジネス・ビューの構築	
テンプレートとパースペクティブ	
定義済みのフォルダとビュー	204
テンプレート・ベース・ビューの作成	205
ビジネス Cl モデル	205
パースペクティブ・ベース・ビューの作成	207
隣接検索 CI とウォッチポイント	209
パターン・ビューの作成	213
テンプレートの作成	214
パースペクティブの作成	215
テンプレート・ベース・ビューの作成	216
複数のテンプレート・ベース・ビューの作成	
レポート設定の定義	
インスタンス・ベース・モデルの作成	219
新規パターン・ベース・モデルの作成	
モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成	221
CI のコレクションに基 づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作 成	
モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース	

モデリング・スタジオ概要

モデリング・スタジオは、ビューを作成、管理するためのツールです。 独自のビューを作成することも、 HP Universal CMDBに付属する用意済みのビュー(ファクトリ・ビュー)を利用することもできます。

構成管理データベース内のIT ユニバース・モデルは、何千もの構成アイテム(CI)を保持する大規模なモデルになることがあります。ビューでは、IT ユニバース・モデル全体のサブセットを構築して、特定の対象領域に関連する CI だけを保持できます。独自のビューを定義することにより、組織のビジネス・ ニーズに関連する情報だけを表示できます。 HP Universal CMDB では、パターン・ビュー、テンプレート・ベース・ビュー、およびパースペクティブ・ベース・ビューの3つのビュー形式がサポートされます。これらのビューは、異なるプロセスを介してポピュレートされます。詳細については、201ページ「ビュー形式」を参照してください。

ビュー形式

HP Universal CMDBでは、ビューを設定するための形式として次の3つのビュー形式がサポートされます。

- パターン・ビューは、ビューの構造を定義する TQL(Topology Query Language) クエリから構築されます。ビューを構築するときに新しい TQL クエリを作成することも、既存のクエリに基づいてビューを構築することもできます。ビューには、クエリ定義に適合する CI と関係 だけが表示されます。ビューを表示または更新すると、モデリング・スタジオはクエリに適合するすべての要素を CMDB から検索し、それらの要素でビューを自動的に更新します。
- テンプレート・ベース・ビューは、TQL クエリに基づいて作成され、さらにテンプレートが適用されます。テンプレートは、パラメータを含む再利用可能なビューです。これらの設定は、テンプレートの ー部として保存されます。これにより、パラメータ情報を入力し直すことなく、同じ設定を持つ ビューを複数構築できます。ビューには、クエリ定義とテンプレートの条件に適合するCIと関係だ けが表示されます。テンプレートの詳細については、203ページ「テンプレートとパースペクティブ」を 参照してください。
- パースペクティブ・ベース・ビューは、個々のCIのコレクションを選択し、それにパースペクティブと呼ばれる特殊なテンプレートを適用することによって構築されます。インスタンス・ビューは廃止され、パースペクティブ・ベース・ビューに置き換えられました。パースペクティブの詳細については、203ページ「テンプレートとパースペクティブ」を参照してください。

左表示枠のビュー・ツリーから編集するビューを選択すると、ビューが対応するエディタの編集表示枠 で開きます。

ビジネス・ビューの構築

モデリング・スタジオでは,独自のビューを定義して,ビジネス環境をモデル化できます。

本項の内容

- 201ページ「ビューの構造」
- 202ページ「ビュー階層の設定」
- 203ページ「トポロジ・レポート」

ビューの構造

作成したビューは、ビジネス・ユーザに自社の構造、プロセス、および目標の論理的な表現を提供します。これらの要件を満たすには、通常、ビジネスのさまざまな側面を表現する複数のビューを構築します。たとえば、次の側面を中心とするビジネス・ビューを構築できます。

- 企業の構造:支店の地理的な位置やデータ・センターなどを基準にしてデータが分類されます。
- ビジネス・プロセス:ビジネス・ラインやアプリケーションを基準にしてデータが分類されます。
- ビジネスの目標:売り上げや主要顧客を基準にしてデータが分類されます。

ビューは組織の個々の要求によって異なり、ビューの実際の階層構造にはそれらの要求が反映されます。

ビューの通常の階層形式は次のとおりです。

- 最上位レベル:ビューの最上位レベルは、ルート CI とその下の分岐で構成され、通常は場所、 ビジネス ライン、顧客、アプリケーションなどの論理的なビジネス CI タイプから構築されます。
- 中間レベル:ビューの中間の分岐は、通常、実際のハードウェアやソフトウェアを表すシステムCl タイプ、またはモニタを含むグループを表すモニタ・グループClタイプ、あるいはその両方で構成され ます。
- 最下位レベル:ビューの最下位レベルは、サブツリーの末端にあるリーフCIで構成され、モニタCI タイプから構築されます。

注: 最下位レベルは, HP Business Service Management などの監視ソリューションがCMDB に接続され,モデル化されている場合にのみ関連します。

ビュー階層の設定

パターン・ビュー・エディタでは, 画面右側の[階層]表示枠を使用してビュー階層を設定できます。 階層を設定するには, **手動とルール・ベース**の2つの方法を使用できます。標準設定では, 手動メ ソッドが選択されています。

手動の階層メソッド

手動の階層メソッドでは、ビューのクエリ・ノードはツリー形式で表示されます。階層を作成するには、選択したクエリ・ノードを手動で別のクエリ・ノードの下にドラッグするか、ツールバー・ボタンを使用します。クエリ・ノードを別のクエリ・ノードの下に移動できるのは、作成後の階層が有効な場合のみです。詳細については、250ページ「[階層]表示枠」を参照してください。

ビューから階層に1つのクエリ・ノードを複数回配置することができます。配置したら、必要なレイ アウトに応じて、クエリ・ノードが異なるレイヤに表示されるように階層を調整できます。作成された ビューは、別のクエリ・ノードをTQL クエリに追加した場合と同じになります。階層で同じクエリ・ ノードを2回使用すると、より簡単なTQL クエリを使用して必要なビューを作成できます。

クエリノードのグループ化

ビュー階層を手動で設定する場合,表示が見やすくなるようにサブグループを作成して異なる基

準で CI をグループ化できます。[次の項目別にグループを追加]ボタン ¹ をクリックして, いずれ かのオプションを選択します。トポロジ・マップ内に同じタイプの CI のサブグループを作成するには, [タイプ別グループを追加]オプションを使用します。特定のクエリ・ノードのサブグループを作成する には, [クエリノード別グループを追加]オプションを選択します。共通の属性で CI をグループ化す るには, [属性別グループを追加]ボタンを使用し, 258ページ「[クエリノードのグループ化]ダイア ログ・ボックス」で説明されている方法で正規表現を入力します。正規表現の詳細について は, 441ページ「正規表現の例」を参照してください。

ネストされたグループ(内部に別のクエリ・ノード・グループを含むクエリ・ノード・グループ)を作成する ことにより,トポロジ・マップに表示される TQL クエリの結果を微調整することもできます。

たとえば、ノード・タイプのクエリ・ノードを CIT でグループ化した後, operation state 属性を使用してより焦点を絞ったグループを作成できます。

• ルール・ベースの階層メソッド

ルール・ベースの階層メソッドでは、 [階層ルール]ダイアログ・ボックスを使用して階層ルールを定 義します。ソース CIT, ターゲット CIT, 関係タイプ, 関係の方向を選択して, 階層ルールの条件 を定義します。 定義した条件を満たす CI がビュー内にあった場合, その CI はルールの対象となり ます。 つまり, ターゲット CI がソース CI の配下 のレイヤに配置されます。 階層ルールの定義の詳 細については、 230ページ「 [階層ルール]ダイアログ・ボックス」 を参照してください。

トポロジ・レポート

レポート・モジュールでは、ビューのデータをレポート形式で表示できます。このようなレポートは、ビューのトポロジ・レポートと呼ばれます。トポロジ・レポート設定は、モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタの[レポート]タブで定義します。トポロジ・レポートの詳細については、277ページ「トポロジ・レポートの概要」を参照してください。

テンプレートとパースペクティブ

テンプレートは, 定義されたパラメータを持つ再利用可能なパターンです。 テンプレートを使用してテン プレート・ベース・ビューの構築し, 個々のビューのパラメータ値を設定します。 テンプレートに対して 行った変更は, そのテンプレートに基づいて作成された既存のすべてのビューに影響します。

テンプレート・ベース・ビューは、 パターン・ビューと同様に IT ユニバース・マネージャで開くことができま す。 IT ユニバース・マネージャでは、 テンプレート 自体を開いてさまざまな パラメータ値の結果を表示す ることもできます。 結果を保存する場合は、 テンプレート・ベース・ビューとして保存する必要がありま す。 テンプレート、 テンプレート・ベース・ビュー、 パターン・ビューは パターン・ビュー・エディタで定義しま す。

パースペクティブは、特定の CI のコレクションに適用 するために設計されたテンプレートの一種で、パ ターン・ビューのパターンと似ています。たとえば、パースペクティブを IP アドレスが含まれるノードで構成 できます。その場合、作成されたパースペクティブ・ベース・ビューには、ノード CI に含まれる IP アドレス と一緒に CI の選択にある CI のすべてのノード CI が表示されます。

最も基本的なパースペクティブは Content Only パースペクティブと呼ばれるもので、クエリ・ノードそのものだけで構成されます。 Content Only パースペクティブを CI のコレクションに適用した場合、結果の ビューに含まれるのは選択された CI のみです。

パースペクティブは, パターン・ビュー・エディタでも作成, 編集されます。 パターン・ビュー・エディタでは, 複数のビュー, テンプレート, パースペクティブを同時に開くことができます。 それぞれ別個のタブに表示 されます。

それぞれ別個のタブに表示されます。パースペクティブは、IT ユニバース・マネージャのビューのリストには表示されませんが、パースペクティブ・ベース・ビューは、ほかのビューと同様にIT ユニバース・マネージャで開くことができます。詳細については、207ページ「パースペクティブ・ベース・ビューの作成」を参照してください。

このように, モデリング・スタジオの CI の選択 にある[リソース] タブのビュー・ツリーには, 次の個別のエン ティティを含めることができます。

- パターン・ビュー
- テンプレート
- テンプレート・ベース・ビュー
- パースペクティブ
- パースペクティブ・ベース・ビュー

ツリーにフィルタを設定して、表示するビューまたはテンプレートのタイプを選択できます。

次の表には、ビューのタイプと、作成および表示する場所がまとめられています。

ビューのタイプ	作成場所	IT ユニバース・マネージャで開け るか
パターン・ビュー	パターン・ビュー・エディタ	はい
テンプレート	パターン・ビュー・エディタ	はい(現在のセッションでのみ)
テンプレート・ベース・ビュー	パターン・ビュー・エディタ	はい
パースペクティブ	パターン・ビュー・エディタ	なし
パースペクティブ・ベース・ ビュー	パースペクティブ・ベース・ビュー・エ ディタ	はい

定義済みのフォルダとビュー

モデリング・スタジオの CI の選択にある[リソース]タブのビュー・ツリーには, 以降のセクションで説明するように, 定義済みのフォルダとビューが含まれています。

- 204ページ「定義済みのフォルダ」
- 204ページ「ファクトリ・ビュー」
- 204ページ「定義済みのパースペクティブ」

定義済みのフォルダ

CI の選択の階層ファイル・フォルダ・システムは、ビューの整理に役立ちます。 定義済みのフォルダは、 用意済みのビューのために提供されています。 これらのフォルダを変更したり、組織の要件に応じて 別のフォルダを追加したりできます。

ファクトリ・ビュー

HP Universal CMDB のインストールには、用意済みのパターン・ビュー、テンプレート、およびパース ペクティブが含まれています。これらのビューにより、CMDB の操作を即座に開始できます。

用意済みのビューは,初期状態では空です。各パターン・ビューに組み込まれた TQL クエリは,いず れかの CI ジェネレータによって CI が CMDB に追加された直後から,パターンの要件に適合する CI を認識し,それらをビューに追加できるようになります。

CI のビューは、検出プロセスが実行されたときに作成されます。付属する用意済みのビューは、関連 するデータ・フロー管理アクション(Universal Discovery) パッケージに対応しています。たとえ ば、Oracle ビュー([Root]>[データベース]>[Oracle]>[Oracle]) には、DFM で Database - Oracle モジュールがアクティブ化されたときに作成された CI が設定されます。DFM の実行の詳細について は、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「モジュール/ジョブベースのディスカバリ・ワーク フロー」を参照してください。

SAP レポートとビューのアプリケーション管理

用意済みのビューの一部は、システムにとって基本的とみなされ、フォルダから削除できません。

定義済みのパースペクティブ

HP Universal CMDBには、用意済みのパースペクティブも用意されています。その一例として、追加のCI がなく、ビュー・コンテンツ自体の要素だけが含まれている Content Only パースペクティブがあります。

- このパッケージを使用して、システム・モニタのみを表示するサービス状況を作成します。
- このパースペクティブを使用して、 [モニタ デプロイメント ウィザード]を使用して追加モニタを設定します。

テンプレート・ベース・ビューの作成

同じテンプレートに基づくテンプレート・ベース・ビューには、同じクエリ・ノードと関係が含まれています。 異なるのはパラメータ値のみです。テンプレート・ベース・ビューは、[テンプレート ベースビュー]ウィザー ドを使用して作成します。このウィザードでは、同じテンプレートを使用して一度に複数のビューを作 成できます。複数のビューを作成するときは、パラメータ値を手動で入力するか、CSV ファイルからイ ンポートするかを選択できます。値をインポートするには、ウィザードで CSV ファイルを正しく整形する 必要があります。最初の行に少なくとも1つのテンプレート・パラメータの名前を含める必要がありま す。また、そのパラメータに少なくとも1つのレコードを含める必要があります。レコードは個別の行に 含める必要があり、各レコードのパラメータ値はコンマで区切って、同じ行内に含める必要がありま す。

また, ウィザードではパラメータ値に基づいてビュー名の式を定義できる[Advanced Naming]機能を 提供します。たとえば、ベース・テンプレートが Server_Template という名前で, テンプレートのパラメー タの1つがシリアル番号である場合, ビュー名を Server <シリアル番号>と定義できます。このように, ウィザードではパラメータのシリアル番号の各値を各ビューの名前に自動的に挿入します。

CSV ファイルから値をインポートするときにビューに名前を割り当てる別の方法では、template_ based_view_nameというファイルにカラムを含めます。このカラムに対応するファイル・エントリは、ウィ ザードでビュー名として自動的に入力されます。なお、この命名方法は[Advanced Naming]機能よ りも優先されます。つまり、[Advanced Naming]が選択されている場合でも、ファイルのtemplate_ based_view_name カラムのエントリにビュー名が割り当てられます。

テンプレート・ベース・ビューの作成の詳細については, 265ページ「[テンプレート ベースビュー]ウィザー ド」を参照してください。

また, エディタでビューが開いているときは, [テンプレート パラメータ値]ダイアログ・ボックスからテンプ レート・ベース・ビューのパラメータを編集することもできます。詳細については, 270ページ「[テンプレー ト パラメータ値]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

テンプレート・ベース・ビューのレポート・レイアウトは編集 できません。 レポート・レイアウトを変更 するには、ビューのベース・テンプレートを変更 する必要 があります。

ビジネス CI モデル

本項の内容

- 206ページ「インスタンス・ベース・モデル」
- 206ページ「パターン・ベース・モデル」
- 207ページ「インスタンス・ベース・モデル上でのパターン・ベース・モデルの定義」

パースペクティブ・ベース・ビューのビュー・コンテンツを構成する CI のコレクションの選択方法は2つあり ます。1つは、CI の選択から CI を選択し、それを編集表示枠にドラッグするという方法です。この場 合、パースペクティブをコレクションに適用することによってビューを作成できます。このコレクションをほか のビューで再利用するには、選択プロセスを繰り返す必要があります。ビューに表示する CI を選択す るもう1つの方法は、モデルを作成するというものです。 モデルとは, ビジネス・サービスやビジネス内容などのビジネス・エンティティを定義する CI インスタンスの 再利用可能コレクションです。モデルを作成することで, 異なるビューを作成するほかのパースペクティ ブで再利用可能な CI のコレクションが作成されます。 その後にモデルに加えた変更は, そのモデルを ベースとしているすべてのビューに反映されます。 モデルには, インスタンス・ベース・モデルとパターン・ ベース・モデルの2 つのタイプがあります。

インスタンス・ベース・モデル

インスタンス・ベース・モデルの作成では、まずベースとなるビジネス CI を選択します。利用可能なビジネス CI は、グループ、アプリケーション、ビジネス・サービス、ビジネス単位、ビジネス内容などです。そして、次の方法で CI をモデルに追加します。

- CIの選択から Model Editor に手動で CI をドラッグします。
- 隣接検索パスを使用して関連 CIを隣接検索して選択し、モデルに追加します。
- 選択した CI に監視を定義して、自動的に CI をモデルに追加します。

また, CI を空のキャンバスにドラッグし, [新規モデルの作成]を選択するという方法でもモデルの作成 を開始できます。

作成したモデルは CI そのものであり, モデル内の CI は **含む**関係によってそのモデルに関連付けられ ます。ビューの作成のためにパースペクティブをモデルに適用する前に, モデルを保存しておく必要があ ります。

注意: モデルに加えた変更は、そのモデルに基づいているビューだけでなくユニバース全体に影響します。したがって、モデルから CI を削除すると、CI 間に存在していた関係が CMDB から削除されることになります。

IT ユニバース・マネージャでの作業時には、選択した CI を新規または既存のモデルに直接追加できます。詳細については、169ページ「[モデルへの CI の追加] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

パターン・ベース・モデル

もう1 つの構 築 可 能 な モデルは, パターン・ベース・モデルです。 パターン・ベース・モデルでは, 含 まれる CI を手 動 で選 択 するのではなく, それらを判 別 する TQL クエリを定 義 します。 パターン・ベース・モデル を既 存 の TQL クエリに基 づいて構 築 することも, 新しい TQL クエリを作 成 することもできます。

モデルの TQL クエリには少なくとも 1 つのクエリ・ノードをモデルの出力として指定する必要があります。 そのタイプの CI が TQL クエリのパターンに一致すれば、その CI がモデル出力に含まれます。

通常のモデルと同様,作成したパターン・ベース・モデルは,CIとして保存されます。また,パースペク ティブ・ベース・ビューのコンテンツを構成するために使用されます。作成された新しい TQL クエリは通 常のクエリとして保存され,パターン・ビューのベースとして使用されます。

パターン・ベース・モデルは連続して更新されません。各モデルは、それが保存され、モデル更新の特定の間隔で TQL クエリが実行されるときに計算されます。既存のパターン・ベース・モデルは、すべて同時に更新されます。パターン・ベース・モデル更新の頻度を設定するには、左側のペインの[リソー

ス]タブで 🕒 ボタンをクリックして, [パターン ベース モデル スケジューラ]ダイアログ・ボックスを開きます。 選択した設定は, 順次作成されるすべてのパターン・ベース・モデルにも適用されます。詳細について は, 246ページ「[パターン ベース モデル スケジューラ]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

注:

- [パッケージマネージャ]でパターン・ベース・モデルをエクスポートすると、モデル・コンテンツ更新用のエンリッチメントだけでなく、モデルの基本 TQL クエリがパッケージに追加されます。パッケージ・リソースを表示すると、またはパッケージのデプロイまたはアンデプロイを実行すると、リソースのみが表示されます。モデル名が表示されます。UCMDB 10.0 からエクスポートされたパターン・ベース・モデルは、UCMDB の以前のバージョンにインポートすることはできません。
- モデリング・スタジオまたは IT ユニバースからパターン・ベース・モデルを削除すると、ビジネス・エンリッチメント、ジョブ・スケジューラ、およびパターン・ベース・モデル CI も削除されます。

インスタンス・ベース・モデル上でのパターン・ベース・モデルの定義

パターン・ベース・モデルを定義すると、既存のインスタンス・ベース・モデルを最上部で構築することが可能です。この場合、構築するモデルのパターンは、新規のパターン・ベース・モデルと同様にキャンバス上で可視となります。ただし、モデルを使用してパースペクティブ・ベース・ビューを構築したときには、インスタンス・ベース・モデル内のCIも新規モデルに残り、ビュー結果に表示されます。同様に、ITユニバース・マネージャ内のモデルにアクセスするときは、インスタンス・ベース・モデル内のCIとパターン・ベース・モデルによって取得されたCIの両方が可視となります。モデルは、元のインスタンス・ベース・モデルの名前で保存され、実質的に、インスタンス・ベース・コンポーネントとパターン・ベース・コンポーネントの両方によってハイブリッド・モデルが作成されます。

モデルを削除する場合,モデルの追加パターン・ベース部のみが削除されます。モデルは,インスタンス・ベース・モデルに戻り,モデルに含まれる CI は, [モデルエディタ]上で可視となります。

パースペクティブ・ベース・ビューの作成

パースペクティブ・ベース・ビューは、モデルまたは CI のコレクションに適用されるパースペクティブによって 構成されます。 パースペクティブは、IT ユニバース・モデルのサブセットに適用されるように設計された特別なタイプのテンプレートです。

パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタの[コンテンツ] 表示枠には、ビューのベースとするために選択したモデルまたは CI が表示されます。[パースペクティブ] 表示枠には選択したパースペクティブが表示されます。[結果の表示] 表示枠には、選択したコンテンツとパースペクティブに基づいた結果のビューが表示されます。コンテンツまたはパースペクティブの選択を変更すると、それに応じて[結果の表示] 表示枠のビューが更新されます。詳細については、253ページ「パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ」を参照してください。

本項の内容

- 207ページ「コンテンツ」
- 208ページ「パースペクティブ」
- 208ページ「複数のパースペクティブに基づいたビュー」
- 209ページ「子 CI の包含と除外」

コンテンツ

パースペクティブ・ベース・ビューのコンテンツは、次の2つの方法で選択できます。

- CIの選択を使用して、個々のCIを手動でビューに追加できます。コレクションのCIは互いに独立しています。この場合、CIのコレクションはモデルとして定義されず、ほかのビューで再利用できません。
- CIの選択を使用して、1つ以上のモデルをビューに追加できます。あるいは、Model Editorでモデ

ルを扱うところから始めて、 [選択したモデルのビューを生成]を選択し、そのモデルに基づいた ビューを作成することもできます。この場合、同じモデルを選択することによって、同一のコンテンツ で別のビューを作成できます。

パースペクティブ・ベース・ビューのコンテンツを構成する際,個々のCIとモデルの両方を選択できます。ただし、その場合、モデルは普通のCIとして扱われます。モデル自体は、子 CIの階層なしで ビューに含まれます。

IT ユニバース・マネージャでの作業時には,選択した CI を新規または既存のパースペクティブ・ベース・ビューのコンテンツに直接追加できます。詳細については,170ページ「[ビューへの CI の追加] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

パースペクティブ

ビューに対して選択したパースペクティブによって、ビューに含まれる CI が決まります。パースペクティブ は、テンプレートに似た再利用可能なパターンです。パースペクティブと正規のテンプレートの違いは、 パースペクティブには、コンタクト・クエリ・ノードと指定された1つ以上のノードが含まれていることです。 コンタクト・クエリ・ノードとは、パターン内のクエリ・ノードで、特定のコンテンツにパターンを適用するのに 使用され、クエリ・ノードの横に表示される小さいアイコン 二で示されます。

たとえば、次のパースペクティブでは、Windows タイプのクエリ・ノードがコンタクト・クエリ・ノードとして指定されており、IP アドレスが Containment 関係によって関連付けられています。



このパースペクティブを CI コレクションに適用 すると、その結果表示されるビューには、元のコレクションの中のすべての CI と、コレクション内の各 Windows CI(パースペクティブを適用 することで追加された 各 CI)に接続された IP アドレスが表示されます。

パースペクティブには複数のコンタクト・クエリ・ノードを含めることができますが、パースペクティブ内の切断されたグラフごとに少なくとも1つのコンタクト・クエリ・ノードが必要です。

パースペクティブに変更を加えると、そのパースペクティブに基づいているすべてのビューが影響を受けます。

複数のパースペクティブに基づいたビュー

複数のパースペクティブを選択してビューのコンテンツに適用できます。 複数のパースペクティブを選択 するには、次の2つの方法があります。

- パースペクティブ・グループ
- パースペクティブ・チェーン

パースペクティブ・グループでは、複数のパースペクティブを選択して同じ入力コンテンツに同時に適用 します。

パースペクティブ・チェーンでは、複数のパースペクティブをビュー作成の異なるレベルで選択します。第 1レベルのパースペクティブは元のビュー・コンテンツに適用され、CI コレクションの形式で結果を生成 します。この CI コレクションが次のレベルの入力コンテンツになります。第2レベルのパースペクティブは このコンテンツに適用され、ビューの結果を生成します。複数レベルのパースペクティブに基づいて ビューを構築し、各レベルで次のレベルの入力コンテンツを生成することができます。

パースペクティブ・グループとパースペクティブ・チェーンの両方を同時に適用することもできます。この場合、パースペクティブ適用対象のレベルごとに複数のパースペクティブを選択します。

たとえば、**IP サブネット** CI のコレクションを入力コンテンツとして選択し、IP サブネットに関連するノード CI を追加するパースペクティブを第1レベルのパースペクティブとして選択します。この段階の結果は、 元の IP Subnet とそれに関連するノードで構成されます。次に、第2パースペクティブ・レベルを追加 し、それに対して2つのパースペクティブを選択します。一方はノードに関連する CPU CI を追加し、 もう一方はノードに関連するファイル・システム CI を追加します。最終結果には、元の IP Subnet と それに関連するノード、それらのノードに関連する CPU およびファイル・システムが含まれます。

このようなオプションによって, パースペクティブの機能が各構成部分に分解されるため, パースペクティ ブ・ベース・ビューを作成するプロセスが簡略化されます。必要なビューごとに別個の大きく複雑なパー スペクティブを構築するのではなく, 小さく基本的なパースペクティブから特定のケースの要件に合わせ てカスタム・パースペクティブ結合を構築できます。

子CIの包含と除外

子が存在する CI をビューに追加するとき、選択した CI タイプの子がパースペクティブのパターンに含ま れている場合にのみ、CI とその子がビューに含まれるようになります。この場合、そのタイプのすべての CI の子が含まれます。ビューの作成後、ビュー上で特定の CI を非表示にできます。それには、[結 果の表示] 表示枠で CI を選択し、ショートカット・メニューから[ビューから CI を非表示]を選択する か、ツールバーの[ビューから CI を非表示]ボタンをクリックします。このオプションは、パースペクティブを 介してビューに追加され、ビューの基礎となっている元のコンテンツの一部ではない CI に対してのみ 有効です。したがって、ビューが CI のコレクションに基づいている場合、そのコレクションの CI はビュー で非表示にできません。ビューがモデルに基づいている場合、そのモデルはビューで非表示にできませんが、そのモデルに含まれている CI は非表示にできます。

使用中のパースペクティブに関わらず、両方のビューのCIに同じ状態結果が示されています。

隣接検索 CI とウォッチポイント

モデリング・スタジオでは、2つの高度な方法、すなわち関連 CI の公開および監視の定義という方法 で既存のモデルに CI を追加できます。

本項の内容

- 209ページ「CIの隣接検索」
- 212ページ「ウォッチポイント」

CIの隣接検索

モデルを作成する方法の1つは, モデル内で CI に関連する CI を追加することです。モデリング・スタジオには, そのような CI を公開するのに役立つツールが用意されています。 関連 CI を公開するプロ セスには, 公開パスの作成が含まれます。 公開パスは, 互いに関連する CI タイプのチェーンです。 公開パスの最初のアイテムは, CI の公開を開始した CI の CI タイプです。 モデリング・スタジオは, 関連 CIをすべて探し出し, その CI タイプを一覧表示します。いずれかのタイプを選択して, パスの次のステップを作成します。ダイアログ・ボックス下部の表示枠に, そのタイプの関連 CI がすべて表示されます。ここで, モデルに含める CI を選択できます。パスの次のステップを作成するには, このプロセスを繰り返します。

たとえば、Windows タイプの CI から CI の公開を開始する場合、インタフェース、ネット ワーク、IP といったタイプの関連 CI が公開されるかもしれません。ネット ワークを選択すると、下部の表示枠にネットワーク・タイプの関連 CI が表示されます。その関連 CI を CI バスケットにドラッグするか、CI バスケット アイコンをクリックすれば、モデルに追加することができます。

CI を公開				×	
	加する公開 CI を選択します。				
バスを公開: 🏼 🛃 <u>Windows</u> Þ 👥 Network				バスの保存	
×					
	CIタイブ IEI Notwork Share	条件	CI数	0	
	CDU			0	
	Service Address			24	
	Mindowe Llear			7	
	Network Interface			3	
	Streetwork			3	
	🗒 Memory			1 🖵	
			\bigcirc		
	ixmu.		0		
① モデルに追加された順番で CI を削除…	名前		CLタイプ		
	學 192.168.119.0	Network	0.9.19		
	16.152.236.0	Network			
	192.168.112.0	Network			
	检索(F):	6			
🕋 CIバスケット	19671 (<u>1</u>)				
	(KK)		キャンセル		
	- 20				

[次へ]をクリックすると、選択したネットワークを使用してパスの次のステップが作成されます。Windows, UNIX, IP といったタイプの関連 CI が公開されます。UNIX を選択すると、下部の表示枠にUNIX の CI が表示されます。選択した CI を[CI バスケット] 表示枠にドラッグすれば、モデルに追加することができます。

モデリング・ガイド 第8章:モデリング・スタジオ

CI を公開 役 関連 CI を公開しています (2) 公開バスの各ステップで、モデルに追	加する公開 CI を選択します。			×
パスを公開: 🧟 <u>Windows</u> Þ 🍄 Unix				パスの保存
×	CI タイプ 추 NTCMD Process Installed Software 추 WMI Note: 알 SQL Server 알 Unix 환호(단):	条件 1	CIĂ	t 9 143 1 132 1 1 1
① モデルに追加された順番で CI を削除…	3 名前 Sun-001-002-node-13	 Unix	にタイプ	
	検索(E):		o	
▲ CIバスケット				
	_ <<戻る	(次^>>)	完了(キャンセル)	ヘルゴ

[次へ]をクリックすると、選択した UNIXを使用してパスの次のステップが作成されます。

モデリング・ガイド 第8章:モデリング・スタジオ

Q 関連 CI を公開しています… (公開バスの各ステップで、モデルに注	3) 追加する公開 CI を選択します。			
スを公開: 🥵 <u>Windows</u> Þ 💕 <u>Unix</u> 🍑				バスの保存
	CI タイプ	冬件	CI¥	it ا
	SNMP			1 🔺
	S Windows			1
	Je File System			14 -
	Service Address			5
	Network Interface			2
	🛒 Network			1
	T IP			1 1
	検索(E):			
🛈 モデルに追加された順番で CI を削除	名前		CIタイプ	

この場合, Windows > ネットワーク > Unix の公開パスが作成されます。各ステップで、公開されて いる関連 CI をモデルに追加するというオプションもあります。 CI の隣接検索の詳細については、 260 ページ「[CI を隣接検索]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

CIを公開せずに公開パスを作成することも可能です。詳細については、227ページ「[隣接検索パスの作成/編集/保存]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

ウォッチポイント

モデルに追加する関連 CIを探し出すもう一つの方法は、モデル内の選択した CI に監視を定義す るというものです。監視は、指定されたタイプの関連 CI が新しく作成されたときに起動されるメカニズ ムです。どの監視も公開パスと関連付けて定義されます。公開パスに含まれる CI タイプの関連 CI が新しく作成されると、監視が起動され、モデルの横にインジケータが表示されます。ウォッチポイント の定義の詳細については、244ページ「[新規ウォッチポイント]ダイアログ・ボックス」を参照してくださ い。

注:新しいモデルは、CIに監視を定義する前に保存しておく必要があります。

ウォッチポイントによって検出された関連 CI はすべて, [ウォッチポイントの更新]ダイアログ・ボックスに 表示されます。このダイアログ・ボックスでは, モデルに追加する関連 CI を選択したり, 抑制する, つま りモデルから除外する関連 CI を選択したりできます。詳細については, 275ページ「[ウォッチポイント の更新]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

また,検出された CI を自動的にモデルに含めるというオプションもあります。それには,[新規ウォッチ ポイント]ダイアログ・ボックスのチェック・ボックスを選択します。この場合,監視で検出されたすべての CI がモデルに追加されます。 監視は、モデルに関連しなくなったモデル内のCIを検出するのにも使用できます。このようなCIは、 ウォッチポイントに関連付けられている隣接検索パスをたどって探し出された場合、[ウォッチポイント の更新]ダイアログ・ボックスにも表示されます。モデルからCIを削除するという提案を受け入れること ができます。また、その提案を受け入れず、モデルにCIを残しておくこともできます。

注: 監視は個々のCIに定義されますが, 監視の結果, モデル内のすべてのCIの公開パスに 含まれているCIタイプの関連 CIが表示されます。

パターン・ビューの作成

このタスクでは、パターン・ビューを作成してその TQL クエリを定義する方法について説明します。

本項の内容

- 213ページ「パターン・ビュー・エディタで新規ビューを開く」
- 213ページ「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」
- 213ページ「ビュー階層の設定」
- 213ページ「ビュー・プロパティの設定」
- 214ページ「レポート設定の定義-任意指定」
- 214ページ「権限の設定」
- 1. パターン・ビュー・エディタで新規ビューを開く

[新規作成]ボタン をクリックして[パターンビュー]を選択します。[新規パターンビュー]ダイア ログ・ボックスで、新しいビューの基にするベース TQL クエリを選択するか、[新規クエリの作成]を 選択して新しい TQL クエリを作成します。パターン・ビュー・エディタが開きます。詳細について は、243ページ「[新規パターンビュー]/[新規テンプレート]/[新規パースペクティブ]ダイアログ・ ボックス」を参照してください。

2. TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。 TQL クエリにクエリ・ノードと関係を追加する 方法の詳細については、25ページ「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

注: 空のビューで開始する場合, ビューを保存するには, クエリ・ノードを少なくとも1つ追加する必要があります。

3. ビュー階層の設定

ビューの階層を設定するには、[階層]表示枠で必要なクエリ・ノードを移動します。詳細については、202ページ「ビュー階層の設定」を参照してください。

完了したら、 [保存] じをクリックしてビューを保存します。

4. ビュー・プロパティの設定

[定義プロパティの表示]ダイアログ・ボックス内の表示での優先度や標準設定のレイアウトなどのビュー・プロパティを設定します。詳細については、259ページ「[クエリ/ビュー定義プロパティ]ダイ

アログ・ボックス」を参照してください。

5. レポート設定の定義-任意指定

パターン・ビュー・エディタで[レポート]タブを選択します。ビューのクエリ・ノードごとに、レポートに含める属性を選択します。レポートのカラムの順序の設定、各カラムの並べ替え順序の設定、グラフの追加もできます。詳細については、218ページ「レポート設定の定義」を参照してください。

6. 権限の設定

新しいビューのユーザやユーザ・グループに表示権限と編集権限を適用します。[マネージャ]> [セキュリティ]>[ロールマネージャ]を選択します。詳細については、『HP Universal CMDB 管 理ガイド』の "Roles Manager Page"の「How to Assign Permissions」を参照してください。

テンプレートの作成

このタスクでは、新しいテンプレートを定義する方法について説明します。

本項の内容

- 214ページ「パターン・ビュー・エディタで新規テンプレートを開く」
- 214ページ「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」
- 214ページ「パラメータ値の設定」
- 215ページ「テンプレート階層の設定」
- 215ページ「テンプレート・プロパティの設定」
- 215ページ「レポート設定の定義-任意指定」
- 215ページ「権限の設定」
- 1. パターン・ビュー・エディタで新規テンプレートを開く

[新規作成]ボタン をクリックして[テンプレート]を選択します。[新規テンプレート]ダイアログ・ボックスで、新しいテンプレートの基にするベース TQL クエリを選択するか、[新規クエリの作成]を 選択して新しい TQL クエリを作成します。詳細については、243ページ「[新規パターンビュー]/ [新規テンプレート]/[新規パースペクティブ]ダイアログ・ボックス」を参照してください

2. TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。 TQL クエリにクエリ・ノードと関係を追加する 方法の詳細については、25ページ「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

注: 空のテンプレートで開始する場合, テンプレートを保存するには, クエリ・ノードを少なく とも1つ追加する必要があります。

3. パラメータ値の設定

TQL クエリ内のノードまたは関係を右クリックして, [クエリノードのプロパティ]を選択します。[属性]タブで, パラメータ化された値を持つ属性を追加します。詳細については, 63ページ「[クエリ・ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」 を参照してください。

注: パラメータを設定しない場合, テンプレートを保存するときにパターン・ビューとして保存 する必要があります。

4. テンプレート階層の設定

テンプレートの階層を設定するには、[階層]表示枠で必要なクエリ・ノードを移動します。詳細については、202ページ「ビュー階層の設定」を参照してください。

完了したら、 [保存] じをクリックしてテンプレートを保存します。

5. テンプレート・プロパティの設定

[定義プロパティの表示]ダイアログ・ボックス内のテンプレートでの優先度や標準設定のレイアウトなどのテンプレート・プロパティを設定します。詳細については、259ページ「[クエリ/ビュー定義プロパティ]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

6. レポート設定の定義-任意指定

パターン・ビュー・エディタで[レポート]タブを選択します。ビューのクエリ・ノードごとに、レポートに含める属性を選択します。レポートのカラムの順序の設定、各カラムの並べ替え順序の設定、グラフの追加もできます。詳細については、218ページ「レポート設定の定義」を参照してください。

7. 権限の設定

新しいテンプレートのユーザやユーザ・グループに表示権限と編集権限を適用します。[マネー ジャ]>[セキュリティ]>[ロールマネージャ]を選択します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の "Roles Manager Page"の「How to Assign Permissions」を参照してください。

パースペクティブの作成

このタスクでは、新しいパースペクティブを定義する方法について説明します。

本項の内容

- 215ページ「パターン・ビュー・エディタで新規パースペクティブを開く」
- 216ページ「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」
- 216ページ「コンタクト・クエリ・ノードの選択」
- 216ページ「パースペクティブ階層の設定」
- 216ページ「パースペクティブ・プロパティの設定」
- 216ページ「レポート設定の定義-任意指定」
- 216ページ「権限の設定」
- 1. パターン・ビュー・エディタで新規パースペクティブを開く

[新規作成]ボタン をクリックして[パースペクティブ]を選択します。[新規パースペクティブ]ダ イアログ・ボックスで、新しいパースペクティブの基にするベース TQL クエリを選択するか、[新規ク エリの作成]を選択して新しい TQL クエリを作成します。詳細については、243ページ「[新規パ ターンビュー]/[新規テンプレート]/[新規パースペクティブ]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

2. TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。 TQL クエリにクエリ・ノードと関係を追加する 方法の詳細については、25ページ「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

3. コンタクト・クエリ・ノードの選択

TQL クエリでコンタクト・クエリ・ノードにするクエリ・ノードを少なくとも1つ選択します。 クエリ・ノード を右 クリックし, [Use As Contact Query Node]を選択します。

注:コンタクト・クエリ・ノードを選択しない場合,パースペクティブを保存するときにパターン・ ビューとして保存する必要があります。

4. パースペクティブ階層の設定

パースペクティブの階層を設定するには、[階層]表示枠で必要なクエリ・ノードを移動します。 詳細については、202ページ「ビュー階層の設定」を参照してください。

完了したら、 [保存] 🛅 をクリックしてパースペクティブを保存します。

5. パースペクティブ・プロパティの設定

[定義プロパティの表示]ダイアログ・ボックス内のパースペクティブでの優先度や標準設定のレイ アウトなどのパースペクティブ・プロパティを設定します。詳細については、259ページ「[クエリ/ビュー 定義プロパティ]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

6. レポート設定の定義-任意指定

パターン・ビュー・エディタで[レポート]タブを選択します。ビューのクエリ・ノードごとに、レポートに含める属性を選択します。レポートのカラムの順序の設定、各カラムの並べ替え順序の設定、グラフの追加もできます。詳細については、218ページ「レポート設定の定義」を参照してください。

7. 権限の設定

新しいパースペクティブのユーザやユーザ・グループに表示権限と編集権限を適用します。[マ ネージャ]>[セキュリティ]>[ロールマネージャ]を選択します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の "Roles Manager Page"の「How to Assign Permissions」を参照してください。

テンプレート・ベース・ビューの作成

このタスクでは、1つのテンプレート・ベース・ビューを定義する方法について説明します。

本項の内容

- 217ページ「前提条件」
- 217ページ「新しいテンプレート・ベース・ビューの定義」
- 217ページ「テンプレートの選択」
- 217ページ「パラメータ値の追加方法を選択する」
- 217ページ「パラメータの設定」
- 217ページ「権限の設定」
1. 前提条件

新しいテンプレートに基づいてビューを作成する場合は、最初にテンプレートを作成します。詳細については、214ページ「テンプレートの作成」を参照してください。

2. 新しいテンプレート・ベース・ビューの定義

新しいテンプレート・ベース・ビューは、 [テンプレート ベースビュー]ウィザードを使って定義します。 [新規作成]ボタン * をクリックして[**テンプレート ベースビュー**]を選択します。

3. テンプレートの選択

ウィザードの[テンプレートの選択]ページで, ビューの基になるテンプレートを選択します。詳細に ついては, 266ページ「[テンプレートの選択]ページ」を参照してください。

4. パラメータ値の追加方法を選択する

ウィザードの[パラメータ値をインポート]ページで、パラメータ値の追加方法を選択します。詳細 については、267ページ「[パラメータ値をインポート]ページ」を参照してください。

5. パラメータの設定

[パラメータを入力]ページで、ビューのパラメータ値を入力します。詳細については、268ページ 「[パラメータを入力]ページ」を参照してください。

注: ビューの作成後, エディタのツールバーまたはショートカット・メニューから[パラメータを表示] ♥ を選択して, パラメータを編集することもできます。

終了したら、 [**完了**]をクリックしてエディタでビューを開きます。 [保存] 🛅 をクリックしてビューを 保存します。

6. 権限の設定

ビューのユーザやユーザ・グループに表示権限と編集権限を適用します。[マネージャ]>[セキュリ ティ]>[ロールマネージャ]を選択します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の "Roles Manager Page"の「How to Assign Permissions」を参照してください。

複数のテンプレート・ベース・ビューの作成

このタスクでは、複数のテンプレート・ベース・ビューを定義する方法について説明します。

- 218ページ「前提条件」
- 218ページ「新規テンプレート・ベース・ビューの定義」
- 218ページ「テンプレートの選択」
- 218ページ「パラメータ値の追加方法とビューの命名方法の選択」
- 218ページ「パラメータの設定」
- 218ページ「ビューを保存する場所を選択する」
- 218ページ「ビューの保存」
- 218ページ「権限の設定」

1. 前提条件

新しいテンプレートに基づいてビューを作成する場合は、最初にテンプレートを作成します。詳細については、214ページ「テンプレートの作成」を参照してください。

2. 新規テンプレート・ベース・ビューの定義

新しいテンプレート・ベース・ビューは、 [テンプレート ベースビュー]ウィザードを使用して定義しま す。 [新規作成]ボタン * をクリックして [**テンプレート ベース ビュー**]を選択します。

3. テンプレートの選択

ウィザードの[テンプレートの選択]ページで, ビューの基になるテンプレートを選択します。詳細に ついては, 266ページ「[テンプレートの選択]ページ」を参照してください。

4. パラメータ値の追加方法とビューの命名方法の選択

ウィザードの[パラメータ値をインポート]ページで、パラメータ値の追加方法を選択します。また、 [Advanced Naming]機能を使用する場合は、このページのチェック・ボックスを選択します。詳細 については、267ページ「[パラメータ値をインポート]ページ」を参照してください。

5. パラメータの設定

[パラメータを入力]ページで、ビューのパラメータ値を入力します。CSV ファイルからのパラメータ 値のインポートを選択した場合は、パラメータ値がテーブルに自動的に入力されます。このペー ジでは、ビュー名とパラメータ値を手動で編集できます。また、テーブルに新しいビューを追加した り、テーブルからビューを削除したりすることもできます。詳細については、268ページ「[パラメータを 入力]ページ」を参照してください。

6. ビューを保存する場所を選択する

[Select Location]ページで,新しいビューを保存するビュー・ツリーの場所を選択します。詳細に ついては、268ページ「[ビューの場所を選択]ページ」を参照してください。

7. ビューの保存

[サマリ]ページで,作成したビューの詳細を確認します。これ以上変更しない場合は,[保存] をクリックして選択した場所にビューを保存します。

8. 権限の設定

作成した各ビューのユーザやユーザ・グループに表示権限と編集権限を適用します。[マネー ジャ]>[セキュリティ]>[ロールマネージャ]を選択します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の "Roles Manager Page"の「How to Assign Permissions」を参照してください。

レポート設定の定義

このタスクでは, ビュー, テンプレート, またはパースペクティブのレポート設定を定義する方法について 説明します。

- 219ページ「前提条件」
- 219ページ「レポートのカラムとして表示する属性の選択」
- 219ページ「レポートへの関数カラムの追加-任意指定」

- 219ページ「カラム・コンテンツの並べ替え順序の設定」
- 219ページ「レポートへのグラフの追加-任意指定」
- 219ページ「レポート・プロパティの設定」
- 1. 前提条件

ビュー, テンプレート, またはパースペクティブのコンテンツと階層を定義したら, レポート設定を定義できます。 パターン・ビュー・エディタで [レポート] タブを選択します。

2. レポートのカラムとして表示する属性の選択

ビューのクエリ・ノードごとに、 [階層]表示枠で該当するクエリ・ノードを選択し、そのクエリ・ノード のレポートにカラムとして表示する属性を選択します。 [クエリノード定義]表示枠で属性を選択 するには、属性を[属性]リストから[レポートのレイアウト]リストに移動します。 [レポートのレイア ウト]リストの矢印ボタンを使用してカラムの順序を設定します。詳細については、 249ページ「パ ターン・ビュー・エディタ」を参照します。

3. レポートへの関数カラムの追加 - 任意指定

選択したクエリ・ノードを構成するデータが,子クエリ・ノードのいずれかで実行される関数から派生する場合,任意でそのクエリ・ノードにカラムを追加することができます。[関数の追加]ボタン なっていった[関数の追加]ダイアログ・ボックスを開き,そこから関連する設定を選択できます。 す。詳細については,224ページ「[関数の追加/編集]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

4. カラム・コンテンツの並べ替え順序の設定

[並べ替え順を設定]ボタン シン をクリックして[カラムコンテンツの並べ替え]ダイアログ・ボックスを 開きます。レポートの並べ替えに使用するカラムを決定するには、カラムを[利用可能なカラム]リ ストから[並べ替えられたカラム]リストに移動します。矢印ボタンを使用してカラムの並べ替え順 序を設定します。各カラムの並べ替え方向を設定するには、[昇順ソート]ボタンまたは[降順 ソート]ボタンを使用します。詳細については、264ページ「[カラムコンテンツの並べ替え]ダイアロ グ・ボックス」を参照してください。

5. レポート へのグラフの追加 - 任意指定

任意でレポートにグラフを追加できます。グラフは、ビューの選択したレイヤに対してテーブルの代わりに追加します。グラフの追加に必要な条件が満たされると、[クエリノード定義]表示枠の [グラフのプロパティ]セクションで[グラフを定義]リンクがアクティブになります。リンクをクリックしてグラフ設定を入力します。詳細については、253ページ「グラフのプロパティ」を参照してください。

6. レポート・プロパティの設定

パターン・ビュー・エディタで[ビュー]タブを選択します。[レポートのプロパティ]ボタン 10 を選択して、 レポートにタイトルとサブタイトルを割り当て、 レポート形式を選択します。詳細については、 334ページ「[レポートのプロパティ]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

インスタンス・ベース・モデルの作成

このタスクでは、インスタンス・ベース・ビューのベースとして使用できるビジネス CI モデルの作成方法について説明します。

- 220ページ「新規モデルの作成」
- 220ページ「手動でのCIへのモデルの追加」
- 220ページ「CIを隣接検索する」
- 220ページ「モデルの CI にウォッチポイントを定義 する」
- 1. 新規モデルの作成

モデリング・スタジオで、 [新規作成] ** ボタンをクリックし、 [インスタンス ベース モデル]を選択して、 [新規モデル]ダイアログ・ボックスを開きます。 CI タイプを選択し、 プロパティの値を入力します。 詳細については、 243ページ「 [新規モデル]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

注:既存の名前ではインスタンス・ベース・モデルを作成できません。

2. 手動でのCIへのモデルの追加

CIの選択で、モデルに含めるCIを検索します。CIを選択してモデルにドラッグします。

ヒント: CTRL キーを押しながら CI を選択すれば、複数の CI を選択できます。

3. CIを隣接検索する

モデルの CI を選択し、 公開パスをたどって関連 CI を公開します。 公開 CI の中から選択した CI をモデルに追加します。 完了したらモデルを保存します。 詳細については、 260ページ「[CI を 隣接検索]ダイアログ・ボックス」 を参照してください。

4. モデルの CI にウォッチポイントを定義する

モデルの CI を右 クリックし, [ウォッチポイント]>[新規ウォッチポイント]を選択します。[新規 ウォッチポイント]ダイアログ・ボックスが開きます。公開パスを選択し, [OK]をクリックします。 CI の 横に, ウォッチポイントが定義されていることを示す小さいアイコンが表示されます。詳細について は, 244ページ「[新規ウォッチポイント]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

新規パターン・ベース・モデルの作成

このタスクでは、新規パースペクティブ・ベース・ビューのベースとして使用できるパターン・ベース・モデルの作成方法について説明します。

- 221ページ「新規モデルの定義」
- 221ページ「モデルの詳細の入力」
- 221ページ「TQL クエリの選択」
- 221ページ「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」
- 221ページ「出カクエリ・ノードの設定」
- 221ページ「モデルの保存」

1. 新規モデルの定義

新規パターン・ベース・モデルは、[パラメータベースモデル]ウィザードを使って定義します。[新規 作成]ボタン*をクリックして[パターンベースモデル]を選択します。

注:既存の名前ではパターン・ベース・モデルを作成できません。

2. モデルの詳細の入力

ウィザードの先頭ページで[新規モデル]を選択します。続いて、モデルのCIタイプを選択し、プロパティを入力します。詳細については、248ページ「[CIタイプの選択]ページ」を参照してください。

3. TQL クエリの選択

次のウィザード・ページで, モデルの TQL クエリを選択します。新しい TQL クエリを作成 することも, ツリーから既存 のクエリを選択 することもできます。 TQL クエリ・エディタが開き, 選択したクエリ が表示されます。詳細については, 248ページ「[クエリの選択] ページ」を参照してください。

4. TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。 TQL クエリにクエリ・ノードと関係を追加する 方法の詳細については、25ページ「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

5. 出力クエリ・ノードの設定

TQL クエリで,モデルの出力として使用するクエリ・ノードを1つ以上選択します。該当するクエリ・ノードを右クリックし, [モデル出力に追加]を選択します。 クエリ・ノードは,横にある小さいアイコンで示されます。

6. モデルの保存

終了したら、モデルに一意の名前を付けて保存します。新しい TQL クエリを作成した場合、クエリもモデルとは別に保存され、通常の TQL クエリとして再利用できます。

モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成

本 タスクでは, モデリング・スタジオでモデルおよびパースペクティブに基 づいたビューを作 成 する方 法 に ついて説 明します。

本項の内容

- 221ページ「モデルを開く」
- 221ページ「パースペクティブの選択」
- 222ページ「ビューを保存する」
- 1. モデルを開く

モデリング・スタジオの左表示枠で[リソースタイプ]として[モデル]を選択し、関連するモデルを選択してから、左表示枠のツールバーで[モデルを開く] (単)をクリックします。

2. パースペクティブの選択

Model Editor でモデルを右クリックし, [選択したモデルのビューを生成]を選択します。[新規 ビューの作成]ダイアログ・ボックスが開きます。モデルに適用するパースペクティブを選択します。 詳細については, 228ページ「[新規ビューの作成]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

3. ビューを保存する

パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタが開いて新しいビューが表示されます。任意で、作成するビューのほかのレベルに対してパースペクティブを選択し、パースペクティブ・チェーンを作成します。ビューの名前を変更し、適切なフォルダに保存します。詳細については、253ページ「パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ」を参照してください。

CI のコレクションに基づいたパースペクティブ・ベース・ビュー の作成

本 タスクでは, モデリング・スタジオで CI のコレクションおよびパースペクティブに基 づいたビューを作成す る方法について説明します。

本項の内容

- 222ページ「新規ビューの作成」
- 222ページ「CI のビューへの追加」
- 222ページ「パースペクティブの選択とビューの保存」
- 1. 新規ビューの作成

モデリング・スタジオで、 [新規作成] ^{**}ボタンをクリックし、 [パースペクティブ ベース ビュー]を選択して、 パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタを開きます。 詳細については、 253ページ「パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ」 を参照してください。

2. CI のビューへの追加

CIの選択で, ビューに含めるCIを検索します。CIを選択してビューにドラッグします。[CIの選択]の詳細については, 114ページ「CIセレクタ」を参照してください。

ヒント: CTRL キーを押しながら CIを選択すれば,複数の CIを選択できます。

3. パースペクティブの選択とビューの保存

[パースペクティブ] 表示枠で、CI コレクションに適用するパースペクティブを選択します。任意で、 作成するビューのほかのレベルに対してパースペクティブを選択し、パースペクティブ・チェーンを作 成できます。ビューの名前を変更し、適切なフォルダに保存します。詳細については、253ページ 「パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ」を参照してください。

モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース

- 224ページ「[関数の追加/編集]ダイアログ・ボックス」
- 225ページ「[ノード要素タイプの変更]ダイアログ・ボックス」
- 226ページ「[選択した項目に対する操作の選択]ダイアログ・ボックス」

- 226ページ「[関連 CI の条件]ダイアログ・ボックス」
- 227ページ「[隣接検索パスの作成/編集/保存]ダイアログ・ボックス」
- 228ページ「[新規ビューの作成]ダイアログ・ボックス」
- 228ページ「[サイクル定義]ダイアログ・ボックス」
- 229ページ「[非表示 CI]ダイアログ・ボックス」
- 230ページ「[階層ルール]ダイアログ・ボックス」
- 230ページ「左側の表示枠」
- 235ページ「[CI ウォッチポイントの管理]ダイアログ・ボックス」
- 235ページ「モデル・エディタ」
- 241ページ「[モデリングスタジオ]ページ」
- 242ページ「[選択済みのCIを含むモデル]ダイアログ・ボックス」
- 243ページ「[新規モデル]ダイアログ・ボックス」
- 243ページ「[新規パターンビュー]/[新規テンプレート]/[新規パースペクティブ]ダイアログ・ボックス」
- 244ページ「「新規ウォッチポイント」ダイアログ・ボックス」
- 245ページ「[隣接検索パスを開く]ダイアログ・ボックス」
- 246ページ「[パターンベースモデルスケジューラ]ダイアログ・ボックス」
- 247ページ「[パターンベースモデル]ウィザード」
- 249ページ「パターン・ビュー・エディタ」
- 253ページ「パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ」
- 258ページ「[クエリノードのグループ化]ダイアログ・ボックス」
- 259ページ「[クエリ/ビュー定義プロパティ]ダイアログ・ボックス」
- 260ページ「[CIを隣接検索]ダイアログ・ボックス」
- 262ページ「[クエリを保存]ダイアログ・ボックス」
- 263ページ「[ビュー/テンプレート/パースペクティブを保存]ダイアログ・ボックス」
- 264ページ「[統合ポイントの選択]ダイアログ・ボックス」
- 264ページ「[カラム コンテンツの並べ替え]ダイアログ・ボックス」
- 265ページ「[テンプレート ベースビュー]ウィザード」
- 270ページ「「テンプレート パラメータ値」ダイアログ・ボックス」
- 270ページ「TQL クエリ・エディタ」
- 274ページ「[選択済みのCIを含むビュー]ダイアログ・ボックス」
- 275ページ「[ウォッチポイントの更新]ダイアログ・ボックス」
- 276ページ「[<クエリ/テンプレート/パースペクティブ名>の依存関係]ダイアログ・ボックス」

[関数の追加/編集]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、レポートに含めるクエリ・ノードの関数およびパラメータを定義できます。

利用方法	パターン・ビュー・エディタで, [クエリノード定義]表示枠の[レポートのレイアウト]ボックスの下 にある[関数の追加]ボタンをクリックします。
重要情報	ビュー, テンプレート, またはパースペクティブの選択したクエリ・ノードに対してレポート・カラム を定義する場合, いずれかの子クエリ・ノードに定義された関数から派生するデータで構成 されるカラムを定義できます。定義対象とする関連の子クエリ・ノード, 属性, 関数を選択し ます。
	最初に, 必要なクエリ・ノードと関数を選択します。属性リストが調整され, 選択した組み 合わせについて関連属性が表示されます。必要な属性を選択します。
関 連 タ スク	218ページ「レポート設定の定義」

UI 要素	詳細
属性	リストから属性を選択します。
関数	[関数]リストから、カラムに関する結果の計算に使用する関数を選択します。
	次のオプションを使用できます。
	• 平均: 選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした, 選択した 属性の平均値です。
	• 連結リスト:選択したクエリ・ノードのすべてのCIインスタンスを対象とした,選択した属性の値のリストを表示します。
	• カウント : 選択したクエリ・ノードのCI インスタンス数を計算します。
	• 明確なリスト:選択したクエリ・ノードのすべてのCIインスタンスを対象とした,選択した属性の一意の値のリストを表示します。
	• 最大 :選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした, 選択した属性の最大値です。
	• 最小 :選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした, 選択した属性の最小値です。
	• 合計 :選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした, 選択した属性の値の合計です。
関連クエ リ・ノ <i>ー</i> ド	関数を実行する子クエリ・ノードです。
タイトル	レポートに表示されている関数属性の名前です。

[ノード要素タイプの変更]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, TQL クエリの作 成後に TQL クエリ・ノード または関係の CI タイプを変更できます。

利用方法	TQL クエリ・エディタまたはパターン・ビュー・エディタで,必要なクエリ・ノードを右クリックし,[ク エリノード タイプの変更]を選択します。関係の場合は,必要な関係を右クリックし,[関係 タイプを変更]を選択します。
重要情報	選択したクエリ・ノードの CI タイプは,そのクエリ・ノードの既存の関係 および条件に基づいて ほかの有効なタイプに変更できます。
関	• 24ページ「TQL クエリの定 義」
連 タ	 「ディスカバリ・アダプタの実装」(『HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイド』)
スク	• 213ページ「パターン・ビューの作成」

UI 要素	詳細
2	[すべてを展開]をクリックすると、 ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
5	[すべてを折りたたむ]をクリックすると、 ツリー内のすべてのフォルダが折りたたまれます。
ツリー ビュー	CI タイプ/関係 ツリーの表 示 形 式を選 択 するには, [ツリー ビュー]をクリックします。 次の オプションを利 用 できます。
	• 表示ラベル別
	 クラス名別
	 旧 クラス名 別
<ci タイ<br="">プ/関係 ツリー></ci>	必要な CI タイプまたは関係を選択します。
関係の	関係の方向を選択します。
万回	注:関係にのみ関連します。
関係名	関係の名前です。
	注:関係にのみ関連します。
関係の 制限	クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係, または自己関係を処理する方法を 定義するオプションを選択します自己関係とは, あるクエリ・ノードから, そのノード自身 につながっている関係のことです。

UI要素 詳細 • 全関係を許可:すべての関係がクエリ結果に表示されます。 • 自己関係のみを許可:自己関係(自身へとつながる関係)のみが、クエリ結果に表示されます。 • 非自己関係のみを許可:自己関係は、クエリ結果に表示されません。 注:関係にのみ関連します。

[選択した項目に対する操作の選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI からモデルおよびビューを作成できます。

利用方法	モデリング・スタジオで, [CIの選択]で検索した CIを空のキャンバスにドラッグします。
重要情報	個々のCI または複数のCI をキャンバスにドラッグできます。また,通常のCI またはモデル, あるいはその両方を選択してキャンバスにドラッグできます。 複数のCI を選択するには,CTRL キーを押しながら CI を選択します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
新規モデ ルの作成	選択した CI から成るモデルを作成するときに選択します。キャンバスにドラッグした CI の中に、モデル CI タイプへの有効なリンクを持たない CI が少なくとも1 つ含まれてい る場合、このオプションは無効になります。
新規 ビュ ー の作 成	選択によって形成された CI のコレクションに基づいたビューを作成するときに選択します。
選択した CI の モ デ ルの編集	選択したモデルを Model Editor で編集するときに選択します。 注:このオプションは, キャンバスに単一のモデルがドラッグされている場合にのみ表示 されます。

[関連 CI の条件]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、隣接検索パスのCIタイプに条件を定義することができます。

利用	[CIを隣接検索]ダイアログ・ボックスの条件カラムにある[条件の追加]ボタンまたは[定
方法	義を編集]ボタンをクリックします。

モデリング・ガイド

第8章:モデリング・スタジオ

UI 要素	詳細
+	定義した属性条件を追加します。
×	属性条件を削除します。
	選択した行を上へ移動します。
\checkmark	選択した行を下へ移動します。
Q	条件定義を表示します。
AND/OR	複数の条件をリンクさせるには、 [AND/OR]フィールド内をクリックし、 [AND]または [OR]を選択します。
属性名	リストから属性を選択します。
<u>()</u> 大括弧	[大括弧]ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
条件	[要素インスタンス]ダイアログ・ボックスで定義した属性条件の定義が含まれています。
ΝΟΤ	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に[NOT]を選択します。
	注: [NOT]を選択した場合, クエリの結果には, 値が割り当てられていない CI インス タンスのデータは含まれません。たとえば, システムに3つのノードがあり, ノード1には 値 A が割り当てられ, ノード2には値 B が割り当てられ, ノード3には値が割り当てら れていないとします。Aに等しい値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成し, [NOT]を選択した場合, ノード3には値が割り当てられていないため, クエリの結果 にはノード2のみが含まれます。
演算子	必要な演算子を選択します。詳細については、36ページ「属性演算子の定義」を参照してください。
値	属性の値を入力または選択します。 [値]オプションは,選択した属性タイプに応じて変わります。

[隣接検索パスの作成/編集/保存]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新規隣接検索パスの定義または既存パスの編集を行うことができます。

利用 方法	新しい隣接検索パスを定義するには、モデル・エディタで[隣接検索] 🍋 ボタンをクリック し、 [隣接検索パスの作成]を選択します。
	既存の隣接検索パスを編集するには、 [隣接検索パスを開く]ダイアログ・ボックスで隣接 検索パスを選択し、 [編集]をクリックします。
	隣接検索パスを保存するには、 [CIを隣接検索]ダイアログ・ボックスの[パスの保存]をク リックします。

UI要素	詳細
詳細	パスの説明を入力します。
名前	パスの名前を入力します。
プレビュー	[CIを隣接検索]ダイアログ・ボックスが開き、パスの関連 CI が表示されます。
	注 :このボタンは[隣 接 検 索 パスの保 存]ダイアログ・ボックスには表 示されません。
隣接検 索パス	アイコンをクリックして CI タイプのツリーが表示されたダイアログ・ボックスを開き、パスを作成します。パスの次のアイテムの CI タイプを選択します。
	公開パス・アイテムの上にポインタを置くと、次のオプションが有効になります。
	• 選択した項目の削除:隣接検索パスから選択したアイテムを削除します。
	• 条件の追加 : [関連 CI の条件] ダイアログ・ボックスが開きます。 ここで公開パスア イテムの条件を設定できます。
	• クエリ・ノード・タイプの再設定:CIタイプのツリーが開きます。ここで公開パス・アイ テムの CI タイプを変更できます。

[新規ビューの作成]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデルからビューを作成するためのパースペクティブを選択できます。

利用方法	モデリング・スタジオのモデル・エディタ、パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ、または CI の 選択でモデルを右 クリックして[選択したモデルのビューを生成]を選択するか、モデル・エディ タから[選択したモデルのビューを生成]アイコン 泉をクリックします。
重要情報	左表示枠でパースペクティブを選択し、矢印ボタンを使用して右表示枠に移動します。
関連タスク	221ページ「モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
利用可能なパースペクティ ブ	モデルへの適用対象として選択可能なパースペクティブのリストです。
選択したパースペクティブ	モデルへの適用対象として選択したパースペクティブです。

[サイクル定義]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ビューにサイクル階層を定義できます。

利用方法	モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタで, [階層]表示枠のクエリ・ノードを右クリック し, [サイクルの定義]を選択します。
重要情報	ビュー階層にサイクルを定義することで、ビューの TQL クエリ定義を拡張できます。[階層]表示枠でソース・クエリ・ノードにするクエリ・ノードを選択します。[サイクル定義]ダイアログ・ ボックスにそのソースに対して有効なターゲット・クエリ・ノードが表示されます。サイクル内の ターゲット・クエリ・ノードとその階層は、ソース・クエリ・ノードの子または兄弟(選択した折りたたみルールに応じて異なる)として扱われます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要 素	詳細
折りた	次のオプションのいずれかを選択します。
たみ ルール	 ソースの下で折りたたまれたサイクル:ターゲット・クエリ・ノードはソース・クエリ・ノードの子になります。
	• 親の下で平均化されたサイクル:ターゲット・クエリ・ノードはソース・クエリ・ノードの兄弟になります。
ター ゲット	選択したソース・クエリ・ノードに対して有効なターゲット・クエリ・ノードが表示されます。この場合の有効なターゲット・クエリ・ノードとは、次の条件すべてを満たすクエリ・ノードです。
	• ソース・クエリ・ノードに関連付けられている
	● ソース・クエリ・ノードの祖先(またはソース・クエリ・ノード自体)である
	• クエリ・ベース・ノードである(グループ化ノードではない)

[非表示 CI]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、 非表示 CI をビューに戻すことができます。

利用	パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタで, [結果の表示]表示枠のツールバーにある[非
方法	表示 CI を表示]アイコンをクリックします。

UI 要素	詳細	
<チェック ボック ス>	チェック ボック 元に戻す CI のチェック・ボックスを選択します。	
CI タイプ 除外された CI の CI タイプです。		
名前 除外された CI の名前です。		
復元	選択した CI をビューに含めるときに、 [復元]をクリックします。	

UI 要素	詳細
すべて選択	ビューに含めるためにリスト内のすべての CI を選択するときに、 [すべて選択]をクリックします。
すべて選択解 除	リスト内のすべての CI のチェック・ボックスをクリアするときに、 [すべて選択解除] をクリックします。

[階層ルール]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、階層ルールを定義してビューの階層を設定できます。

利用	パターン・ビュー・エディタの[階層]表示枠で階層メソッドとして[ルールベース]を選択して
方法	いる場合,ツールバーから[階層ルールを追加]ボタン 🕈 をクリックします。
重要 情報	定義する階層ルールごとに、ソース CI タイプ、ターゲット CI タイプ、関係、方向を選択します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
4	階層ルールを追加するときにクリックします。
×	選択した階層ルールを削除するときにクリックします。
関係	選択した階層ルールを編集するときに、ドロップダウン・リストから関係を選択します。
関係の 方向	選択した階層ルールを編集するときに、ドロップダウン・リストから方向を選択します。
ソース	選択した階層ルールを編集するときに、ドロップダウン・ツリーからソース CI タイプの CI タイプを選択します。
ターゲット	選択した階層 ルールを編集するときに、ドロップダウン・ツリーからターゲット CI タイプの CI タイプを選択します。

左側の表示枠

この領域では、ビューとTQL クエリの参照、エディタ表示枠で開くCI またはモデルの検索、TQL クエリ・エディタまたはパターン・ビュー・エディタで使用する CI タイプの選択ができます。

利用方 法	モデリング・スタジオのエディタ表 示 枠 の左 側 にあります。
重要情 報	次のタブを利用できます。 • CIの選択:詳細については、114ページ「CIセレクタ」を参照してください。 • リソース:エディタ表示枠で開くモデル、ビュー、またはTQLクエリを選択できます。 • CIタイプ:TQLクエリにクエリ・ノードとして追加するCIタイプをツリーから選択できます。 ます。

[リソース]タブ

重要	リソース・タイプとしてビューまたはクエリを選択した場合, ビュー, クエリ, またはフォルダを
情報	ドラッグしてフォルダ間で移動できます。

UI 要 素	詳細
-	リソース・ツリーに新しいフォルダを作成するには、 [新規フォルダ]をクリックします。
	注 : このボタンは, リソース・タイプとして[クエリ]または[ビュー]を選択している場合にのみ表 示されます。
×	[削除]をクリックして, CMDB から, 選択したリソースを削除します。
Ø	リソースのツリーを更新するには、 [更新]をクリックします。
5	ツリー内のすべてのフォルダを展開するには, [すべてを展開]をクリックします。
	注 : このボタンは, リソース・タイプとして[クエリ]または[ビュー]を選択している場合にのみ表 示されます。
5	リソース・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたむには、 [すべてを折りたたむ]をクリックします。
	注 : このボタンは, リソース・タイプとして[クエリ]または[ビュー]を選択している場合にのみ表 示されます。
6 3	[クエリ]または[ビュー]をリソース・タイプとして選択した場合は, [空のフォルダを非表示] をクリックして, ビューまたは TQL クエリを含むフォルダのみを表示します。
	[モデル]をリソース・タイプとして選択した場合は, [コンテンツがあるモデルのみを表示]をク リックして, ビューまたは TQL クエリを含むフォルダのみを表示します。
7	リソース・タイプとして[ビュー]を選択している場合, ツリーに表示されるビューおよびテンプ レートのタイプを絞り込むには, [フィルタ テーブル]をクリックします。
	[クエリ]をリソース・タイプとして選択した場合は、 [フィルタ テーブル]をクリックして、 TQL クエ リをフィルタし、 クエリ別 ツリーに表示します。
	リソース・タイプとして[モデル]を選択している場合, テーブル内のモデルをCIタイプで絞り込 むには, [フィルタ テーブル]をクリックします。
	選択した TQL クエリを新しいタブで開くには, [クエリを開く]をクリックします。
	注:このボタンは、リソース・タイプとして[クエリ]を選択している場合にのみ表示されます。
і.	選択したビューを新しいタブで開くには、 [ビューを開く]をクリックします。
	注:このボタンは、リソース・タイプとして[ビュー]を選択している場合にのみ表示されます。
F	[CI プロパティ]をクリックします。

UI 要 素	詳細
	た。 注:このボタンは、リソース・タイプとして[モデル]を選択している場合にのみ表示されます。
Ţ.	選択した CI またはモデルを含むビューのリストを表示するには、 [選択した CI/モデルを含む ビューを表示]をクリックします。
	注:このボタンは、リソース・タイプとして[モデル]を選択している場合にのみ表示されます。
	選択したモデルをモデル・エディタで開くには、 [モデルを開く]をクリックします。
	注:このボタンは、リソース・タイプとして[モデル]を選択している場合にのみ表示されます。
([パターン ベース モデル スケジューラ]をクリックして、すべてのパターン・ベース・モデルの開始時間 や繰り返し間 隔を変更します。
	注:このボタンは、リソース・タイプとして[モデル]を選択している場合にのみ表示されます。
Хн	保存したビューまたはクエリを含む XML ファイルをモデリング・スタジオにインポートするには, [XML からインポート]をクリックします。
	注 : このボタンは, リソース・タイプとして[クエリ]または[ビュー]を選択している場合にのみ表 示されます。
Exer.	ビューまたはクエリを XML スクリプトとしてエクスポートするには, [XML ヘエクスポート]をク リックします。 このオプションは, ビューまたはクエリをあるワークステーションから別 のワークステー ションへ移 動 するときに使 用 できます。
	注 : このボタンは, リソース・タイプとして[クエリ]または[ビュー]を選択している場合にのみ表 示されます。
<リ ソー ス>	リソース・タイプとして ビュー または クエリ が選択されている場合,利用可能なビューまたは TQL クエリがそれぞれのフォルダの下にツリー形式で表示されます。リソース・タイプとして [モ デル] を選択している場合は,利用可能なモデルがテーブルに表示されます。
	ビューの場合は、次のビュー・タイプが含まれます。
	• 🗍 パターン・ビューを表します。
	• 🗒 テンプレートを表します。
	• 1 「空」テンプレート・ベース・ビューを表します。
	• 🖾 パースペクティブを表します。
	• 📠 パースペクティブ・ベース・ビューを表します。
	• 📓 自動フロー・マッピングを表します。自動フロー・アダプタ使用時のみ該当。詳細については, UCMDB ブラウザのドキュメントを参照してください。
リ ソー ス	表示枠に表示するリソース・タイプを選択します。選択できるオプションは, [モデル], [ビュー], [クエリ]です。



[リソース]タブのショートカット・メニュー

[リソース]タブでは、リソースを右クリックすると次の要素を選択できます。

メニュー項目	詳細
新規ビュー / テンプレート / パースペクティブ の作成	選択したビュー, テンプレート, またはパースペクティブ に基づく新しいビュー, テンプレート, パースペクティブ を作成します。
	注:このオプションは、ビュー、テンプレート、または パースペクティブ・タイプのクエリを選択している場合に それらのクエリにのみアクティブになります。
削除	CMDB から選択したリソースを削除します。
XML ヘエクスポート	ビューまたはクエリを XML スクリプトとしてエクスポート します。このオプションは,ビューまたはクエリをある ワークステーションから別 のワークステーションへ移動す るときに使用できます。
新規フォルダ	リソース・ツリーに新しいフォルダを作成します。
新規テンプレート・ベース・ビュー	選択したテンプレートのパラメータを編集して,新しい テンプレート・ベース・ビューを定義します。
	注 : このオプションは, ビュー・ツリーでテンプレートを選 択している場合にのみアクティブになります。
クエリ / ビュー / モデルを開く	新しいタブで選択したビュー, TQL クエリ, またはモデ ルを開きます。
プロパティ	選択したモデルの[Cl プロパティ]ダイアログ・ボックス が開きます。
	注:このオプションはモデルにのみ関連します。
更新	リソース・ツリーを更新します。
削除	選択したモデルを削除します。
	注:このオプションはモデルにのみ関連します。
フォルダの名前の変更	選択したフォルダの名前を変更します。
名前を付けて保存	選択した TQL クエリに新しい名前を付けて保存します。

メニュー項目	詳細
含まれるビューを表示	選択したモデルの[選択した CI/モデルを含むビューを 表示]ダイアログ・ボックスが開きます。選択したモデ ルの[選択済みの CI を含むビューを表示]ダイアロ グ・ボックスが開きます。
	注:このオプションはモデルにのみ関連します。

[CIタイプ]タブ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
部	CI タイプ・ツリー内 のすべてのフォルダを展開するには、 [すべてを展開]をクリックします。
5	CI タイプ・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたむには、 [すべてを折りたたむ]をク リックします。
ツリー ビュー 🔒	[ツリー ビュー]をクリックして,CI タイプ・ツリーの表 示 形 式を選 択します。 次のオプ ションを利 用 できます。
	• 表示ラベル別
	 クラス名別
	 旧クラス名別
⇒	選択した CI タイプをエディタ表示枠で開いている TQL クエリに追加するときにクリックします。
	注 : このボタンは, エディタ表 示 枠 でビューまたは TQL クエリを開いている場合 にの みアクティブになります。
Q	CI タイプ・ツリーを更新するには、 [更新]をクリックします。
<cl タイプ="" ツ<br="">リー></cl>	利用可能な CI タイプがツリー形式で表示されます。

[CI タイプ]タブのショートカット・メニュー

[CI タイプ]タブでは, CI タイプを右 クリックして次の要素を選択できます。

メニュー項目	詳細
選択した CIT をクエリ に追加	選択した CI タイプをエディタ表示枠で開いている TQL クエリに追加するときに選択 します。
CI タイプの 定義へ移動	CIT マネージャ内の選択した CI タイプに直接移動します。

メニュー項目	詳細
要素 インス タンスの表 示	[CI インスタンス] ウィンド ウが開き,選択した CIT のすべてのインスタンスが表示されます。詳細については,58ページ「[要素 インスタンス] ダイアログ・ボックス」 を参照 してください。

[CI ウォッチポイントの管理]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデルの CI に対するウォッチポイントを追加または削除できます。

利用方法	モデル・エディタのモデル内から、 [ウォッチポイント] ⁽) ボタンをクリックして[Cl ウォッチポイントの管理]を選択するか、 モデルの Cl を右 クリックして [ウォッチ ポイント]>「Cl ウォッチポイントの管理]を選択します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
ᅾ追加	新しいウォッチポイントの追加が行える[新規ウォッチポイント]ダイアログ・ボックス を開くときにクリックします。
≍削除	選択した監視を削除するときにクリックします。
自動	チェック・マークは、監視で見つかった新しい CI が自動的にビューに追加されることを示します。
ソ — ス CI	公開パスの開始部分となるCIが表示されます。
ウォッチポイン ト名	監視に関連付けられている公開パスの名前です。
ウォッチポイン トパス	ウォッチポイントの公開パスが表示されます。

モデル・エディタ

この機能では、モデルを作成および編集できます。

利用方法	モデリング・スタジオで, 新しいモデルを作成する場合は[新規作成]ボタン ^{**} をクリックし, [インスタンス ベース モデル]を選択します。または, [リソースタイプ]として[モデル]を選択 し, 既存のモデルを開きます。	
重	重 Model Editor には次の表示枠があります。	
要 情	• [内容]表示枠:モデルに含まれている CI およびモデルが一覧表示されます。	
報	• [情報]表示枠:選択した CI またはモデルのプロパティ, 関連 CI, 監視が表示されます。	
	モデルに CI を追加するには、 CI の選択から既存モデルの内容表示枠に CI をドラッグしま	

す。ただし、すでにモデルに含まれている CI はドラッグできません。

選択したソース CI とターゲット CI を Usage 関係で関連付けることができるのであれば、CI の選択から[情報]表示枠の[関連 CI]タブに CI をドラッグできます。

[内容]表示枠

UI要素	詳細
דעד 🖽	CIを図にアイコンで表示する場合は[マップ モード]を選択します。
18 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	CIをリスト形式で表示する場合は[テキスト モード]を選択します。
F	[CI プロパティ]をクリックすると,選択した CI の[構成アイテムのプロパ ティ]ダイアログ・ボックスが開きます。
	[選択した CI を含むモデルを表示]をクリックすると,選択した CI を含む モデルのリストが表示されます。
L e	[選択した CI/モデルを含むビューを表示]をクリックすると、選択した CI またはモデルを含むビューのリストが表示されます。
69	[選択したモデルを新しいタブで開く]をクリックすると、選択したモデルが別の のModel Editor タブで開きます。
πΦ	現在のモデルに基づいてビューを作成する場合は、 [選択したモデルの ビューを生成]をクリックします。 適用するパースペクティブを選択できる[新 規ビューの作成]ダイアログ・ボックスが開きます。
×	選択した CI をモデルから削除するときにクリックします(CI は CMDB に残 ります)。
A	[新規モデルの挿入]をクリックすると,既存モデル内に新規モデルを定義 できる[新規モデル]ダイアログ・ボックスが開きます。
*	[すべてを展開]をクリックすると、モデルの階層が展開します。
1	[すべてを折りたたむ]をクリックすると、モデルの階層が折りたたまれます。
î.	次のオプションを使用する場合は[隣接検索]をクリックします。
	• 隣接検索を開始: [CIを隣接検索]ダイアログ・ボックスが開きます。 詳細については, [CIを隣接検索]ダイアログ・ボックスを参照してくだ さい。
	• 隣接検索パスの作成: [隣接検索パスの作成] ダイアログ・ボックスが 開きます。詳細については、 [隣接検索パスの作成] ダイアログ・ボック スを参照してください。
	• 隣接検索パスを開く: [隣接検索パスを開く]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、 [隣接検索パスを開く]ダイアログ・ボックスを

UI 要素	詳細
	参照してください。
1	次のオプションを使用する場合は[ウォッチポイント]をクリックします。
	• ウォッチポイントの更新: 監視結果を表示し, モデルに追加するCI を選択します。詳細については, [ウォッチポイントの更新]ダイアログ・ ボックスを参照してください。
	• 新規ウォッチポイント:選択した CI に新しい監視を定義します。詳細については、[新規ウォッチポイント]ダイアログ・ボックスを参照してください。
	• CI ウォッチポイントの管理:新しい監視をCIに追加します。または, 既存の監視を削除します。詳細については, [CI ウォッチポイントの 管理]ダイアログ・ボックスを参照してください。
لي ا	モデルの配下のコレクションに CI をグループ化 する場合は、 [CI コレクション]をクリックします。 次のオプションのいずれかを選択します。
	 新規 CI コレクションの挿入:空の新しい CI コレクションが作成されます。コレクションの作成後は、CI の選択、[関連 CI]タブ、またはモデル自体からコレクションに CI をドラッグできます。
	• Cl コレクションに結合:モデルのClを1つまたはいくつか選択し、その Clを既存のClコレクションに結合するか、新しいコレクションを作成し ます。
	• CI コレクションの解除: CI コレクションを選択して解除します。 CI は, メイン・モデルの直下に存在するようになります。
Q	[検索]ボックスと矢印コントロールの表示と非表示を切り替えるときに、 [検索]をクリックします。
	注:このボタンはテキスト・モードの場合にのみ表示されます。
	マップを更新し、マップのレイアウトを最適化するときにクリックします。
	注:このボタンはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
×	表示枠のサイズに合わせてマップのサイズを変更するときは、 [ウィンドウに 合わせる]をクリックします。
	注:このボタンはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
▶ 選択 ▼	[モード]ドロップダウン・リストからカーソルの機能を選択します。 次のオプ ションを利用できます。
	• 選択
	• マップをドラッグ
	• ズームイン
	注:この機能はマップ・モードの場合にのみ表示されます。

UI要素	詳細
@ \$0 刷	[印刷]ボタンをクリックして, [印刷], [印刷プレビュー], [印刷設定]の いずれかを選択します。
0	CIを選択して[外部関係を表示]をクリックすると、その CI の関連 CI が 表示されます。
	注:このボタンはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
8	[外部関係を非表示]をクリックすると、関連 CI が非表示になります。
	注:このボタンはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
٢	現在のCIにウォッチポイントが定義されていることを示します。
0	監視が, 現在のモデルに関連付けられた新しい CI を検出したことを示します。 クリックすると, [ウォッチポイントの更新]ダイアログ・ボックスが開きます。
[CI タイプ]カラム	モデルの各 CI のタイプが表示されます。
検索	[検索]ボックスに CI 名または CI 名の一部を入力して, モデル内の CI を検索します。
次を検索	選択した検索フレーズに一致する、モデル内の次の項目を検索するとき にクリックします。
前回を検索	選択した検索フレーズに一致する、モデル内の前の項目を検索するとき にクリックします。
ハイライト表示	検索フレーズに一致する、モデル内のすべての項目を強調表示するとき にクリックします。
[名前]カラム	モデルの各 CI の名前が表示されます。

ショートカット・メニュー・オプション

メニュー項目	詳細
CI コレクショ ン	モデルの配下のコレクションに CI をグループ化する場合は, [CI コレクション]をク リックします。次のオプションのいずれかを選択します。
	• 新規 CI コレクションの挿入: 空の新しいコレクションが作成されます。 コレクションの作成後は、 CI の選択、 [関連 CI]タブ、 またはモデル自体 からコレクションに CI をドラッグできます。
	• Cl コレクションに結合:モデルのClを1つまたはいくつか選択し,そのClを既存のClコレクションに結合するか,新しいグループを作成します。
	• Cl コレクションの解除: Cl コレクションを選択して解除します。 Cl は, メイン・モ デルの直下に存在するようになります。
ウィンドウに	表示枠のサイズに合わせてマップのサイズが変更されます。

メニュー項目	詳細
合わせる	注:このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
選択したモ デルのビュー を生成	選択すると,現在のモデルに基づいてビューが作成されます。[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックスが開き,適用するパースペクティブを選択できます。
外部関係を 非表示	マップ上の関連CIが非表示になります。
	注 :このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
新規モデル の挿入	既存モデル内に新規モデルを作成できる[新規モデル]ダイアログ・ボックスが開きます。
選択したモ デルを新し いタブで開く	選択したモデルが別の Model Editor タブで開きます。
印刷	次のオプションのいずれかを選択します。
	• 印刷
	• 印刷プレビュー
	• 印刷設定
プロパティ	選択した CI の[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスが開きます。
レイアウト更	マップが更新され、マップのレイアウトが最適化されます。
新	注:このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
隣接検索	次のオプションを利用できます。
	• 隣接検索を開始:[CIを隣接検索]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については, [CIを隣接検索]ダイアログ・ボックスを参照してください。
	• 隣接検索パスを開く: [隣接検索パスを開く]ダイアログ・ボックスが開きます。 詳細については, [隣接検索パスを開く]ダイアログ・ボックスを参照してください。
選択した CI を モ デルから 削除	選択した CI がモデルから削除されます(CI はCMDB)に残ります)。
選択	カーソルの機能を選択します。次のオプションを利用できます。
	• 選択
	 マップをドラッグ
	 ズームイン
	注:このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
含まれるモ デルを表示	選択した CI を含むモデルのリストを表示するときにクリックします。

メニュー項目	詳細
含まれる ビューを表 示	選択したCIまたはモデルを含むビューのリストを表示するときにクリックします。
外部関係を	選択した CIの関連 CIを表示します。
表示	注:このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。
ウォッチポイ	次のオプションを利用できます。
ント	• ウォッチポイントの更新:ウォッチポイント結果を表示し,モデルに追加する CIを 選択します。詳細については, [ウォッチポイントの更新]ダイアログ・ボックスを参 照してください。
	• 新規ウォッチポイント:選択した CI に新しい監視を定義します。詳細について は、[新規ウォッチポイント]ダイアログ・ボックスを参照してください。
	 CI ウォッチポイントの管理:新しいウォッチポイントをCIに追加します。または、 既存のウォッチポイントを削除します。詳細については、[CI ウォッチポイントの 管理]ダイアログ・ボックスを参照してください。
ズーム	パーセントのリストからマップのサイズを選択します。
	注:このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。

[情報]表示枠 -[プロパティ]タブ

この領域には、選択した CI プロパティが表示されます。

重 この表示枠は、ITユニバース・マネージャの情報表示枠の[プロパティ]タブとまったく同じで
 要 す。詳細については、173ページ「[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス」を参照し
 すください。
 報

[情報]表示枠 -[関連 CI]タブ

この領域には、Impacted By(Potentially)関係が含まれるいずれかのトリプレットによって、モデルに関連付けられている CI が表示されます。

UI 要素	詳細
×	選択したCIへの関係を削除するときにクリックします。
1	[反転方向]をクリックすると、選択した CIの関係の方向が切り替わります。
	注 : このオプションは, CI が Usage 関係によって関連付けられている場合にのみアクティ ブになります。
<ci リス<br="">ト></ci>	Usage 関係によってモデルに関連付けられている CI の名前と CI タイプのリストが, 関係の方向とともに表示されます。

UI要素	詳細
適用フィ ルタ	結果をフィルタする際の基準となるフィールドを選択し、 [適用]ボックスに値を入力します。

[情報]表示枠 -[ウォッチポイント]タブ

この領域には、選択した CI に対して定義されているウォッチポイントが表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
Ø	ウォッチポイントを編集できる[Cl ウォッチポイントの管理]ダイアログ・ボックスを開 くときにクリックします。
自動	監視で見つかった新しいCIが自動的にビューに追加されるかどうかを示します。
ソース CI	公開パスの開始部分となるCIが表示されます。
ウォッチポイン ト名	監視に関連付けられている公開パスの名前です。
ウォッチポイン トパス	監視の公開パスが表示されます。

[モデリング スタジオ]ページ

このページでは、モデルとビューを作成および編集できます。

利用方法	ナビゲーション・メニューから[モデリング スタジオ]を選択するか, [マネージャ]> [モデリング]> [モデリング スタジオ]を選択します。
畺	[モデリングスタジオ]ページには次の表示枠があります。
要情報	• 左表示枠: CIを検索したり,開くビュー,モデル,または TQL クエリを選択したりできます。詳細については,230ページ「左側の表示枠」を参照してください。
	• エディタ表示枠:選択したビュー, モデル, または TQL クエリのトポロジ・マップが表示されます。
	ビューまたはモデルを開くまで, エディタ表 示 枠 は空 のキャンバスになっています。 ビュー, モデ ル, または TQL クエリを開くと, それぞれに関連するエディタが表 示されます。 エディタ表 示 枠 で は同 時 に複数のビュー, モデル, クエリを開くことができます。 それぞれ別 のタブに表 示されま す。
関連情報	 235ページ「モデル・エディタ」, 253ページ「パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ」, 249ページ 「パターン・ビュー・エディタ」, 270ページ「TQL クエリ・エディタ」

UI 要 素	詳細
* [新規	[新規作成]ボタンをクリックし、次のどちらかのオプションを選択します。
	• インスタンス ベース モデル:新しいインスタンス・ベース・モデルを作成する場合。
TF AXL	• パターンベースモデル:新しいパターン・ベース・モデルを作成する場合。
	• パターンビュー:新しいパターン・ビューを作成する場合。
	• テンプレート ベース ビュー:新しいテンプレート・ベース・ビューを作成する場合。
	• パースペクティブ ベース ビュー:新しいパースペクティブ・ベース・ビューを作成する場合。
	• テンプレート:新しいテンプレートを作成する場合。
	• パースペクティブ:新しいパースペクティブを作成する場合。
	• クエリ :新しい TQL クエリを作成する場合。
	 自動フロー・マッピング。自動フロー・マッピングを作成します。自動フロー・アダプタ使用時のみ該当。詳細については、UCMDB ブラウザのドキュメントを参照してください。
	ビュー, モデル, またはクエリに加えた変更を保存するときに, [保存]をクリックします。
	ビューの場合は, ビューの名前を変更し, そのビューを適切なフォルダに保存できるダイア ログ・ボックスが開きます。
	ビュー, モデル, または TQL クエリに新しい名前を付けて保存する場合は, [名前を付け て保存]をクリックします。
5	最後に加えた変更を取り消すときに、 [取り消す]をクリックします。
2	最後に行った操作を繰り返すときに、 [やり直す]をクリックします。
	エディタの通常表示と全画面表示を切り替えるときに、 [ワークスペースの最大化]をク リックします。
<⊁ ב⊐→	詳細については, 138ページ「メイン・メニュー」を参照してください。

[選択済みの CI を含むモデル]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CIを含むモデルのリストが表示されます。

利用方法	モデル・エディタで[選択した CI を含むモデルを表示] ポタンをクリックする
	か、ショートカット・メニューからし含まれるモデルを表示」を選択します。

UI要素	詳細
	[Cl プロパティ]をクリックすると,選択したモデルの[構成アイテムのプロパティ]ダイアロ グ・ボックスが開きます。
	[選択した CI/モデルを含むビューを表示]をクリックすると,選択したモデルを含むビューのリストが表示されます。
×	[モデルの削除]をクリックすると、選択したモデルが削除されます。
CI タイプ	選択した CI を含むモデルの CI タイプが表示されます。
検索	[検索]ボックスにモデル名またはモデル名の一部を入力して, リスト内でモデルを検索 します。
次を検 索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
前回を 検索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の前の項目を検索するときにクリックします。
名前	選択した CI を含むモデルの名前が表示されます。
	注:現在のモデルの名前は淡い色のテキストで表示されます。

[新規モデル]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、 CI のコレクションを含む再利用可能なモデルを定義できます。

利用方法	[新規作成] ** ボタンをクリックして[インスタンス ベース モデル]を選択す るか, CI の選択のツリーから編集表示枠にCIをドラッグして[新規モデル の作成]を選択します。
関連タスク	219ページ「インスタンス・ベース・モデルの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
新規 CI プロパ ティの定義	CI プロパティの値を入力します。必須プロパティの値を入力する必要があります。必須プロパティにはアスタリスクが付いています。
CI タイプの選 択	モデルのベースとなる CI タイプをリストから選択します。

[新規パターンビュー]/[新規テンプレート]/[新規パースペクティ ブ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、パターン・ビュー・エディタを使用して新しいパターン・ビュー、テンプレート、 またはパースペクティブを定義できます。

利用方法	モデリング・スタジオで[新規作成] * ボタンをクリックし, ドロップダウン・メニューから[パターン ビュー], [テンプレート], または[パースペクティブ]を選択します。
重要情報	選択して[OK]をクリックした後, 直接パターン・ビュー・エディタに移動してビューの作成を開始します。詳細については, 249ページ「パターン・ビュー・エディタ」を参照してください。
関 連タ スク	213ページ「パターン・ビューの作成」, 214ページ「テンプレートの作成」, 215ページ「パース ペクティブの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要 素	詳細
\bigcirc	選択した検索フレーズに一致する、TQL クエリのリスト内の次の項目に移動するときにク リックします。
\bigcirc	選択した検索フレーズに一致する、TQL クエリのリスト内の前の項目に移動するときにク リックします。
111	検索フレーズに一致する, TQL クエリのリスト内のすべての項目を強調表示するときにク リックします。
<tql クエリ・ ツリー></tql 	既存のTQL クエリがツリー形式で表示されます。
ベー ス・クエ リの選 択	既存のTQL クエリに基づいて新しいビューを作成する場合, このオプションを選択し, ツ リーからTQL クエリを選択します。 パターン・ビュー・エディタが開き, 選択した TQL クエリが キャンバスに表示されます。
新規ク エリの 作成	新しい TQL クエリに基づいて新しいビューを作成する場合, このオプションを選択します。 パターン・ビュー・エディタが開き, 空のキャンバスが表示されます。
検索	[検索]ボックスに TQL クエリ名 または TQL クエリ名 の一 部を入 力して, リスト内の TQL クエリを検索します。

[新規ウォッチポイント]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデルの CI に対するウォッチポイントを定義できます。

利用方法

モデル・エディタのモデル内から、 [ウォッチポイント] パント・エディタのモデル内から、 [ウォッチポイント] パントの新規作成]を選択するか、 モデルの CI を右 クリックして [ウォッチポイント]>
 [ウォッチポイントの新規作成]を選択します。

重要情報	選択した CI の公開パスが見つからなかった場合は、監視を定義できません。
	新規モデルの場合, モデルを保存しないうちは CI に監視を定義できません。
関連タスク	219ページ「インスタンス・ベース・モデルの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
モ デルを自動的に 更新	選択したパスで公開された CI をすべて自動的にモデルに追加するときに選択します。
	注: マルチテナンシー環境では、子アクションには、モデルのすべてのテナント との接続にデータ更新権限が必要です。
更新を手動で制 御	隣接検索された CIを選択したパスからモデルに手動で追加するときに選択 します。
ウォッチポイント隣 接検索パスを選 択	ドロップダウン・リストから公開パスを選択します。
CI タイプに対する 公開パスを表示	ドロップダウン・リストから CI タイプを選択します。 下部 のドロップダウン・ボック スのリストに, この CI タイプで始まるすべての公開パスが表示されます。

[隣接検索パスを開く]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、既存のパスを開くことができます。

利用方法	モデル・エディタのモデル内から、 [隣接検索] へ ボタンをクリックして [隣接検索パスを開く]を 選択するか、モデルの CI を右クリックして [隣接検索]>[隣接検索パスを開く]を選択しま す。
重要情報	使用する公開パスを選択したら、 [実行]をクリックします。 選択したパスで CI が見つかった場合, そのパスの[CI を隣接検索]ダイアログ・ボックスが開きます。 CI が見つからなかった場合は, 当該パスで CI が見つからなかったことを伝えるメッセージが表示されます。

UI要素	詳細
詳細カラム	既存パスの説明が表示されます。
編集	選択したパスを編集できる[隣接検索パスの編集]ダイアログ・ボックスが開 きます。
実行	選択した隣接検索パスの[Clを隣接検索]ダイアログ・ボックスが開きます。
検索	[検索]ボックスにパス名またはパス名の一部を入力して、 リスト内のパスを

UI要素	詳細
	検索します。
次を検索	選択した検索フレーズに一致する、パスのリスト内の次の項目を検索する ときにクリックします。
前回を検索	選択した検索フレーズに一致する、パスのリスト内の前の項目を検索する ときにクリックします。
ハイライト表示	検索フレーズに一致する、パスのリスト内のすべての項目を強調表示する ときにクリックします。
[名前]カラム	既存パスの名前が表示されます。
削除	選択したパスが削除されます。
CI タイプに対する公 開パスを表示	ドロップダウン・リストから CI タイプを選択します。 下部 のテーブルに,選択 した CI で始まるすべてのパスが表示されます。

[パターン ベース モデル スケジューラ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、開始日と終了日、および、パターン・ベース・モデルの繰り返し間隔を設定できます。

和 デデリング・スタジオの表示枠の[リソース]タブで[パターンベースモデルスケジューラ] (シボタンをクリックします。

 重 パターン・ベース・モデルは、すべて同時に更新されます。選択した設定は、順次作成されるものだけでなく、すべての既存のパターン・ベース・モデルにも適用されます。モデル更新のデフォルト開始時間は、最初のモデルが作成される時点のサーバ時間です。ダイアログ・ボックスを開いたときは、デフォルト開始時間がその時点の現在のサーバ時間となります。デフォルト繰り返し間隔は12時間です。

UI 要素	詳細
詳細 パターン ベース モデル スケジューラの更新	Cron 式を使用してパター ン・ベース・モデルの更新 をスケジュールするとき は、このオプションを選択 します。
Cron 式	[詳細パターンベースモ デルスケジューラの更新] を選択した場合は, Cron 式を入力します。
日次パターン ベース モデル スケジューラの更新	開始日時と繰り返し間

UI 要素	詳細
	隔を使用してパターン・ ベース・モデルの更新をス ケジュールするときは、こ のオプションを選択しま す。
繰り返し間隔	[日次パターンベースモデ ルスケジュールの更新]を 選択した場合は、繰り返 し間隔(時間単位)のオ プションを選択します。こ れにより、パターン・ベー ス・モデルの更新の頻度 が決まります。
	注:毎日同じ時間帯に 更新を実行するために, 繰り返し間隔は,24時 間周期で均等に割り切 れる値にします。
サーバ時間	サーバ上の時間を表示し ます。
開始時刻	パターン・ベース・モデルの 更新の開始日時を選択 します。
式を検証	Cron 式を入力した後, [式を検証]ボタンをク リックして,式が有効なこ とを確認します。

[パターン ベース モデル] ウィザード

このウィザードでは、パターン・ベース・モデルを作成できます。

利用 方法	モデリング・スタジオで, [新規作成] ^{**} ボタンをクリックし, ドロップダウン・メニューから[パ ターンベースモデル]を選択します。
重要 情報	パターン・ベース・モデルを作成すると、インスタンス・ベース・モデルと同様に、モデルは CI と して保存されます。新しい TQL クエリに基づいてモデルを作成する場合、クエリも保存さ れ、 TQL クエリ・ツリーに表示されます。
	既存のインスタンス・ベース・モデル上でパターン・ベース・モデルを構築すると, モデルは, イ ンスタンス・ベース・モデルの名前で保存されます。
	以前削除したパターン・ベース・モデルと同じ名前で新規のパターン・ベース・モデルを作成 する場合,新規パターン・ベース・モデルが基づく対象とする旧クエリを選択するか,新規ク エリを作成できます。

関連 タスク	220ページ「新規パターン・ベース・モデルの作成」
ウィ ザー ド・ マップ	[パターン ベース モデル]ウィザードには次 のページが含 まれています。 「[Cl タイプの選 択]ページ」>「[クエリの選 択]ページ」
関連 情報	206ページ「パターン・ベース・モデル」

[CIタイプの選択]ページ

このウィザードでは、モデルのCIタイプを選択し、詳細を定義できます。

ウィザード・マップ	[パターン ベース モデル] ウィザードには次 のページが含 まれています。
	「[CI タイプの選択]ページ」>「[クエリの選択]ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要 素	詳細
既存のモデル	[既存のモデル]を選択して, 既存のインスタンス・ベース・モデル上でパターン・ベース・モデル を構築します。 ツリーから既存のモデルを選択します。
新規モデル	[新規モデル]を選択して,新規のパターン・ベース・モデル(他のモデルに関連しない)を作成 します。[CI タイプの選択]セクションで,モデルのベースとする CI タイプをリストから選択しま す。続いて,[新規 CI プロパティの定義]セクションに CI プロパティの値を入力します。

[クエリの選択]ページ

このウィザード・ページでは、モデルのベースとなる TQL クエリを選択 できます。

ウィザード・マップ	[パターン ベース モデル] ウィザード には次 のページが含 まれています。
	「[Cl タイプの選 択] ページ」> 「[クエリの選 択] ページ」

UI要素	詳細
\bigcirc	選択した検索フレーズに一致する, TQL クエリのリスト内の次の項目に移動するとき にクリックします。
\bigcirc	選択した検索フレーズに一致する、TQL クエリのリスト内の前の項目に移動するとき にクリックします。
	検索フレーズにー 致する, TQL クエリのリスト内のすべての項目を強調表示するとき にクリックします。
<tql ク<br="">エリ・ツ リー></tql>	既存の TQL クエリがソリー形式で表示されます。
ベー ス・クエリ の選択	既存のTQL クエリに基づいてモデルを作成する場合,このオプションを選択し,ツリーからクエリを選択します。TQL クエリ・エディタが開いて,選択したクエリがキャンバスに表示されます。
新規クエリの作	新しい TQL クエリに基づいてモデルを作成する場合, このオプションを選択します。 TQL クエリ・エディタが開き, 空のキャンバスが表示されます。
成 	注: 新規クエリに基づいてパターンベース・モデルを作成する場合、クエリの優先順位は 自動的に[非アクティブ]に設定されます。
検索	[検索]ボックスに TQL クエリ名 または TQL クエリ名の一部を入力して、リスト内のクエリを検索します。

パターン・ビュー・エディタ

この機能では、 パターン・ビュー、 テンプレート、 パースペクティブを作成 できます。

利用方法	パターン・ビュー・エディタで新しいビューを開くには、モデリング・スタジオに移動し、「新規作
	成] 🌁 ボタンをクリックし,必要なタイプのビューを選択します。
	パターン・ビュー・エディタで既存のビューを開くには, モデリング・スタジオの左表示枠にある[リ ソース]タブに移動し, [リソースタイプ]として[ビュー]を選択します。 ツリーでビューを右ク リックして[ビューを開く]を選択します。 または, ビューをダブルクリックするか, ビューをエディタ 表示枠にドラッグします。 エディタ表示枠にビューのトポロジ・マップが開きます。
重要情報	エディタには、 ビュー・ モード、またはレポート・モードでアクセスできます。
	• ビュー・モードでは、次の表示枠が表示されます。
	■ [クエリ定義]表示枠 :詳細については, 270ページ「TQL クエリ・エディタ」を参照してく ださい。
	■ [詳細]表示枠:詳細については, 272ページ「詳細表示枠」を参照してください。
	■ [階層]表示枠 :ビューの階層を設定できます(エディタ・ページの右側部分にありま す)。
	• レポート・モードでは、次の表示枠が表示されます。

	■ 【階層】表示枠 :ビューの階層を設定できます(エディタ・ページの左側部分にあります)。
	■ クエリノード定義:レポートに含める属性を選択し、その順序を設定できます。
	注 : ビュー, テンプレート, またはパースペクティブを保存するには, モデリング・スタジオのメイ ン・ツールバーにある[保存]ボタンを使用します。
関連タスク	213ページ「パターン・ビューの作成」, 214ページ「テンプレートの作成」, 215ページ「パースペク ティブの作成」

[階層]表示枠

UI 要素	詳細
Ū1	階層内にサブグループを作成するには、 [次の項目別にグループを追加]をクリックします。 次のオプションを利用できます。
	• 属性別グループを追加:[クエリノードのグループ化]ダイアログ・ボックスが開き, 階層内のサブグループの属性を選択できます。
	• タイプ別 グループを追加 :選択したクエリ・ノードの CI タイプに対して階層内にサブグ ループが作成されます。
	• クエリノード別グループを追加 :選択したクエリ・ノードのみに対して階層内にサブグループが作成されます。
	注 : パースペクティブのコンタクト・クエリ・ノード上にサブグループを定義 することはできません。
Ø	[属性別グループを編集]をクリックすると,[クエリノードのグループ化]ダイアログ・ボックスが 開き,階層内のサブグループの属性を編集できます。
R	選択したクエリ・ノードの名前を変更するには、 [名前の変更]をクリックします。
×	階層ツリーから選択したクエリ・ノードを削除するには, [クエリノードの削除]をクリックしま す。
A	選択したクエリ・ノードを階層の1つ上のレイヤに配置するには、 [クエリノード レイヤを上 へ移動]をクリックします。
Ų	選択したクエリ・ノードを階層でその上にあるクエリ・ノードの配下に配置するには、 [クエリ ノード レイヤを下へ移動]をクリックします。
	注 :選択したクエリ・ノードが階層ツリーの最上位にある場合, [クエリノード レイヤを下へ 移動]をクリックすると, 階層でそのすぐ下にあるクエリ・ノードの配下に移動します。
	選択したクエリ・ノードを階層ツリーで上に移動するには、 [クエリノードを上へ移動]をク リックします。 階層内のクエリ・ノードの順序によって, [レポート]でビューに対して生成され るレポートでのクエリ・ノードの順序が決まります。

UI 要素	詳細
\Rightarrow	選択したクエリ・ノードを階層ツリーで下に移動するには, [クエリノードを下へ移動]をク リックします。 階層内のクエリ・ノードの順序によって, [レポート]でビューに対して生成され るレポートでのクエリ・ノードの順序が決まります。
Q	トポロジ・レポートのプレビューを表示するには、 [プレビュー]をクリックします。
	注 : このオプションは, レポート・モードが選択されている場合にのみ[階層]表示枠に表示 されます。
<階 層ツ	階層ツリー内でのTQL クエリのクエリ・ノードの配置には, ビューに対して定義された階層 が反映されます。
'J—>	クエリ・ノードをクリックしてドラッグすると, 階層を変更できます。 クエリ・ノードをクリックしてド ラッグを開始すると, そのクエリ・ノードを配下に配置できるクエリ・ノードが緑で強調表示さ れます。
階	階層を設定するメソッドを選択します。
唐メ ソッ ド	• 手動:階層を手動で設定します。クエリ・ノードをドラッグするか、ツールバー・ボタンを使用します。
	• ルールベース:[階層ルール]ダイアログ・ボックスが開き, 階層のルールを設定できます。

ショートカット・メニュー

[階層]表示枠では、階層ツリーでクエリ・ノードを右クリックすると次の要素を選択できます。

メニュー項目	詳細
属性別グ ループを追加	[属性別グループを追加]を選択すると、[クエリノードのグループ化]ダイアログ・ ボックスが開き, 階層内のサブグループの属性を編集できます。
タイプ別 グ ループを追 加	[タイプ別グループを追加]を選択すると,選択したクエリ・ノードのCIタイプに対し て階層内にサブグループを作成できます。
クエリノード 別グループを 追加	[クエリノード別グループを追加]を選択すると,選択したクエリ・ノードに対しての み階層内にサブグループを作成できます。
サイクルの定 義	[サイクルの定義]を選択すると,サイクル階層を定義できます。詳細について は,228ページ「[サイクル定義]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
クエリノ <i>ー</i> ド の削除	階層ツリーから選択したクエリ・ノードを削除するときに選択します。
クエリノ <i>ー</i> ド を下へ移動	階層ツリーで選択したクエリ・ノードを下に移動するときに選択します。
クエリノード レイヤを下へ 移動	選択したクエリ・ノードを階層ツリーでその上にあるクエリ・ノードの配下に配置する ときに, [クエリノード レイヤを下 へ移動]を選択します。

メニュー項目	詳細
	注:選択したクエリ・ノードが階層ツリーの最上位にある場合, [クエリノードレイ ヤを下へ移動]を選択すると, 階層でそのすぐ下にあるクエリ・ノードの配下に配置 します。
クエリノード レイヤを上へ 移動	選択したクエリ・ノードを階層ツリーの1つ上のレイヤに配置するときに、 [クエリ ノード レイヤを上へ移動]を選択します。
クエリノード を上へ移動	階層ツリーで選択したクエリ・ノードを上に移動するときに選択します。
名前の変更	選択したクエリ・ノードの名前を変更するときに選択します。
サブグラフ階 層	選択したクエリ・ノードに対して定義したサブグラフをフラット表示するか、クエリ・ ノードの下に折りたたんで表示するかを定義できます。
	注 :このオプションは, サブグラフが定義されているクエリ・ノード にのみ適用されます。

[クエリノード定義]表示枠

 「クエリノード定義]ペインは、テンプレート・ベース・ビューに無効です。レポート・レイアウトを変

 要するには、ビューのベース・テンプレートを編集します。エディタでテンプレート・ベース・ビューを

 情開き、「レポート]タブを開くときに、ビューのベース・テンプレートへのリンクを示す警告メッセージ

 が表示されます。

UI 要 素	詳細
	選択した属性をレポートのレイアウト順序で上に移動するには、「上」をクリックします。
\Rightarrow	選択した属性をレポートのレイアウト順序で下に移動するには、 [下]をクリックします。
Ø	選択した属性の関数を編集するには、 [編集]をクリックします。
×	選択した属性をレポート・レイアウトから削除するには、 [削除]をクリックします。
\Rightarrow	選択した属性を[レポートのレイアウト]リストに移動するときにクリックします。
関数 の追 加	[関数の追加]をクリックすると, [関数の追加]ダイアログ・ボックスが開き, 選択したクエリ・ノードについて, レポートに含める関数を定義できます。追加した各関数は属性として扱われ, レポートのカラムになります。
	注 : このボタンは, ビュー階層で選択したクエリ・ノードの配下にクエリ・ノードがある場合に のみアクティブになります。
属性	選択したクエリ・ノードに使用できる属性のリストです。
UI 要 素	詳細
------------------------	---
グラフ を定 義	ビューの現在のレイヤのデータをグラフ形式で表示するには, [グラフを定義]をクリックします。 [グラフのプロパティ]フィールドが表示されます。
	[グラフを定義]オプションは、次の条件を満たすクエリ・ノードまたはグループ化ノードに対してのみアクティブになります。
	• ビューの最上位層であり、かつ、ビュー階層内で下に層がある。
	• 属 するビューのレイヤで唯一のクエリ・ノード である
	 レポート・レイアウトに対して数値属性が少なくとも1つ選択されている
レポー トのレ イアウ ト	レポートの表示対象として選択された属性のリストが表示されます。 レポートでの属性の 順序を変更する場合や,関数を追加する場合は,ツールバー・ボタンを使用します。
並 替 順 設	クリックすると、 [カラムの並べ替え順序の設定]ダイアログ・ボックスが開き、 レポート・カラムの順序を設定できます。

グラフのプロパティ

表示枠の[グラフのプロパティ]部分には、次の要素が含まれています。

UI 要素	詳細
×	グラフをレポートから削除するには, [グラフを削除]をクリックします。 レポートはテーブ ル形式で生成されます。
次でブ レークダウ ン	グラフは, CI またはグループ化ノードの表 示 ラベル別 にブレークダウンされます。 すべて のレポート についてこの設 定 が適 用されます。
グラフのタイ プ	円グラフを作成するには[円]を、棒グラフを作成するには[棒]を選択します。
値	ドロップダウン・リストから値を選択します。

パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ

この機能では、パースペクティブ・ベース・ビューを作成および編集できます。

利用方法	モデリング・スタジオで, [新規作成]ボタン ^{**} をクリックし, [パースペクティブベースビュー]を 選択して新しいビューを作成するか, CIの選択から空のキャンバスに CIをドラッグして[新 規ビューの作成]を選択します。
	エディタで既存のビューを開くには、 [リソース]表示枠でリソース・タイプとして[ビュー]を選択

	し, ツリーから必要なパースペクティブ・ベース・ビューを選択して[ビューを開く] 🖵 をクリックす るか, ビューをダブルクリックします。
重要情報	パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタには次 の表 示 枠 があります。
	• [内容]表示枠: CI またはモデル, あるいはその両方をビューに含めるには, それらをこの 表示枠にドラッグします。
	• [パースペクティブ]表示枠:ビューの作成のためにコンテンツに適用するパースペクティブを 選択します。
	• [結果の表示]表示枠:現在のビューのプレビューが示されたトポロジ・マップが表示されます。 この表示枠には、IT ユニバース・マネージャ・マネージャの機能のほとんどが含まれています。
関	• 221ページ「モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成」
連 タ スク	 ● 222ページ「CI のコレクションに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成」

[内容]表示枠

UI 要 素	詳細
•	現在のビューの確認のために IT ユニバース・マネージャに直接移動します。
	[プロパティ]をクリックすると,選択した CI の[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス が開きます。
	[選択した CI を含むモデルを表示]をクリックすると、選択した CI を含むモデルのリストが 表示されます。
L	[選択した CI/モデルを含むビューを表示]をクリックすると, 選択した CI またはモデルを含 むビューのリスト が表示されます。
69	[選択したモデルを新しいタブで開く]をクリックすると、選択したモデルが別の Model Editor タブで開きます。
1	選択したモデルに基づいてビューを作成する場合は, [選択したモデルのビューを生成] をクリックします。[新規ビューの作成]ダイアログ・ボックスが開き, 適用するパースペクティ ブを選択できます。
×	選択したCIをビュー・コンテンツから削除するときにクリックします。
	[定義プロパティの表示]をクリックすると,[定義プロパティの表示]ダイアログ・ボックスが開き,ビューのプロパティを設定できます。
Q	[検索]ボックスと矢印コントロールの表示と非表示を切り替えるときに, [検索]をクリック します。

UI 要 素	詳細
[CI タ イプ] カラム	ビューの各 CI のタイプが表 示されます。
検索	[検索]ボックスに CI 名または CI 名の一部を入力して, ビュー内の CI を検索します。
次を 検索	選択した検索フレーズに一致する、ビュー内の次の項目を検索するときにクリックします。
前回 を検 索	選択した検索フレーズに一致する、ビュー内の前の項目を検索するときにクリックします。
ハイラ イト表 示	検索フレーズに一致する、ビュー内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
[名 前]カ ラム	ビューの各 CI の名前が表示されます。

ショートカット・メニュー・オプション

メニュー項目	詳細
選択した モ デル のビューを生成	選択したモデルに基づいてビューを作成するときに選択します。[新規ビューの 作成]ダイアログ・ボックスが開き,適用するパースペクティブを選択できます。
選択したモデル を新しいタブで 開く	選択したモデルが別の Model Editor タブで開きます。
プロパティ	選択した CI の[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスが開きます。
ベース CI の削 除	選択した CI またはモデルがビュー・コンテンツから削除されます。
含まれる モデ ル を表 示	選択した CI を含むモデルのリストを表示するときにクリックします。
含まれるビューを 表示	選択した CI またはモデルを含むビューのリストを表示するときにクリックします。

[パースペクティブ]表示枠

UI 要 素	詳細
×	選択したパースペクティブの選択したレベルを削除します。
	選択したパースペクティブを現在のレベルから前のレベルに移動します。
\Rightarrow	選択したパースペクティブを現在のレベルから次のレベルに移動します。
中	選択したパースペクティブに新しいレベルを追加します。 前のパースペクティブ・レベルの結果 は, 新しいレベルの入 カコンテンツとして使用されます。
	ダイアログ・ボックスを開き,利用可能なパースペクティブが表示されます。 矢印ボタンを使用 して,必要なパースペクティブを利用可能なカラムから選択済みカラムに移動します。
	パースペクティブ定 義を表示するには、 どちらかのカラムでパースペクティブを選択し、 [定義を 開く]リンクをクリックします。 別 のタブでパースペクティブ定 義 が開きます。
モル階層の [.]	モデルに基づくビューの場合, [モデル階層の上に適用]チェック・ボックスを選択すると, ビューにモデル階層が組み込まれ, モデルに含まれている CI およびモデル自体にパースペク ティブが適用されます。このチェック・ボックスをクリアすると, モデル階層がビューから除外され, モデル自体にのみパースペクティブが適用されるようになります。この場合, モデルは通常の CI として扱われます。
上に適用	注 : Cl コレクション, またはモデルとCl コレクションに基 づくビューの場 合, このオプションは無 効 です。
パー	選択したパースペクティブのリストが表示されます。
へ ペク ティ ブ	選択する前に,標準設定のパースペクティブがウィンドウに表示されます。 [新しいパースペク ティブ ベース ビューに選択したパースペクティブ] インフラストラクチャ設定を使用して,標準 設定のパースペクティブの値を設定できます。

[結果の表示]表示枠

UI 要 素	詳細
マップ	マップ・モードで結果を表示するときにクリックします。
テキ スト	テキスト・モードで結果を表示するときにクリックします。
1 k	ビューの2つのCI間に関係を作成します。
	トポロジ・マップの凡例の表示/非表示を切り替えます。

UI 要 素	詳細
٦	トポロジ・マップ内の1つ上のレベルに移動します。
ſ	トポロジ・マップ内の1つ下のレベルに移動します。
×	選択した CI をビューから削除します。
	[CI プロパティを表示]をクリックすると,選択した CIの[構成アイテムのプロパティ]ダイアロ グ・ボックスが開きます。
Ø	[更新]をクリックすると、ビューの結果が更新されます。
Ū	[ビューから CI を非表示]をクリックすると,選択した CI がビューで非表示になります。この オプションは,パースペクティブを介してビューに追加された CI にのみ関係します。 元の ビュー・コンテンツの CI をビューで非表示にすることはできません。
	注:非表示になっているCIは[非表示 CI]ダイアログ・ボックスで復元できます。
t.	[非表示 CI を表示]をクリックすると、ビューで非表示になっている CI を手動で復元でき る[非表示 CI]ダイアログ・ボックスが開きます。
1	[選択された CI に基づいてビューを作成]をクリックすると、[結果の表示]表示枠から選択した CI に基づいて新しいビューが作成されます。
	[プレビュー表示の展開]をクリックすると、プレビューが別の表示枠で表示されます。
<現 在置示リ スト>	トポロジ・マップ上部にある現在位置表示リストは、選択したレイヤへのパスに対する、 ビューの各レイヤ内の関連するクエリ・ノードを示します。パス内の最初の項目は 最上位レ イヤ です。また、下のレイヤから CIを選択するとき、親 CI が現在位置表示パス内の次の 項目になります。パス内のいずれかの項目をクリックすると、トポロジ・マップ内のそのレイヤが 表示されます。
<凡	CIの横に表示されるアイコンは、次の特別な状態を表します。
191] >	• 追加済み:変更時間枠がアクティブなとき, CIが追加されたことを表します。
	• 削除の候補: CI が削除の候補であることを表します。
	• 変更済み:変更時間枠がアクティブなとき, CIが変更されたことを表します。
	 レイヤを1つドリル・ダウン。仮想レイヤ上のCI下にCIがあることを示します。
	• 外部: CI がフェデレート CI であることを表します。
	• 影響済み:影響分析がアクティブなとき,影響を受けた CI を示します。
	• 影響済みかつトリガ:影響分析がアクティブなとき,影響を受けたトリガ CI を示します。
	• メモ: CI にメモが追加されたことを表します。
	• トリガ:影響分析がアクティブなとき、トリガ CI を示します。

モデリング・ガイド 第8章:モデリング・スタジオ

UI 要 素	」 詳細
<トポ ロジ・ マッ プ>	[結果の表示]表示枠のトポロジ・マップは, IT ユニバース・マネージャのトポロジ・マップのレ イアウトに従います。詳細については, 182ページ「トポロジ マップ」を参照してください。
<[ト ポロ ジ マッサ イド ・	詳細については, 147ページ「[トポロジマップ] サイドバー」 を参照してください。

ショートカット・メニュー・オプション

メニュー項目	詳細
<it ユニバー<br="">ス・マネージャ のショートカッ ト・メニュー・オ プション></it>	IT ユニバース・マネージャでは, ショートカット・メニュー・オプションを使用できます。 詳細については, 181ページ「[IT ユニバース マネージャ]ページ」を参照してください。
選択された CI に基づいて ビューを作成	[選択された CI に基づいてビューを作成]を選択すると, [結果の表示]表示枠から選択した CI に基づいて新しいビューが作成されます。
ビューから CI を非表示	選択した CI をビューで非表示にするときにクリックします。このオプションは、パース ペクティブを介してビューに追加された CI にのみ関係します。元のビュー・コンテン ツの CI をビューで非表示にすることはできません。モデルに基づくビューの場合、モ デルは非表示にできませんが、その CI は非表示にできます。
非表示 CI を 表示	非表示のCIをビューに復元します。

[クエリノードのグループ化]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい CI のグループを定義したり、既存のグループを編集したりできます。

利 パターン・ビュー・エディタの[階層]表示枠で[次の項目別にグループを追加]ボタン
 用 リックして[属性別グループを追加]を選択するか、必要なクエリ・ノードを右クリックしてショート
 方 カット・メニューから[属性別グループを追加]を選択します。
 法

UI要素	詳細
表現キャプチャ グループ インデックス	正規表現の関連部分の番号を入力します。表現全体が関連する 場合は「0」を入力します。
グループ化	ドロップダウン・リストから属性を選択します。
グループ化 のマスク	選択した属性の構造を表す正規表現パターンを入力します。
	詳細については, 202ページ「クエリノードのグループ化」を参照してく ださい。

[クエリ/ビュー定義プロパティ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, TQL クエリまたはビューのプロパティを設定できます。

利用方法	モデリング・スタジオの TQL クエリ・エディタまたはパターン・ビュー・エディタで, [クエリ/ビュー定 義プロパティ] 🚰 ボタンをクリックします。
重要情報	[定義プロパティの表示]ダイアログ・ボックスでビューの標準設定のレイアウトを選択できます。 [マップ レイアウト]または[グループ化]でオプションを選択できます(1つだけ選択できます)。

UI 要素	詳細
ベー	新しいクエリの基にする既存のTQL クエリを選択します。
スクエリ	注:
	• このフィールドは TQL クエリにのみ関連します。
	• このフィールドは省略可能です。
バン ドル	TQL クエリまたはビューをカテゴリ別 にグループ化 する方法 です。 現在 のクエリまたはビューに 関連付 けられたバンド ルを選択するか, 現在 のクエリまたはビュー用に新しいバンドルを作 成します。
	注 :このフィールドは任意指定です。
詳細	TQL クエリまたはビューの説明です。
グ ル ー プ化	IT ユニバース・マネージャまたはビュー・プレビューでの消費時に, ビューに標準設定のレイア ウトを選択します。 使用できるオプションは, 182ページ「トポロジ マップ」 の「グループ化」で 説明されているオプションです。
	注:

モデリング・ガイド 第8章:モデリング・スタジオ

UI 要素	詳細
	• このフィールドはビューにのみ関連します。
	 このドロップダウンから標準設定のレイアウト([グループ化なし]以外)を選択すると、 [マップレイアウト]が無効になります。
レイ	トポロジ結果に表示される中間層関係の範囲を設定します。
ヤ間 リ ンク	注 :このフィールドはビューにのみ関連します。
マッ プレ イア	IT ユニバース・マネージャまたはビュー・プレビューでの消費時に, ビューに標準設定のレイア ウトを選択します。使用できるオプションは, [メインメニュー]の[レイアウト]で表示されてい るオプションです。
ゥト	注:
	• このフィールドはビューにのみ関連します。
	• このフィールドは、 [グループ化]で [グループ化なし]を選択したときにのみ関連します。
永 続	TQL クエリを永続として定義する場合に選択します。永続クエリは、常にメモリに保持されます。
優 先 度	TQL クエリまたはビューの優先度をドロップダウン・リストから選択します(低,中,高,至 急,非アクティブ)。この設定により、システムが CMDB から更新情報を取り込むためにこ のクエリを自動的に再実行する頻度が決定します。
	注:ビューの優先度を変更すると、ビューの基になる TQL クエリの優先度も変更されます。
対	TQL クエリの対象範囲をドロップダウン・リストから選択します。
家 範 囲	注 :このフィールドは統合 TQL クエリにのみ関連します。
タイ	TQL クエリのタイプをドロップダウン・リストから選択します。
プ	注 :このフィールドは TQL クエリにのみ関連します。

[CIを隣接検索]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデルのCIに関連するCIを検索し、モデルに追加することができます。

利用方法	モデリング・スタジオのモデル・エディタで、CIを選択し、 [隣接検索] 💫 ボタンをクリックして [隣接検索を開始]を選択するか、モデルのCIを右クリックして[隣接検索]>[隣接検索を 開始]を選択します。
重要	上部の表示枠には、選択した CI に関連する CI の CI タイプが表示されます。下部の表示 枠には、上部の表示枠で選択したタイプの CI が表示されます。
情 報	公開の始点にした CI の CI タイプが公開の最初ステップとなります。 上部の表示枠のリスト

	から CI タイプを選択すると,その CI タイプがパスの2番目のステップになります。[次へ]をクリックすると,パスの次のステップで使用できる CI タイプが表示されます。 ボックスの上部に表示される括弧で囲まれた数字は,それまでに作成されたパスの長さを表します。
関 連 タ スク	219ページ「インスタンス・ベース・モデルの作成」

UI 要 素	詳細
×	選択した項目をCIバスケットから削除するときにクリックします。
	下部の表示枠で選択したCIをCIバスケットに追加するときにクリックします。
\bigcirc	選択した検索フレーズに一致する、CIのリスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
\bigcirc	選択した検索フレーズに一致する、CIのリスト内の前の項目を検索するときにクリックします。
<部の表示枠	上部の表示枠で選択したタイプの関連 CI のリストが表示されます。
CI 数	各タイプの関連 CI がいくつ見つかったかを示します。
CI バス ケッ ト	モデルに含めるために選択した関連 CI が表示されます。
CI タイ プ	選択した CI に関連する CI の, CI タイプのリストが表示されます。
条 件	チェック・マークは, 選択した CI タイプに条件が定義されていることを示します。選択する CI タイプの[条件]カラムをクリックし, [条件の追加]ボタンまたは[定義を編集]ボタンをクリック すると, [関連 CI の条件]ダイアログ・ボックスが開きます。 ここで, CI タイプに条件を定義し たり, CI タイプの条件を編集したりできます。
検 索	[検索]ボックスに CI 名または CI 名の一部を入力して, CI のリストで CI を検索します。

UI 要 素	詳細
完 了	CI バスケット への CI の追加が完了したときに[完了]をクリックします。
次へ	[次へ]をクリックすると、パスの次のステップで使用できる CI タイプが表示されます。
数弦	作成中の公開パスが表示されます。
検索	パス内の青い矢印 ⇒をクリックすると, パスの次のステップで使用できる CI タイプのドロップダ ウン・リストが表示されます。
パス	パス内の CI タイプをクリックすると、次のオプションが表示されます。
	• ページへ移動:パス内の選択したステップで使用できる CI タイプでテーブルが更新されます。
	• 定義を編集:[関連 CI の条件]ダイアログ・ボックスが開きます。
	• 選択した項目の削除:選択した CI タイプが公開パスから削除されます(パスは前の CI タイプで終了します)。
パ の 保 存	パスを保存できる[隣接検索パスの保存]ダイアログ・ボックスが開きます。 このオプションは, 一意の公開パスが作成された場合にかぎり有効になります。

[クエリを保存]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい TQL クエリを保存できます。

利用方法	モデリング・スタジオで、新しい TQL クエリの定義時に[保存] 間ボタンをクリックします。
------	--

UI 要素	詳細
	リソース・ツリーに新しいフォルダを作成するには、 [新規フォルダ]をクリックします。
×	[削除]をクリックして, CMDB から, 選択したリソースを削除します。
Ø	リソースのツリーを更新するには、 [更新]をクリックします。
論	ッリー内のすべてのフォルダを展開するには、 [すべてを展開]をクリックします。
5	リソース・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたむには、 [すべてを折りたたむ]をク リックします。

UI 要素	詳細
\odot	選択した検索フレーズに一致する、ツリー内の次の項目を検索するときにクリック します。
\bigcirc	選択した検索フレーズに一致する、ツリー内の前の項目を検索するときにクリック します。
	検索フレーズにー致する、ツリー内のすべての項目を強調表示するときにクリック します。
<リソース ツ リー>	クエリの保存先とするツリー内のフォルダを選択します。
検索	[検索]ボックスにフォルダ名またはフォルダ名の一部を入力して, リスト内のビュー を検索します。
クエリ名	新しい TQL クエリの名前を入力します。

[ビュー/テンプレート/パースペクティブを保存]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しいパターン・ビュー、テンプレート・ベース・ビュー、パースペクティブ・ベース・ビュー、テンプレート、またはパースペクティブを保存できます。

利	モデリング・スタジオで,新しいパターン・ビュー,テンプレート・ベース・ビュー,パースペクティ
用方	ブ・ベース・ビュー, テンプレート, またはパースペクティブの定義時に, [保存] じボタンをク
法	リックします。

UI 要素	詳細
	リソース・ツリーに新しいフォルダを作成するには、 [新規フォルダ]をクリックします。
×	[削除]をクリックして, CMDB から, 選択したリソースを削除します。
Q	リソースのツリーを更新するには, [更新]をクリックします。
髩	ッリー内のすべてのフォルダを展開するには、 [すべてを展開]をクリックします。
5	リソース・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたむには、 [すべてを折りたたむ]をク リックします。
\bigcirc	選択した検索フレーズに一致する、ツリー内の次の項目を検索するときにクリックします。
\bigcirc	選択した検索フレーズに一致する、 ツリー内の前の項目を検索するときにクリックします。
	検索フレーズに一致する、ツリー内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。

UI要素	詳細
<リソース ツ リー>	ビュー, テンプレート, またはパースペクティブの保存先とするツリー内のフォルダを選択します。
検索	[検索]ボックスにフォルダ名またはフォルダ名の一部を入力して、 リスト内のビューを 検索します。
新規クエリ	新しい TQL クエリに基づいてビューを作成する場合,[新規クエリ]を選択します。
	注 :このフィールドはテンプレート・ベース・ビューおよびパースペクティブ・ベース・ビュー には適用されません。
ビュー名	新しいビュー, テンプレート, またはパースペクティブの名前を入力します。

[統合ポイントの選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, 統合ポイントを選択して, TQL クエリ・ノードに必要なデータ・ソースに アクセスできます。

利用方法	モデリング・スタジオで, TQL クエリ・ノードを右 クリックし, [統合ポイントの選択]を選択します。
重要情報	TQL クエリが各 クエリ・ノード の結果を生成するために使用するデータ・ソースを選択 できます。 データ・ソースの詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の 「Integration Studio の概要」を参照してください。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
<[統合ポイン ト]リスト>	利用可能なデータ・ソースの統合ポイントのリストです。
すべての統合 ポイント	TQL クエリの結果の中の選択したクエリ・ノードのすべての UCMDB と外部ソース・データから CI を取り込むことができます。
	注 :選択したクエリ・ノードのCIタイプがフェデレートとマークされている統合ポイントのみを取り込みます。
ローカル・デー タ・ソース	TQL クエリの結果の中の選択したクエリ・ノードのみの UCMDB から CI を取り込みます。
統合ポイント の選択	統合ポイントを選択して, TQL クエリの結果の中の選択したクエリ・ノードのみの 必要なデータ・ソースから CI を取り込みます。

[カラム コンテンツの並 べ替 え] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、レポートでのカラム・コンテンツの順序を設定できます。

利用方法	モデリング・スタジオで、パターン・ビュー・エディタ(レポート・モード)の[クエリノード定義]表示 枠から[並べ替え順を設定]をクリックします。
重要情報	レポートは[並べ替えられたカラム]表示枠の属性の順序に従って各カラムで並べ替えられます。選択した各カラムは、指定に従って昇順または降順に並べ替えられます。
関 連タ スク	218ページ「レポート設定の定義」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
⇒	選択した属性を[並べ替えられたカラム]表示枠に移動するには、 [Move to Sorted Columns]をクリックします。
Ų	選択した属性を[利用可能なカラム]表示枠に移動するには, [Move to Available Columns]をクリックします。
m	すべての属性を[並べ替えられたカラム]表示枠に移動するときにクリックします。
۲	すべての属性を[利用可能なカラム]表示枠に移動するときにクリックします。
₩	選択した属性を[並べ替えられたカラム]リストの中で下に移動するときにクリック します。
î	選択した属性を[並べ替えられたカラム]リストの中で上に移動するときにクリック します。
≞†	選択したカラムを昇順で並べ替えるには、 [昇順ソート]をクリックします。
₽Ļ	選択したカラムを降順で並べ替えるには、 [降順ソート]をクリックします。
利用可能なカ ラム	レポートの表示対象カラムとして選択した属性です。
並べ替えられ たカラム	並べ替え対象として選択したカラムです。

[テンプレート ベース ビュー] ウィザード

このウィザードでは, 手動で, または CSV ファイルからパラメータ・データをインポート することで, テンプ レート・ベース・ビューを定義 できます。

利

[新規作成] * ボタンをクリックして[テンプレート ベースビュー]を選択します。

用方法	
重要情報	このウィザードでは、同じテンプレートを使用して複数のテンプレート・ベース・ビューを作成で きます。複数のビューを作成すると、ウィザードに最終ページとして[ビューを保存]ページが 含まれます。単一のテンプレート・ベース・ビューを作成する場合、ウィザードが[パラメータ] ページを終了したら、エディタで新しいビューが開きます。新しいビューはエディタで保存できま す。
関 連 タ スク	 216ページ「テンプレート・ベース・ビューの作成」 217ページ「複数のテンプレート・ベース・ビューの作成」
ウィー・ップ	[テンプレート ベースビュー]ウィザードには次のページが含まれます。 「[テンプレートの選択]ページ」>「[パラメータ値をインポート]ページ」>「[パラメータを入 カ]ページ」>「[ビューの場所を選択]ページ」>「[サマリ]ページ」>「[ビューを保存]ペー ジ」
関 連 情 報	205ページ「テンプレート・ベース・ビューの作成」

[テンプレートの選択]ページ

このウィザード・ページでは、ビューの基にするテンプレートを選択できます。

重要 情報	ツリー内 のテンプレートを使 用しない場 合,最 初に新しいテンプレートを作 成し,それに基 づいてビューを作 成 できます。 テンプレートの作 成 の詳 細 については, 214ページ「テンプレー トの作 成 」 を参 照してください。
ウィ	[テンプレート ベースビュー]ウィザードには次のページが含まれます。
ヮー ド・ マップ	「[テンプレートの選択]ページ」 >「[パラメータ値をインポート]ページ」>「[パラメータを入 カ]ページ」>「[ビューの場所を選択]ページ」>「[サマリ]ページ」>「[ビューを保存]ペー ジ」

UI 要素	詳細
Q	テンプレートのツリーを更新するには、 [更新]をクリックします。
1	[すべてを展開]をクリックすると、テンプレート・ツリー内のすべてのフォルダが展開 されます。
5	[すべてを折りたたむ]をクリックすると、テンプレート・ツリー内のすべてのフォルダが 折りたたまれます。

UI要素	詳細
\bigcirc	選択した検索フレーズに一致する、ツリー内の次の項目を検索するときにクリック します。
\bigcirc	選択した検索フレーズに一致する、ツリー内の前の項目を検索するときにクリック します。
	検索フレーズに一致する、 ツリー内のすべての項目を強調表示するときにクリック します。
<テンプレート ツリー>	既存のテンプレートがソリー形式で表示されます。
検索	[検索]ボックスにテンプレート名またはテンプレート名の一部を入力して, リスト 内のテンプレートを検索します。

[パラメータ値をインポート]ページ

このウィザード・ページでは、CSV ファイルからパラメータ値をインポートできます。

重要	同じテンプレートに基づくビューを多く作成する場合は, CSV ファイルでパラメータ値を保
情報	存し, ウィザードにパラメータ値を直接インポートできます。
	注 :CSV ファイルに,英語以外の文字が含まれている場合,文字の適切な表示を確保するためにUTF-8 エンコーディングを使用する必要があります。
ילי	[テンプレート ベースビュー]ウィザードには次のページが含まれます。
ザー	「[テンプレートの選択]ページ」>「 [パラメータ値をインポート]ページ」 >「[パラメータを
ド・マッ	入力]ページ」>「[ビューの場所を選択]ページ」>「[サマリ]ページ」>「[ビューを保存]
プ	ページ」

UI 要素	詳細
Add parameter values manually	単一ビューまたは複数ビューのどちらの場合でも、パラメータ値を手動で入力する場合、このオプションを選択します。
パラメータ 値を CSV ファイルから インポート	CSV ファイルからパラメータ値をインポートする場合, このオプションを選択します。省略符号のボタン[
詳細な名 前付けを 使用	パラメータ値に基づいて作成されたビューに自動的に名前を付けるには、[詳細な 名前付けを使用]オプションを選択します。このボックスでは、少なくとも1つのパラ メータ名を含む式を山括弧で囲んで入力します。選択したパラメータの値に基づい てビューに名前が付きます。

[パラメータを入力]ページ

このウィザード・ページでは、新規に作成した各ビューのテンプレート・パラメータの値を設定できます。

重要情報	複数のビューを作成する場合は、パラメータ値の設定後 [次へ]をクリックして、 [ビューを保存]ページに進みます。単一のビューを作成する場合は、パラメータ値の設定後 [完了] をクリックすると、エディタで新しいビューが開きます。
ウィ ザー ド・	[テンプレート ベースビュー]ウィザードには次のページが含まれます。 「[テンプレートの選択]ページ」>「[パラメータ値をインポート]ページ」>「 [パラメータを入 カ]ページ」 >「「ビューの場所を選択]ページ」>「「サマリ]ページ」>「「ビューを保存]
マッ ア	ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要 素	詳細
÷	新しいインスタンスを追加するときにクリックします。
×	選択したビュー・インスタンスを削除するときにクリックします。
<パラ メー タ・カ ラム>	各パラメータ・カラムで, 各ビューに必要なパラメータ値を入力または選択します。
リセッ ト	クリックすると、選択したパラメータが元の値にリセットされます。
詳 な 前 け を 用	パラメータ値に基づいて作成されたビューに自動的に名前を付けるには、[詳細な名前 付けを使用]オプションを選択します。このボックスでは、少なくとも1つのパラメータ名を含 む式を山括弧で囲んで入力します。選択したパラメータの値に基づいてビューに名前が 付きます。 注:すべてのビュー名は一意である必要があります。
ビュ— 名	新しいビューそれぞれに名前を入力するか、割り当てられた標準設定の名前を使用します。

[ビューの場所を選択]ページ

このウィザード・ページでは、作成したビューを保存する場所を選択できます。

重要 作成したすべてのビューは同じ場所に保存する必要があります。 情報



ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
-	ビュー・ツリーに新しいフォルダを作成するには、 [新規フォルダ]をクリックします。
Ø	[更新]をクリックすると、ビューのツリーが更新されます。
譜	[すべてを展開]をクリックすると、ビューのツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
5	[すべてを折りたたむ]をクリックすると、ビューのツリー内のすべてのフォルダが折りたたまれます。
\odot	選択した検索フレーズに一致する、ツリー内の次の項目を検索するときにクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、ツリー内の前の項目を検索するときにクリックします。
	検索フレーズにー 致する、 ツリー内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
<ビューのツ リー>	ビューのツリーからフォルダ(またはルート)を選択します。
検索	[検索]ボックスにテンプレート名またはテンプレート名の一部を入力して、 ツリー内の テンプレートを検索します。

[サマリ]ページ

このウィザード・ページでは保存する前に作成したビューの詳細が表示されます。

לי	[テンプレート ベースビュー]ウィザードには次のページが含まれます。
ザー ド・マッ ー	「[テンプレートの選択]ページ」>「[パラメータ値をインポート]ページ」>「[パラメータを入 力]ページ」>「「ビューの場所を選択]ページ」>「「サマリ]ページ」>「「ビューを保存]
7	ページ」

UI要素	詳細
Save view	ベース・テンプレートの名前,作成したビューの数,ビューの保存に選択した場所
summary	を含む,作成したビューのサマリ。

[ビューを保存]ページ

このウィザード・ページでは、新規に作成したビューを保存できます。

重要	このウィザード・ページは, 複数のテンプレート・ベース・ビューを作成する場合にのみ関連
情報	します。
ילי ייז	[テンプレート ベースビュー]ウィザードには次のページが含まれます。
ザー	「[テンプレートの選択]ページ」>「[パラメータ値をインポート]ページ」>「[パラメータを入
ド・マッ	力]ページ」>「[ビューの場所を選択]ページ」>「[サマリ]ページ」>「 [ビューを保存]
プ	ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
Save	新規ビューの各名前,および,各ビューが正常に保存されたかどうかを示すメッセージ
Results	がテーブルに表示されます。

[テンプレート パラメータ値]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テンプレート・ベース・ビューのパラメータを編集できます。

 Fデリング・スタジオのテンプレート・ベース・ビューで、定義されたパラメータを含むクエリ・ノード を右クリックし、[ノード パラメータの表示]を選択するか、ツールバーの[パラメータの表示]ボタ ン やをクリックします。

 E義されたパラメータを含むクエリ・ノードを右クリックして、ショートカット・メニューからダイアロ グ・ボックスを開くと、選択したクエリ・ノードのパラメータのみがダイアログ・ボックスに表示されま す。ツールバーからダイアログ・ボックスを開くと、ビュー内にあるクエリ・ノードに定義されているす べてのパラメータが表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<パラメ―タ>	パラメータの値を編集します。

TQL クエリ・エディタ

この機能では, TQL クエリを作成および編集できます。

利	TQL クエリ・エディタで新しい TQL クエリを開くには, モデリング・スタジオに移動し, [新規作	
用	成] * ボタンをクリックし, [クエリ]を選択します。	

方 | TQL クエリ・エディタで既存の TQL クエリを開くには、モデリング・スタジオの左表示枠にある[リ

	ソース]タブに移動し, [リソースタイプ]として[クエリ]を選択します。 ツリーで TQL クエリを 右 クリックして [クエリを開く]を選択します。 または, TQL クエリをダブルクリックするか, TQL クエ リを空のキャンバスにドラッグします。 新しいタブで TQL クエリが開きます。
重要情報	TQL クエリを保存するには, モデリング・スタジオのメイン・ツールバーにある[保存]ボタンを使 用します。
関 連 タ スク	24ページ「TQL クエリの定 義」

UI要素 詳細 IT ユニバース・マネージャの選択したビューに直接移動するには、[ビュー結果をIT 0 Universe に表示]をクリックします。 注:このボタンは、ビュー、テンプレート、またはパースペクティブの場合にのみ適用され ます。 クエリ・ノード間に関係を設定するには、[関係を作成]をクリックします。 Î. 各 TQL クエリ・ノードまたは関係について、見つかったインスタンスの数を計算するに は、[クエリ結果数を計算する]をクリックします。 IT ユニバース・マネージャに表示されるときの TQL クエリの結果をプレビューするには, 0 [**プレビュー**]をクリックします。 選択したクエリ・ノードまたは関係をクエリから削除するには、 [削除]をクリックしま × す。 クエリの場合, [クエリ定義プロパティ]ダイアログ・ボックスが開き, TQL クエリのタイプ, 6 範囲、および優先度を編集できます。 ビューの場合、「定義プロパティの表示」ダイアログ・ボックスが開きます。 レポート・プロパティ[レポート プロパティ]ダイアログ・ボックスが開き, ビューのトポロジ・ **B** レポートのタイトル. サブタイトル. 形式を設定できます。詳細については. 334ページ 「[レポートのプロパティ] ダイアログ・ボックス」 を参照してください。 注:このボタンは、ビュー、テンプレート、またはパースペクティブの場合にのみ適用され ます。 [テナントを割り当て]をクリックして[テナントを割り当て]ダイアログ・ボックスを開き,テ 2. ナントを CI に割り当 てることができます。 注:このボタンは、マルチテナンシーの有効時にのみ使用できます。 [セキュリティを管理]をクリックして,選択したリソースを個々のロールまたはリソース・ 2 グループに割り当てます。

UI要素	詳細
<p></p>	[テンプレート パラメータ値]ダイアログ・ボックスが開き, テンプレート・ベース・ビューでク エリ・ノード のパラメータを編 集 できます。
	注 :このボタンは, テンプレート・ベース・ビューの場合にのみ表示されます。
<凡例>	CIの横に表示されるアイコンが次の特殊な意味を持つことを示します。
	 パースペクティブ内のコンタクト・クエリ・ノードとして定義されている
	 パターン・ベース・モデルの出力クエリ・ノードとして定義されている
	• 属性が定義されている
	 選択した ID が定義されている
	• クエリの結果では非表示です。
	• サブグラフが定義されている
	• フェデレート CI です。
<メイン・メ ニュー>	詳細については, 138ページ「メイン・メニュー」を参照してください。
<ショート カット・メ ニュー・オプ ション>	詳細については、32ページ「ショートカット・メニュー・オプション」 を参照してください。
<[トポロジ マップ] サイ ド <i>バー</i> >	詳細については, 147ページ「[トポロジ マップ] サイドバー」を参照してください。

詳細表示枠

この領域には、選択したクエリ・ノードおよび関係のプロパティ、条件、およびカーディナリティが表示されます。

重要情報	[詳細]表示枠は、モデリング・スタジオ、インパクト・アナリシス・マネージャ、エ ンリッチメント・マネージャ、インプット・クエリ・エディタ、DFM のトリガ・クエリ・エ ディタの各マネージャとユーザ・インタフェースで、ウィンドウ下部に表示されま す。 データを含んでいるタブの横には、小さな緑色のインジケータ*が表示されま す。
関連タスク	 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」 24ページ「TQL クエリの定義」 213ページ「パターン・ビューの作成」 214ページ「テンプレートの作成」 215ページ「パースペクティブの作成」

UI要素	詳細					
	ウィンドウの幅が狭くてすべてのタブが表示されない場合は, 左矢印または右 矢印を使って必要なタブに移動します。					
Þ	[リストを表示する]をクリックすると,現在のモジュールで使用できるタブのリストが表示されます。このリストからタブを選択できます。					
属性	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された属性条件が表示されます。詳細については, 65ページ「[属性]タブ」を参照してください。					
カーディナリティ	カーディナリティは,関係のもうー方の端にあることが期待されるクエリ・ノードの数を定義します。たとえば,ノードとIPアドレスの関係でカーディナリティが1:3である場合,TQLクエリは1~3個のIPアドレスに接続されているノードのみを取得します。詳細については,67ページ「[カーディナリティ]タブ」を参照してください。					
データソース	選択したクエリ・ノードのデータ・ソース・セットが表示されます。					
	注 :このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。					
詳細 次の情報が表示されます。						
	• CI タイプ/要素タイプ:選択したクエリ・ノード/関係のCITです。					
	• 要素名 :クエリ・ノード/関係の名前です。モデリング・スタジオにのみ表示されます。					
	 クエリ結果に表示:緑色のチェック記号は、選択したクエリ・ノード/関係がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、表示されないことを示します。モデリング・スタジオでは、[はい]または[いいえ]という語によって示されます。 					
	 サブタイプを含める:緑色のチェック記号は、選択した CI とその子の両方がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、選択した CI だけが表示されることを示します。この項目はモデリング・スタジオでは 表示されません。 					
編集	[編集]をクリックすると,選択したタブに対応するダイアログ・ボックスが開きます。					
要素レイアウト	 選択したクエリ・ノード/関係での選択属性が表示されます。クエリ結果に含めるために選択された属性が一覧表示されます([特定の属性]が属性条件として選択されている場合)。また、除外された属性と、属性で選択されたすべての修飾子も一覧表示されます。詳細については、71ページ「[要素レイアウト]タブ」を参照してください。 					
亜キタノプ	/⊥ ·⊂v// / is ∟ / ノノ / ハ// / i⊂v////公 小 C1vよ y 。 					
安系♡1ノ 	す。詳細については、69ページ「[要素タイプ]タブ」を参照してください。					
	注 :このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。					

UI要素	詳細
エンリッチメント ルール	選択したクエリ・ノード/関係に対して定義されたエンリッチメント・ルールが表示されます。エンリッチメント・ルールを使って CI の属性を更新する場合は、必要に応じて[編集]をクリックして[クエリ・ノード/関係の定義]ダイアログ・ボックスを開き、ルールを編集します。詳細については、425ページ「[クエリノード/関係の定義]ダイアログ・ボックス」を参照してください。 注:このタブはエンリッチメント・マネージャにのみ表示されます。
影響を受けるクエ リノード	選択したトリガ・クエリ・ノードで発生する変更の影響を受けるクエリ・ノードが 表示されます。必要な場合は、[編集]をクリックして、[影響を受けるクエリ ノード]ダイアログ・ボックスを開いて変更できます。詳細については、366ペー ジ「[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	注:このタノは影響分析マネーンやにのみ表示されます。
修飾子	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された修飾子条件が表示されます。 詳細については,73ページ「[修飾子]タブ」を参照してください。
	注 : このタブは, エンリッチメント・マネージャと影響分析マネージャにのみ表示 されます。
選択された ID	TQL クエリ結果に含める必要があるものを定義するために使用される要素インスタンスが表示されます。詳細については、75ページ「[ID]タブ」を参照して ください。

[選択済みの CI を含むビュー]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI を含むビューのリストを表示できます。

利用方法	モデル・エディタで[選択した CI/モデルを含むビューを表示] 5000 ボタンをクリックする
	か, ショートカット・メニューから」 含まれるビューを表示」 を選択します。

UI 要素	詳細
•	IT ユニバース・マネージャの選択したビューに直接移動するには、 [ビュー結果を IT Universe に表示]をクリックします。
×	選択したビューを削除するには、 [選択した項目の削除]をクリックします。
Z	選択したビューをパースペクティブから切断するには、 [ビューをパースペクティブから切断] をクリックします。ビューは、パターン・ビューになります。
検索	[検索]ボックスにビュー名またはビュー名の一部を入力して, リスト内のビューを検索します。
次を検 索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の次の項目を検索するときにクリックします。

UI 要素	詳細
前回を 検索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の前の項目を検索するときにクリックします。
ハイライ ト表示	検索フレーズにー 致する, リスト内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
ビュー名	選択したテンプレートまたはパースペクティブに依存するビューのリストが表示されます。
	注:現在のビューの名前は淡い色のテキストで表示されます。

[ウォッチポイントの更新]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには, モデルに定義されたウォッチポイントにより, 関連 CI で見つかった変更が 表示されます。

利用方法	モデル・エディタのモデル内から、 [ウォッチポイント] ⁽ 新ボタンをクリックして [ウォッチポイントの 更新]を選択するか、 モデルの CI を右 クリックして [ウォッチポイント]>[ウォッチポイントの更 新]を選択します。
重要情報	[ウォッチポイントの更新]ダイアログ・ボックスには、関連付けられた隣接検索パスを介し、モデルに関連する CI について見つかった変更が表示されます。モデルに含まれていない新しい 関連 CI が見つかった場合、推奨更新は CI の追加となります。モデルの CI がパスを介して 関連しなくなったことがわかった場合、推奨更新は CI の削除となります。
	このオプションは, モデルに監視が定義されていて, CI が見つかっている場合にのみ有効となります。

UI 要素	詳細			
承認	モデルに追加する CI のチェック・ボックス, またはモデルから削除する CI の チェック・ボックスを選択します。			
すべて承認 推奨された変更をすべてモデルに適用するときに、[すべて承認]をクリッす。				
CI	監視により見つかった CI の名前です。			
CI タイプ	監視により見つかった CI のタイプです。			
すべてクリア 見つかったすべての CI のチェック・ボックスをクリアするときに、 [すべて リックします。				
復元	[抑制された CI]表示枠で, モデルに含めることを検討する CI のチェック・ボックスを選択します。			
抑制の表示/非 ダイアログ・ボックスの[抑制された CI]表示枠の表示と非表示を切り替 表示				

UI 要素	詳細			
推奨更新	推奨された変更がCIの追加かCIの削除かを示します。			
抑制	モデルから除外する CI のチェック・ボックス, またはモデルに残す CI のチェック・ ボックスを選択します。			
すべて抑制	モデルに対する推奨された変更をすべて受け入れないときに、 [すべて抑制] をクリックします。			

[<クエリ/テンプレート/パースペクティブ名>の依存関係]ダイア ログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、クエリ、テンプレート、またはパースペクティブへの変更を保存するときに依存ビューのステータスを確認できます。

利用方式
 モデリング・スタジオで、依存ビューを含むクエリ、テンプレート、またはパースペクティブを変更します。[保存]をクリックすると、ダイアログ・ボックスが開きます。
 リソースに対して行った変更はすべて、そのリソースに基づくビューに影響します。変更を保存する前に、依存ビューで希望する結果を指定する必要があります。各依存ビューに対して、次のいずれかの選択できるオプションを選択します。削除、再適用、またはデタッチ。

UI 要 素	詳細
削除	選択した依存ビューを削除するには、 このオプションを選択します。
デタチ	テンプレートまたはパースペクティブから選択した依存ビューをデタッチするには、 このオプション を選択します。 ビューは、 パターン・ビューになります。 注:このオプションはクエリには関連しません。
再 適 用	修 正したクエリ, テンプレート, またはパースペクティブを, 選 択した依 存 ビューに適 用 するに は, このオプションを選 択します。 ビュー・タイプは以 前 のタイプ(パターン・ビュー, テンプレート・ ベース・ビュー, パースペクティブ・ベース・ビュー) のままです。
リソース	依存ビューがツリー形式で表示されます。

第9章

レポート

本章の内容

トポロジ・レポートの概要	.277
カスタム・レポートの概要	. 278
トポロジ・レポートの表 示	.278
カスタム・レポートの生成	. 278
CI の比較	.279
スナップショットを比較する	. 280
Cron 式	.281
ユーザー・インターフェイスのレポート	. 282

トポロジ・レポートの概要

トポロジ・レポートでは、ビューのデータをレポート形式で表示できます。モデリング・スタジオで定義されているすべてのビューには、レポート・モジュールの対応するトポロジ・レポート[レポートモジュール]内があります。レポート設定は、パターン・ビュー・エディタのレポート・モードでビュー定義を使用して定義します。詳細については、249ページ「パターン・ビュー・エディタ」を参照してください。

ビューに表示される CI の選択の詳細については、110ページ「CI セレクタでの作業」を参照してください。

また, パースペクティブ, パースペクティブ・ベース・ビュー, およびテンプレート・ベース・ビューにも, トポロ ジ・レポートがあります。 このようなビューのレポート 設定は, ベース・テンプレートまたはパースペクティブ で定義 される設定に基づいています。

レポート・モジュールでテンプレートを開き, テンプレートのパラメータを編集できます。その後, [ビューに 名前を付けて保存]をクリックして, テンプレート・ベース・ビューとしてテンプレートのインスタンスを保存 できます。

レポートのプロパティ

トポロジ・レポート・テーブルには、2つの形式があります。

- フラット:フラット・レポートでは、レポートの最上位レイヤがCIとともに表示され、子 CI がリンクとして表示されています。CIをクリックしてドリルダウンし、子 CIを表示できます。レイヤの最上部に表示されている現在位置表示リストを使用してレベルの上位レイヤに戻ることができます。
- 階層構造: 階層構造レポートでは、レポートの各 CI は、ツリー形式で同じテーブルに表示されます。子 CI を持つ CI は、それ自体の下に子 CI が表示されるように展開可能です。

フラット・レポートと階層構造レポートの別の重要な違いは、レポート用チャートの定義に関係しています。フラット・レポートでは、上位レポートがテーブル形式の場合でも、レポートの任意のレイヤ用に

チャートを定義できます。 階層構造レポートでは、 それ自体の上にあるレイヤがテーブル形式の場合、 レイヤ用のチャートは定義できません。

レポート形式は、モデリング・スタジオとレポート・モジュールの両方で使用できる[レポートのプロパティ] ダイアログ・ボックスで設定できます。詳細については、334ページ「[レポートのプロパティ] ダイアログ・ ボックス」を参照してください。

カスタム・レポートの概要

カスタム・レポートは, 監視対象環境の状況を追跡/分析できるグラフとテーブルで構成されています。カスタム・レポートでは, HP Universal CMDB によって収集され, CMDB に保管されたパフォーマンス・データを表示/評価できます。 レポートを作成するときに, 時間範囲や位置など, さまざまなレポート設定を指定できるだけでなく, ドリル・ダウンして詳細情報を確認できます。

トポロジ・レポートの表示

このタスクでは、以前に保存したビューまたはパターンに基づいてレポートを作成する方法について説明します。

本項の内容

- 278ページ「前提条件」
- 278ページ「レポートの選択」
- 278ページ「テンプレート・パラメータの編集」
- 1. 前提条件

(任意指定)モデリング・スタジオを使用して新規ビューを定義します。詳細については, 200ページ「モデリング・スタジオ」を参照してください。

2. レポートの選択

レポート・モジュールで,同じ名前のビューに対応する既存のトポロジ・レポートを選択します。そのレポートをダブルクリックまたは右クリックして,[レポートを開く]を選択します。右の表示枠でレポートが開きます。詳細については,346ページ「トポロジ・レポート」を参照してください。

3. テンプレート・パラメータの編集

テンプレートに対応するレポートを選択した場合は、テンプレートのパラメータを編集して、レポートを生成します。[ビューに名前を付けて保存]をクリックして、テンプレート・ベース・ビューとして保存します。

カスタム・レポートの生成

このタスクでは、カスタム・レイアウトに基づいてレポートを定義および生成する方法について説明します。

本項の内容

- 279ページ「レポート・タイプの選択」
- 279ページ「必須パラメータを指定する」
- 279ページ「レポートの生成」

1. レポート・タイプの選択

[カスタムレポート]表示枠で、次のいずれかを行います。

- レポート名を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
- [新規レポートの作成]^{**}ボタンをクリックし,必要なレポートを選択する。
- レポート名をダブルクリックする。
- 2. 必須パラメータを指定する

選択したレポート・タイプの必須パラメータを指定します。 各レポート・タイプの必須パラメータの 詳細については、 282ページ「ユーザー・インターフェイスのレポート」 に記載されている関連するレ ポートを参照してください。

3. レポートの生成

[生成]をクリックして、レポートを作成します。必要であれば、パラメータを再設定して[生成]を 再度クリックし、更新されたレポートを表示できます。

CI の比較

このタスクでは、2つの複合 CI の階層を比較し、CI の構成ドキュメントを表示して、2つの構成ドキュメント間の相違を示す方法について説明します。

本項の内容

- 279ページ「必要な CI を選択する」
- 280ページ「CIの構成ドキュメントを表示する」
- 280ページ「2つの構成ドキュメントの相違を表示する」

1. 必要な CI を選択する

IT ユニバース・マネージャで,比較する2つのCIを選択します。2つの複合 CI の階層がCI比較レポートで比較されます(詳細については,299ページ「CI比較レポート」を参照してください)。選択したビューまたは CMDB に表示される2つのCIを比較できます。詳細については、114ページ「CI セレクタ」を参照してください。

一致しない CI の例:

この例では、他方に一致するCIがないためCILABM3QCRNDDB03の横に[一致するCIなし]アイコンが表示されます。

CI LABM3QCRNDDB02 とLABM3ASTDB01 の MemorySize の値 が異なるため, MemorySize プロパティの横に[Show Different Attribute Values]アイコンが表示されます。

Image: Second state st		ΔA	⊡—Ф (22) 192.168. =–Ф (20) IpAd 19 =–Ф (20) Wind (20)	226.0 Idress 12.168.226.1 Iows LABM3ASTDB01
検索(E):			検索(E):	\odot
Name	Value		Name	Value
DiscoveredVen			DiscoveredVen	
DiscoveredOsN	Windows 2003		DiscoveredOs	Windows 2003
DiscoveredOsV	Microsoft		DiscoveredOs	Microsoft
Host Operating	3790		Host Operating	3790
Memory Size	2,045	₽	Memory Size	4,093

2. CIの構成ドキュメントを表示する

CIT[**構成ドキュメント**]のCIを選択して,構成ドキュメントを表示します。詳細については, 299 ページ「CI比較レポート」を参照してください。

3. 2つの構成ドキュメントの相違を表示する

CIT[**構成ドキュメント**]のCIを選択して、2つの構成ドキュメントの相違を表示します。詳細については、299ページ「CI比較レポート」を参照してください。

スナップショットを比較する

このタスクでは、ビューのスナップショットを取り、異なる時刻に取った特定ビューの2つのスナップショット を比較する方法について説明します。

本項の内容

- 280ページ「ビューのスナップショットを取る」
- 280ページ「スナップショットを定期的に保存する」
- 281ページ「スナップショットを比較する」
- 1. ビューのスナップショットを取る
 - a. IT ユニバース・マネージャまたは[レポート] モジュールの[トポロジ] レポート でビューを選択しま す。.
 - b. [スナップショット] 🖼 ボタンをクリックして[スナップショットを保存する]を選択し、ビューのス ナップショットを取って保存します。詳細については、196ページ「[スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
- 2. スナップショットを定期的に保存する

オプションで、タスクを定義することによって、指定の時刻に特定ビューのスナップショットを取るよう スケジュールできます。詳細については、341ページ「[スナップショットをReport/スケジュールする] ダ イアログ・ボックス」を参照してください。

3. スナップショットを比較する

異なる時刻に取ったビューのスナップショットを比較します。 [モデリング] > [レポート] を選択し, スナップショット比較レポートを作成します。詳細については, 304ページ「スナップショット比較レ ポート」を参照してください。

異なる時刻に取ったビューのスナップショットの例:

次の例では、右表示枠のvmamqa278 CIの横にある[削除された項目] アイコンが、新しいビューで CI が削除されたことを示しています。



Cron 式

cron 式は, 6~7個のフィールドを空白文字で区切った文字列です。これらのフィールドのうち, 6個は必須であり, 1個は任意です。

フィールド名	使用できる値	使用できる特殊文字		
秒	0-59	,-*/		
分	0-59	, -*/		
時間	0-23	, -*/		
B	1-31	,-*?/LWC		

次の表は, cron 式に使用されるフィールドを示します。

フィールド名	使用できる値	使用できる特殊文字
月	1-12 または JAN-DEC	, -*/
曜日	1-7 または SUN-SAT	,-*?/LC#
年(任意指定)	空, 1970-2099	, -*/

次の表は, cron 式のユース・ケースを示します。

Cron 式	意味
0 0 12 * * ?	このタスクは,毎日午後12:00に実行されます。
0 15 10 ? * *	このタスクは,毎日午前10:15に実行されます。
0 15 10 * * ? 2011	このタスクは, 2011年中の毎日午前 10:15に実行されます。
0 0/5 14 * * ?	このタスクは,毎日午後2時から午後2:55までの間,5分間隔で実行されます。
0 15 10 15 * ?	このタスクは, 毎月 15日の午前 10:15に実行されます。
0 15 10 ? * 6L	このタスクは、毎月最後の金曜日の午前10:15に実行されます。
0 15 10 ? * 6#3	このタスクは、毎月第3金曜日の午前10:15に実行されます。

ユーザー・インターフェイスのレポート

本項の内容

- 283ページ「エージェント・ステータス・レポート」
- 284ページ「アプリケーション・ブレークダウン・レポート」
- 286ページ「アセット・レポート」
- 288ページ「変更済みアプリケーション・レポート」
- 289ページ「変更されたビューのレポート」
- 291ページ「CI変更レポート」
- 295ページ「CMDB 使用率レポート」
- 296ページ「レポート・アーカイブを比較」
- 299ページ「CI比較レポート」
- 304ページ「スナップショット比較レポート」
- 307ページ「構成マネージャ・ポリシー・レポート」
- 309ページ「データベース・ブレークダウン・レポート」

- 311ページ「削除候補レポート」
- 313ページ「依存関係レポート」
- 315ページ「ディスカバリ・エラー・レポート」
- 317ページ「汎用ブレークダウン・レベル」
- 318ページ「ゴールド・マスタ・レポート」
- 320ページ「ハードウェア・コンポーネントのサマリ・レポート」
- 321ページ「影響分析レポート」
- 323ページ「[ジョブリスト] ダイアログ・ボックス」
- 325ページ「ネットワーク・デバイスのブレークダウン・レポート」
- 327ページ「ノード OS のブレークダウン・レポート」
- 328ページ「ノード・サマリ・レポート」
- 329ページ「VLAN によるノード・サマリ・レポート」
- 330ページ「変更件数レポート」
- 334ページ「[レポートのプロパティ] ダイアログ・ボックス」
- 334ページ「[レポート] ページ」
- 332ページ「認識されたアプリケーション・レポート」
- 338ページ「スキャン・ファイル・ステータス・レポート」
- 340ページ「スキャナ実行詳細レポート」
- 341ページ「[スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス」
- 344ページ「ソフトウェア使用率レポート」
- 345ページ「Solaris ゾーン・レポート」
- 346ページ「トポロジ・レポート」
- 347ページ「変更レポートを表示」
- 349ページ「VMware ホスト・レポート」
- 350ページ「VMware 仮想 センター・レポート」
- 351ページ「ゾーンベースのディスカバリ・エラー・レポート」
- 352ページ「ツールバー・オプション」

エージェント・ステータス・レポート

このレポートには, Upgrade UD Agent ディスカバリ・ジョブによって更新されたすべてのインストール済 みディスカバリ・エージェントの状態が示されます。

👔 スキャン	ファイル ステータス レポート1* ×	1					
- ドート	・のパラメータ 🛛 🛅 🚡 👘 📨 🤇	🔋 🖙 👻 🗲 💌 次の Cl インスタンスを表示 Node	(42) 💌 🗶 🗗 🔂 🔣 🗎	٩			
_							
時間範囲:	直近の1日 🔽 開始日付: 12/07/	08 15:19 👻 終了日付: 12/07/09 15:19 💌					
॑॑॑							
	ホスト	実行日	スキャナ設定	-			
le dktest5		2012年7月8日 (日曜日) 15:23 KST	_default.cxz	2012年7月8日(日曜			
利用	「マネージャ] >「 モ デ	リング1>[レポート]を選択します。	- カスタム レポート]表 示	、枠で、次			
方法	のいずれかを行います	t.					
	 [新規レポートの 10 ± 2 	作成] 🌋 ボタンをクリックし, [エー	ジェント ステータス レオ	╬━▶]を選			
	択りる。						
	• [ディスカバリ]から次のことを行います。						
	■ [エージェント ステータス レポート]をダブルクリックする						
	■ [エージェント ステータス レポート]を右 クリックし, [新規レポートの作成]を選択す						
	る。						
	■ [エージェント ス	、テータスレポート]を選択し, 右表	示枠にドラッグする。				
曲田	このレポートにけ 表	テラベル エージェントのバージョン	ポート プローブタ た	ど冬 ディスカ			
重女 情報	バリ・エージェントの語	について、エンテレーン、ション 「細情報が示されます。					
	[カラムの選択] ボタン	を使用して、レポートに表示す	する属性を選択します。	0			
関連	278ページ「カスタム・	レポートの生成」					
タスク							

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<ツール バー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
グル―プ 化	データを表示するためのグループ化方法を選択します。次のオプションを使用できます。
	 なし
	 ジョブのステータス
	 エージェントのバージョン
ジョブのス テータス	ドロップダウン・リストから, エージェントのディスカバリ・ジョブのジョブ・ステータス別に結 果をフィルタリングするオプションを選択します。

アプリケーション・ブレークダウン・レポート

このレポートには、メジャー・アプリケーションのブレークダウンとそのバージョンが表示されます。メジャー・ アプリケーションは、MAJOR_APP クラス修飾子を割り当てられた Running Software CIT です。詳細 については、391ページ「[修飾子]ページ」を参照してください。

国または地域:	すべて	▼ 状態:	すべて	▼ 市町村:	すべて	•
😞 生成						
アプリケーション ブ	レークダウン					



次でブレークダウンカウント

グラフ セクションをクリックしてドリル ダウンします



UI 要素	詳細
<棒グラ	円 グラフの各 セグメント/棒 グラフの各 カラムは,異なるアプリケーションを示します。
フ/ 円グラ フ>	スライス/棒をクリックするとバージョンごとに並 ベ替 えられたアプリケーションが表 示され, ド リルダウンするとアプリケーション・インスタンスとその属 性 が表 示されます。
	各 セグメント / 棒 の上 にマウスを置くと, アプリケーション名, 各 アプリケーションで検 出さ れる Cl インスタンス数, 全体に対 するセグメントの割合(円 グラフ形 式 で情報を表 示し ている場合), およびスライス / 棒で表される Cl タイプがツールチップに表 示されます。
	円 グラフの下 にある凡例には,各 CI の名 前とその下 のレベルにバージョンが表 示されます。
<現在 位置表	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフの最上部に 横方向に表示されます。
示リス ト>	注:現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。
<ツール バー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
市町村	アプリケーション・ブレークダウン・データを表示する対象の都市を選択するか、 [すべて] を選択して、 すべての都市のブレークダウンを表示します。
	注:[市町村]属性内のデータを含むCITにのみ関連します。
国また は地域	アプリケーション・ブレークダウン・データを表示する対象の国または地域を選択するか, [すべて]を選択して, すべての国または地域のブレークダウンを表示します。
	注:[国または地域]属性内のデータを含むCITにのみ関連します。
すべての 統合ポ イントを 含める	このチェック・ボックスを選択すると、フェデレート CI がレポートに組み込まれます。 この チェックボックスがオフになっていると、 ローカル CI のみがレポートに含まれます。
状態	アプリケーション・ブレークダウン・データを表 示 する対 象 の州 を選 択 するか, [すべて]を 選 択して, すべての州 のブレークダウンを表 示します。
	注:[都道府県]属性にデータを含むCITのみに関連します。

アセット・レポート

このレポートには、指定したビューのすべての CI、その属性値、および CMDB におけるその子 CI のリ ストが表示されます。アセット・レポートは、ビューの内容を表示/分析して、関心のあるデータに重点 的に取り組むのに使います。たとえば、アセット・レポートでは、ビューに含まれている特定アプリケー ションの一部であるすべてのサーバのリストを表示できます。

ビュー: SAN Topology	•	••••] :	次に	·基·	づく情報を検索 💿 CMDB	0	ビ	<u>а</u> —	-
Display Label						PrimaryDnsName				
드- 🕮 000E7FFD99F1						LABM3MAM11.devlab.ad				
L 16.59.56.213										

利用方法	[マネージャ]>[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で,次のい ずれかを行います。 • [新規レポートの作成] ※ボタンをクリックし, [アセットレポート]を選択する。 • [一般]から次を行います。 • [アセットレポート]をダブルクリックする。 • [アセットレポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。 • [アセットレポート]を選択し, 右表示枠にドラッグする。
重要情報	レポートには, CI タイプ・マネージャの[属性] タブの[アセット データ] 修飾子でマークされて いる属性のみが含まれます。詳細については, 381ページ「[属性の追加 / 編集] ダイアログ・ ボックス」 を参照してください。
関連タスク	278ページ「カスタム・レポートの生成」

UI 要素	詳細					
<ショート カット・メ ニュー>	詳細については、185ページ「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。					
<ツール バー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。					
次に基づ	次のいずれかを選択します。					
く情報を 検索	 CMDB:選択したビューからの情報に加えて、CMDBにおける子 CI とその属性値 に関する情報も含めます。 					
	レポートには, [コンテナ] 修飾子との関係によって, 選択したビューの中の CI に接続している CI が含まれます。 たとえば, ビューに含まれているサーバの CPU とメモリ がレポートに含まれます。					

UI 要素	詳細
	• ビュー: 選択したビューに含まれている CI とその属性に関する情報のみが含まれます。
ビュー	ビュー・セレクタを開いてビューを選択できます。 詳細については, 114ページ「CI セレク タ」 を参照してください。
	注 :特定のビューからアセット・レポートを生成すると、レポートにはトポロジ・マップの関 連ビューと同じ階層構造が保持されます。

変更済みアプリケーション・レポート

このレポートには、定義した期間内にアプリケーションで検出された変更件数を示す棒グラフが表示されます。

時間範囲:	直近の1週間 ▼ 開始日付: 2010年11月4日 (木曜日) 午前 02:40 CST ▼ 終了日付: 2010年11,
😞 生成	
	CI タイプ別変更数
次でブレ	ークダウン 追加済み グラフ セクションをクリックしてドリル ダウンします
1 -	
御	使用できるデータはありません
015	クラス名

利用方	[マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で,次
法	のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし, [変更済みアプリケーション レポート] を選択する。
-----------	--
	• [変更]から次を行います。
	■ [変更済みアプリケーション レポート]をダブルクリックする
	■ [変更済みアプリケーションレポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選 択する。
	■ [変更済みアプリケーションレポート]を選択し、右表示枠にドラッグする。
関連タ スク	278ページ「カスタム・レポートの生成」

UI要素	詳細
<棒グラフ>	それぞれの棒が異なるアプリケーション・タイプを示します。 各棒の色は, アプリケー ションで発生したさまざまなタイプの変更を示します。
	凡例の各色は,異なるタイプの変更を示します。各アプリケーションの CI タイプは関連する棒の下に表示されます。
	各棒の上にマウスを置くと,棒が表す CI タイプだけでなく,発生した変更の数(色に 応じて CI の追加,削除,更新など)がソールチップに表示されます。
	棒の必要な色をクリックすると、ドリルダウンして、変更された CI のリストが表示されます。
<現在位 置表示リ	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフの最上部 に横方向に表示されます。
スト>	注:現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。
<ツール バー>	詳細については、352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
開始日付	レポートの開始日時を設定します。
終了日付	レポートの終了日時を設定します。
時間範囲	検出された変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、シ ステムによって[開始日付]および[終了日付]ボックスに自動的に表示されます。
	注:[カスタム]を選択すれば、[開始日付]および[終了日付]ボックスの開始日付 と終了日付を手動で設定できます。

変更されたビューのレポート

このレポートには、定義した期間内に特定ビューで発生した変更件数が表示されます。



UI 要 素	詳細
<棒 グラ フ>	それぞれの棒は異なるビューを示します。各ビューの名前は関連する棒の下に表示されます。各棒の色は、ビューで発生したさまざまなタイプの変更(追加,削除,更新)を示します。

UI 要 素	詳細
	各棒の関連する色の上にマウスを置くと, ビュー名, 変更タイプ, およびビューで変更された CI インスタンスの数がツールチップに表示されます。
	各色で表される変更タイプを確認するには、凡例を参照してください。
	ビューのスナップショットが異なる時刻に取られた場合, 棒をクリックして[ビューをスナップ ショットで比較する]ダイアログ・ボックスを開き, ビューの相違点を表示できます。 詳細につ いては, 304ページ「スナップショット比較レポート」 を参照してください。
	注 :変更されたビューのレポートの[開始日付]の日付前に取られたスナップショット(利用 できない場合は[開始日付]の日付後)と[終了日付]の日付前に取られた別のスナップ ショット,2つのスナップショットの相違を示す変更のあるビューだけがレポートに表示されま す。
<ツ— バーバ ハ	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
開始 日付	レポートの開始日時を設定します。
終了 日付	レポートの終了日時を設定します。
時間 範囲	変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって[開始日付]および[終了日付]ボックスに自動的に表示されます。
	注 :[カスタム]を選択すれば, [開始日付]および[終了日付]ボックスの開始日付と終了 日付を手動で設定できます。

CI変更レポート

CI変更レポートでは、特定のCIとその子に加えられた実際の変更を表示 / 分析できます。変更レ ポートは、該当のCIに関する問題のトラブルシューティングに役立ちます。たとえば、CIの変更にまで わたって、問題の原因を追跡できることもあります。また、トラブルシューティング問題の原因が、期待 されていたのに発生しなかった変更に関連している可能性もあります。このレポートでは、CI属性の 変更や、CIとその子の追加または削除された CIを表示できます。

選択された Cl: 172.16.7.0			
😞 生成		次に基づく情報を検索:()CMDB ⊚ ピュー
			CI 変更 関係の変更
12 🕅 😋 🐂 🗶	٩		
Display Label	Class Name	Attribute Name	New Valu
- 🔲 16.59.56.0\	Windows	MemorySize	8,192
- 📃 16.59.56.0\	Windows	Swap Memory Size	4,092
- 🔲 16.59.56.0\	Windows	DiscoveredOsName	Windows 2003
- B 16.59.56.0\	Windows	Discovered Os Name	Windows 2003 R2
	IDAddress	IP Network Mask	255 255 254 0
- 🗐 16.59.66.0\	lpAddress	AuthoritativeDnsName	labm2hp2-rm.devlab.ad
- 🖳 16.59.66.0\	lpAddress	IP Network Mask	255.255.255.0
- 🖃 16.59.56.0\	Windows	PrimaryDnsName	labm3am255.devlab.ad
- 🖃 16.59.56.0\	Windows	MemorySize	8,192
 (法 ・ [新規レポー) • [変更]からぶ • [CI 変更 • [変更 • [変更 • [変定の • [まる、 	トの作成] ▶ あたけいます。 レポート]をダブルクリ、 レポート]をダブルクリ、 レポート]をなブルクリ、 レポート]を広クリック レポート]を選択し、 管理」「変更をモニダ 細については、381へ ・の表示内容: , および、[変更レオ 管理」「変更をモニダ 細については、381へ ・の表示内容: , おけけられているC なの表示内容: , おけけられているC マネージャ]に移動していたま示されるC マネージャ]に移動していたまでの していないすべての ペーシートに表示されるC マネージャ]に移動していた。 まる この名前」ボックス このの については、387ペ れていたま。 、1000000000000000000000000000000000000	レをクリックし、 [CI変更レオ リックする。 れ、 [新規レポートの作成] 右表示枠にドラッグする。 な」「比較可能」とマークされ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	<pre>パート]を選択する。]を選択する。]を選択する。 ているCIのみがレポートに表]ダイアログ・ボックス」を参照</pre>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
開始日付	レポートの開始日時を設定します。
終了日付	レポートの終了日時を設定します。
次に基づく	次のいずれかを選択します。
情報を検 索	 CMDB 全体で CI とその子に発生した変更が表示されます。
	• ビュー : 選択したビューで CI とその子 に発生した変更が表示されます。
選択された Cl	必要な CI を選択します。 [CI / ビューの選択] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細 については、110ページ「CI セレクタでの作業」を参照してください。
時間範囲	変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって[開始日付]および[終了日付]ボックスに自動的に表示されます。
	注 :[カスタム]を選択すれば, [開始日付]および[終了日付]ボックスの開始日付 と終了日付を手動で設定できます。

[CI変更]タブ

重要情	CIの変更履歴を表示するには、必要な CIの行の任意の部分を右クリックし、[CI履	
報	歴]を選択します。	

UI 要素	詳細
<ツ―ル バー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」 を参照してください。
<ショー トカット・ メ ニュー>	詳細については, 185ページ「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」 を参照 してください。
属性名	変更されたCI属性の名前です。
日付の 変更	変更の発生した日付です。
変更	CI プロパティを手動で変更したユーザの名前,または CI プロパティに対する変更を自動検出した Data Flow Probe の名前です。

UI 要素	詳細
クラス名	変更された CI の CI タイプです。
表示ラ ベル	ルートからCI へのパスのラベルです。 注:CI 名のバックスラッシュ(\)は、親子関係を<parent_ci>\<child_ci> という形式で示します。たとえば、エントリ16.59.63.0\Windows は、Windows CI の子である</child_ci></parent_ci> 16.59.63.0CI に関する変更情報を提供します。
新規値	CI 属性の新しい値です。 CI 属性の以前の値です(変更前)。

[関係の変更]タブ

重要情	CIの変更履歴を表示するには、必要な CIの行の任意の部分を右クリックし、[CI 履
報	歴]を選択します。

UI 要素	詳細
<ショ ー トカット・ メ ニュー>	詳細については、185ページ「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照 してください。
<ツ―ル バー>	詳細については、352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
日付の 変更	更新が実行された日付です。
変更	CI プロパティを手動で変更したユーザの名前, または CI プロパティに対する変更を自動検出した Data Flow Probe の名前です。
コンテナ	ルートからコンテナ CI へのパスのラベルです。
ラベル	CI名のバックスラッシュ()は、親子関係を <parent_ci><<child_ci>という形式で示します。たとえば、エントリ16.59.63.0、Windowsは、Windows CIの子であるdancer.hp.comCIに関する変更情報を提供します。</child_ci></parent_ci>
イベン	次の値のいずれかを設定できます。
ト・タイ プ	• 関連 CI を追加: Composition 関係を使用して, 含まれている CI がコンテナ CI に 追加されます。
	 関連 CI を削除: Composition 関係を使用してコンテナ CI にリンクされていた含まれている CI が削除されます。
リンク・タ イプ	関係 のタイプです。

UI 要素	詳細
新規値	関係属性の新しい値です。
旧值	関係属性の以前の値です(変更前)。
関連す るラベル	ルートから包含 CI へのパスのラベルです。
関係属 性	変更された関係属性の名前です。

CMDB 使用率レポート

このレポートには,一般的な CMDB 統計 データが表示されます。たとえば,統計 データには,作成された影響 ルールの数, CMDB にある CI の数,または取られたスナップショットの数が含まれます。

名前	値
Cls and Relationships	11
 Views and Reports 	0
– Enrichment Rules	26
 Correlation Rules 	13
 Snapshots 	0
Connected users	4
Running Discovery Jobs	0

利用方 法	[マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で、次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] ^{**} ボタンをクリックし, [CMDB 使用率レポート]を選択する。
	 [一般]から次を行います。
	■ [CMDB 使用率レポート]をダブルクリックする。
	■ [CMDB 使用率レポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [CMDB 使用率レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
関連タ スク	278ページ「カスタム・レポートの生成」

UI要素	詳細
<ツールバー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
名前	CMDB 統計の名前です。
値	システムで検出された CMDB 統計のインスタンス数です。

レポート・アーカイブを比較

このレポートでは,2つのアーカイブ・レポート間で,または,あるアーカイブ・レポートとその最新版との 間で比較ができます。

🔍 Servi	er Network >	< 🔍	Weekly Status 🗙 🔯 Compare Arc	:hive	es Report1* ×			
🛛 🚰 R	eport Paramet	ters	1 🔁 🖬 🖄 🖾 🗐 🖨 🔹 🚰 🔹	5	i 😘 🗛 🔺 📄 👍 🛙		tat	
			1		1 1		_	
Report	with archives	Serve	er Network	_				•
Availat	ble Archives		Name		Time			
			Current		Current			
			Weekly Status		Wed Dec 7 2011 01:57 PM	IIST	Г	
			2:00 PM Dec 7		Wed Dec 7 2011 01:53 PM	IIST	Г	
					·			
	1							
Gene	erate							
Legend	: 🎯 Contain:	s An U	lpdated Item X Deleted Item 🔆 New Iter	m 😉	Updated Item			
Wee	klv Stati	ıs (V	Ned Dec 7 2011 01 Deport	with	archivae			Server Network
	apm.samop.ss	(-		with	archives			
-24	LABM3AMDB	40				-		
	LABM3AMDB	41						
	LABM3FTRN	D17						- ABM3FTRND17
<u> </u>	LABM3LT60							
	LABM3MAMDB03				— 🎦 LABM3MAMDB03			
	LABM3QC52							- Manual Carlos Cost
	m3-cnb-fl1							mvdvm0071
- 📇 ı	mydvm0071							- 🖉 mydvm0073
	mydvm0073						4	— 🕮 mydvm0074
	mydvm0074						₽	— 🕮 mydvm0077
	myavmUU77							mydvm0078
	sis11f920							sis11f920
	ucmdb903f92i	01				≡		
—× 🖴	vmamqa354	Ļ						- manga361
	vmamqa360							wmamga362
		• -						
利	[マネージ	ンヤ]	>[モデリング]>[レポート]を	選	択します。 [カスタム	レ	ボ	─ ▶]表示枠で,次の
用	いずれか	を行	います。					
方								
法	●「新书	ᇍᇇᅿ	ぱートの作成] 🔺 ボタンをク	л J»	ックレ、「 アーカイブ レ	<i>、</i> ポ	_	トを比較]を選択する
-	- ∟47¥I/3)					-1,		

- [コンプライアンス]から次を行います。
 [アーカイブレポートを比較]をダブルクリックする。
 - [アーカイブレポートを比較]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
 - [**アーカイブレポートを比較**]を選択し、右表示枠にドラッグする。

	あるいは, [トポロジ レポート]で同じレポートの2つのアーカイブを選 択し, レポート アーカイ
	ブを比較] 📴 をクリックします。
重	• [アーカイブを比較]レポートは、トポロジ・レポートにのみ使用できます。
要 情 報	 あるレポートの最新バージョンを、そのレポートのアーカイブとの間で、または、同じレポートの2つのアーカイブ間で比較できますが、異なるレポートのアーカイブ間の比較はできません。
	• [アーカイブを比較]レポートのプレビューとエクスポートに使用できる形式は, Excel 形式のみです。
関 連 タ スク	• 278ページ「カスタム・レポートの生成」

UI 要 素	詳細
8	選択したCIの階層ツリー構造全体を展開します。
5	選択したCIの階層ツリー構造を折りたたみます。
4	「変更あり」とマークされた前の項目を検索します。
\mathbf{A}	「変更あり」とマークされた次の項目を検索します。
	設定ファイルの相違を表示:2つの構成ファイルの内容の相違を表示します。構成ファ イルには, xml, txt, またはini拡張子が使用されています。
	2つの表示枠でCIT Configuration File のCIを選択し、 [相違を表示]ボタンをクリック します。ウィンドウが開いて、構成ファイルの相違が(青でマークされて)表示されます。
4.	異なる CI のみをツリーに表示: <[プロパティ]表示枠>に,一致していない CI を含むツ リー構造部分のみが表示されます。
	異なる属性値のみを表示: <[プロパティ]表示枠>で,選択したCIのすべての属性値 が表示されている状態と,変更された属性値のみが表示されている状態が切り替わり ます。
	ー方の表示枠でCIを選択すると、他方の表示枠で対応するCIを自動的に選択できます。
	標準設定の状態では、 [選択を同期化]ボタンが選択されています。 このボタンの選択 を解除すると、2つの各ツリーで異なる CIを選択できます。 これで、2つの異なる CIを比 較して、異なるプロパティを確認できます。
9	更新された項目を含む: CIの属性値が変更されていることを示します。たとえば、次の 図では10.0.0 CIの横に[更新された項目を含む]アイコンが表示されています。これ

UI 要 素	詳細				
	は,子である CI [10.168.100.3] アイコンの属性が変更されたためです。				
	10.0.0.0				
	□ ↓ □ 10.0.0.0 □ ↓ ● lpAddress □ □ 10.168.100.2 □ □ □ 0.168.100.3 □ □ □ 0.168.100.3				
	検索(E):				
	Name				
	RoutingDomain DefaultDom				
	P Network Mask 255.0.0.0				
×	削除された項目 :CIがビューから削除されたことを示します。				
*	新規項目:CI がビューに追加されたことを示します。				
	E- ↓				
G	更新された項目:CIの属性値が変更されたことを示します。				
	たとえば、次の図では CI LABM3MAM16 に[更新された項目]アイコンが表示されてい				
	ます。これは、CI LABM3MAM16 が[異なる属性値のみを表示] すうに新しい[バージョン] 値で更新されたためです(ツリー構造の下にある表示枠の[名 前] カラムと[値] カラムを参照)。				

UI 要 素	詳細						
	sanity rep			Sun Apr 11 10:55:08 IDT			
	LABM3LT45 LABM3LTDB01 LABM3LTDB02 LABM3LTDDB01 P 10 LABM3LTDDB01 P 10 LABM3LTDDB02 P 10 LABM3MAM16			IABM3LTDB01 (LABM3LTDB01) IABM3LTDB02 (LABM3LTDB02) IABM3LTDDB01 (LABM3LTDDB0 IABM3LTDDB02 (LABM3LTDDB0 IABM3LTDDB02 (LABM3LTDDB0 IABM3MAM16 (LABM3MAM16)			
	検索(<u>F</u>):	\odot		検索(E):	\odot		
	Name	Value		Name	Value		
	DiscoveredProduc	MSSQL DB		DiscoveredProduc	MSSQL DB		
	Application Category	Database		Application Category	Database		
	Application Versio	Datababb		Application Versio	Databaloo		
	ProductName	sal server datab		ProductName	sal server databa		
	! Version			! Version	2005		
<左右 表示 枠>	各アーカイブのビュー 枠には、2つのアーカ	にあるすべての CI の イブのうち必ず古い	階まる	層ツリー構造が表示 うが表示されます。	☆されます。左側の表示		
<[プロ	選択したCIの属性	を表示します。					
ハティ」 表示	[プロパティ]表示枠には次のフィールドがあります。						
枠>	• 名前 :CI のラベル	に定義されている選	퉰	Rした CI の名前が表	まっされます。		
	● 値 :現在選択して	ている CI の属性値を	と表	き 示します。			
<ツ— ル バ—>	詳細については, 35	2ページ「ツールバー・	オ	プション」 を参照して	ください。		
利用可能	[アーカイブを含むレポート]フィールドで選択したレポートの使用できるアーカイブを表示 します。比較する2つのアーカイブを選択します。						
<i>な アー</i> カイブ	注:[レポートのパラメ	タを表 示]ボタンカ	浉	まれた場合にのみ	表示されます。		
アーカ イブを	比較するアーカイブの されます。	シレポートの名前を表	亓	こします。 アーカイブの	ひあるレポートのみが表示		
含むレ ポート	注 :[レポートのパラメ	ニータを表 示] ボタンカ	浉	りされた場合にのみ	表示されます。		

CI比較レポート

このレポートでは、2つの複合 CI の階層を比較できます。 複合 CI は、 CONTAINER 修飾子のある 関係によって別の CI にリンクされている CI です。 選択したビューまたは CMDB に表示される複合 CI とその子 CI を表示できます。



	■ [CI比較レポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [CI 比較レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
重要情	• [CIを比較]ページは2つの表示枠に分かれています。各表示枠に、選択した CIの階層ツリー構造が表示されます。[選択を同期化]を押していれば、一方の表示枠で CIを選択すると、他方の表示枠で対応する CI が自動的に選択されます。
報	 比較できるのは、同じ CI タイプの2つの CI,または階層内にある同じ CI タイプの子のいずれかです。
	• [CIを比較]レポートのプレビューとエクスポートに使用できる形式は, Excel 形式のみで す。
関	 ● 279ページ「CIの比較」
連 タ	● 278ページ「カスタム・レポートの生成」
スク	

UI 要 素	詳細
4	「変更あり」とマークされた前の項目を検索します。
-	「変更あり」とマークされた次の項目を検索します。
	設定ファイルの相違を表示:2つの構成ファイルの内容の相違を表示します。構成ファ イルには, xml, txt, またはini拡張子が使用されています。
	2つの表示枠でCIT Configuration File のCIを選択し、 [相違を表示]ボタンをクリック します。ウィンドウが開いて、構成ファイルの相違が(青でマークされて)表示されます。
4.	異なる CI のみをツリーに表示: <[プロパティ]表示枠>に,一致していない CI を含むツ リー構造部分のみが表示されます。
	異なる属性値のみを表示: <[プロパティ]表示枠>で,選択したCIの比較可能なすべての属性値が表示されている状態と,異なる属性値のみが表示されている状態が切り 替わります。
	ー方の表示枠でCIを選択すると、他方の表示枠で対応するCIを自動的に選択できます。
	標準設定の状態では、 [選択を同期化]ボタンが選択されています。 このボタンの選択 を解除すると、2つの各ツリーで異なる CIを選択できます。 これで、2つの異なる CIを比 較して、異なるプロパティを確認できます。
9	更新された項目を含む: CI の属性値が変更されていることを示します。たとえば、次の 図では IpAddress CI の横に[更新された項目を含む]アイコンが表示されています。こ れは、子である CI[10.168.100.2]アイコンの属性が変更されたためです。



UI 要 素	詳細						
	10.0.0.0			16.59.124.0			
	□-● 10.0.0.0 □-● ● IpAddress □-● ● 10.168.100.2 □- ■ 10.168.100.3 ● → ● Net Device ● ● ● → ● Windows ● ●		IO.39.124.0 Image: Constraint of the system Image: Constreaction of the system				
	検索(E):		~	検索(E):			
	名前	值		名前	値		
	RoutingDomain	DefaultDomain		RoutingDomain	DefaultDomain		
	IP Network Mask	255.255.255.0		P Network Mask	255.255.252.0		
\bigcirc	[検索]フィールドに入力した文字列の次または前の検索結果に移動できます。						
<ツ— ル バ—>	詳細については, 35	2ページ「ツールバー・	オ	プション」を参 照して	ください。		
<ショー トカッ ト・メ ニュー>	詳細については、185ページ「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照し てください。						
<[プロ	選択したCIの属性	を表 示します。					
パティ] 表示	[プロパティ]表示枠(こは次 のフィールド が	あ	ります。			
枠>	• 名前: CI タイプ・マネージャで[比較可能]とマークされていた CI を選択したすると、その属性名を表示します。						
	• 値 :現在選択して	ている CI の属性値を	と君	長示します。			
<左右 表示 枠>	[ビュー]または[CMDB]のどちらを選択したかに応じて,選択したビューまたは CMDBに 表示される比較された CI とその子 CI のツリーを表示します。						
比較	次のいずれかを選択	します。					
対象	• CMDB :CMDB 🖆	全体に表示される選	折	した CI とその子 CI	が含まれます。		

UI 要 素	詳細
	• ビュー:特定のビューにのみ表示される選択した CI とその子 CI が含まれます。
比較 CI	比較する2つのCIを選択できます。[…]をクリックして, [CIセレクタ]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については, 114ページ「CIセレクタ」を参照してください。上のボックスで選択したCIは左表示枠に表示され, 下のボックスで選択したCIは右表示枠に表示されます。
検索	検索:[検索]フィールドに検索名または検索名の一部を入力して、リスト内のCIを検索します。
相互 ビュー	比較する CI が同じビュー内に両方とも存在している場合, ビューの名前がこのフィールド に表示されます。両方とも存在していない場合, このフィールドには[相互ビューがありま せん]と表示されます。

スナップショット 比較レポート

このレポートを使用すると、異なる時刻に取った特定ビューの2つのスナップショットを比較できます。これにより、スナップショットを取った時刻におけるビューのステータスを比較して、ビューの相違を視覚化できます。

🞯 スナップショット比較レポ、	- ŀ 1	* ×				(D) *
📴 レポートのバラメータ	9	9 🖂 q	e • 🕈	- 188 1	644	🖉 🖧 »
スナップショットを持つビュー	Net	workTopo	logy			
利用可能なスナップショット		時間	副新田	所有者	サイズ	メモ
		現在	現在		0	
		2009			13	
		2009			13	
▶生成						
凡例: ≍削除された項目 ∗新規	項目	∉更新さ	れた項目。	₽更新され	た項目を含	む
NetworkTopology			Sat Ju	in 27 1	5:24:36	GMT
		4		72.16.7.0 92.168.11 92.168.19	1.0 6.0	

利用方	[マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で,次のい ずれかを行います。
万 法	• [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし, [スナップショット比較レポート]を選択する。
	• [コンプライアンス]から次を行います。
	■ [スナップショット比較レポート]をダブルクリックする
	■ [スナップショット比較レポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [スナップショット比較レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
	注 : IT ユニバース・マネージャでスナップショットを取って比較することもできます(詳細については, 196ページ「[スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックス」を参照してください)。
重要	 現在のスナップショットと以前のスナップショット,または過去に取得した2つのスナップショットを比較できます。
情 報	 定期的に特定ビューのスナップショットを取って保存するスケジュールを定義できます。詳細については、341ページ「[スナップショットをReport/スケジュールする]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	• [スナップショットを比較]レポートのプレビューとエクスポートに使用できる形式は, Excel 形式のみです。
関	● 280ページ「スナップショットを比較する」
連々	● 278ページ「カスタム・レポートの生成」
スク	
関	• 196ページ「[スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックス」
連 情 報	• 341ページ「[スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス」

UI 要素	詳細
	選択したCIの階層ツリー構造全体を展開します。
5	選択したCIの階層ツリー構造を折りたたみます。
4	「変更あり」とマークされた前の項目を検索します。
\Rightarrow	「変更あり」とマークされた次の項目を検索します。
	設定ファイルの相違を表示:2つの構成ファイルの内容の相違を表示します。構成ファ イルには, xml, txt, またはini拡張子が使用されています。
	2つの表示枠でCIT Configuration File のCIを選択し, [相違を表示]ボタンをク リックします。 ウィンドウが開いて,構成ファイルの相違が(青でマークされて)表示されま

UI 要素	詳細
	す。
4.	異なる CI のみをツリーに表示: <[プロパティ]表示枠>に,一致していない CI を含む ツリー構造部分のみが表示されます。
	異なる属性値のみを表示: <[プロパティ]表示枠>で,選択したCIのすべての属性値 が表示されている状態と,変更された属性値のみが表示されている状態が切り替わり ます。
	ー方の表示枠でCIを選択すると、他方の表示枠で対応するCIを自動的に選択で きます。
	標準設定の状態では、 [選択を同期化]ボタンが選択されています。 このボタンの選択 を解除すると、2つの各ツリーで異なる CIを選択できます。 これで、2つの異なる CIを 比較して、異なるプロパティを確認できます。
Ŷ	更新された項目を含む:CIの属性値が変更されていることを示します。たとえば、次の 図では10.0.0 CIの横に[更新された項目を含む]アイコンが表示されています。これ は、子である CI[10.168.100.3]アイコンの属性が変更されたためです。 10.0.0 「●●● □pAddress 10.168.100.3 ●●● □pAddress ●●○●● □pAddress ●●○●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●
×	削除された項目:CIがビューから削除されたことを示します。
*	新規項目:CI がビューに追加されたことを示します。
	E ↓ 2 10.0.0.0 ↓ ↓ P lpAddress ↓ 10.168.100.2 ★ 10.168.100.3 ↓ → ↓ P Windows
G	更新された項目:CIの属性値が変更されたことを示します。
	たとえば、次の図では CI LABM3MAM16 に[更新された項目]アイコンが表示されてい
	ます。これは,CI LABM3MAM16 が[異なる属性値のみを表示] 💷 アイコンで示される

UI 要素	詳細				
	ように新しい[パージ : 前]カラムと[値]カラ』	₽2]値で更新された ムを参照)。	<u>:</u> †:	めです(ツリー構 造 0	D下にある表示枠の[名
	sanity rep			Sun Apr 11 1	0:55:08 IDT
	Image: Construction Image: Construction			LABM3LTDB01 (LABM3LTDB01) LABM3LTDB02 (LABM3LTDB02) LABM3LTDDB01 (LABM3LTDDB0 LABM3LTDDB02 (LABM3LTDDB0 LABM3LTDDB02 (LABM3LTDDB0 LABM3MAM16 (LABM3MAM16)	
	使密止):			使来(E):	
	Name	Value		Name	Value
	DiscoveredProduc	MSSQL DB		DiscoveredProduc	MSSQL DB
	Application Category	Database		Application Category	Database
	ProductName	sal server datab		ProductName	sal server databa
	1 Version			I Version	2005
<左右 表示 枠>	該当のスナップショット 側の表示枠には,2	∘のビューにあるすべ つのバージョンのうち	て(必	DCIの階層ツリー構 ず古いほうが表示さ	造が表示されます。 左 れます。
<[プロ	選択したCIの属性	を表 示します。			
バティ」 表示	[プロパティ]表示枠(こは次 のフィールド が	あ	ります。	
☆ AP	● 名前:CIのラベルに定義されている選択したCIの名前が表示されます。				
	● 値 :現在選択して	ている CI の属性値 a	を表	衰示します 。	
<ツール バー>	詳細については, 35	2ページ「ツールバー・	・オ	プション」 を参照して	ください。
利用可 能なス	[スナップショットを持つビュー]フィールドで選択したビューの現在のステータスと以前に保存したスナップショットが表示されます。比較する2つのスナップショットを選択します。				
ナップ ショット	注:[レポートのパラメータを表示]ボタンが押された場合にのみ表示されます。				
スナップ ショット	上較するスナップショ が表示されます。		表	示します。 スナップシ	ョットを取ったビューだけ
を持つ ビュー	注:[レポートのパラメ	【 一タを表 示] ボタンカ	が非	甲された場合にのみ	表示されます。

構 成 マネージャ・ポリシー・レポート

このレポートは、構成マネージャ・ポリシーのコンプライアンス・レベル・データを表示します。



UI 要素	詳細
<棒グラ フ/ 円 <i>グ</i> ラ フ>	レポートには,各ポリシーとともに, [グループ化]で選択したグループ化に応じて各グ ループのメンバーの平均コンプライアンス・レベルが表示されます。 グループをクリックして次のレベルまでドリルダウンができます。 ここで,グループ内の CI の

UI 要素	詳細
	詳細情報が表示されます。
<現在 位置表	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフの最上部に 横方向に表示されます。
示りス ト>	注:現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。
<ツ―ル バー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
グル—プ 化	ドロップダウン・リストから属性を選択します。選択した属性によって、レベルのx軸に沿って出力がどのようにグループ化されるかが決まります。また、どのカラムがレポートの第2レイヤに表示するのかも決まります。
	次のオプションを使用できます。
	 CI タイプ
	• 分類
	・レイヤ
	 ポリシー名
	• ポリシー・コンプライアンス状態
ビュー	省略記号のボタンをクリックすると、 [ビュー セレクタ]ダイアログ・ボックスが開きます。 必要なビューを選択し、 [OK]をクリックします。 ビューは、 少なくとも1つ、 かつ、5つ以下を選択する必要があります。

データベース・ブレークダウン・レポート

このレポートには, データベース・タイプとバージョンのブレークダウンが表示されます。 システムにデプロイ されているすべてのデータベース, または特定の場所にデプロイされているデータベースを表示できます。

国または地	域: すべて ▼ 状態: すべて ▼ 市町村: すべて ▼
😞 生成	
データベー	ス・ブレークダウン
次でブレー・	データベース・ブレークダウン グラフ セクション&クリックレモドリル グウンします
	SQL Server 数量: 228 割合: 56% MySQL 数量: 100 割合: 25% SQL Server 数量: 228 割合: 56% Oracle 数量: 76 割合: 19%
利用方法	 [マネージャ]>[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で、次のいずれかを行います。 「新規レポートの作成] ※ ボタンをクリックし、ボタンをクリックし、[データベースブレークダウンレポート]を選択する。 [ブレークダウン]から次を行います。 [ブータベースブレークダウンレポート]をダブルクリックする [データベースブレークダウンレポート]を右クリックし、[新規レポートの作成]を選択する。 [データベースブレークダウンレポート]を選択し、右表示枠にドラッグする。
関連タ スク	278ページ「カスタム・レポートの生成」

UI 要素	詳細
<棒グラ	円 グラフの各 セグメント/棒 グラフの各 カラムは,異なるデータベースを示します。
フ/円グラ フ>	スライス/棒をクリックするとバージョンごとに並 ベ替 えられたデータベースが表 示され,再 度 クリックするとドリルダウンしてテーブル形 式 でバージョン情 報 が表 示されます。

UI 要素	詳細
	各 セグメント / 棒の上にマウスを置くと、データベース名、各データベースで検出される Cl インスタンス数, 全体に対するセグメントの割合(円グラフ形式で情報を表示してい る場合), およびスライス/棒で表される Cl タイプがソールチップに表示されます。
	円 グラフの下 にある凡 例 には,各 CI の名 前 とその下 のレベルにバージョンが表 示されます。
<ツール バー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
市町村	データベース・ブレークダウン・データを表示する対象の都市を選択するか、 [すべて]を 選択して, すべての都市のブレークダウンを表示します。
	注:[市町村]属性内のデータを含むCITにのみ関連します。
国または 地域	データベース・ブレークダウン・データを表示する対象の国または地域を選択するか、[す べて]を選択して、すべての国または地域のブレークダウンを表示します。
	注:[国または地域]属性内のデータを含むCITにのみ関連します。
すべての 統 合ポ イントを 含める	このチェック・ボックスを選択すると、フェデレート CI がレポートに組み込まれます。 この チェックボックスがオフになっていると、 ローカル CI のみがレポートに含まれます。
状態	データベース・ブレークダウン・データを表示する対象の州を選択するか、 [すべて]を選択して、すべての州のブレークダウンを表示します。
	注:[都道府県]属性にデータを含むCITのみに関連します。

削除候補レポート

このレポートには、定義した期間内に削除された CITと関係、および削除される予定の CITと関係 が表示されます。



UI 要 素	詳細
<棒	棒 グラフのカラムの各 セグメントは,CI または関係の CIT を示します。
グラフ>	バーをクリックすると, ドリルダウンして削除された CIT と関係, および削除される予定の CIT と関係が表形式で表示されます。

UI 要 素	詳細
	各棒の関連する色の上にマウスを置くと、削除された CIと関係の数または削除される予定の CIと関係の数,および棒で表される CIタイプがツールチップに表示されます。
	凡例には、削除された CIと関係を示す色、削除される予定の CIと関係を示す色が表示されます。各 CIまたは関係の CIT は下に表示されます。
<ツ— ル バ—>	詳細については、352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
開始 日付	レポートの開始日時を設定します。
終了 日付	レポートの終了日時を設定します。
時間 範囲	検出された変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システム によって[開始日付]および[終了日付]ボックスに自動的に表示されます。
	注 :[カスタム]を選択すれば, [開始日付]および[終了日付]ボックスの開始日付と終了 日付を手動で設定できます。

依存関係レポート

このレポートでは、選択したビューのサーバ同士、または CMDB のサーバと選択したビューのサーバを 接続するすべてのタイプの依存関係のリストを生成できます。

このレポートには次の関係が含まれます。

- データベースとクライアント間に存在する関係
- クライアントとサーバ間に存在する関係

• MQ 接続の結果として作成される関係

ピ.	ビュー: Weblogic_To 💌 🔜 次に基づく情報を検索 🔿 CMDB 💿 ビュー					
5	→生成					
	Node	Relationship	Counter	Clients		
	DR3	Talk	2	[DR3, DR3]		
	ilo-labm3amrnddb06.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3amrnddb06.devlab.ad, ilo-labm3amrnddb06.devla		
	VMAMRND91	Talk	2	[VMAMRND91, VMAMRND91]		
	LABM3AM202	Talk	2	[LABM3AM202, LABM3AM202]		
	LABM2AM31	Talk	2	[LABM2AM31, LABM2AM31]		
	ilo-illabesx23.devlab.ad	Talk	2	[ilo-illabesx23.devlab.ad, ilo-illabesx23.devlab.ad]		
	ilo-labm3erp01.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3erp01.devlab.ad, ilo-labm3erp01.devlab.ad]		
	VMFTRND27	Talk	2	[VMFTRND27, VMFTRND27]		
	ilo-labm3ccm29.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3ccm29.devlab.ad, ilo-labm3ccm29.devlab.ad]		
	ilogb8920rfc6.devlab.ad	Talk	2	[ilogb8920rfc6.devlab.ad, ilogb8920rfc6.devlab.ad]		
	ilo-illabbac011.devlab.ad	Talk	2	[ilo-illabbac011.devlab.ad, ilo-illabbac011.devlab.ad]		
	ilo-labm3amrnd57.devlab.ad	Talk	2	(ilo-labm3amrnd57.devlab.ad, ilo-labm3amrnd57.devlab.ad)		
	ilo-labm3am235.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3am235.devlab.ad, ilo-labm3am235.devlab.ad]		
	illabesx60.devlab.ad	Talk	2	[illabesx60.devlab.ad, illabesx60.devlab.ad]		
	IMPULSE	Talk	2	[IMPULSE, IMPULSE]		
	ilo-labm3am241.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3am241.devlab.ad, ilo-labm3am241.devlab.ad]		
	ilo-labm1rac02.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm1rac02.devlab.ad, ilo-labm1rac02.devlab.ad]		
	LABM3AMRNDDB03	Talk	2	[LABM3AMRNDDB03, LABM3AMRNDDB03]		
	ilo-labm3am224.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3am224.devlab.ad, ilo-labm3am224.devlab.ad]		
	VMAMQA70	Talk	2	[VMAMQA70, VMAMQA70]		
	iloab903/tHzou doulob od	Talk	2	fileah002.tttrou douloh od ileah002.tttrou douloh od1		
利用方去	 [マネージャ]>[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で、次のいずれかを行います。 「新規レポートの作成] ※ボタンをクリックし、[依存関係レポート]を選択する。 [一般]から次を行います。 [依存関係レポート]をダブルクリックする [依存関係レポート]を右クリックし、[新規レポートの作成]を選択する。 [依存関係レポート]を選択し、右表示枠にドラッグする。 					
重要情報 関連タスク	エンリッチメント・マネージャで新しい TQL クエリを作成するには、Dependency 関係を使って ノード間の接続を記述します。新しい依存関係が使用されるたびに、依存関係レポートに 表示されます。 278ページ「カスタム・レポートの生成」 ケ					
*						

UI要素	詳細
<ショートカット・メ ニュー>	詳細については, 185ページ「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メ ニュー」を参照してください。
<ツ―ルバー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
次に基づく情報を 検索	次のいずれかを選択します。 CMDB:選択したビューのサーバに依存しているCMDB内のサーバをすべて表示します。 ビュー:選択したビューのサーバ間の依存関係がすべて表示されます。
ビュー	必要なビューを選択します。

生成されるレポートには、次の要素が含まれています。

UI要素	詳細
クライアント	サーバにリンクされているクライアントのリストです。
カウンタ	サーバが接続されているクライアントの数です。
Node	選択したビューのサーバです。
関係	トポロジ・マップにおける関係の表示ラベルです。

ディスカバリ・エラー・レポート

このレポートでは、不正な資格情報など、実行時にデータ・フロー管理で発生する特定の問題を検出できます。

利用方 法	[マネージャ] >[モデリング]>[レポート] を選択します。[カスタムレポート]表示枠で,次のいずれかを行います。			
	• [新規レポートの作成] ** ボタンをクリックし, [ディスカバリ エラー レポート]を選択する。			
	• [ディスカバリ]から次のことを行います。			
	■ [ディスカバリ エラー レポート]をダブルクリックする。			
	■ [ディスカバリ エラー レポート]を右 クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。			
	■ [ディスカバリ エラー レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。			
重要情	• 表示するカラムを選択には、 [カラムの選択]ボタンをクリックします。			
鞡	 カラムを非表示にするには、カラムのヘッダを右クリックして[カラムを削除]を選択します。 			
	• 空のカラムを非表示にするには、ヘッダを右クリックして[空のカラムを削除]を選択します。			

	•	カラムの順序を変更するには、カラム・ヘッダをドラッグ・アンド・ドロップします。
関連情 報	•	「[ディスカバリステータス]表示枠」(『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイ ド』)
	•	「エラー・メッセージの概 要 」(『 HP Universal CMDB 開発者向け参照情報ガイ ド』)

UI要素	詳細
<ツール バー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
ディスカバ リ・モジュー ル	エラーを表示するモジュールを選択します。 すべてのモジュールまたは特定のモジュー ルを選択できます。
生成	クリックするとエラーのリストを生成できます。
重大度	表示するエラーを選択します。エラーの定義については、『HP Universal CMDB 開 発者向け参照情報ガイド』の「エラーの重大度レベル」を参照してください。
時間範囲	エラーを表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって[開始日付]および[終了日付]ボックスに自動的に表示されます。
	注:[カスタム]を選択すれば, [開始日付]および[終了日付]ボックスの開始日付と 終了日付を手動で設定できます。

生成されるレポートには、次の要素が含まれています。

UI要素	詳細		
CI タイプ	トリガ CI の CIT です。		
エラー・メッセージ	詳細なエラー・メッセージ。		
Error Summary	エラーの要約。		
ジョブ	エラーがレポートされているジョブ。		
プローブ	エラーをレポートした Data Flow Probe。		
関連 IP	トリガ CI に関連することが認識されている IP。		
翼連ノード	トリガ CI に関連するノード。		
重大度	エラーの重大度のレベル(警告, エラー, 致命的エラー)。		
Time Error Reported	エラーがレポートされた時間。		
トリガ CI	エラーがレポートされたトリガ Cl。		

汎用ブレークダウン・レベル

このレポートには、次の情報によるCIタイプのブレークダウンが表示されます。

- CIT ツリーの選択した CIT でグループ化される CIT
- CIT 属性

CIタイプの詳細については、372ページ「CIタイプ・マネージャ」を参照してください。

□ すべての統合ポイントを含める					
ブレークダウンする CIT:	Node				
次でブレークダウン:	СІ Туре 💌				
続いて次でブレークダウン:	Created By				
続いて次でブレークダウン:	Allow CI Update 💌				
★ 生成					

次でブレークダウン: Cl Type

汎用ブレークダウン レポート





利用方 法	[マネージャ] >[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で、次のいずれかを行います。
	 「新規レポートの作成」 * ボタンをクリックし、ボタンをクリックし、「汎用ブレークダウンレポート]を選択する。
	• [ブレークダウン]から次を行います。
	■ [汎用ブレークダウン レポート]をダブルクリックする。
	■ [汎用ブレークダウンレポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択す る。
	■ [汎用ブレークダウン レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
関連タ スク	278ページ「カスタム・レポートの生成」

UI 要素	詳細
<棒グラ フ/円グ	円 グラフの各 セグメント/棒 グラフの各 カラムは, CIT または CIT 属性を示します。これは, ブレークダウンしたレベルによって異なります。

UI 要素	詳細
77>	スライス/棒をクリックすると、次のレベルにドリルダウンします(定義されている場合)。 最 大 3 つの異なるレベルがあるレポートを生成できます。 情報をテーブル形式で表示する こともできます。
	関連するセグメント / 棒の上にマウスを置くと, CIT または CIT 属性で検出される CI インスタンス数, 全体に対するセグメントの割合(円グラフ形式で情報を表示している場合), およびスライス/棒で表される CIT または CIT 属性がソールチップに表示されます。
<ツ―ル バー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
次でブ レークダ ウン	最初のレベルに必要なブレークダウンを選択します。
ブレーク ダウンす る CIT :	選択した属性でブレークダウンされているインスタンスを持つCIT。
すべての 統合ポ イントを 含める	このチェック・ボックスを選択すると、フェデレート CI がレポートに組み込まれます。 この チェックボックスがオフになっていると、 ローカル CI のみがレポートに含まれます。
続 いて 次で並 <i>ベ</i> 替え	(任意指定)2番目および3番目のレベルに必要なブレークダウンを選択します。

ゴールド・マスタ・レポート

このレポートは、1つ以上のCIとゴールド・マスタとして指定されている別のCIを比較し、比較CIの どの設定がゴールド・マスタCIと異なるのかを示します。

このレポートは、ゴールドマスタCIの属性値を同じCITの比較CIの属性値と比較します。

注:

- ゴールド・マスタ・レポートでは、値が異なる場合にのみ CI 属性の比較結果が表示されます。
- ゴールド・マスタ・レポートは, フェデレート CI上では使用できません。

セクションが空の場合は、ゴールド・マスタ CI とその CIT の比較 CI のすべての属性値が同一であることを意味します。このような場合は、サブグラフの次のレイヤの属性が比較され、その後も同様に繰り返されます。

あるレイヤの比較 CI に異なる属性が見つかると、ゴールド・マスタ・レポートはサブグラフ内のほかのレイヤを比較して相違点を見つける処理を中止します。

マスタ CI: labm3qcrnddb02 比較 CI: outdoor,scdam036,otubman2-il,shvartsg0 除外クラス: ダ 類似アイテムを含める					
	Display Label	Attribute Name	Value in Goldmaster Cl	Value in Compare	
🗜 🗐 so	cdam036				
- E	Windows	CI Instances Count	1		
	abm3qcrnddb	DiscoveredModel	ProLiant BL460c G1	none	
	labm3qcrnddb	Windows Physical Memory Size	2094960	none	
	Iabm3qcrnddb	SwapMemorySize	4095	none	
	labm3qcrnddb	DomainName	devlab.ad	none	
-	Iabm3qcrnddb	MemorySize	2048	none	
	labm3gcrnddb	DiscoveredVendor	НР	none	
E- 🗐 so	cdam075				
- E	Windows	CI Instances Count	2		
	📇 labm3qcrnddb	DiscoveredModel	ProLiant BL460c G1	none	
	Iabm3qcrnddb	Windows Physical Memory Size	2094960	none	
	Iabm3qcrnddb	SwapMemorySize	4095	4092	
	📇 labm3qcrnddb	DomainName	devlab.ad	none	
	📇 labm3qcrnddb	MemorySize	2048	4097	
	Iabm3qcrnddb	DiscoveredVendor	HP	none	
利用方法 重要情	 [マネージャ]>[モデリング]>[レポート]を選択します。[カスタムレポート]表示枠で、次のいずれかを行います。 [新規レポートの作成] ▲ボタンをクリックし、[ゴールドマスタレポート]を選択する。 [コンプライアンス]から次を行います。 [ゴールドマスタレポート]をダブルクリックする [ゴールドマスタレポート]を右クリックし、[新規レポートの作成]を選択する。 [ゴールドマスタレポート]を選択し、右表示枠にドラッグする。 比較できるのは、CITマネージャで比較可能な修飾子を割り当てられた属性だけです。 詳細については、372ページ「CIタイプ・マネージャ」を参照してください。 				
戦 関 連タ スク	280ページ「スナップショットを比較する」				

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
<ショートカッ ト・メニュー>	詳細については, 185ページ「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を 参照してください。
<ツール	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」 を参照してください。

UI 要素	詳細
バー>	
属性名	CI 属性の名前です。
比較 CI	属性値をゴールド・マスタ CI と比較する CI を選択できます。 [CI の選択]が開きます。 詳細については、 114ページ「CI セレクタ」を参照してください。
表示ラベル	比較 CIの表示名です。
除外 CI タ イプ	レポートから除外する CI タイプを選択します。
同一の属 性値を表示	ゴールド・マスタCIの設定と同じ設定の比較CIを含む場合、このチェック・ボックスを選択します。
	注:このチェックボックスを選択しないと、同一属性値を持つ[ゴールド・マスタ CIの値]と[比較 CI の値]の両カラムは空になります。
マスタ CI	ゴールド・マスタ CI として使用する CI を選択できます。 [CI の選択] が開きます。 詳細については, 114ページ「CI セレクタ」 を参照してください。
比較 CI の 値	比較 CI の属性の値です。
ゴールド・マ スタ CI の値	ゴールド・マスタ CI の属性の値です。

ハードウェア・コンポーネントのサマリ・レポート

このレポートには、システム内で検出されたすべてのハードウェア・タイプのノード要素が示されます。

Hardware Compmmary Report1* X			
💾 🖾 👘 📾 🗰 🕫 🕶 🕈 📲 Show Clinstances of: Interface (12) 💌 🗶 🚰 🚱 🖓 🖫 🕼 🔄 🔍			
Hardware Component Summary Report ⇒ Interface			
Display Label InterfaceDescription MacAddress			
e1000g0		0050569B66C9	
e1000g0:1			
eth1	Advanced Micro Devices [AMD] 79c970 [PCnet32 LANCE]	005056AA0067	
i lo			
iii 100			
Local Area Connection 2	Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection #2	005056AA000A	
Local Area Connection* 11	Teredo Tunneling Pseudo-Interface	020054554E01	
Local Area Connection* 8	isatap.asiapacific.hpqcorp.net		
Local Area Connection* 9	6TO4 Adapter		
Loopback Pseudo-Interface 1	Software Loopback Interface 1		
Microsoft Tun Miniport Adapter	Microsoft Tun Miniport Adapter	020054554E01	
virbr0		D6E8BA2AC73B	



	を選択する。
	■ [Hardware Component Summary Report]を選択し, 右表示枠にドラッグする。
重要情報	レポートのトップ・レベルには,各 デバイス・タイプについて,要素の数が表示されます。番号 をクリックすると次のレイヤにドリルダウンし,個別 ハードウェア・コンポーネントと詳細 データの 一 覧が表示されます。
報	レポートに表示されるハードウェア・コンポーネントには, CPU, ディスク・デバイス, ファン, ハー ドウェア・ボード, I/O スロット, インターフェース, メモリ・ユニット, 物理ポート, 電源, プリン タ, SCSI アダプタがあります。
	[カラムの選択] ボタン[🔐]を使用して, レポートに表示 する属性を選択します。
関 連 タ スク	278ページ「カスタム・レポートの生成」

UI 要素	詳細
<現在位置 表示リスト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフの最上 部に横方向に表示されます。
	注:現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。
<ツールバー>	詳細については、352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。

影響分析レポート

このレポートには、シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内のCIのリストが表示 されます。詳細については、194ページ「[影響分析を実行]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

📴 レポートのバラメータ 📋 🤭 🖂 🗐 📾 🔹 🚼 🔹
トリガ CI: OC 🚥 重大度: Major(7) 💌 ルールバンドル: UCMDB 💌
😞 生成 📲
トリガ CI CIT 別のグループ化 影響を受けるアプリケーション
次の CI インスタンスを表示: 🛛 Interface (1) 💿 🗙 😭 🔂 🔣 😫 🎽
Display Label 🔫
🔲 0013729B95D0

利用方 法	「マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。[カスタムレポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。	
	• [新規レポートの作成] ** ボタンをクリックし, [影響分析レポート]を選択する。	
	 [一般]から次を行います。 [認識されたアプリケーションレポート]をダブルクリックする 	
	 ■ [認識されたアプリケーションレポート]を右クリックし、[新規レポートの作成]を選択する。 	
	■ [認識されたアプリケーション レポート]を選択し, 右表示枠にドラッグする。	
関連タ スク	278ページ「カスタム・レポートの生成」	
関連情	• 356ページ「影響分析マネージャ」	
報 	• 194ページ「[影響分析を実行]ダイアログ・ボックス」	

UI 要素	詳細
<ツ―ルバー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
ルール バンドル	影響の分析ルールで使用するルール・グループを選択できます。
重大度	トリガ Cl をシミュレートする重大度レベルを設定します。
トリガ Cl	システムに加える変化を表す CIを選択します。 [CIの選択] が開きます。

[影響を受けるアプリケーション] タブ

このタブには、トリガ CI の重大度の変更による影響を受けた特定のビジネス・アプリケーションに属するすべての CI が表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
表示ラベル	トポロジ・マップに表示されるCIまたは関係の名前。
トリガの重大度	[重大度]ボックスで選択された重大度です。

[CIT 別 のグループ化] タブ

このタブには、シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内のトリガ CI に関連するす べての CI が CI タイプごとに並べ替えられた状態で表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
表示ラベル	トポロジ・マップに表示されるCIまたは関係の名前。
トリガの重大度	[重大度]ボックスで選択された重大度です。

[トリガ CI]タブ

このタブには、システムに加える変化を表す CI がすべて表示されます。このタブの CI は、[トリガ CI] ボックスで選択した CI です。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
表示ラベル	トポロジ・マップに表示されるCIまたは関係の名前。

[ジョブ リスト] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、341ページ「[スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス」 で実行 するようスケジュールされたレポート/スナップショット のリストが表示 されます。

利用方法	 実行するようスケジュールされたレポートのリストを表示するには、[マネージャ] > [モデリング] > [レポート]を選択します。[レポート]ページで、[スケジュールされたレポート ジョブを表示] ● ボタンをクリックします。 スナップショットを取るスケジュールを定義するには、[マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。[トポロジレポート] 表示枠で、必要なビューを選択して [スナップショット] 読 ボタンをクリックし、[スケジュールされたスナップショット・ジョブを表示] を選択します。
通	● 278ページ「トポロジ・レポートの表示」
連 タ スク	● 278ページ「カスタム・レポートの生成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要 素	詳細
*	新規のスケジュールされたレポートを挿入 :[定期レポート]ダイアログ・ボックスを使用して 新しいジョブを定義します。
	ジョブを編集:[定期レポート]ダイアログ・ボックスを使用して選択したジョブを編集します。
Ð	コピーを作成 :選択したジョブのコピーを作成できます。選択したジョブの詳細を使用する [定期レポート] ダイアログ・ボックスで新しいジョブを開きます。
×	ジョブの削除:選択したジョブをスケジュールされたジョブのリストから削除します。
\land	直ちにジョブを実行 :選択したジョブを実行します。
00	ジョブの中断 :選択したジョブを中断します。ジョブのステータスが[保留]の場合にのみ有 効になります。
(ジョブの再開:選択したジョブを再開します。

UI 要 素	詳細
	注:[ジョブの再開]ボタンは、ステータスが[中断]のジョブの場合にのみ有効になります。
	スケジュールされたジョブのリストを更新します。
V	現在のフィルタをクリアします。
	表示するカラムの変更 :表示するカラムを選択できます。
現在	スケジュールされた各ジョブの現在のステータスです。
のス テータ	 実行中:このジョブは現在実行中です。
ス	• 保留:このジョブはスケジュールの要件が満たされるのを待機しています。
	• 完了:このジョブは実行が完了しています。
	• 一時停止:このジョブは中断しています。
	メモ: ステータスが[完了]になっているジョブの実行を再開する場合, [直ちにジョブを実行] をクリックするか, [次の実行時間]を現在時刻に変更します。未来の時刻に変更すると, ステータスが[保留]に変わります。
詳細	[定期レポート]ダイアログ・ボックスで定義された、スケジュールされたジョブの説明です。
実行	ジョブの現在の実行ステータス:
ス テ—タ	• 成功:ジョブは正常に完了しました(🗳 アイコンで示されます)。
ス	 ・ 失敗:ジョブの実行は失敗しました([◎] アイコンで示されます)。[◎] アイコンの上にポインタを置いたままにすると表示されます:
	■ エラーの詳細
	■ 関連する HP Universal CMDB 内部例外
	• なし:このジョブはまだ実行されていません。
最終 実行 時間	レポートが最後に実行された時間です。
名前	[定期レポート] ダイアログ・ボックスで定義された,スケジュールされたジョブの名前です。
次の 実行 時間	このレポートが次に実行される時間です。
タイム ゾー ン	このジョブの実行がスケジュール設定されている時間帯です。
ネット ワーク・デバイスのブレークダウン・レポート

このレポートには、ネットワーク・デバイスのブレークダウンが表示されます。次の条件を満たすネットワーク・デバイスのみがレポートに表示されます。

- ネットワーク・デバイスの CIT は修飾子 NETWORK_DEVICESを割り当てられています。詳細については、73ページ「「修飾子」タブ」を参照してください。
- ネットワーク・デバイスは, Host is complete = True という属性条件で定義されています。詳細に ついては、65ページ「「属性」タブ」を参照してください。

国または地域:	すべて	▼ 状態:	すべて	▼ 市町村:	すべて	•
😞 生成						

ネットワーク デバイス ブレークダウン

グラフ セクションをクリックしてドリル ダウンします

次でブレークダウンCI インスタンス カウント



利用方 [マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で、次 **法** のいずれかを行います。

- [新規レポートの作成] ^{**}ボタンをクリックし, [ネットワーク デバイス ブレークダウン レポート]を選択する。
- [ブレークダウン]から次を行います。
 - [**ネットワーク デバイス ブレークダウン レポート**]をダブルクリックする

	 [ネットワーク デバイス ブレークダウン レポート]を右 クリックし、[新規レポートの作成]を選択する。
	■ [ネットワーク デバイス ブレークダウン レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
関連タ スク	278ページ「カスタム・レポートの生成」

UI 要素	詳細
<棒グラ	円 グラフの各 セグメント/棒 グラフの各 カラムは、異なるネット ワーク・デバイスを示します。
フ/円ク ラフ>	スライス/棒をクリックすると、ドリルダウンしてネットワーク・デバイスごとの CI インスタンス数 が表示されます。
	各セグメント / 棒の上にマウスを置くと、ネットワーク・デバイス名、各ネットワーク・デバイス で検出される CI インスタンス数、全体に対するセグメントの割合(円グラフ形式で情報 を表示している場合)、およびスライス/棒で表される CI タイプがツールチップに表示さ れます。
	セグメント/棒をクリックすると, メーカーで並 ベ替えられた特定のネットワーク・デバイスが 表示されます。 セグメント/棒を再度クリックすると, そのメーカーの当該ネットワーク・デバ イスの CI インスタンスに関する詳細がテーブル形式で表示されます。
	凡例の各色は異なるネットワーク・デバイスを示します。
<ツ―ル バー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
市町村	オペレーティング・システム・ブレークダウン・データを表示する市町村を選択するか、[すべ て]を選択してすべての市町村のブレークダウンを表示します。
	注:[市町村]属性内のデータを含むCITにのみ関連します。
国 また は地域	オペレーティング・システム・ブレークダウン・データを表示する国または地域を選択する か, [すべて]を選択してすべての国または地域のブレークダウンを表示します。
	注:[国または地域]属性内のデータを含むCITにのみ関連します。
すべて の統合 ポイント を含め る	このチェック・ボックスを選択すると、フェデレート CI がレポートに組み込まれます。この チェックボックスがオフになっていると、ローカル CI のみがレポートに含まれます。
状態	オペレーティング・システム・ブレークダウン・データを表示する都道府県を選択するか、[す べて]を選択してすべての都道府県のブレークダウンを表示します。
	注:[都道府県]属性にデータを含むCITのみに関連します。

ノード OS のブレークダウン・レポート

このレポートには,オペレーティング・システムのブレークダウンが表示されます。デプロイされたすべてのオペレーティング・システムを表示したり,特定の場所にあるか,一定のサブネットで稼動しているオペレーティング・システムのデータを表示できます。

	🗌 すべての続	合ポイントを含める				
	フィルタ: 💿	場所 〇 サブネット				
	国または地域:	すべて	-			
	州:	すべて	•			
	市町村:	すべて	•			
Į	生成					

(j) Clインスタンスは存在しません

利用方 法	[マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。[カスタムレポート] 表示枠で,次のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] ** ボタンをクリックし, [ノード O/S ブレークダウン レポート] を選択する。
	• [ブレークダウン]から次を行います。
	■ [ノード O/S ブレークダウン レポート]をダブルクリックする。
	■ [ノード O/S ブレークダウン レポート]を右 クリックし, [新規レポートの作成]を選択 する。
	■ [ノード O/S ブレークダウン レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
関連タ スク	278ページ「カスタム・レポートの生成」

UI 要素	詳細
<棒グラ フ/円グ	円 グラフの各 セグメント/棒 グラフの各 カラムは,異なるオペレーティング・システムを示します。
ラフ>	スライス/棒をクリックすると, ドリルダウンしてオペレーティング・システムごとの Cl インスタン ス数 がテーブル形 式 で表 示されます。
	各 セグメント / 棒の上にマウスを置くと、オペレーティング・システム名、各オペレーティング・ システムで検出される CI インスタンス数、全体に対するセグメントの割合(円グラフ形式 で情報を表示している場合)、およびスライス/棒で表される CI タイプがツールチップに 表示されます。

UI要素	詳細
<ツ―ル バー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
市町村	オペレーティング・システム・ブレークダウン・データを表示する市町村を選択するか, [すべ て]を選択してすべての市町村のブレークダウンを表示します。
	注:[市町村]属性内のデータを含むCITにのみ関連します。
国また は地域	オペレーティング・システム・ブレークダウン・データを表示する国または地域を選択する か, [すべて]を選択してすべての国または地域のブレークダウンを表示します。
	注:[国または地域]属性内のデータを含むCITにのみ関連します。
フィルタ	次のいずれかを選択します。
	• 場所 :必要な場所を選択します。
	 サブネット:必要なサブネットを入力します。ワイルドカード文字にアスタリスク(*)を使用して複数のサブネットを含めることができます。たとえば、111*などです。
すべて の統合 ポイント を含 る	このチェック・ボックスを選択すると、フェデレート CI がレポートに組み込まれます。この チェックボックスがオフになっていると、ローカル CI のみがレポートに含まれます。
状態	オペレーティング・システム・ブレークダウン・データを表示する都道府県を選択するか, [す べて]を選択してすべての都道府県のブレークダウンを表示します。
	注:[都道府県]属性にデータを含むCITのみに関連します。

ノード・サマリ・レポート

このレポートには、システム内のすべての検出ノードおよびそれらにインストールされたハードウェアが示されます。

Group By: None 💌

Generate

Display Label	Memory Units	Create Time	CI Type
📇 LABM3UCMDB08.devlab.ad	0	Mon Apr 16 2012 04:28 AM IDT	nt
📄 MTtest	0	Mon Apr 16 2012 08:58 AM IDT	node
📄 newNode	0	Tue Apr 17 2012 09:55 AM IDT	node
📄 node1	0	Mon Apr 16 2012 08:08 AM IDT	node

利	[マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。 [カスタム レポート] 表示枠で、次のい		
用	ずれかを行います。		
万 法	• [新規レポートの作成] ^{**} ボタンをクリックし, [ノード サマリレポート]を選択する。		

	• [ハードウェア]から次を行います。
	■ [ノード サマリレポート]をダブルクリックする
	■ [ノード サマリレポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [ノード サマリレポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
重要情報	いずれかのグループ化オプションを選択すると、レポートのトップ・レベルに各 VLAN について、 ノード数が表示されます。次のレイヤにドリルダウンし、これらノードのデータを表示するには、 ノード数をクリックします。 グループ化オプションで [なし]を選択した場合、最上位層にすべてのノードが表示されます。
	第 2 レイヤにもいくつかの番号付きサマリ・カラムがあり, リンクをクリックできます(例えば, [ディスク デバイス]には各ノードのディスク・デバイス数が表示されます)。 次 のレイヤにドリル ダウンし, これらノードのデータを表示するには,番号をクリックします。
	いずれのレイヤでも, [カラムの選択] ボタン[^{IIII}]を使用して, レポートに表示する属性を選 択できます。
関	278ページ「カスタム・レポートの生成」
連 タ スク	

UI 要素	詳細
<現在位置 表示リスト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフの最上 部に横方向に表示されます。
	注:現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。
<ツールバー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
グループ化	データを表示する方法を選択します。次のオプションを使用できます。
	 なし
	• 場所
	 OS ファミリ

VLAN によるノード・サマリ・レポート

このレポートには、VLAN によってグループ化されたシステム内のすべての検出ノードが示されます。

Node	Summary by VLAN Report1* ×		
1	🔞 📼 🗐 📾 🔹 🚰 🔹 📓 Show Cl instances of: 🛛 Man (8)	💽 🗙 💣 😂 🔣 🖬 🍳	
	VLAN		Device Count
😰 trnet	-default	1	
VLA	N0176	1	
😰 VLA	N0177	1	
😰 defa	ult defeu #	1	
e toke	n-ring-default	1	
😰 VLA	N0178	1	
利用方法	 [マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選手 ずれかを行います。 • [新規レポートの作成] ※ボタンをクリッ 択します。 • [ハードウェア]から次を行います。 • [VLAN によるノード サマリレポート] ? • [VLAN によるノード サマリレポート] ? • [VLAN によるノード サマリレポート] ? 	択します。[カスタム レポート] 表: クし、 [VLAN によるノード サマ をダブルクリックする を右 クリックし、 [新規レポートの を選択し、右表示枠にドラッグす	示枠で,次のい リレポート]を選 作成]を選択す ⁺る。
重要情	レポートのトップ・レベルには、各 VLAN につ リックすれば、ドリルダウンして、インストールで 示できます。「カラムの選択1ボタン III を使用	いて、デバイスの数が表示されま されている各 VLAN についての話 ヨー・て、レポートに表示する属性	ます。番号をク 詳細データを表 まを選択します。
報			
	注: VLAN に接続しないノードはレポートに	表示されません。	
関	278ページ「カスタム・レポートの生成」		
連 タ スク			

UI 要素	詳細
<現在位置 表示リスト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフの最上 部に横方向に表示されます。
	注:現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。
<ツールバー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。

変更件数レポート

このレポートには、定義した期間内にCITで検出された変更(追加,削除,更新)の件数が表示されます。



利用方 法	[マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示 枠で, 次 のいずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] ** ボタンをクリックし, [変更数]を選択する。
	• [変更]から次を行います。
	 [Number of Changes Report]をダブルクリックする
	■ [変更件数レポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [Number of Changes Report]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
関連タ スク	278ページ「カスタム・レポートの生成」

UI 要 素	詳細
<棒 グラ	最初のレベルで,円グラフの各セグメント/棒グラフの各カラムは,変更が検出された CI または関係の CIT を示します。凡例には,各 CIT を表す色が表示されます。
フ/円 グラ フ>	各セグメント/棒の関連する色の上にマウスを置くと、該当のCITで発生した変更の数, 全体に対するセグメントの割合(円グラフ形式で情報を表示している場合),およびスライ ス/棒で表されるCIタイプがツールチップに表示されます。
	スライス/棒をクリックして2番目のレベルにドリルダウンすると,各 CIT とその子 CIT で発生 した変更のタイプが表示されます。各セグメント/棒の色は,アプリケーションで発生したさま ざまなタイプの変更を示します。各色で表される変更タイプを確認するには,凡例を参照 してください。
	必要な色をクリックすると, ドリルダウンして該当の変更タイプの Cl または関係の数がテー ブル形式で表示されます。2回目のドリルダウンを行うと, 説明した変更を表すインスタン スが表示されます。
	変更タイプ [追加済み] または [更新済み] は CMDB から取得されます。 変更タイプ [削 除済み] は CI または関係履歴から取得されます。
<ツ— ル バ—>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
開始 日付	レポートの開始日時を設定します。
終了 日付	レポートの終了日時を設定します。
時間 範囲	検出された変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システム によって [開始日付] および [終了日付] ボックスに自動的に表示されます。
	注 :[カスタム]を選択すれば, [開始日付]および[終了日付]ボックスの開始日付と終了 日付を手動で設定できます。

認識されたアプリケーション・レポート

このレポートには、ディスカバリ・プローブを実行しているノード上にインストールされたアプリケーションすべてが示されます。

グループ化: 関連ノード ▼ ◆ 生成		
認識されたアンワクモンヨン・レホート 🤿 Installed Soft	wares On amdev02	
Display Label	DiscoveredVendor	Version
🖹 7Zip	Igor Pavlov	4.42
(1) Adobe Deeder	Adoba	709

🙄 Adobe Reader	Adobe	7.0.8
Asset Center	Hewlett-Packard (Peregrine Systems)	4.00
BusinessObjects Enterprise Client Tools	SAP (Business Objects)	XI 3.1
🐑 CollabNet Subversion Command-Line Client	CollabNet	1.6.12
🐑 Crystal Report Runtime	SAP (Business Objects)	2008 sp3
💟 DB2 Data Server Client	IBM	9.7.300.291
Firefox	Mozilla	3.6.17
🐑 HP Asset Manager	Hewlett-Packard	5.12
🐑 HP Asset Manager API	Hewlett-Packard	9.30
🐑 HP Asset Manager Import Tool	Hewlett-Packard	5.11
HP Performance Manager	Hewlett-Packard	9.00

利 [¹ 月 支	マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で,次のい ずれかを行います。
 法 	• [新規レポートの作成] 🌁 ボタンをクリックし, [認識されたアプリケーション レポート]を 選択する。
•	• [ソフトウェア インベントリ]から次を行います。
	■ [認識されたアプリケーション レポート] をダブルクリックする
	 ■ [認識されたアプリケーションレポート]を右クリックし、[新規レポートの作成]を選択する。
	■ [認識されたアプリケーション レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
重 要 清 報	ッポートのトップ・レベルには,各アプリケーションにインストールされたアプリケーションの数が表 示されます。 ドリルダウンして,インストールされている特定のアプリケーションについての詳細 データを表示できます。
+x [: ; L	カラムの選択] ボタン 🔐 を使用して,レポートに表示する属性を選択します。 レポートをア パリケーション名またはベンダ名でグループ化する場合,インストールされたアプリケーションの ノベルで,[インストール先] という名前の列が利用できます。 この列には,アプリケーションがイ ノストールされる場所を表示し,ノードへのクリック可能なリンクが表示されます。
L 0 1; 5	ッポートを関連ノードでグループ化する場合, そのノードにインストールされたアプリケーション D件数を表示する [インストール済みソフトウェア] という名前の列が利用できます。 この列に は, ドリルダウンしてアプリケーションの詳細を表示する, クリック可能なリンクも表示されま す。
関 2 連 タ	?78ページ「カスタム・レポートの生成」
マク	

UI 要素	詳細
<現在位置 表示リスト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフの最上 部に横方向に表示されます。
	注:現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。
<ツールバー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
グループ化	データを表示する方法を選択します。 次のオプションを使用できます。
	• アプリケーション名
	 ベンダ名
	• 関連ノード

[レポートのプロパティ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、レポートのタイトルとサブタイトルを設定できます。

利用	レポート・モジュールの[レポート] ツールバー, または Modeling Studio の[TQL クエリ・エディ
方法	タ] ツールバーの[レポートのプロパティ] ボタン ¹ をクリックします。
関連 情報	277ページ「トポロジ・レポートの概要」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
形式	レポート形式を選択します。次のオプションを利用できます。
	 フラットトップ・レイヤの CI はリンクとして表示されます。 CI をクリックすると、ドリルダウンして子 CI を表示できます。
	• 階層 レポートのすべての CI はツリー形 式 で 1 つの表 に表 示 されます。
サブレポート パースペクティ	[サブレポート パースペクティブ] チェック・ボックスを選択すると、[サブレポートの生成]ダイアログ・ボックスのサブ・レポートの構築に利用できるようになります。
7	[メモ] このチェックボックスは,パースペクティブの [レポート] プロパティでのみ利用で きます。
サブタイトル	レポートのサブタイトルを入力します。
タイトル	レポートのタイトルを入力します。

[レポート] ページ

このページでは, ビューのデータや事前定義されている多数のカスタム・レポート・タイプに基づいてトポロジ・レポートを作成できます。

利用方法	[マネージャ]>[モデリング]>[レポート]
関連タスク	• 278ページ「トポロジ・レポートの表示」
	• 278ページ「カスタム・レポートの生成」
	 279ページ「CIの比較」
	• 280ページ「スナップショットを比較する」
関連情報	 352ページ「ツールバー・オプション」
	• 278ページ「カスタム・レポートの概要」
	• 277ページ「トポロジ・レポートの概要」

UI 要 素	詳細
<左側 の表 示枠>	含まれている表示枠は次のとおりです。
	 トポロジレポート:モデリング・スタジオを使用して作成されたビューおよびテンプレートのレポートが表示されます。詳細については、346ページ「トポロジ・レポート」を参照してください。
	 カスタムレポート:あらかじめ設定されたさまざまなタイプのレポートがグラフ形式または テーブル形式で表示されます。詳細については、282ページ「ユーザー・インターフェイスのレポート」を参照してください。
<右表 示枠>	選択したレポートが表示されます。

左側の表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
*	新規レポートの作成 :作成するレポートのタイプを選択できます。
	[トポロジレポート] 表 示 枠 で, [パターン ビュー],[パースペクティブ] または [テ ンプレート] を選 択し, 直 接 Modeling Studio に入って, 選 択したリソース・ タイプを作 成 できます。
	[カスタムレポート] 表 示 枠 で, カスタム・レポートのリストからレポートを選 択 します。
11	レポートを開く: [レポート] 表示枠の既存のレポートが生成されます。
1 T	ビュー定義の表示 : Modeling Studio に選択したビューの定義が表示されます。詳細については, 200ページ「モデリング・スタジオ」を参照してください。

UI要素	詳細
	注:このオプションはトポロジ・レポートでのみ使用できます。
×	レポートの削除:
	 ● [カスタムレポート]表示枠では,選択したレポートが削除されます。
	 ● [トポロジレポート] 表示枠では、アーカイブ・レポートが削除されます。
1	レポート・アーカイブを比較します。同じレポートの2つのアーカイブが選択 されている場合,クリックしてアーカイブ比較レポートを開きます。
	注 :このオプションはトポロジ・レポートでのみ使用できます。
Ð	スケジュールされたレポート :[スケジュールされたレポート]ダイアログ・ボック スを開くと,次のジョブを定義できます。
	• レポート生成のスケジュール
	 レポートを送信する1つ以上の形式とレポートの受取人を指定します。
	 ジョブの繰り返しの指定
	[スケジュールされたレポート] ダイアログ・ボックスの詳細については, 341 ページ「[スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス」を参 照してください。
	注 : このオプションは, レポートを生成する前または保存したレポートを開くと きにのみ使用できます。
(スケジュールされたレポート ジョブを表示:[ジョブリスト]ダイアログ・ボックス が開き,実行するようスケジュールされたレポートが表示されます。詳細に ついては,323ページ「[ジョブリスト]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
8	メールを送信:[メールを送信]ダイアログ・ボックスが開きます。さまざまな形 式で生成されたレポートまたはダイレクト・リンクとして生成されたレポートを 含む電子メールを送信できます。さまざまな形式の詳細については、352 ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
	添付ファイルとして電子メール受信者に送信される生成されたレポートの 形式を1つ以上選択します。
	注:
	• 必須フィールドにはアスタリスク(*)が付いています。
	 電子メール・アドレスを入力する場合、電子メールのドメインが有効なものであることを確認します。
¢.	ダイレクト リンクの生成:選択したレポートのサーバの特定の場所へのダイレクト・リンクまたは特定の形式でエクスポートしたデータへのダイレクト・リンクを作成します。

UI要素	詳細
*	レポートのエクスポート。
	レポートのエクスポートをプレビューする形 式を選 択 できます。 次 のオプション を使 用 できます。
	 CSV:レポートのデータは、カンマで区切られた値(CSV)のテキスト・ファイル形式に設定されます。これは、スプレッドシードで表示できます。
	注:CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ(,)を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの[地域のオプション]を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linux では、CSV ファイルを開くアプリケーションで区切り文字を指定できます。
	 PDF:レポートのデータは、PDF形式でエクスポートされます。 注:PDFにエクスポートする場合、レポートが有効となるよう、常識的な範囲の表示列数を選択します。
	• XLS. レポートのデータは、スプレッドシートに表示できる.xls(Excel)ファ イル形式に整形されます。
	• XML: レポートのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして 整形 されます。
	ヒント :HTML コードをレポートから抽出するには,次の手順を実行します。
	■ ファイルをHTML エディタで開きます。
	■ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーする。
	注:生成したレポートをエクスポートする場合,ダイアログ・ボックスが開き, エクスポートしたファイルを開くかどうかの確認が表示されます。80ページ 「[ユーザプリファレンス]ダイアログ・ボックス」を使用して,このメッセージを 非表示にするか,表示するかを設定できます。
	スナップショット:次の操作ができます。
	 アクティブなレポートのスナップショットを保存する。詳細については、196 ページ「[スナップショットを保存する]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	 以前に保存したスナップショットを、アクティブなレポートまたは別のスナップショットと比較する。詳細については、304ページ「スナップショット比較レポート」を参照してください。
	 保存するスナップショットをスケジュールする。詳細については、341ページ「[スナップショットをReport/スケジュールする]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	 現在スケジュールされているスナップショット・ジョブや詳細情報を表示する(323ページ「[ジョブリスト]ダイアログ・ボックス」を参照)。

UI要素	詳細
	注:このオプションはトポロジ・レポートでのみ使用できます。
	更新:レポート・ツリーが更新されます。
卻	すべてを展開 :ツリー構造が展開されます。
旨	すべてを折りたたむ :ツリー構造が折りたたまれます。
E 9.	[テナントを割り当て]をクリックして、[テナントを割り当て]ダイアログ・ボックスを開き、選択したカスタム・レポートにテナントを割り当てます。
	注:
	 このオプションは、保存されたカスタム・レポートが選択されている場合にのみ関連します。
	 このオプションは、マルチテナンシが有効になっている場合にのみ利用できます。
2	[セキュリティを管理]をクリックして、選択したカスタム・レポートの権限を特定のロールまたはリソース・グループまたは選択したリソース・グループに割り当てます。
	注:このオプションはカスタム・レポートでのみ使用できます。
3	空のフォルダを非表示:すべてのフォルダが表示されている状態とレポート を含むフォルダのみが表示されている状態が切り替わります。
	フレーズの次回発生を検索/フレーズの前回発生を検索:[検索]フィール ドに入力した文字列の次または前の検索結果に移動できます。
11	フレーズのすべての発生をハイライト表示:[検索] フィールドに入力した文字列に一致する, CI ツリー内のすべての項目が強調表示されます。
検索	[検索] フィールドに検索名または検索名の一部を入力して, リスト内の CIを検索します。

スキャン・ファイル・ステータス・レポート

このレポートには, [Inventory Discovery by Scanner] ディスカバリ・ジョブによって生成されたスキャン・ファイルが表示されます。

時間範囲: 直近の1日 🗨	開始日付: 12/08/25 23:20 💌	▶ 終了日付: 12/08/26 23:20 ▼
▶ 生成		

(1) パラメータを設定し、生成ボタンをクリックします

利用方法	[マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で,次のい ずれかを行います。
	• [新規レポートの作成] ^{**} ボタンをクリックし, [スキャン ファイル ステータス レポート]を 選択します。
	• [ディスカバリ]から次のことを行います。
	■ [スキャン ファイル ステータス レポート] をダブルクリックする。
	■ [スキャン ファイル ステータス レポート]を右 クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [スキャン ファイル ステータス レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
重要情報	[ホスト]カラムには、生成されたスキャン・ファイルのノードが表示されます。[実行日]および [アップグレード日]カラムには、スキャナの最新の実行日およびアップグレード時間が表示されます。[スキャナ構成]および[プローブ名]カラムには、スキャナが最後に使用した構成ファ イルおよびデータ・フロー・プローブ・ゲートウェイが表示されます。[ファイルパスをスキャン]という非表示カラムがあり、Data Flow Probe に保存されているスキャン・ファイルのフル・パスが表示されます。このカラムを表示するには、新規レポートが生成される度に[カラムの選択]ボタン で手動で可視カラムに追加します。
	スキャン・ファイルを右クリックしてコンテキスト・メニューから[スキャンファイルをダウンロード]を 選択することで,選択したスキャン・ファイルをローカル・マシンにダウンロードできます。インベン トリ・ツールがコンピュータにインストールされている場合は、ダウンロードしたスキャン・ファイル を開くとビューアのアプリケーションが起動してスキャン・ファイルのコンテンツが表示されます。
	スキャンを右クリックして[通信ログを表示]を選択すると、デバッグ情報のスキャナ・ログが表 示されます。このオプションは、スキャンが正常に終了しなかった場合にのみ利用できます。
関 連	

UI 要 素	詳細
<ツー ル バー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
開始 日付	レポートの開始日時を設定します。
終了 日付	レポートの終了日時を設定します。
時間 範囲	スキャン・ファイルを表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システム によって [開始日付] および [終了日付] ボックスに自動的に表示されます。
	注 :[カスタム]を選択すれば, [開始日付] および [終了日付] ボックスの開始日付と終了 日付を手動で設定できます。

スキャナ実行詳細レポート

このレポートには、すべてのインベントリ・ディスカバリ・ジョブのランタイム・データが示されます。

(j) Clィンスタンスは存在しません	

利	[マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。[カスタムレポート] 表示枠で,次のい
用	ずれかを行います。
方法	• [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし, [スキャナ実行詳細レポート]を選択します。

	• 「 ディスカバリ]から次のことを行います。
	■ [スキャナ実行詳細レポート]をダブルクリックする
	■ [スキャナ実行詳細レポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [スキャナ実行詳細レポート]を選択し、右側の表示枠にドラッグする。
重要情報	このレポートには, 各インベントリ・ディスカバリー・ジョブについて, スキャン対象ホストの表示ラ ベル, スキャナのバージョン, 開始時間, 期間, ジョブのスケジュールおよびステータス, プロー ブ名, エラーメッセージ, ジョブが最後に正常に実行された時間が示されます。
	[カラムの選択] ボタン[🛄]を使用して, レポートに表 示 する属性を選択します。
関 連 タ スク	278ページ「カスタム・レポートの生成」

UI要素	詳細
<ツール バー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
グループ化	表示データのグループ化オプションを選択します。
ジョブのス テータス	ドロップダウン・リストから, ディスカバリ・ジョブのジョブ・ステータス別に結果をフィルタリン グするオプションを選択します。

[スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、レポートを実行するスケジュールの定義を行い、それらのレポートを指定 した受信者に電子メールで送信することができます。また、特定のビューのスナップショットを取得する スケジュールを設定できます。323ページ「[ジョブリスト] ダイアログ・ボックス」で実行するようスケジュー ルされたスナップショットのreports/リストを確認できます。

利用方法	•	レポートの実行をスケジュールするには、「マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択し ます。[トポロジ レポート] または [カスタム レポート] 表示 枠で、レポートを選択し、[定期レ ポート] い ボタンをクリックします。 スナップショットを取るスケジュールを定義するには、「マネージャ] > [モデリング] > [レポー ト] を選択します。[トポロジ レポート] 表示 枠で、必要なビューを選択して [スナップショッ ト] ボタンをクリックし、[スナップショットをスケジュールする] を選択します。また IT ユニ バース・マネージャで、CI セレクタで [スナップショット] ボタンをクリックし、[スナップショットをス ケジュールする] を選択します。
躙	•	279ページ「CI の比較」
連 タ スク	•	280ページ「スナップショットを比較する」

含まれている要素は次のとおりです。

UI要素	詳細
検証	クリックすると, [cron 式] ボックスで入力した cron 式が検証されます。
Uty	([日付]を選択すると表示されます)。カレンダーの選択した日付をクリア します。
アクション	注 :レポートを実行するスケジュールが定義されている場合にのみ使用できます。
	次のオプションを使用できます。
	• メール:[送信] ボックスのメール受信者にレポートが送信されます。
	• アーカイブ:レポート結果がデータベースにアーカイブされます。
Cron 式	ジョブをスケジュールする cron 式を入力します。 cron 式で使用される フィールドとそのユース・ケースについては,281ページ「Cron 式」を参照し てください。
詳細	スケジュールされたジョブの説明です。
終了:	次のオプションのいずれかを選択します。
	• しない:終了日を指定しません。
	• 次まで:アクションの実行を停止する日時を選択します。
	注: 1回のみ実行するレポートを定義する場合,この要素は関係ありません。
形式	注 :レポートを実行するスケジュールが定義されている場合にのみ使用できます。
	レポートを送信する形式を選択します。 [メール] アクション・オプションを選択すると使用できます。
	次のオプションを使用できます。
	• Excel:レポートのデータは、スプレッドシートに表示できる.xls(Excel) ファイル形式に整形されます。
	 PDF:レポートのデータは、PDF形式でエクスポートされます。 注:PDFにエクスポートする場合、レポートが有効となるよう、常識的な範囲の表示列数を選択します。
	 CSV:レポートのデータは、カンマで区切られた値(CSV)のテキスト・ ファイル形式に設定されます。これは、スプレッドシードで表示できます。
	注:CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ(,)を 区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区切り 文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの[地域の オプション]を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定 義されていることを確認します。Linux では、CSV ファイルを開くアプリ

UI要素	詳細
	ケーションで区切り文字を指定できます。
	• XML:レポートのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開く ことができる XML ファイルとして整形されます。
	 ダイレクトリンク:レポート・データを含む電子メールがダイレクト・リンクとして送信されます。
ロケール	レポートの言語を選択します。
名前	スケジュール設定されたジョブの名前です。
繰り返し	次のいずれかのアクションを選択します。
	 1回:ジョブを1回だけアクティブ化します。
	 間隔:一定の間隔でジョブを実行します。分,時間,日,週の間隔 を選択できます。
	• 日:毎月指定の日にジョブを実行します。
	• 週ごと: ジョブを毎週実行します。 アクションを実行する曜日を1つまたは複数選択します。
	• 月ごと: ジョブを毎月実行します。 ジョブを実行する月を1つまたは複数選択します。
	• 年ごと:ジョブを毎年実行します。
	 Cron: cron 式を使ってジョブのスケジュールを設定します。cron 式で使用されるフィールドとそのユース・ケースについては、281ページ「Cron 式」を参照してください。
繰り返し間隔	([間隔] または [年ごと]を選択する場合のみ表示されます)。連続する 実行の間隔の値を選択します。
	たとえば, [年ごと]と[2]を選択すると, ジョブは隔年で実行されます。
繰り返し	([日], [週ごと], [月ごと]を選択する場合にのみ表示されます)。ジョブを 実行する曜日または日付を選択します。
	たとえば, [月ごと]を選択し, [1月]と[7月]を選択すると, ジョブは1月 と7月の指定された日時に実行されます。
レポート	実行するトポロジ・レポートまたはカスタム・レポートを選択できます。 [レ ポートの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。
送信先	注 :レポートを実行するスケジュールが定義されている場合にのみ使用できます。
	スケジュールされたレポートをメールで自動的に受信できる受信者を定
	義します。[アドレス帳を開く] 🔤 ボタンをクリックして, [メッセージ受取人] ダイアログ・ボックスを開き,メール受信者を選択します。
	[メッセージの受信者] ダイアログ・ボックスの [追加], [編集], [削除] ボタン

UI 要素	詳細
	を使用して、メール・リストを変更できます。
	注 : [メッセージの受信者] ダイアログ・ボックスに表示される受信者は, 『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「[受信者マネージャ]ページ」 で定 義された電子メール受信者で更新されます。
サーバ時間	クライアントのタイム・ゾーンに基づく、正確なサーバー時間。
開始	ジョブの実行を開始する日時を選択します。
タイムゾーン	必要なタイムゾーンを設定します。

ソフト ウェア使用率レポート

このレポートは、使用率データとともに、現在使用しているコンピュータにインストールされているすべてのソフトウェアを表示します。

グルーブ化: 関連ノード スコープ: 直近の1ヶ月 ▼ ● 生成	area On					
Display Label	DiscoveredVendor	Version	SoftwareLangu			UsagePerc
Active Perl	ActiveState Software	5.8.3	English	0	0	37.81
🔁 FileZilla Client	GNU	3.3.1	English	0	0	0
Firefox	Mozilla	3.6.6	English	0	0	0
HP Asset Manager Application Designer	Hewlett-Packard	5.20	English	0	0	0
HP Asset Manager client	Hewlett-Packard	5.20	English	0	0	0
HP DDM Inventory Agent	Hewlett-Packard	9.30.000	English	0	0	37.81
Internet Explorer	Microsoft	8.0	English	0	0	0
🔁 Java 2 Runtime Environment	Oracle (Sun Microsystems)	1.5.0_19 SE	English	0	0	0
🔁 Java 2 SDK	Oracle (Sun Microsystems)	1.4.2_14-b05 SE	English	0	0	37.81
🔁 Java 2 SDK	Oracle (Sun Microsystems)	1.5.0_19 SE	English	0	0	0
🔁 Java SE Runtime Environment	Oracle	1.6.0_22	English	0	0	12.88

利用	[マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で,次のい ずれかを行います。
万 法	• [新規レポートの作成] ** ボタンをクリックし, [ソフトウェア使用率レポート]を選択します。
	• [ソフトウェア インベントリ]から次を行います。
	■ [ソフトウェア使用率レポート]をダブルクリックする。
	■ [ソフトウェア使用率レポート]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [ソフトウェア使用率レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
重 要 情	レポートのトップ・レベルには,各ソフトウェア・タイプについて,インストールされたアプリケーションの数が表示されます。ドリルダウンして,特定のソフトウェア・アプリケーションについての使用率データを表示できます。

報	[カラムの選択] ボタン ひを使用して、レポートに表示する属性を選択します。レポートをア プリケーション名またはベンダ名でグループ化する場合、インストールされたアプリケーションの レベルで、[インストール先]という名前の列が利用できます。この列には、ソフトウェアがインス トールされる場所を表示し、ノードへのクリック可能なリンクが表示されます。
	レポートを関連ノードでグループ化する場合,そのノードにインストールされたアプリケーション の件数を表示する[インストール済みソフトウェア]という名前の列が利用できます。この列に は、ドリルダウンしてアプリケーションの詳細を表示する、クリック可能なリンクも表示されま す。
	使用率データのないアプリケーションの場合はこのレポートは表示されません。
関 連 タ スク	278ページ「カスタム・レポートの生成」

UI 要素	詳細
<現在位置表 示リスト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフの最 上部に横方向に表示されます。
	注:現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。
<ツールバー>	詳細については、352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
グループ化	データを表示する方法を選択します。次のオプションを使用できます。
	• アプリケーション名
	 ベンダ名
	• 関連ノード
対象範囲	レポートの対象範囲を選択します。次のオプションを使用できます。
	• 前月:前月の使用率データを持つアプリケーションを表示します。
	• 前四半期:前四半期の使用率データを持つアプリケーションを表示します。
	• 前年:前年の使用率データを持つアプリケーションを表示します。
	• すべて :使用率データを持つすべてのアプリケーションを表示します。

Solaris ゾーン・レポート

このレポートには、Solaris ゾーンについての情報が示されます。Solaris ゾーンとは、物理ホスト・マシン上のアプリケーションで実行される分離仮想環境です。

	🐚 🖂 🗐 🖨 🗕 🎦 🕇 🖉 Sł	ow Cl instances of: Unix (2	9	• X 🖻 🗲 🕠	11 Q
solaris	<u>zones</u> ⇒ bld-solaris				
	Device	Zone Name	Operatin	Status	Update Time
2005	056B85E7A_my-zone1	my-zone1		installed	Thu Apr 19 2012 10:16 AM IDT
🞽 twilig	ghtZone	twilightZone		running	Thu Apr 19 2012 10:16 AM IDT
利用方法	[マネージャ] > [モデリング] ずれかを行います。 • [Solaris ゾーン レポー • [新規レポートの作成 • [Solaris ゾーン レポー • [Solaris ゾーン レポー]> [レポート] を選邦 ート]を右 クリックし,] * ボタンをクリック ート]をダブルクリック ート]を選択し, 右ま	てします。 [[新規レホ し, [Sola する。 そっ枠にド	カスタム レポート パート の作 成] をテ ris ゾーン レポー	▶]表示枠で,次のい 選択する。 ━▶]を選択する。
重要情報	 レポートのトップ・レベルには、Solaris ゾーンについての情報が表示されます。[非グローバル ゾーン数]カラムの数字をクリックすると、次のレイヤにドリルダウンし、グローバル・ゾーン上で ホストされている非グローバル・ゾーンについての情報が表示されます。第2レイヤでは、 [ネットワークデバイス]カラムの数字をクリックして次のレイヤにドリルダウンし、このゾーンで利用可能なネットワーク・デバイスについての情報を表示することができます。 				
関 連 タ スク	278ページ「カスタム・レポー	ートの生成」			

UI 要素	詳細
<現在位置 表示リスト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフの最上 部に横方向に表示されます。
	注:現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。
<ツールバー>	詳細については、352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。

トポロジ・レポート

このレポートには、ビューのトポロジがレポート形式で表示されます。

利用 方法	[モデリング] > [レポート] を選択します。 [トポロジ レポート] 表示枠で, ツリーから必要なレ ポートを選択します。
重要 情報	レポート形式には, すべてのビューin UCMDBを表示 できます。 モデリング・スタジオのビューの [レポート] タブでレポートの設定を定義します。
	テンプレートは [レポート] でも開くことができます。 テンプレートのパラメータを編 集し, インス タンスをビューとして保存 できます。

関連 278ページ「トポロジ・レポートの表示」 タスク
--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
<棒グラ フ/円グ	円 グラフの各 セグメント/棒 グラフの各 カラムは,選択したレベルのビューの Cl を示します。
7/>	スライス/棒をクリックすると,次のレベルにドリルダウンします(存在する場合)。情報を テーブル形式で表示することもできます。
	関連するセグメント / 棒の上にマウスを置くと, CIT で検出されるインスタンス数, 全体に 対するセグメントの割合(円グラフ形式で情報を表示している場合), およびスライス/ 棒で表される CIT または CIT 属性がツールチップに表示されます。
<ツ―ル バー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
リセット	テンプレートのパラメータを元の値に戻します。
	注:テンプレートの場合のみ関係します。
ビューに 名前を 付けて 保存	クリックすると, 選択したパラメータ値を含むテンプレート・ベース・ビューとしてインスタンス が保存されます。
	注 :テンプレートの場合のみ関係します。

変更レポートを表示

このレポートには、CI または関係が選択したビューで表示されます。このレポートは、該当のCI に関する問題のトラブルシューティングに役立ちます。たとえば、CI の変更で、それらの変更が問題の原因であると判断できることもあります。同様に、トラブルシューティング問題の原因が、期待されていたのに発生しなかった変更に関連している可能性もあります。

時間範囲: 直近の1日 🗨 開始日付: 2009年11月29日 (日曜日) 午後 03:06 PST 🝷 終了日付: 2009年11月30日 (月曜日) 午後 03:06 PST 🚽						
ビュー: NetworkTopology 🔽 🔜 次に基づく情報を検索 💿 CMDB 🔿 ビュー						
🧕 生成						
			CI変更 関係の変更			
18 18 X I I G I II 1 4						
Display Label	Display Label Class Name Attribute Name New Va					
			11011 70			
16.59.70.0\labm1lt21	Windows	DiscoveredOsName	Windows 2003			
 I 6.59.70.0Vabm1t21 I 6.59.70.0Vabm1t21 	Windows Windows	DiscoveredOsName DiscoveredOsVersion	Windows 2003			
Ile 159.70.0Vabm1tt21 Ile 159.70.0Vabm1tt21 Ile 16.59.70.0Vabm1tt21 Ile 16.59.70.0Vabm1tt21	Windows Windows Windows	DiscoveredOsName DiscoveredOsVersion Host Operating System Installation type	Windows 2003 5.2.3790 Server Enterprise			
 □ 16.59.70.0\abm1t21 □ 16.59.70.0\abm1t21 □ 16.59.70.0\abm1t21 □ 16.59.70.0\abm1t21 □ 16.59.70.0\abm1t21 	Windows Windows Windows Windows	DiscoveredOsName DiscoveredOsVersion Host Operating System Installation type Host Operating System Release	Windows 2003 5.2.3790 Server Enterprise 3790			
 □ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21 	Windows Windows Windows Windows Windows	DiscoveredOsName DiscoveredOsVersion Host Operating System Installation type Host Operating System Release Windows Service Pack	Windows 2003 ▲ 5.2.3790 Server Enterprise 3790 2.0			
□ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21	Windows Windows Windows Windows Windows Windows	DiscoveredOsName DiscoveredOsVersion Host Operating System Installation type Host Operating System Release Windows Service Pack Host is Desktop	Windows 2003 5.2.3790 Server Enterprise 3790 2.0 False			
□ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.70.0Vabm1t21 □ 16.59.60.0Vvmbto16	Windows Windows Windows Windows Windows Windows Windows	DiscoveredOsName DiscoveredOsVersion Host Operating System Installation type Host Operating System Release Windows Service Pack Host is Desktop MemorySize	Windows 2003 5.2.3790 Server Enterprise 3790 2.0 False 2,048			

利用士	[モデリング] > [レポート] を選択します。 [カスタム レポート] 表示枠で,次のいずれかを行います。
л 法	• [新規レポートの作成] ** ボタンをクリックし, [変更レポートを表示]を選択します。
	• [変更]から次を行います。
	■ [変更レポートを表示]をダブルクリックする
	■ [変更レポートを表示]を右クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	■ [変更レポートを表示]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
重要	CI プロパティが「管理対象」とマークされている CI のみがレポートに表示されます。詳細については, 381ページ「[属性の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
情 報	[変更レポートを表示]の表示内容:
	• 該当のビューにのみ存在するCIの変更。
	 選択した CI, および, [変更レポートのリンク名] インフラストラクチャ設定で指定した関係によって関連付けられている CI のすべての子 CI で発生した変更。この設定の標準設定値は,空の値(managed_relationship)であり, [Not Tracked in History]としてマーキングされていないすべての関係属性の変更を追跡できます。 生成されるレポートに表示される CI を変更するには, [マネージャ]>[管理]>[インフラストラクチャ設定]をクリックし,次の設定を編集します。
	「変更レポートのリンク名]を選択し、選択した計算済みの関係によってリンクされる CIを取得します。関係の名前の設定値を、CIタイプ・マネージャで選択した関係の [詳細]ページにある[名前]ボックス([表示名]ボックスではない)に表示されるとおりに 変更します。詳細については、387ページ「[詳細]ページ」を参照してください。
	■ [変更レポートのリンク修飾子]を選択し,修飾子で定義されているCIを取得します。設定の値を必要な修飾子の名前に変更します。修飾子の詳細については,391ページ「[修飾子]ページ」を参照してください。
	 CI に追加または削除された Composition 関係のある CI。
関 連 タ スク	278ページ「カスタム・レポートの生成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要 素	詳細
<ツ— ル バ—>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」 を参照してください。
開始 日付	レポートの開始日時を設定します。
終了	レポートの終了日時を設定します。

UI 要 素	詳細
日付	
問 問 囲	変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって [開始日付]および[終了日付]ボックスに自動的に表示されます。
	注 :[カスタム]を選択すれば, [開始日付] および[終了日付] ボックスの開始日付と終了 日付を手動で設定できます。
ビュー	変更を確認するビューを選択します。[CI/ビューの選択]ダイアログ・ボックスを開きます。 詳細については、110ページ「CIセレクタでの作業」を参照してください。

[CI変更]タブ

[CI 変更] タブの詳細については、293ページ「[CI 変更] タブ」を参照してください。

[関係の変更]タブ

[関係の変更]タブの詳細については、294ページ「[関係の変更]タブ」を参照してください。

VMware ホスト・レポート

このレポートには、VMware ホスト(VMware ESX サーバ)および ESX サーバ上 にホストされた VMware 仮想 マシンについての情報 が示されます。

🖺 VMware Host Report1* 🛛					
💾 🛅 🐚 📼 🗐 🖙 👻 🚰 Show Clinstances of: 🛛 Windows (4) 💿 🗶 🖅 🥰 🛄 😂 🔍					
<u>vwmare_hosts</u> ⇒ ontario1	<u>vwmare_hosts</u> ⇒ ontario1				
Device	VM Name	VM Ope	VM UUID	VM Status	
📇 administ-831954	win2k3-french		500c4e02-f4b2-3602-9792-e615c48517a2	poweredOn	
📇 jacky-win-2k3	win2k3-xj		4239b2dd-4add-3e76-d99f-97a8e2d0620a	poweredOn	
📇 hpadmin-8169f3d	win2k3-german		564d9426-96a7-4d72-5b3a-c7b7d515d80d	poweredOn	
jacky-win-2k3	win2k3-zxy		500c4173-192c-d823-db37-ad83e1daf747	poweredOn	

利用·	[マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で, 次のい ずれかを行います。
万 法	• [VMware ホスト レポート]を右 クリックし, [新規レポートの作成]を選択する。
	• [新規レポートの作成] ** ボタンをクリックし, [VMware ホスト レポート]を選択する。
	• [VMware ホスト レポート]をダブルクリックする。
	• [VMware ホスト レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグする。
重要情報	レポートのトップ・レベルには、システムで検出された各 VMware ホストについての情報が表示されます。 [仮想マシン数]カラムの数字をクリックすると、次のレイヤにドリルダウンし、当該ホストの VMware 仮想マシンすべてについての詳細情報が表示されます。
τıx	[カラムの選択] ボタン 🔐 を使用して, レポートに表示 する属性を選択します。
関 連 タ スク	278ページ「カスタム・レポートの生成」
スク	

UI 要素	詳細
<現在位置 表示リスト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフの最上 部に横方向に表示されます。
	注:現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。
<ツールバー>	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。

VMware 仮想センター・レポート

このレポートには、単一のリソース論理プールとして実行される物理サーバ(VM ホスト)および仮想マシン(VM)を管理する仮想センタに関する情報が示されます。

🕅 VMware Virtuaenter Report1* 🏾							
	📔 🗟 👘 💷 🗐 🖙 👻 🗲 🔚 Show Clinstances of: 🛛 vare ESX Server (4) 💌 💥 ៅ 🤪 🔣 👫 🔍						
virtu	<u>virtual centers</u> ⇒ nile						
	Device	Server	VM Count	Version	Platform	Model	
E to	aikal1	VMware ES⊠i	3	5.0.0.469512	baremetal_hypervisor	hp workstation xw8200	
🗐 h	uron1	VMware ESX	<u>6</u>	3.5.0.153875	baremetal_hypervisor	hp workstation xw8200	
	ntario1	VMware ESX	<u>4</u>	3.5.0.153875	baremetal_hypervisor	hp workstation xw8200	
📄 n	nichgan1	VMware ESX	<u>6</u>	3.5.0.153875	baremetal_hypervisor	hp workstation xw8200	
利用方法	 利 [マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。[カスタムレポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。 「VMware 仮想センターレポート]を右クリックし、[新規レポートの作成]を選択する。 「新規レポートの作成] ** ボタンをクリックし、[VMware 仮想センターレポート]を選択する。 「VMware 仮想センターレポート]をダブルクリックする。 [VMware 仮想センターレポート]を選択し、右表示枠にドラッグする。 						
重要情報	 レポートのトップ・レベルには、仮想センタについての情報が表示されます。[VMware ホスト数]カラムの数字をクリックすると、次のレイヤにドリルダウンし、当該仮想センタ内のVMware ホストそれぞれに関する情報が表示されます。 第2レイヤで[仮想マシン数]カラムの数字をクリックすると、次のレイヤにドリルダウンし、当該ホストのVMware 仮想マシンすべてについての詳細情報を表示できます。 [カラムの選択]ボタン ひを使用して、レポートに表示する属性を選択します。 						
関連 タ スク	278ページ	「カスタム・レポ	ートの生成」				

UI 要素	詳細
<現在位置 表示リスト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフの最上 部に横方向に表示されます。
	注:現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。
<ツールバー>	詳細については、352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。

ゾーンベースのディスカバリ・エラー・レポート

このレポートでは,不正な資格情報など,選択した管理ゾーンでのアクティビティ実行時にデータ・フロー管理で発生する特定の問題を検出できます。

利用方法	[モデリング] > [レポート]を選択します。 [カスタムレポート]表示枠で,次のいずれ かを行います。
	• [新規レポートの作成] ^{**} ボタンをクリックし, [ゾーンベースのディスカバリエ ラー レポート]を選択します。
	• [ディスカバリ]から次のことを行います。
	[ゾーンベースのディスカバリエラーレポート]をダブルクリックする。
	■ [ゾーンベースのディスカバリ エラー レポート]を右 クリックし, [新規レポートの 作成]を選択する。
	■ [ゾーンベースのディスカバリエラー レポート]を選択し、 右表示枠にドラッグ する。
重要情報	• 表示するカラムを選択には、 [カラムの選択] ^{IIII} ボタンをクリックします。
重要情報	 表示するカラムを選択には、[カラムの選択] ¹ ボタンをクリックします。 カラムを非表示にするには、カラムのヘッダを右クリックして[カラムを削除]を選択します。
重要情報	 表示するカラムを選択には、[カラムの選択] ボタンをクリックします。 カラムを非表示にするには、カラムのヘッダを右クリックして[カラムを削除]を選択します。 空のカラムを非表示にするには、ヘッダを右クリックして[空のカラムを削除]を選択します。
重要情報	 表示するカラムを選択には、[カラムの選択] ボタンをクリックします。 カラムを非表示にするには、カラムのヘッダを右クリックして[カラムを削除]を選択します。 空のカラムを非表示にするには、ヘッダを右クリックして[空のカラムを削除]を選択します。 カラムの順序を変更するには、カラム・ヘッダをドラッグ・アンド・ドロップします。
重要情報 関連情報	 表示するカラムを選択には、[カラムの選択] ボタンをクリックします。 カラムを非表示にするには、カラムのヘッダを右クリックして[カラムを削除]を選択します。 空のカラムを非表示にするには、ヘッダを右クリックして[空のカラムを削除]を選択します。 カラムの順序を変更するには、カラム・ヘッダをドラッグ・アンド・ドロップします。 「[ディスカバリステータス]表示枠」(『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』)

UI 要 素	詳細
シーズ	詳細については, 352ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。

UI 要 素	詳細
管理	エラーを表示する管理ゾーンを選択します。すべての管理ゾーンを選択するか、特定の管
ゾーン	理ゾーンを選択することが可能です。
生成	クリックして、 レポートを生成します。
重大	表示するエラーのタイプを選択します。エラーの定義については、『HP Universal CMDB
度	開発者向け参照情報ガイド』の「エラーの重大度レベル」を参照してください。
時間	エラーを表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって
範囲	[開始日付]および[終了日付]ボックスに自動的に表示されます。
	注: 手動で[開始日付]および[終了日付]の値をカスタマイズするには、 [時間範囲]一 覧からカスタムを選択します。

生成されるレポートには、次の要素が含まれています。

UI 要素	詳細
CI タイプ	トリガ CI の CIT です。
エラー・メッセージ	詳細なエラー・メッセージ。
Error Summary	エラーの要約。
ジョブ	エラーがレポートされているジョブ。
プローブ	エラーをレポートした Data Flow Probe。
関連 IP	トリガ CI に関連することが認識されている IP。
Related Node	トリガ CI に関連するノード。
重大度	エラーの重大度のレベル(警告, エラー, 致命的エラー)。
Time Error Reported	エラーがレポートされた時間。
トリガ CI	エラーがレポートされたトリガ CI。

ツールバー・オプション

本項では、[レポート] 表示枠のツールバー・オプションについて説明します。

UI要素	詳細
😭 レポートのパラメータ	レポートに対して定義されたパラメータを表示します。
	レポートを保存:選択したレポートを保存します。
1	レポート・プロパティ[レポートのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開くと、レポートのタイトル、サブタイトル、形式を設定できます。

UI要素	詳細
٩	スケジュールされたレポート :[スケジュールされたレポート]ダイアログ・ボック スを開くと、次のジョブを定義できます。
	• レポート生成のスケジュール
	 レポートを送信する1つ以上の形式と、レポートの受取人を指定します。
	 ジョブの繰り返しの指定
	[スケジュールされたレポート] ダイアログ・ボックスの詳細については, 341 ページ「[スナップショットをReport/スケジュールする] ダイアログ・ボックス」 を参 照してください。
	注 : このオプションは, レポートを生成する前または保存したレポートを開くと きにのみ使用できます。
(スケジュールされたレポート ジョブを表示 :[ジョブリスト]ダイアログ・ボックス が開きます。詳細については、323ページ「[ジョブリスト]ダイアログ・ボックス」 を参照してください。
	メールを送信 :[メールを送信] ダイアログ・ボックスが開きます。 さまざまな形 式で生成されたレポートまたはダイレクト・リンクとして生成されたレポートを 含む電子メールを送信できます。 さまざまな形式の詳細については, 352 ページ「ツールバー・オプション」 を参照してください。
	添付ファイルとして電子メール受信者に送信される生成されたレポートの 形式を1つ以上選択します。
	注:必須フィールドにはアスタリスク(*)が付いています。
9	アーカイブ・レポート :レポート結果をデータベースに保存できます。レポート
	がアーカイブされたら, 望 ボタンがレポート名の横に表示されます。
	注 :トポロジ・レポートおよびゴールド・マスタ・レポートでのみ有効になりま す。
69	ダイレクト リンクの生成 :選択したレポートのサーバの特定の場所へのダイ レクト・リンクまたは特定の形式でエクスポートしたデータへのダイレクト・リ ンクを作成します。
}	レポートのエクスポート。
	レポートのエクスポートをプレビューする形 式を選 択 できます。 次 のオプション を使 用 できます。
	 CSV:レポートのデータは、カンマで区切られた値(CSV)のテキスト・ファイル形式に設定されます。これは、スプレッドシードで表示できます。
	注:CSV形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ(,)を区切り文字として定義する必要があります。Windowsでは、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの[地域のオプション]を開いて、[数値]タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linuxでは、CSV ファイルを開くアプリケーション

UI 要素	詳細
	で区切り文字を指定できます。
	• PDF:レポートのデータは, PDF形式でエクスポートされます。
	注: PDF にエクスポートする場合,レポートが有効 <i>と</i> なるよう,常識的 な範囲の表示列数を選択します。
	• XLS. レポートのデータは、スプレッドシートに表示できる.xls(Excel)ファ イル形式に整形されます。
	• XML:レポートのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして 整形 されます。
	ヒント :HTML コードをレポートから抽出するには,次の手順を実行します。
	■ ファイルをHTML エディタで開きます。
	■ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーする。
\$	[テナントを割り当て]をクリックして, [テナントを割り当て]ダイアログ・ボックスを開き,選択したカスタム・レポートにテナントを割り当てます。
	注:
	 このオプションは保存したレポートでのみ使用できます。
	 このオプションは、マルチテナンシが有効になっている場合にのみ利用できます。
2	[セキュリティを管理]をクリックして、レポートの権限を特定のロールまたはリ ソース・グループまたはリソース・グループに割り当てます。
	注:このオプションは保存したレポートでのみ使用できます。
📊 棒グラフ	棒 グラフ:生成されたレポートが棒グラフとして表示されます。
🌍 円グラフ	円グラフ :生成されたレポートが円グラフとして表示されます。
Ⅲ 〒−ブル	テーブル :生成されたレポートがテーブル形式で表示されます。
िम	短いラベルを表示:グラフのラベルの情報の最大化/最小化が状態が切り 替わります。
	注:このオプションは円 グラフでのみ使用できます。
	凡例を表示 : グラフのラ凡例の表示 / 非表示が状態が切り替わります。
	注 :このオプションは円 グラフでのみ使用できます。
*	スライス グラフ: 円 グラフのセグメント が切り離されている状態と切り離されていない状態 が切り替わります。
	注 :このオプションは円 グラフでのみ使用できます。

UI要素	詳細
1	すべてを展開 :ツリー構造が展開されます。
5	すべてを折りたたむ :ツリー構造が折りたたまれます。
×	CMDB から削除 :選択した CI が CMDB から削除されます。
	選択した CIの[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスが開きます。
	更新:レポート・ツリーが更新されます。
E	カラムの選択:レポートに表示するカラムを選択します。詳細について は、438ページ「[カラムの選択]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
1	カラム・コンテンツの並 ベ替え :選択したカラム・コンテンツの並 べ替え順を 設定できます。
Q	検索:[検索]ユーティリティの表示/非表示が切り替わります。
	フレーズの次回発生を検索/フレーズの前回発生を検索:[検索]フィール ドに入力した文字列の次または前の検索結果に移動できます。
	フレーズのすべての発生をハイライト表示:[検索] フィールドに入力した文字列に一致する, CI ツリー内のすべての項目が強調表示されます。
😓 生成 🌒	レポートを生成:選択したレポートを生成できます。
9 生成	注 : このボタンは, レポート・パラメータを定義するまでは無効になっていま す。
<現在位置表示リス ト>	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。 グラフ の最上部に横方向に表示されます。
	注:現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。
<生成されたレポー ト>	生成されたアクティブなレポートが表示されます。
検索	[検索] フィールドに検索名または検索名の一部を入力して、リスト内の CIを検索します。

第10章

影響分析マネージャ

本章の内容

影響分析マネージャの概要	356
影響 ルールの定義 - ワークフロー	357
影響分析マネージャのユーザ・インタフェース	.359

影響分析マネージャの概要

影響分析マネージャでは, IT インフラストラクチャにおけるコンポーネント間の相互依存関係を定義 して, インフラストラクチャの変更(新しいソフトウェアのインストールやアップグレードなど)がシステムにど のように影響するかをシミュレートできます。

TQL クエリに基づいて影響ルールを作成すると、問題の真の原因とそのビジネス・インパクトを究明できます。 定義する各影響ルールは、個別の影響分析 TQL クエリに関連付けられます。 TQL クエリの詳細については、17ページ「トポロジ・クエリ言語(TQL)」 を参照してください。

影響ルールを定義して, 複数の影響分析クエリ・ノード間の因果関係を指定します。1つのクエリ・ ノードをトリガすなわちシステムに加える変更を示すクエリ・ノードとして, 別のクエリ・ノードをその影響 を受けるものとして定義します。因果関係が確立されると, 影響分析マネージャによって, 根本原 因クエリ・ノードで行われる変更の影響を究明できます。

次に、IT ユニバース・マネージャで影響ルールを実行し、変更がシステムに与える影響をシミュレート して、変更の根本原因を検出できます(詳細については、194ページ「[影響分析を実行]ダイアロ グ・ボックス」を参照してください)。これで、アクション、更新、新規デプロイメント、またはサービス配信 障害の関与の可能性を適宜に評価して処理できます。

影響を受ける CI での変更シミュレーションによって, CI のマップ・ステータスが変化 する可能性があり ます。これは CI のシンボルにステータス・アイコンを追加することで明らかになります。トポロジ・マップに は、トリガ CI のステータスに加えて, その影響を受ける CI の全ステータスが表示されます。それぞれの 色は異なるステータスを示します。

ステータス・アイコンとそれらを示す色の詳細については、198ページ「[影響を表示]表示枠」を参照 してください。

また、次の情報を表示するレポートを作成できます。

- システムで変更の影響を受けるCI。
- トリガ CI(システムに加える変更を示す CI)。
- 特定のビジネス・サービスに属するCI。

影響ルールの定義 - ワークフロー

本項では、「CPU動作の変化が、接続されているノードに影響を与える」という影響ルールを定義 する方法について説明します。

本項の内容

- 357ページ「影響分析 TQL クエリの作成」
- 357ページ「影響ルールの定義」
- 1. 影響分析 TQL クエリの作成

影響分析 TQL クエリを作成するには、影響分析 TQL を作成し、次にクエリを定義する TQL クエリ・ノードと関係を追加する必要があります。

[マネージャ]>[モデリング]>[影響分析マネージャ]を選択して,影響分析マネージャを開きます。影響分析 TQL クエリの作成方法の詳細については,368ページ「新規影響ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存ウィザード」を参照してください。クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については,25ページ「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

影響分析 TQL クエリの例:

この影響分析 TQL クエリでは, CPU とノードを Composition 関係 でリンクします。 TQL クエリ結果は, 矢印の方向に適合する必要があります。



注:影響分析 TQL クエリはー 定の検証制限を受けます。詳細については,80ページ「トラ ブルシューティングおよび制限事項」を参照してください。

2. 影響ルールの定義

影響 ルールを定義 するときは、 クエリ・ノード間 で必須の因果関係を指定 する必要 があります。1 つのクエリ・ノードをトリガすなわちシステムに加える変更を示すクエリ・ノードとして、 別のクエリ・ ノードをその影響を受けるものとして定義します。

トリガ・クエリ・ノードとして定義するクエリ・ノードを右クリックし, [影響を受けるものを定義]を選択して, [影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックスを開きます。トリガ・クエリ・ノードの影響を受けるクエリ・ノードを選択します。次に, [追加]ボタンをクリックして, [影響ルール定義]ダイアログ・ボックスを開き, 影響を受けるクエリ・ノードを定義する条件を設定します。影響ルールを定義する方法の詳細については, 367ページ「[影響ルール定義]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

注:影響ルール定義の[変更]状態オプションは影響分析には関係しなくなりました。サポートされる状態は[操作]のみです。

影響ルールの例:

[影響ルール定義]ダイアログ・ボックスの[条件]領域で,システムの変更シミュレーションが 起動される条件を定義します。ダイアログ・ボックスの下部で,影響を受けるクエリ・ノードに 対する影響の重要度を定義します。

この例の状態の影響ルールでは、CPU動作が標準状態でないときにノードに影響があります。トリガの重要度が100%に設定されているため、ノードの重大度はCPUの重大度と同じになります。この重大度は影響分析の実行時に決まります。

≗影響ルー)	
詳細:	
条件	
状態:	operation
演算子:	等価
値の比較:	Normal
対象範囲	
◉ 任意	
○ † ~ て	
〇 範囲	0 % - 100 %
○固定され	か電大度: Critical I
◎ 重大度は	トリガの重大度との相対値 (%): 100
	OK キャンセル

結果のTQL クエリでは、トリガ・クエリ・ノードとして定義されたクエリ・ノードの横に上向き矢印が表示され、影響を受けるクエリ・ノードとして定義されたクエリ・ノードの横に下向き矢印が表示されます。



注:影響分析の結果を取得するには、IT ユニバース・マネージャで影響ルールを実行する 必要があります。詳細については、164ページ「影響分析結果の取得 - シナリオ」を参照し てください。

影響分析マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容

- 359ページ「[詳細]ダイアログ・ボックス」
- 359ページ「[影響分析マネージャ]ページ」
- 366ページ「[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックス」
- 367ページ「[影響ルール定義]ダイアログ・ボックス」
- 368ページ「新規影響ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存ウィザード」

[詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、 [影響ルール定義]ダイアログ・ボックスで作成した新しい影響ルールが表示されます。

利用方	影響分析マネージャの[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックスで [次へ]をク
法	リックします。
関連タ スク	357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
詳細	新しい影響ルールの詳細です。
状態	[影響ルール定義]ダイアログ・ボックスの[状態]リストで選択したカテゴリです。

[影響分析マネージャ]ページ

このページでは、影響ルールを定義できます。

利用方法	[ナビゲーション]メニューで[影響分析マネージャ]を選択するか, [マネージャ]>[モデリン グ]>[影響分析マネージャ]を選択します。
重要情報	影響分析トリガとして機能するクエリ・ノードを選択するときは,一定の制限に従う必要があります。詳細については,80ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」を参照してください。
関 連 タ スク	357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」
関 連 情 報	356ページ「影響分析マネージャの概要」

[影響ルール]表示枠

この領域には、定義済みフォルダおよび影響ルールの階層ツリー構造が表示されます。各影響ルールは TQL クエリと関連しています。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
1	新しいフォルダを作成します。
*	影響ルールを作成します。[新規影響ルール]ウィザードが開きます。
×	選択したフォルダまたは影響ルールを削除します。
	ほかのユーザによって変更された可能性がある階層ツリー構造のデータ内容が更 新されます。
	(新規影響ルールを作成した場合,または既存のルールを変更した場合にのみ利用可能です)影響ルールを CMDB に保存します。
	[影響ルールのプロパティ]ウィザードを開きます。 ルールの説明を変更できます。
2	[テナントを割り当て]をクリックすると、 [テナントを割り当て]ダイアログ・ボックスが開
モデリング・ガイド

第10章:影響分析マネージャ

UI 要素	詳細
	き,影響ファイルにテナントを割り当てることができます。
	注: このボタンは、マルチテナンシーが有効な場合にのみ利用できます。
2	[セキュリティを管理]をクリックして、選択した影響ルールを特定のロールまたはリ ソース・グループに割り当てます。
Q	選択した影響ルールの結果のプレビューを生成します。
	影響ルールを XML ファイルにエクスポートします。
	保存された影響ルールを含むXML ファイルを影響分析マネージャにインポートします。
	フォルダを表します。
9	影響ルールを表します。
<影響ルー	既存のテンプレートがソリー形式で表示されます。
ル・ツリー>	注 : ツリーには影響 ルールのみが表示されます。 影響分析タイプの TQL クエリ(モデ リング・スタジオで作成される) は表示されません。

フォルダまたは影響ルールを右クリックすると、次のオプションを使用できます。

UI要素	詳細
テナントを割り 当て	[テナントを割り当て]ダイアログ・ボックスが開き,選択した影響ファイルにテナントを割り当てることができます。
	注:このオプションは、マルチテナンシーの有効時にのみ使用できます。
削除	選択したフォルダまたは影響ルールを削除します。
XML ヘエクス ポート	標準の[名前を付けて保存]ダイアログ・ボックスが表示され,影響ルールをXML スクリプトとして保存できます。このオプションは,関連するTQL クエリも再配置さ れるという条件で,ワークステーション間で影響ルールを移動するのに使用できま す。
XML からイン ポート	保存された影響ルールを含む XML ファイルを影響分析マネージャにインポートします。
セキュリティを 管理	[セキュリティを管理]をクリックして,選択した影響ルールを特定のロールまたはリ ソース・グループに割り当てます。
新規作成	影響ルールを作成します。[新規影響ルール]ウィザードが開きます。
新規フォルダ	新しいフォルダを作成します。
プレビュー	選択した影響ルールの結果のプレビューを生成します。

UI要素	詳細
プロパティ	[影響ルールのプロパティ]ウィザードを開きます。 ルールの説明を変更できます。
フォルダの名前 の変更	フォルダ名を変更します。
保存	(新規影響ルールを作成した場合, または既存のルールを変更した場合にの み利用可能です)影響ルールを CMDB に保存します。
名前を付けて 保存	[影響ルールとして名前を付けて保存]ウィザードを表示し,既存のクエリをベースにして新しい影響ルールを作成できます。

編集表示枠

この領域には選択した影響ルールが表示されます。 影響ルールは TQL クエリで定義したクエリ・ノードと、そのクエリ・ノード間の関係で構成されています。

重要情報	 <p< th=""></p<>
関 連 タ スク	25ページ「TQL クエリへのクエリ・ノード と関 係 の追 加 」
関連情報	影響分析トリガとして機能するクエリ・ノードを選択するときは、一定の制限に従う必要があ ります。詳細については、80ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」を参照してくださ い。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
+	トリガ・クエリ・ノードを示します。トリガ・クエリ・ノードのアイコンの右にあります。
+	影響を受けるクエリ・ノードを示します。トリガ・クエリ・ノードのアイコンの右にあり ます。
Ţ	影響を受けるクエリ・ノードとトリガ・クエリ・ノードの両方であるクエリ・ノードを示します。
<メイン・メ ニュー>	詳細については、138ページ「メイン・メニュー」を参照してください。
<クエリノード>	TQL クエリの構築元となるコンポーネントです。
<関係>	2 つのクエリ・ノード間の関係を定義するエンティティです。

UI要素	詳細
<ショートカット・ メニュー・オプショ ン>	詳細については, 32ページ「ショートカット・メニュー・オプション」 を参照してください。
<ツールバー>	詳細については, 141ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
<ツールチップ>	クエリ・ノードまたは関係の上にカーソルを置いたままにすると, そのノードまたは 関係のツールチップが表示されます。
	このツールチップには次の情報が含まれます。
	• 要素名: クエリ・ノードの名前です。
	 CI タイプ:CI タイプ・マネージャで定義されているクエリ・ノードの CIT です。 詳細については、372ページ「CI タイプ・マネージャ」を参照してください。
	 ・ 選択したクエリ・ノードと関係の定義:属性条件です。詳細については63 ページ「[クエリ・ノード / 関係のプロパティ]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	 トリガ・クエリ・ノードと影響を受けるクエリ・ノードの名前:これは、カーソルが置かれているクエリ・ノードがトリガ・クエリ・ノードである場合にのみ関係します。

CI タイプ・セレクタ

この領域には、CMDBにあるCIタイプの階層ツリー構造が表示されます。

重要	CI タイプ・セレクタは, エンリッチメント・マネージャ, 影響分析マネージャ, トリガ TQL エディタ に含まれています。
情報	TQL クエリを作成または変更するには、クエリ・ノードをクリックして編集表示枠にドラッグし、 ノード間の関係を定義します。変更が CMDB に保存されます。詳細については、25ページ 「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。
	注 :各 CIT の右側に, CMDB内の各 CIT のインスタンス数が表示されます。
関	• 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」
連 タ	• 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」
スク	 24ページ「TQL クエリの定義」
	• 213ページ「パターン・ビューの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
¢	[CI タイプをマップに追加]をクリックすると、選択した CI タイプが[編集]表示枠 に移動します。
Q	[更新]をクリックすると、 CI タイプ・ツリーが更新されます。

UI 要素	詳細
9	[検索]をクリックすると、入力した CI タイプが検索されます。
1	[すべてを展開]をクリックすると、CI タイプ・ツリー内のすべてのサブツリーが展開されます。
5	[すべてを折りたたむ]をクリックすると、CI タイプ・ツリー内のサブツリーが折りたたまれます。
<検索ウィンド ウ>	検索する CI タイプの名前または名前の一部を入力します。

ショートカット・メニュー・オプション

CI タイプ・セレクタでは、 CI タイプを右 クリックしたときに以下の要素を選択できます。

メニュー項 目	詳細
CI タイプ をマップに 追加	選択すると,選択した CI タイプが編集表示枠に追加されます。
CI タイプ の定義へ 移動	CIT マネージャ内の選択した CI タイプに直接移動します。
CIT イン スタンスを 表示	[CIT インスタンス]ウィンドウが開き,選択した CIT のすべてのインスタンスが表示され ます。詳細については,58ページ「[要素インスタンス]ダイアログ・ボックス」を参照して ください。

詳細表示枠

この領域には、選択したクエリ・ノードおよび関係のプロパティ、条件、およびカーディナリティが表示されます。

重要情報	[詳細]表示枠は、モデリング・スタジオ、インパクト・アナリシス・マネージャ、エ ンリッチメント・マネージャ、インプット・クエリ・エディタ、DFM のトリガ・クエリ・エ ディタの各マネージャとユーザ・インタフェースで、ウィンドウ下部に表示されま す。 データを含んでいるタブの横には、小さな緑色のインジケータ*が表示されま す。
関連タスク	 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」 24ページ「TQL クエリの定義」 213ページ「パターン・ビューの作成」 214ページ「テンプレートの作成」

• 215ページ「パースペクティブの作成」

UI要素	詳細
	ウィンドウの幅が狭くてすべてのタブが表示されない場合は, 左矢印または右 矢印を使って必要なタブに移動します。
•	[リストを表示する]をクリックすると,現在のモジュールで使用できるタブのリストが表示されます。このリストからタブを選択できます。
属性	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された属性条件が表示されます。詳 細については,65ページ「[属性]タブ」を参照してください。
カーディナリティ	カーディナリティは、関係のもう一方の端にあることが期待されるクエリ・ノードの数を定義します。たとえば、ノードとIPアドレスの関係でカーディナリティが1:3である場合,TQLクエリは1~3個のIPアドレスに接続されているノードのみを取得します。詳細については、67ページ「[カーディナリティ]タブ」を参照してください。
データソース	選択したクエリ・ノードのデータ・ソース・セットが表示されます。
	注 :このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
詳細	次の情報が表示されます。
	• CI タイプ/要素タイプ:選択したクエリ・ノード/関係のCITです。
	• 要素名 :クエリ・ノード/関係の名前です。 モデリング・スタジオにのみ表示されます。
	 クエリ結果に表示:緑色のチェック記号は、選択したクエリ・ノード/関係がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、表示されないことを示します。モデリング・スタジオでは、[はい]または[いいえ]という語によって示されます。
	 サブタイプを含める:緑色のチェック記号は、選択した CI とその子の両方がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、選択した CI だけが表示されることを示します。この項目はモデリング・スタジオでは 表示されません。
編集	[編集]をクリックすると、選択したタブに対応するダイアログ・ボックスが開きます。
要素レイアウト	選択したクエリ・ノード/関係での選択属性が表示されます。クエリ結果に含めるために選択された属性が一覧表示されます([特定の属性]が属性条件として選択されている場合)。また、除外された属性と、属性で選択されたすべての修飾子も一覧表示されます。詳細については、71ページ「[要素レイアウト]タブ」を参照してください。
	注 :このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
要素タイプ	クエリ・ノード または関係に対して定義されたサブタイプ条件が表示されま

UI要素	詳細
	す。詳細については, 69ページ「[要素タイプ]タブ」を参照してください。
	注 :このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
エンリッチメント ルール	選択したクエリ・ノード/関係に対して定義されたエンリッチメント・ルールが表示されます。エンリッチメント・ルールを使って CI の属性を更新する場合は、必要に応じて[編集]をクリックして[クエリ・ノード/関係の定義]ダイアログ・ボックスを開き、ルールを編集します。詳細については、425ページ「[クエリノード/関係の定義]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
影響を受けるクエ リノード	選択したトリカ・クエリ・ノートで発生する変更の影響を受けるクエリ・ノートか 表示されます。必要な場合は、[編集]をクリックして、[影響を受けるクエリ ノード]ダイアログ・ボックスを開いて変更できます。詳細については、366ペー ジ「[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	注:このタブは影響分析マネージャにのみ表示されます。
修飾子	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された修飾子条件が表示されます。 詳細については、73ページ「[修飾子]タブ」を参照してください。
	注 :このタブは, エンリッチメント・マネージャと影響分析マネージャにのみ表示 されます。
選択された ID	TQL クエリ結果に含める必要があるものを定義するために使用される要素インスタンスが表示されます。詳細については、75ページ「[ID]タブ」を参照してください。

[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリでトリガ影響分析クエリ・ノードになるクエリ・ノードと、システム で発生する変更の影響を受けるクエリ・ノードを定義できます。

利用方法	トリガとして機能するクエリ・ノードまたは関係を右クリックして, [影響を受けるものを定義]を 選択します。 [影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックスが開いて, TQL クエリのクエリ・ ノードが表示されます。
重要情報	TQL クエリを作成する前に、クエリでトリガ影響分析クエリ・ノードとなるクエリ・ノードと、変更の影響を受けるクエリ・ノードを事前に知っておく必要があります。定義はここで行います。
関連 タ スク	357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」

UI要素	詳細
[影響を受けるクエリ	影響分析クエリ・ノードのリストを影響ルールに含めます。トリガ・クエリ・
ノード]表示枠	ノードの影響を受けるクエリ・ノードを選択します。

[影響ルール定義]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、影響を受けるクエリ・ノードを定義する条件の設定、トリガ条件の範囲の定義、影響の重大度の定義ができます。

利用方法	影響分析マネージャで, [詳細]ダイアログ・ボックスの[追加]をクリックします。
角画	 [条件]領域で、影響を受けるクエリ・ノードを定義する条件を設定します。この条件が満たされると、システムの変更シミュレーションが起動されます。
情 報	たとえば, クエリ・ノードの動作状態が標準でないことを示す影響分析条件を定義できま す。 クエリ・ノード・インスタンスの動作状態が変化して標準でなくなると, 条件が満たさ れ, システムの変更シミュレーションが起動されます。
	 [対象範囲]領域では、どのくらいのインスタンスのトリガ・クエリ・ノードがシステムの変更を 起動する条件を満たすか定義します。
	トリガ条 件 は, トリガ・クエリ・ノード の 1 つのインスタンス, 一 定 割 合 のトリガ・インスタン ス, またはすべてのインスタンスに適 用 できます。
	たとえば, システムのノード が少 なくとも 10% ダウンしたときに予 測 される影 響 を定 義 でき ます。
	 ダイアログ・ボックス下部で、影響分析の影響の重要度を定義します。
関	357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」.
連 タ スク	

UI 要素	詳細
すべて	すべてのインスタンスが条件を満たす必要があります。
任意	1つ以上のインスタンスが条件を満たす必要があります。
詳細	定義する影響ルールの詳細です。
固定された 重大度	発生するすべてのシステム変更に対して一定の重要度を定義しておき、リストから 必要な重要度を選択します。
関数	[関数]([対象範囲]領域で[すべて]および[範囲]オプションを選択したときに表 示)を選択し, 範囲に含まれているすべてのトリガ・クエリ・ノード・インスタンスの重要 度の関数として, システム変更の重要度を定義します。 リストから, [平均]または

モデリング・ガイド

UI要素	詳細
	[最大]を選択します。
	たとえば, [平均]を選択すると, システム変更の重要度はすべてのトリガ・インスタン スの平均重要度になります。
演算子	必要な演算子を選択します。属性条件の定義で使用できる演算子のリストについては、36ページ「属性演算子の定義」を参照してください。
範囲	ー定割合のインスタンスがすべて,条件を満たす必要があります。たとえば,50%~100%の範囲を入力した場合,50%以上のインスタンスが条件を満たすと,変更が起動されます。
重大度は トリガの重 大度との相 対値(%)	[重大度はトリガの重大度との相対値(%)]([対象範囲]領域で[任意]オプション を選択すると表示)を選択して、トリガ・イベントの重要度に(パーセンテージとして) 関連する各システム変更の重要度を定義します。 与えられたボックスにパーセンテージを入力します。
状態	必要な状態を選択します。リストに表示される状態は、状態マネージャで定義した 状態です。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「状態マネー ジャ」を参照してください。
値の比較	必要な属性を選択します。

新規影響ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存 ウィザード

このウィザードでは、影響ルールを作成、変更できます。

利用方法	• 影響ルールを作成するには、[影響ルール]表示枠のどこかを右クリックして[新規作成]
	をクリックするか, [新規作成] ᢜ ボタンをクリックします。
	 既存の影響ルールを変更するには、「影響ルール」表示枠で影響ルールを右クリックして、「プロパティ」を選択します。
	• 既存のクエリに基づいて新しい影響ルールを作成するには、[影響ルール]表示枠で影響ルールを右クリックして、[名前を付けて保存]を選択します。
重要情報	 影響ルールを作成した後で、TQL クエリに大きな変更を加えると、システムによってその ルールが削除されます。これらの変更は、根本原因クエリ・ノードまたは影響を受けるク エリノードの削除や、最小および最大関係定義の変更などです。詳細については、67 ページ「[カーディナリティ]タブ」を参照してください。
	• TQL クエリにクエリ・ノードを追加するなどの小さな変更では、ルールは削除されません。
	 影響ルールの基礎となる影響分析 TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、80ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」を参照してください。TQL クエリが有効でない場合、影響ルールの作成には使用できません。
関 連	357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」.

タ スク	
さず	「新規影響ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存ウィザード」には、次の ページが含まれています。
ト・ マツ プ	369ページ「[影響ルールのー 般属性]ページ」> 370ページ「[影響ルールベースクエリ] ペー ジ」> 371ページ「[影響ルールグループ] ページ」

[影響ルールの一般属性]ページ

このウィザード・ページでは、影響ルールの一意の名前と詳細を入力できます。

重要情報	 影響ルールの基礎となる影響分析 TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、80ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」を参照してください。TQL クエリが有効でない場合、影響ルールの作成には使用できません。 TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、368ページ「新規影響ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存ウィザード」を参照してください。 標準設定では、このウィザードは[ようこそ]ページを表示するように設定されています。 ユーザ・プリファレンスを変更して、[ようこそ]ページを表示しないようにできます。詳細については、80ページ「[ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウザドマプ	368ページ「新規影響ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存ウィザード」 には、次のページが含まれています。 「[影響ルールのー般属性]ページ」>「[影響ルールベースクエリ]ページ」>「[影響ルール グループ]ページ」
関 連 情 報	151ページ「IT ユニバース マネージャ」

UI 要素	詳細
レレの諸	影響ルールの詳細を入力します(任意指定)。
ル ー ル名	影響ルールの一意の名前を入力します。
	ルール名には、\/:"<> %?の文字を含むことができません。\/:"<> %?.最後の文字 を空白スペースにすることはできません。
	注 :影響ルール名が空の状態であるか、別の影響ルールで使用している名前が含まれているか、無効な文字が使用されている場合は、[次へ]および[完了]ボタンが使用不可になります。

[影響ルールベース クエリ] ページ

このウィザード・ページでは、影響クエリの基礎とする TQL クエリのプロパティを定義できます。既存のクエリを使用するか、新しいクエリを作成できます。

重 要 情 報	 影響ルールの基礎となる影響分析 TQL クエリはー 定の検証制限を受けます。詳細については、80ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」を参照してください。TQL クエリが有効でない場合、影響ルールの作成には使用できません。 TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、368ページ「新規影響ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存ウィザード」を参照してください。
ウィ ザー	「新規影響ルール/影響ルールのプロパティ/影響ルールとして保存ウィザード」には、次の ページが含まれています。
トマップ	「[影響ルールのー 般属性]ページ」> 「[影響ルール ベース クエリ] ページ」 >「[影響ルール グループ] ページ」
関連情	151ページ「IT ユニバース マネージャ」
報	

UI要素	詳細
新しいクエリの影 響 ルールに基づく	新しい TQL クエリを影響ルールのベースにする場合は、このチェック・ボックスを 選択します。 クエリ結果は、新しい TQL クエリに定義した属性に基づいたものになります。
既存のクエリの影 響ルールに基づく	既存の TQL クエリを影響ルールのベースにする場合は, このチェック・ボックス を選択します。必要な影響分析 TQL クエリをドロップダウン・リストから選択し ます。
ベース クエリ詳 細	TQL クエリの説明を入力します(任意指定)。
ベース クエリ名	影響分析 TQL クエリの一意の名前を入力します。
	[Base the Impact rule on an existing TQL]オプションを選択した場合, ルールの基礎とする影響分析 TQL クエリを選択します。
ベース クエリの優 先度	影響分析タイプのすべての TQL クエリは自動的に非アクティブに設定されるため, ここで選択する必要はありません。
現在の定義に基づいて新規クエリ	選択すると、影響ルールの定義に基づいて新しい TQL クエリが保存されます。
を保存	注 :このフィールドは,影響ルール・ウィザードにのみ表示されます。

[影響ルールグループ] ページ

このウィザード・ページでは、影響ルールを実行できる場所を定義できます。

重要情報	 影響ルールの基礎となる影響分析 TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、80ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」を参照してください。TQL クエリが有効でない場合、影響ルールの作成には使用できません。 TOL ATUK は後の変更の影響に関する重要な情報については、200%、ご「新規影」
	• 「QL ソエリ作 成 後 の 愛 更 の 影 音 に 関 9 る 里 安 な 情 報 に うい て は、308 ペーシー 新 規 影 響 ルール / 影 響 ルールのプロパティ / 影 響 ルールとして 保存 ウィザード 」 を参照してくださ い。
	 標準設定では、このウィザードは、このページで[次へ]をクリックすると[ウィザードの完了] ページを表示するよう設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、[ウィザードの 完了]ページを表示しないようにできます。詳細については、80ページ「[ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウィ	「[影響ルールグループ]ページ」には,次のページが含まれています。
サード・マッ	「[影響ルールのー 般属性]ページ」>「[影響ルールベースクエリ]ページ」>「 [影響ルール グループ]ページ」
プ	
関連情報	151ページ「IT ユニバース マネージャ」

UI 要素	詳細
UCMDB	IT ユニバース・マネージャで影響ルールを実行できるようにします。 詳細について は, 151ページ「IT ユニバース・マネージャの概要」 を参照してください。

第11章

CI タイプ・マネージャ

本章の内容

Cl タイプの概 要	
Cl タイプ属性	
Cl タイプの関係	
廃止 Cl タイプ	
システム・タイプ・マネージャ	
Cl タイプの作 成	
関係タイプの作成	
計算された関係タイプの作成	
リストと一覧の定義の作成	
列挙定義の作成 – ワークフロー	
CI タイプと関係の説明を表示	
CI タイプ・マネージャのユーザ・インタフェース	

HP Software-as-a-Serviceの顧客に対する注:CIタイプ・マネージャのデータは表示できますが、編集できません。

CI タイプの概要

構成アイテム(CI)によって, IT インフラストラクチャのハードウェア, ソフトウェア, サービス, ビジネス・プロセス, またはコンポーネントを表すことができます。同様のプロパティを持つCIは, 1つのCIタイプ (CIT)にグループ化されます。それぞれのCITには, CIと関連プロパティを作成するテンプレートがあります。

すべての CI は CI タイプに属する必要があります。 CIT の主なカテゴリは次のとおりです。

- Business Element: プロセスや組織グループなど、ビジネスの論理要素に対応するCIT。
- IT Process Record: IT インフラストラクチャで発生する変更に対応する CIT。
- モニタ:ビジネス環境から収集された入力測定値を処理するCIT。
- Location: デバイス,企業組織,または職務をサポートする人の場所に対応するCIT。
- Party:人または組織などのアクティブなエンティティに対応するCIT。
- Cl Collection: Cl の論理的な集合。

Infrastructure Element:ビジネス環境に導入された物理要素(ハードウェアとソフトウェア)に対応するCIT。

[CI タイプ] 表示枠には、CIT が前述のカテゴリの下にツリー構造で整列されます。[CI タイプ] 表示枠でツリーを展開すると、CI タイプ・モデルを参照できます。 左の表示枠で CIT を選択すると、ほかの CIT との潜在的な有効関係とともに、トポロジ・マップに表示されます。

また, ビジネス・ニーズに合わせて, 新しい CIT を定義することもできます。新しい CIT の定義の詳細 については, 386ページ「設定項目タイプ/関係/計算された関係の作成ウィザード」を参照してくだ さい。

CI タイプ属性

すべての CI タイプには、名前、説明、および標準設定値などを定義する属性があります。CI タイプ・ ツリーでほかの CIT の下にグループ化された CIT は、上位の CIT から属性を継承します。

新しい CI タイプを定義するときは、まず既存の CIT のリストから基本構成アイテム・タイプを選択しま す。新しい CIT は既存の CIT の属性を継承します。その後、新しい CIT の属性を設定できます。 既存の CIT の属性を編集するには、[CI タイプ]表示枠でツリーから CIT を選択し、トポロジ・マップの[属性]タブを選択します。 CIT 属性の詳細については、388ページ「[属性]ページ」を参照してくだ さい。

本項の内容

- 373ページ「CI タイプ識 別 メソッド」
- 373ページ「CIタイプの命名」

CI タイプ識 別 メソッド

作成されたすべての CI には,同じ CI タイプの異なるインスタンスを識別するために使用される自動 的に生成されるグローバル ID が与えられます。387ページ「[詳細]ページ」に説明されている方法 で,追加の識別メソッドも選択できます。

[Simple identification]オプションを選択する場合,キー属性として CIT の属性を1 つまたは複数 指定できます。キー属性は CIT の識別子として使用されます。CIT のインスタンスを定義する場 合, CIT のキー属性が当該タイプに属する CI の必須フィールドとなります。特定の CIT に必要なだ けのキー属性を割り当てることができます。新しい CIT を定義するとき、または既存の CIT を [Simple identification]に変更するときにキー属性を割り当てない場合、ウィザードの[修飾子] ページで ABSTRACT CLASS 修飾子を選択する必要があります。

その CIT のすべてのインスタンスのキー属性値が一意である場合は、既存の CIT のキー属性を変更 または削除できます。その CIT のすべてのインスタンスのキー属性値が一意である場合は、識別メ ソッドを[Simple Identification]に変更できます。選択した変更が同一のキー属性値を持つ CIT の複数のインスタンスを引き起こす場合、エラー・メッセージが CIT のインスタンスは結合されても、アク ションが許可されないことを示します。

識別メソッドを選択する場合, CIT のキー属性を定義することはできませんが, その親 CIT のキー属 性を保持します。これらのキー属性は, そのタイプの CI の必須フィールドであり, 削除できません。こ の識別メソッドでは, 選択した修飾子には制限はありません。

CI タイプの命名

HP Universal CMDB では, CMDB ベース・アプリケーションのエンティティ名 は次の表記規則に従います。

- CIT 属性の値: すべてのプリミティブ型がサポートされています(long, double, float, string など)。
- CIT 属性の値(string 型): すべての特殊文字がサポートされています。最大長は4,000文字で す。
- CIT 名: a~z, A~Z, 0-9, およびアンダースコア(_)のみの文字が許可されています。注:
 - 最初の文字を番号にすることはできません。
 - [名前]フィールドでは大文字/小文字を区別しますが,異なるCITに大文字/小文字の異なる同じ名前を使うことはできません。
 - 最大長は4,000文字です。
- CIT 属性名: a~z, A~Z, 0-9, およびアンダースコア(_)のみの文字が許可されています。注:
 - 最初の文字は、番号にすることができます。
 - [属性名]フィールドでは大文字/小文字を区別しません。
 - 最大長は4,000文字です。
- **CIT 属性の長さ:**1つのCIT 内にあるすべての属性値の全長は, Microsoft SQL Server の制限 のために8K バイトを超えられません。

CI タイプの関係

関係は、2つのCI間のリンクを定義します。関係はIT環境におけるエンティティ間の依存関係と接続を表します。[CIタイプ]表示枠のドロップダウン・ボックスで関係または計算された関係を選択すると、トポロジ・マップに、選択した関係でリンクされているCITの有効なインスタンスがすべて表示されます。計算された関係の詳細については、85ページ「計算された関係の使用」を参照してください。

CIT に定義したのと同じ属性が関係にも定義されます。キー属性も関係に割り当てることができますが、必須ではありません。新しい関係タイプの定義の詳細については、386ページ「設定項目タイプ/ 関係/計算された関係の作成ウィザード」を参照してください。

廃止 CI タイプ

今後のバージョンの製品で削除される予定のCIT および関係は,廃止 CIT として認識されます。このような CIT は,ユーザ・インタフェースでは取り消し線が引かれて表示されます。廃止 CIT にポイン タを合わせると,代替のCIT など,そのCIT に関する情報を含むツールチップが表示されます。

注: 取り消し線は、トポロジ・マップで14ポイント以上のフォント・サイズが選択されている場合のみ表示されます。

モデリング・スタジオの CIT ツリーには廃止 CIT が表示されますが,新規 TQL クエリやビューの作成で は使用しないことをお勧めします。廃止 CIT の代わりに,代替の CIT としてツールチップに表示されて いる CIT を使用してください。廃止 CIT は,用意済みのクエリおよびビューには表示されません。

削除予定のCIT 属性は, 廃止属性です。また, これらの属性は, ユーザ・インタフェースでは取り消し線が引かれて表示されます。

次の図は,廃止 CIT を含む TQL クエリを表しています。



システム・タイプ・マネージャ

システム・タイプ・マネージャでは, 属性タイプを定義する値の定義済みリストを作成できます。システム・タイプ・マネージャの詳細については, 403ページ「[システムタイプマネージャ] ダイアログ・ボックス」 を参照してください。

次の属性タイプを作成できます。

- **リスト**: 値の定義済みリスト(Location など)を作成できます。
- 列挙:値の定義済みリストを作成し、各値に色を割り当てることもできます。列挙は状態による 重要度値リストとして使用するように設計されています。詳細については、『HP Universal CMDB管理ガイド』の「状態マネージャ」を参照してください。

重要度リストは次の目的に利用します。

- IT ユニバース・マネージャで影響分析の結果を取得する。詳細については、151ページ「IT ユニ バースマネージャ」を参照してください。
- 影響ルールを作成する。詳細については、356ページ「影響分析マネージャ」を参照してください。

リストおよび列挙の値は次の目的に利用できます。

- CIT の属性を編集する。詳細については、375ページ「CI タイプの作成」を参照してください。
- TQL クエリ・ノードまたは関係の属性条件を定義する。詳細については、63ページ「[クエリ・ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

CI タイプの作成

このタスクでは, [構成アイテムタイプを作成]ウィザードを使って CIT を作成 する場合に従うプロセスを記述します。

本項の内容

- 376ページ「前提条件」
- 376ページ「CIタイプの定義」
- 376ページ「CIタイプの属性の設定」
- 376ページ「CIタイプへの修飾子の割り当て」

- 376ページ「CIタイプへのアイコンの割り当て」
- 376ページ「CIタイプ・メニューのカスタマイズ」
- 376ページ「CIタイプの標準設定ラベルの定義」
- 376ページ「- 致ルールの定義」

1. 前提条件

Cl タイプ・マネージャで, [Cl タイプ]表示枠のリスト・ボックスから[Cl タイプ]を選択します。次に, [新規作成] * を選択して[構成アイテムタイプを作成]ウィザードを起動します。

2. CIタイプの定義

新しい CI タイプの名前,説明,およびベースの構成アイテム・タイプを入力し,識別メソッドを選択します。詳細については,387ページ「[詳細]ページ」を参照してください。

3. CI タイプの属性の設定

新しい CI タイプの属性を編集します。詳細については、388ページ「[属性]ページ」を参照してください。

注: リストおよび列挙の定義は、システム・タイプ・マネージャで作成します。必要に応じて、追加のリストおよび列挙の定義を作成できます。詳細については、378ページ「リストと 一覧の定義の作成」を参照してください。

4. CIタイプへの修飾子の割り当て

新しい CI タイプの定義に修飾子を割り当てます。詳細については、391ページ「[修飾子] ページ」を参照してください。

5. CIタイプへのアイコンの割り当て

新しい CI タイプに割り当 てるアイコンを選択します。詳細については、393ページ「[アイコン] ページ」を参照してください。

6. CIタイプ・メニューのカスタマイズ

新しい CI タイプのショートカット・メニューに表示されるメニュー項目とコマンドを選択します。詳細 については、394ページ「[付属メニュー]ページ」を参照してください。

7. CIタイプの標準設定ラベルの定義

CI タイプ・ラベルに表示される属性を定義します。詳細については、396ページ「[デフォルトのラベル] ページ」を参照してください。

8. 一致ルールの定義

必要な場合,新しい CI タイプの一致ルールを定義します。詳細については、397ページ「[一致 ルール]ページ」を参照してください。

注: この手順は, HP Universal CMDB 設定マネージャを実行する顧客に対してのみ関 連します。

関係タイプの作成

このタスクでは, [関係を作成]ウィザードを使って関係タイプを作成する場合に従うプロセスを記述します。

本項の内容

- 377ページ「前提条件」
- 377ページ「関係の定義」
- 377ページ「関係の属性の設定」
- 377ページ「関係への修飾子の割り当て」
- 377ページ「関係メニューのカスタマイズ」
- 377ページ「関係の標準設定ラベルの定義」

1. 前提条件

Cl タイプ・マネージャで, [Cl タイプ]表示枠のリスト・ボックスから[関係]を選択します。次に, [新規作成] * を選択して[関係を作成] ウィザードを起動します。

2. 関係の定義

新しい関係の名前,説明,およびベースのCIタイプを入力します。詳細については,387ページ 「[詳細]ページ」を参照してください。

3. **関係の属性の設定**

新しい関係の属性を編集します。詳細については、388ページ「[属性]ページ」を参照してください。

注: リストおよび列挙の定義は、システム・タイプ・マネージャで作成します。必要に応じて、追加のリストおよび列挙の定義を作成できます。詳細については、378ページ「リストと 一覧の定義の作成」を参照してください。

4. 関係への修飾子の割り当て

新しい関係の定義に修飾子を割り当てます。詳細については, 391ページ「[修飾子]ページ」 を参照してください。

5. 関係メニューのカスタマイズ

新しい関係のショートカット・メニューに表示されるメニュー項目とコマンドを選択します。詳細については、394ページ「[付属メニュー] ページ」を参照してください。

6. 関係の標準設定ラベルの定義

関係ラベルに表示される属性を定義します。詳細については、396ページ「[デフォルトのラベル] ページ」を参照してください。

計算された関係タイプの作成

このタスクでは、 [計算済み関係の作成] ウィザードを使って計算された関係タイプを作成する場合 に従うプロセスを記述します。

本項の内容

- 378ページ「前提条件」
- 378ページ「計算された関係の定義」
- 378ページ「関係への修飾子の割り当て」
- 378ページ「必須のトリプレットの追加」
- 1. 前提条件

Cl タイプ・マネージャで, [Cl タイプ]表示枠のリスト・ボックスから[計算された関係]を選択しま す。次に, [新規作成] * を選択して[計算済み関係の作成]ウィザードを起動します。

2. 計算された関係の定義

新しい計算された関係の名前,説明,およびベースのCIタイプを入力します。詳細については,387ページ「[詳細]ページ」を参照してください。

3. 関係への修飾子の割り当て

新しい関係の定義に修飾子を割り当てます。詳細については、391ページ「[修飾子] ページ」 を参照してください。

4. 必須のトリプレットの追加

必要なトリプレットを追加します。詳細については、392ページ「[Triplet] ページ」を参照してください。

リストと一覧の定義の作成

本項では、リストおよび列挙定義を作成するタスクについて説明します。

本項の内容

- 378ページ「リスト 定義の作成」
- 379ページ「列挙定義の作成」
- 1. リスト定義の作成

定義済み値の[リスト]定義を作成できます。たとえば、Locationというリスト定義に以下の値が含まれていることがあります。

- New York
- Boston
- Baltimore

詳細については、398ページ「[リスト / 一覧定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス」を参照して ください。

2. 列挙定義の作成

[**列挙**] 定義を作成し、リストの各値に色を割り当てることができます。詳細については、398 ページ「[リスト/一覧定義の作成/更新] ダイアログ・ボックス」を参照してください。列挙定義の 例については、379ページ「列挙定義の作成 – ワークフロー」を参照してください。

列挙定義の作成 – ワークフロー

次の手順で、列挙定義を作成する方法について説明します。

注:必要な結果を取得するには、このタスクの各手順に従う必要があります。

列挙定義を作成するには、次の手順を実行します。

- 1. [マネージャ]>[モデリング]>[Cl タイプ マネージャ]を選択します。
- 2. メイン・メニューで[Cl タイプ]>[システム タイプ マネージャ]を選択すると、[システムタイプマネージャ]ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3. [追加]ボタン 🕈 をクリックすると, [リスト 定義の作成] ダイアログ・ボックスが開きます。

注: あるいは, [マネージャ]>[管理]>[状態マネージャ]を選択して, [新規列挙]ボタン をクリックすると, [列挙定義の作成]ダイアログ・ボックスが開きます。

- 4. [**列挙**]を選択します。
- 5. [名前]ボックスで,必要な名前を入力します。
- 6. [表示名]ボックスで,必要な表示名を入力します(任意指定)。

この例では、次の重要度リストを作成する方法について説明します。

+	值	重要度
0	禄	標準
1	オレンジ	重大
2	赤	致命的

- 7. [追加] * ボタンをクリックして,新しい行を作成します。
- 8. [値]ボックスに Normal と入力し, [キー]ボックスに 0, と入力します。また, [色] セクションで [縁]を選択します。
- 9. [追加] * ボタンをクリックして,別の行を作成します。
- 10. [値]ボックスに Major と入力し, [キー]ボックスに 1 と入力します。また, [色] セクションで[オレ ンジ]を選択します。
- 11. [追加] * ボタンをクリックして,別の行を作成します。
- **12.** [値]ボックスに Critical と入力し, [キー]ボックスに 2 と入力します。また, [色] セクションで [赤]を選択します。

名前: open_Status	
表示名:	
○リスト ●列撑	<u>*</u>
列挙定義	
 	 値: 致命的 キー: 2 ● ●

次の図は、変更後の[列挙定義]セクションを示しています。

13. [OK]をクリックして、変更内容を保存します。

CI タイプと関係の説明を表示

CI タイプ・マネージャの左表示枠に、利用可能な CI タイプの一覧をツリー形式で表示できます。384ページ「CI タイプ・マネージャ」で説明しているように、個別の CI タイプをインクリメンタル検索 することができます。特定の CI タイプの詳細を確認するには、ツリーでそのタイプを選択し、トポロジ・マップで対応するアイコンの上にポインタを置いたままにします。 CI タイプの説明が記載されたツールチップが表示されます。

関係については、左表示枠で[関係]を選択し、関係の最初の文字でインクリメンタル検索をします。必要な関係を選択し、トポロジ・マップでそのアイコンの上にポインタを置いたままにすると、関係の詳細が記載されたツールチップが表示されます。

CI タイプと関係の詳細については、UCMDB CI タイプと関係情報 PDF を生成できます。詳細については、402ページ「[PDF への選択した CIT のエクスポート] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

CI タイプ・マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容

- 381ページ「[属性の追加/編集] ダイアログ・ボックス」
- 383ページ「[関係の追加/削除] ダイアログ・ボックス」

- 384ページ「CIタイプ・マネージャ」
- 386ページ「設定項目タイプ/関係/計算された関係の作成ウィザード」
- 398ページ「[リスト/一覧定義の作成/更新]ダイアログ・ボックス」
- 401ページ「[Excel への選択した CIT のエクスポート] ダイアログ・ボックス」
- 402ページ「[PDF への選択した CIT のエクスポート] ダイアログ・ボックス」
- 403ページ「[システム タイプ マネージャ] ダイアログ・ボックス」

[属性の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい属性を定義して CIT に追加したり、CIT の既存の属性を編集できます。

利用方法	CI タイプ・マネージャで[属性]タブを選択して[追加] 🕈 ボタンをクリックするか, あるいは属性を選択して[編集]ボタンをクリックするか, 属性をダブルクリックします。
重要情報	[編集]モードでは、変更できないフィールドは使用不可になります。

[詳細]タブ

UI 要 素	詳細
属性	新しい属性に一意の名前を入力します。a~z, A~Z, 0-9, およびアンダースコア(_)のみ の文字が許可されています。注:
名	• 最初の文字は、番号にすることができます。
	• [属性名]フィールドでは大文字/小文字を区別しません。
	• 最大長は4,000文字です。
属	次のオプションのいずれかを選択します。
性 タイ プ	• プリミティブ:フィールド・タイプ boolean, bytes, date number, double number, float number, integer, list of integers, long number, string, list of strings, xmlのうちの1つを選択します。
	• 列挙/リスト :システム・タイプ・マネージャで定義した列挙およびリストの一覧が含まれま す。詳細については、375ページ「システム・タイプ・マネージャ」を参照してください。
	このオプションによって, 定義済みの値で属性を定義できます。 たとえば, 場所属性は Singapore, Paris, New York などの値が含まれた location リストで定義できま す。 Singapore, Paris, New York.
標準	属性の標準設定値を入力するか選択します。 [標準設定値] フィールドのオプションは,選択した属性タイプによって異なります。
設	注:list of integers または list of strings のプリミティブ属性タイプを選択する

UI 要	
素	詳細
定 値	と、複数の値を入力できます。
詳	新しい属性の詳細を入力します。
細	注 :このフィールドは任意指定です。
表	HP Universal CMDB で識別するために、新しい属性の名前を入力します。
示 名	注 : このフィールドは任意指定です。
対	新しい属性の対象範囲(属性が属するクラス・モデル)を選択します。
家範	
囲	
値	新しい属性の最大物理サイズの値を入力します(bytes および string の場合にのみ利
の サイ	用可能)。
ズ	

[詳細設定]タブ

UI要素	詳細
アセット データ	アセット・レポートに属性値を表示する場合に選択します。
CMS ブラ ウザ編集 可能	この属性がUCMDB ブラウザで編集できるように選択します。
CMS ブラ ウザ検索 可能	この属性がUCMDB ブラウザで検索されるように選択します。
CMS ブラ ウザ可 視	この属性がUCMDB ブラウザで可視されるように選択します。
比較可 能	この属性は、複合 CI の比較に使用する場合に選択します。
ディスカバ リ自動ト リム	選択した場合, プローブから送信される結果はトリムされます。 つまり, 結果の冒頭お よび末尾に空白がないように, 先頭と末尾のスペースとタブがトリムされます。
ディスカバ	選択すると、STRINGタイプの属性がサイズ制限を超えた場合、ディスカバリにより値

UI 要素	詳細
リ自動短 縮	が短縮されます。詳細については,『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「Data Flow Probe でのデータ検証」を参照してください。
編集可 能	属性の将来的な編集を有効にする場合に選択します。 編集可能 (または値を持つ もの)としてマークされた属性だけが, IT ユニバース・マネージャの[プロパティ]タブに表 示されます。
インデック ス	属性取得パフォーマンスを高める場合に選択します。このオプションは、検索条件で 頻繁に使用する属性に利用することをお勧めします。たとえば、IP addressは、通常、ノードのインデックス属性です。
小文字	このオプションを選択すると、属性値が小文字で表示されます。
管理対 象	この指定は HP Universal CMDB 設定マネージャのユーザのみ関連します。 注:
	• この修師子を特定の属住に選択すると、「要素インスタンス」ダイアログ・ホックスで 属性が可視カラムとして表示されます。詳細については、58ページ「[要素インスタ ンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	• [管理対象]は、list of integers または list of strings タイプの属性には適用されません。
履歴用 の追跡で はありま せん	履歴保存からこの属性を除外する場合に選択します。
パスワー ド	このオプションを選択すると、属性値がアスタリスク(非表示値)で表示されます。
必須	値がCITを作成するのに必要であり、属性を必須のものとして定義する場合に選択 します。
静的	属性を静的属性として定義する場合に選択します。
一意	このオプションを選択すると, CI タイプのインスタンスごとに一意の値が必要になります。
大文字	このオプションを選択すると、属性値が大文字で表示されます。
更新値 ポリシ <i>ー</i> を 使用	この修飾子の詳細については, 23ページ「更新値ポリシーを使用修飾子」を参照し てください。
可視	IT ユニバース・マネージャの[プロパティ]タブにこの属性を表示する場合に選択します。

[関係の追加/削除] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CIT 間で(物理または論理接続を定義する)標準設定関係または新しい関係の追加または削除を行います。

利用方法	CI タイプ・マネージャで,1つまたは2つのCIT を右クリックして,[関係の追加/削除]を選択 します。
重要情報	2つの CIT 間の関係を追加するときは、CTRL キーを押したまま CIT 名をクリックして、リンク する2つの CIT を選択します。いずれかの CIT を右クリックし、 [関係の追加/削除]を選択 します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
<クエリ node1 からクエリ	第 1 クエリ・ノードから第 2 クエリ・ノードの方向に追加する関係を
node2>	選択します。
<クエリ node2 からクエリ	第 2 クエリ・ノードから第 1 クエリ・ノードの方向に追加する関係を
node1>	選択します。
関係名	可能性のある関係のリスト。

CI タイプ・マネージャ

このページでは、CIタイプ・モデルの情報を表示できます。この情報には、システムで定義されたすべての構成アイテム・タイプ(CIT)および CIT 間の接続を定義する関係に関する定義が含まれています。それぞれの CIT には独自の属性に加えて、親 CIT から継承した属性もあります。

利用 ナビゲーション・メニューから[Cl タイプ マネージャ]を選択 するか、[マネージャ]>[モデリン
 方法 グ]>[Cl タイプ マネージャ]を選択します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要 素	詳細
*	[新規作成]ボタンをクリックして,[構成アイテムタイプを作成]ウィザードを開くと,新しい CIタイプを定義できます。詳細については,386ページ「設定項目タイプ/関係/計算さ れた関係の作成ウィザード」を参照してください。
×	[削除]をクリックすると,選択した CI タイプまたは関係が削除されます
0	クリックすると, ほかのユーザによって変更された可能性がある階層ツリー構造のデータ内 容が更新されます。
	[保存]ボタンをクリックすると、CIタイプに加えられた変更内容が保存されます。
N N N N N N N N N N N N N N N N N N N	外部ファイルから CIT をインポートできます。
XHL	CIT を XML ファイルとしてエクスポートできます。 このオプションは,サーバ間で移動するの に使います。

UI 要 素	詳細
*	CIT をエクスポートできます。 エクスポート形 式を選択します。 次のオプションを使用 できます。
	• PDF:テーブルのデータは, PDF形式でエクスポートされます。
	• XLS:テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる.xls(Excel)ファイル形式に 整形されます。
<cl th="" タ<=""><th>次のオプションのいずれかを選択します。</th></cl>	次のオプションのいずれかを選択します。
イフ/関 係	• CI タイプ: CIT モデルの CI タイプが表示されます。
ボック	• 関係 :CIT モデルの関係が表示されます。
~	• 計算された関係: CIT モデルの計算された関係が表示されます。
<編集	次のタブを利用できます。
表示 枠>	• CI タイプの依存関係: CIT とその関係を含めて, CI タイプ・モデルをトポロジ・マップに 表示します。選択した CI タイプまたは関係の名前が,表示枠の最上部にある境界 線に表示されます。CIT をポイントすると,ツールチップに CIT の表示名とその説明が 表示されます。
	• 詳細: 左の表示枠で選択した CI タイプに関する基本情報を編集できます。詳細に ついては, 387ページ「[詳細]ページ」を参照してください。
	• 属性: 選択した CIT の属性を編集できます。詳細については、388ページ「[属性] ページ」を参照してください。
	• 修飾子:修飾子は選択した CIT に割り当てることができます。詳細については、391 ページ「[修飾子]ページ」を参照してください。
	 トリプレット:計算された関係を作成できます。詳細については、392ページ「[Triplet] ページ」を参照してください。このタブは計算された関係にのみ表示されます。
	 アイコンは選択した CIT に割り当てることができます。詳細については、393 ページ「[アイコン] ページ」を参照してください。このタブは、関係に対しては表示されません。
	 アタッチ・メニュー : メニュー項目とコマンド (ping, プログラムの実行, URLを開くなど) を追加して、 CI のショートカット・メニューをカスタマイズできます。カスタマイズされたメニューは、 IT ユニバース・マネージャで CI インスタンスを右 クリックすると表示されます。 詳細については、394ページ「[付属メニュー] ページ」を参照してください。
	 標準設定ラベル: CIT ラベルに表示される属性を定義できます。複数の属性を含めるには、機能ボタンを使います。詳細については、396ページ「[デフォルトのラベル]ページ」を参照してください。
	 一致ルール: HP Universal CMDB設定マネージャで使用する一致ルールを定義できます。詳細については、設定マネージャ・ドキュメントを参照してください。このタブは関係に対してのみ表示され、UCMDB が設定マネージャで実行されている場合にのみ表示されます。
<メイ	詳細については、138ページ「メイン・メニュー」を参照してください。

UI 要 素	詳細
ン・メ ニュー>	
<ツー ル バー>	詳細については, 141ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
[CI タ イプ] 表示 枠	CIT 間の継承関係が含まれる, CMDB で各 CIT のインスタンスの数を表示する CI タイ プ・モデルの階層 ツリー構造です。CI タイプ・モデルに含まれているすべての CIT は, CIT または関係に分類されます。トポロジ・マップで選択した CIT の関係および隣接項目を ドリル・ダウンして表示できます。インクリメンタル検索で CIT または関係のリストを検索す るには,必要な選択に達するまで, CIT または関係の先頭文字を繰り返し入力しま す。また、フルネームを入力しても、CIT または関係を検索できます。

ショートカット・メニュー

CI タイプ・マネージャには、 [CI タイプ] 表示枠または依存関係マップで CI タイプを右クリックすると利用できる、次のオプションが含まれています。

UI要素	詳細
関係の 追加/削 除	[関係の追加/削除]ダイアログ・ボックスを開いて, CIT に関係を追加したり削除したり できます。詳細については, 383ページ「[関係の追加/削除]ダイアログ・ボックス」を参 照してください。
選択し た項目 の削除	選択した CI タイプを削除します。 このオプションは,子もインスタンスもない CI タイプに のみ利用できます。
XML へ エクス ポート	CITをXMLファイルとしてエクスポートできます。このオプションは,サーバ間で移動するのに使います。
新規作 成	[構成アイテムタイプを作成]ウィザードを開いて,新しい CIタイプを定義できます。詳細については,386ページ「設定項目タイプ/関係/計算された関係の作成ウィザード」を参照してください。
CIT イン スタンス を表示	[全インスタンスを表示]ダイアログ・ボックスが開き,選択した CIT のすべてのインスタン スが表示されます。詳細については、58ページ「[要素インスタンス]ダイアログ・ボックス」 を参照してください。

設定項目タイプ/関係/計算された関係の作成ウィザード

このウィザードでは、新しい構成アイテム・タイプまたは関係を定義できます。

[構成アイテムタイプを作成]ウィザードには、次のページが含まれています。

- 387ページ「[詳細]ページ」
- 388ページ「[属性]ページ」
- 391ページ「[修飾子]ページ」
- 392ページ「[Triplet] ページ」
- 393ページ「[アイコン] ページ」
- 394ページ「[付属メニュー] ページ」
- 396ページ「[デフォルトのラベル] ページ」
- 397ページ「[- 致ルール]ページ」

[詳細]ページ

このウィザード・ページでは、定義する新しい CI タイプに関する基本情報を入力できます。

 重要 情報
 [構成アイテムタイプを作成]ウィザードの一般情報については、386ページ「設定項目タイプ/関係/計算された関係の作成ウィザード」を参照してください。

 ウィ ザー ザー ブ
 「設定項目タイプ/関係/計算された関係の作成ウィザード」には、次のページが含まれ ています。

 「[詳細]ページ」>「[属性]ページ」>「[修飾子] ページ」>「[Triplet] ページ」>「[アイコ ン] ページ」>「[付属メニュー] ページ」>「[デフォルトのラベル] ページ」>「[一致 ルール] ページ」

UI 要素	詳細
ベースの Cl タイ プ	作成するCITのベースCITを選択します。新しいCITはベースCITの属性を継承します。
	注 : このフィールドは[構 成 アイテム タイプを作 成]ウィザードにのみ表 示されます。 CI タ イプ・マネージャの[詳 細]タブで既存 の CIT を編 集 する場 合 は関 係 ありません。
Created By	新しいCITを作成したユーザです。
	注:このフィールドは任意指定です。
鞋着	新しいCITの説明です。
	注:このフィールドは任意指定です。

UI 要素	詳細
表示名	CIT がHP Universal CMDB インタフェースに表示されるときの名前です。
	注 :このフィールドは任意指定です。
ID	定義されているすべての新規のCIには, CMDB ID とglobal_id プロパティに基づいた ID があります。選択した CIT のインスタンスに対する追加の識別メソッドも設定できま す。次のオプションを利用できます。
	 Simple identification: [利用可能な属性]表示枠から属性を選択し、 [Selected Attributes]表示枠に移動します。これらの属性は、CITキー属性として 定義されます。すべてのキー属性に一致する値を持つCITのインスタンスが1つのインスタンスに結合されます。
	 Advanced identification :XML 識別ルールを定義するには、 [編集]ボタンをクリックします。 XML 識別ルールの例については、 『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「識別ルール・ドキュメントの作成方法」を参照してください。
	• 親から継承: CIT は,親 CIT として同じ識別メソッドを使用します。
	• ID なし: 追加の識別メソッドはありません。
	注:この関係では、 [Simple identification]オプションのみを利用できます。
Name	新しい CIT の一意の名前です。a~z, A~Z, 0-9, およびアンダースコア(_)のみの文 字が許可されています。注:
	 最初の文字を番号にすることはできません。
	• [名前]フィールドでは大文字/小文字を区別しますが,異なる CIT に大文字/小文字の異なる同じ名前を使うことはできません。
	• 最大長は4,000文字です。
対象範 囲	新しい CIT の対象範囲を選択します(所属するクラス・モデル)。

[属性]ページ

このウィザード・ページでは、 CIT タイプの属 性を編 集 できます。

 ウィ
 「設定項目タイプ/関係/計算された関係の作成ウィザード」には、次のページが含まれています。

 ゲ・マッ
 プ

 「[詳細]ページ」>「[属性]ページ」>「[修飾子]ページ」>「[Triplet]ページ」>「[アイコン]ページ」>「[付属メニュー]ページ」>「[デフォルトのラベル]ページ」>「[一致ルール]ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
÷	[追加]ボタンをクリックして,新しい属性を定義します。詳細については,381ページ 「[属性の追加/編集]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

UI 要素	, 詳細
Ø	行を選択して, [編集]ボタンをクリックすると, [属性の編集]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については, 381ページ「[属性の追加 / 編集]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	注 :CITの親の属性を変更すると、テキストが明るい青になります。CIT 自体の属性を 変更した場合、テキストは濃い青のままです。
×	[削除]ボタンをクリックすると, 選択した属性が削除されます。このオプションは, 新たに 定義した属性に対してのみ使用できます。
Q	既存の属性を編集した後で, [リセット]ボタンをクリックすると, 属性の設定がリセットされます。
E	[カラムの選択]をクリックして, [カラムの選択]ダイアログ・ボックスに表示するカラムを選択します。詳細については, 438ページ「[カラムの選択]ダイアログ・ボックス」を参照して ください。
<属性>	新しい CIT と関連する属性をすべて表示します。黒で表示される属性は、新しい CIT が基本 CIT から継承した属性です。濃い青で表示される属性は、新しい CIT とその 子孫専用の属性です。明るい青で表示される属性は、新しい CIT で変更された継承 属性です。
アセット データ	属性値がアセット・レポートに表示されるかどうかを示します。詳細については, 286ペー ジ「アセット・レポート」を参照してください。
	注 :この修飾子を特定の属性に選択すると、[要素インスタンス]ダイアログ・ボックスで 属性が可視カラムとして表示されます。詳細については、58ページ「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
CMS ブ ラウザ 編集可 能	この属 性 が UCMDB ブラウザで編 集 可 能 かどうかを示します。
CMS ブ ラウザ 検索可 能	この属性がUCMDB ブラウザで検索されているかどうかを示します。
CMS ブ ラウザ 可視	この属性がUCMDB ブラウザで可視されているかどうかを示します。
比較可 能	この属性が, 複合 CI の比較に使用されるかどうかを示します。詳細については, 299 ページ「CI 比較レポート」を参照してください。このような属性の値の変更は, 履歴に 保存されます。
	注:この修飾子を特定の属性に選択すると、[要素インスタンス]ダイアログ・ボックスで 属性が可視カラムとして表示されます。詳細については、58ページ「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
標準設	属性の標準設定値です。この値が表示されるのは、新しいCITを定義したのに、属

モデリング・ガイド

第 11章: Cl タイプ・マネージャ

UI要素	詳細
定値	性の実行時の値がない場合です。
詳細	属性の詳細です。
ディスカ バリ自 動トリム	プローブから送信される結果がトリムされているかどうかを示します。
ディスカ バリ自 動短縮	STRING タイプの属性に対して自動短縮機能が有効になっているかどうかを示します。
表示名	HP Universal CMDB インタフェースに表示される属性名です。
編集可	属性を編集できるかどうかを示します。
能	編集可能 (または値を持つもの)としてマークされた属性だけが,IT ユニバース・マネー ジャの[プロパティ]タブに表示されます。
イン デックス	属性がインデックス属性として定義されているかどうかを示します。 インデックス属性とし て定義されていると,属性取得パフォーマンスが高まります。
	このオプションは, 検索条件で頻繁に使用する属性に利用することをお勧めします。た とえば, IP addressは, 通常, ノードのインデックス属性です。
+	属性がキー属性として定義されているかどうかを示します。
	注 : このカラムは, [Simple Identification]が識別メソッドとして選択されているときにのみ 関連します。
小文字	属性値を小文字のままにするかどうかを示します。
管理対	この指定は HP Universal CMDB 設定マネージャのユーザのみ関連します。
家	注 :この修飾子を特定の属性に選択すると、[要素インスタンス]ダイアログ・ボックスで 属性が可視カラムとして表示されます。詳細については、58ページ「[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
Name	属性の実際の名前(表示名とは異なる名前)です。名前は英語である必要がありま す。
履歴用 の追跡 ではあり ません	この修飾子を所定の属性に選択すると、属性は履歴によってモニタリングされません。
必須	属性が、値がCITの作成に必要な必須属性として定義されているかどうかを示します。
静的	属性が静的属性として定義されているかどうかを示します。
タイプ	属性のタイプです。
UDMス	属性がUDM クラス・モデルに含まれるかどうかを示します。

UI 要素	詳細
コープ	
一意	属性が、CIタイプのインスタンスごとに一意の値が必要な、一意の属性として定義されているかどうかを示します。
大文字	属性値を大文字のままにするかどうかを示します。
可視	属性がIT ユニバース・マネージャの[プロパティ]タブに表示されるかどうかを示します。

[修飾子] ページ

このウィザード・ページでは、修飾子をCITタイプの定義に割り当てることができます。

重 修飾子によって、CITに追加属性を定義できます。[修飾子]リストで、[追加]ボタンを 要 使って必要な修飾子を選択し、選択したものを[構成アイテムタイプ修飾子]リストに移 動します。複数の選択を行う場合は、CTRLキーを押したままにします。 情 報 「設定項目タイプ/関係/計算された関係の作成ウィザード」には、次のページが含まれて ウィ ザー います。 ド・ 「[詳細]ページ」>「[属性]ページ」>「**[修飾子] ページ」**>「[Triplet] ページ」>「[アイコ マツ ン] ページ」>「[付属メニュー] ページ」>「[デフォルトのラベル] ページ」>「[一致ルール] ペー プ ジ」

UI 要素	詳細
m	このボタンをクリックすると、すべての修飾子が[構成アイテム タイプ修飾子]リストに 移動します。
⇒	修飾子を選択して, このボタンをクリックすると, 修飾子が[構成アイテム タイプ修 飾子]リストに追加されます。 複数の修飾子を選択するには, CTRL キーを押した ままにします。
1)	CIT 定義から修飾子を削除するには、 [構成アイテム タイプ修飾子]リストから修飾子を選択して、 このボタンをクリックします。
***	このボタンをクリックすると、 [構成アイテム タイプ修飾子]リストからすべての修飾子 が削除されます。
挿入	新しいカスタム修飾子を定義するには、テキスト・ボックス修飾子名を入力して、 [挿入]をクリックします。修飾子が[構成アイテム タイプ修飾子]リストに表示され ます。
<構成アイテ ムタイプ修 飾子>	新しい CIT の属性を定義する修飾子のリストです。たとえば、修飾子を使って、 CIT を抽象 CIT として定義できます。 つまり、 この CIT からはインスタンスを作成できません。
<修飾子>	利用可能な修飾子オプションのリストについては, 73ページ「[修飾子]タブ」を参照してください。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

[Triplet] ページ

このウィザード・ページでは,計算された関係を作成できます。[トリプレット]ページの各行は,トポロ ジ・マップでソース CI からターゲット CI に至るパスで許容される手順の1つを示します。

注: ウィザードのこの手順は,計算された関係にのみ関連があります。

重要 情報	• このページは、[Cl タイプ]表示枠のドロップダウン・ボックスで[計算された関係]を選択した場合に表示されます。
	 計算された関係の詳細については、85ページ「計算された関係の使用」を参照して ください。
	• [構成アイテムタイプを作成]ウィザードの一般情報については、386ページ「設定項 目タイプ/関係/計算された関係の作成ウィザード」を参照してください。
ウィ ザー ド・マッ プ	「設定項目タイプ/関係/計算された関係の作成ウィザード」には、次のページが含まれています。
	「[詳細]ページ」>「[属性]ページ」>「[修飾子] ページ」> 「[Triplet] ページ」 >「[アイ コン] ページ」>「[付属メニュー] ページ」>「[デフォルトのラベル] ページ」>「[一致ルール] ページ」
関連 情報	85ページ「計算された関係の使用」

UI 要 素	詳細
4	計算された関係でソース CI からターゲット CI に至るトポロジ・グラフのパスで許容される手順を定義する場合にクリックします。 [トリプレットの追加]ダイアログ・ボックスを開きます。 詳細については,55ページ「[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックス」 を参照してください。
0	行を選択して[編集]ボタンをクリックし, トリプレットを編集します。 [トリプレットの編集]ダイ アログ・ボックスを開きます。 詳細については, 55ページ「[トリプレットの追加] ダイアログ・ボック ス」 を参照してください。
×	[削除]ボタンをクリックすると、選択したトリプレットが削除されます。
関係	2 つのクエリ・ノードを接続するのに必要な関係です。
関係の	関係のソースおよびターゲットです。 ● → 方向は、ソースからターゲットです。
万 向	• 🦰 方向は, ターゲットからソースです。

UI 要 素	詳細
ソー ス	必須のソース・クエリ・ノードです。
ター ゲッ ト	必須のターゲット・クエリ・ノードです。

[アイコン] ページ

このウィザード・ページでは、新しい CI タイプに割り当てるアイコンを選択します。

注: ウィザードのこの手順は、関係には関連がありません。

重要情報	それぞれの CIT は標準設定 アイコンで表示されます。ただし,一定の条件が当て はまる場合は,同じ CIT に異なるアイコンを添付できます。たとえば,属性値の1 つが変わると,同じ CIT に別のアイコンを結び付けることができます。
ウィザード・ マップ	「設定項目タイプ/関係/計算された関係の作成ウィザード」には、次のページが 含まれています。
	「[詳細]ページ」>「[属性]ページ」> "Qualifiers Page">「[Triplet] ページ」>「[ア イコン] ページ」>「[付属メニュー] ページ」>「[デフォルトのラベル] ページ」>「[一致 ルール] ページ」

UI要素	詳細
+	クリックすると、行が追加されます。
	注 :[構成アイテムタイプのアイコンを, その属性値に応じて変更する]を 選択した場合にのみ使用できます。
×	クリックすると、行が削除されます。
	注 :[構成アイテムタイプのアイコンを, その属性値に応じて変更する]を 選択した場合にのみ使用できます。
属性	CIT に割り当てるアイコンを決める属性を選択します。
構成アイテム・タイプ のアイコンを, その属 性値に応じて変更 オス	各属性値にアイコンを割り当てることができます。たとえば、City属性に2つの値を定義できます。City=Londonの場合は、あるアイコンが表示されます。City=Beijingの場合は、別のアイコンが表示されます。
90	注:既存のビューに表示される CIT のアイコンを変更しても、そのビューでは CIT のアイコンが更新されません。
構成アイテム・タイ	CIT が属するグループを選択します。

UI要素	詳細
プ・メイン・アイコン	
アイコン	[値]カラムに入力した値と関連付けるアイコンを選択します。
值	選択した属性に対応する値を入力します。入力する各値ごとに新しい行 を追加できます。

[付属メニュー] ページ

このウィザード・ページでは、メニュー項目とコマンド(ping、プログラムの実行、URLを開くなど)を追加 して、CIのショートカット・メニューをカスタマイズできます。カスタマイズされたメニューは、ITユニバース・ マネージャで CIインスタンスを右クリックすると表示されます。

 重要 情報
 CIT にメソッドが明確に定義されていない場合、そのCIT はメソッドが定義されている親 CIT または最も近い祖先からすべてのメニューを継承します。

 メニューを作成したり変更すると、編集する特定のCIT にのみ変化が起こります。

 ウイ ザー プ
 「設定項目タイプ/関係/計算された関係の作成ウィザード」には、次のページが含まれ ています。

 「[詳細]ページ」>「[属性]ページ」>「[修飾子]ページ」>「[Triplet]ページ」>「[アイコ ン」ページ」>「[付属メニュー]ページ」>「[デフォルトのラベル」ページ」>「[一致ルール] ページ」

UI 要 素	詳細
+	ツリーからメニュー項目を選択して, このボタンをクリックします。選択した項目の下に, 新 しいエントリが表示されます。
×	クリックすると、メニュー項目が削除されます。
	クリックすると、選択したメニュー項目がメニューで上に移動します。
\Rightarrow	クリックすると、選択したメニュー項目がメニューで上に移動します。
<ツ	標準設定メニュー項目が含まれている階層ツリー。
'J—>	注意:標準設定メニュー項目の定義を編集するのはお勧めしません。
コマン ド	World Wide Web 上の特定の位置に接続するには、URLを選択し、正確なインターネットアドレス(たとえば、http://www.hp.com/go/software)を入力します(URLコマンド・タイプ・オプションを選択した場合にのみ使用できます)。
	注:[コマンド]フィールドで変数を使用する場合は, command name %1 という形式を 使って, 395ページ「パラメータ」で説明しているように CIT 属性を定義します。 リストでの 順番に従って, %1 がパラメータ値に置換されます。 たとえば, %1 はリストの最初のパラメー

モデリング・ガイド 第11章: Cl タイプ・マネージャ

UI 要 素	詳細
	タに置換され、 %2 はリストの2番目のパラメータに置換されるというようになります。
詳細	メソッドの詳細を入力しますこれは内部でのみ使用され、メニューには表示されません)。
既存 メソッ ド	IT ユニバース CIT およびすべての祖先から継承した定義済みメソッドのリストからコマンドを 選ぶ場合に選択します。
アイコ	ショートカット・メニューでメニュー・オプションの横に表示されるアイコンを選択します。
シ	注 : このフィールドは任意指定です。
メ ニュー 項目 名	新しいメニュー項目 がメニューに表示されるときの名前を入力します。
メソッ	メニューにコマンドを追加 できます。
۲	注 : メソッドを作成し, 既存のメソッドを上書きしないようにするには, 新しいメニュー項目 を作成し, そこに新しいメソッドを配置することをお勧めします。
メソッ ド名	コマンドの名前を入力します。
新規 メソッ ド	メニュー項目にアクション(ping など)を追加する場合に選択します。
パラ メ <i>ー</i> タ	コマンドまたは URL に属性を追加するには, [パラメータの追加]ボタンをクリックして, リス トから属性を選択します。
	既存のエントリを削除するには,そのエントリを選択して, [パラメータの削除]ボタンをク リックします。
	注:内部プロセスを選択していないと、パラメータは関連しません。
ユザ確 をめ め	項目が表示される前に、ユーザがメニュー項目へのアクセスを確認するチェック・ボックスを 選択します。
セパ	2つのメニュー項目間にセパレータを配置するには、次のとおりにします。
<i>L—</i> 9	[OK]をクリックすると,選択したメニューオプションの下にセパレータが配置されます。
ショートカッ	任意のキーの組み合わせを押して、メニュー項目のショートカット(CTRL+Hなど)を作成します。
۲ ۲	注 :このフィールド は任意指定です。
サブメ	選択したメニューオプションの下にサブメニューを作成する場合に選択します。

UI 要 素	詳細
L L	CI履歴 メモ メモ 川除 サブメニュー 関連 CI を取得 アクション
タイプ	次のコマンド・タイプを選択します。
	 URL:指定したURLのWebページを開きます。コマンドでURLボックスに開かれる WebページのURLを入力します。
	 Inner Process:内部のHP Universal CMDB アクションをトリガします。アクションのドロップダウン・リストからアクションを選択します。
	 実行:実行可能アクションをトリガします。[実行可能]ボックスに実行可能コマンドを 入力します。
	注:[実行可能]ボックスで, 実行可能ファイルの名前のみを入力します(たとえ ば, notepad.exe)。実行可能ファイルにパスを入力しないでください。パスは, プログラ ムを実行できません。

[デフォルトのラベル] ページ

このウィザード・ページでは、CIT タイプ・ラベルに表示される属性を編集できます。複数の属性を含めるには、機能ボタンを使います。これは、 [構成アイテムタイプを作成] ウィザードの最終手順です。

重要情報	ラベルは,[Clタイプ属性]表示枠で属性を選択して[形式]表示枠に追加し,[形式]表 示枠の演算子を使用してそれらをつなげて作成します。
	ラベルは新しい CI タイプの CI の下 にタイトルとして表 示されます。 ラベルの定義は, さまざま な属性値を含めるようにカスタマイズできます。 たとえば, Node CIT の機能 ラベルはホスト名 とネットワークで構成され, 表示されるラベルはserver1 10.0.65.0 のようになります。
	ラベルは正規表現を使って作成することもできます。
ウィードマプ	「設定項目タイプ/関係/計算された関係の作成ウィザード」には、次のページが含まれて います。
	「[詳細]ページ」>「[属性]ページ」>「[修飾子] ページ」>「[Triplet] ページ」>「[アイコン] ページ」>「[付属メニュー] ページ」> 「[デフォルトのラベル] ページ」 > 397ページ「[一致ルー ル] ページ」
モデリング・ガイド

第 11章: CI タイプ・マネージャ

UI要素	詳細
+	クリックすると、選択した属性が[形式]表示枠に追加されます。
0	書式設定されたテキストに丸括弧を追加します(ほかの機能と併用します)。
&	書式設定されたテキストの2つの属性間にAND演算子を置きます。たとえば、network_netaddr&network_domainでは、クエリ・ノードのネットワーク・アドレスとドメインが表示されます。
1	書式設定されたテキストの2つの属性間に OR 演算子を置きます。
ſ	ラベルの定義に(正規表現構文を使用して)正規表現を追加します。エントリの構造 は (v1, v2, v3)のようになります。 v1 は選択した属性, v2 は正規表現自体(値がグ ループに分割されます), v3 は選択したグループの番号を示します。
	たとえば,選択した属性が名,スペース,および姓で構成される名前の場合,正規表現は (name, (\S*)(\S*), 3)となります。つまり,姓は標準設定ラベルの 名前属性に使用できます。
	正規表現構文の使い方の例については、441ページ「正規表現の例」を参照してくだ さい。
5	クリックすると、[形式]表示枠の最後の変更が取り消されます。
2	クリックすると、[取り消し]ボタンを使用して作成された[形式]表示枠の最後の変更に 戻されます。
4	クリックすると, [形式]表示枠がクリアされます。
Q	標準設定に戻すときにクリックします。
CI タイ プ属性	CIT ラベルに含める属性の利用可能なオプションを表示します。
CI タイ	CIT ラベルに表示するために選択した属性を表示します。
フラペ ル定義 形式	たとえば、ノードにホスト名とオペレーティング・システムのラベルを付けるには、host_ hostname および host_os 属性を選択します。CIT ラベルは host1 UNIX のようにな ります。
	条件は AND とOR の組み合わせを使って定義できます。
	注:[形式]表示枠から属性を削除するには、その属性を強調表示して、DELETE キー を押します。

[一致ルール]ページ

このウィザード・ページでは, HP Universal CMDB 設定マネージャで使用するための比較可能な属性の一致ルールを定義できます。

重要 ↓このページは、設定マネージャをインストールしている場合にのみ関連します。一致ルール

情報	の詳細については、設定マネージャ・ドキュメントを参照してください。
	注: インフラストラクチャ設定マネージャで, [構成マネージャー致ルールを有効化]設定 を True に設定して, [一致ルール]ページを手動でアクティブ化します。
ウィ ザー ド・マッ プ	「設定項目タイプ/関係/計算された関係の作成ウィザード」には、次のページが含まれています。
	「[詳細]ページ」>「[属性]ページ」>「[修飾子] ページ」>「[Triplet] ページ」>「[アイコ ン] ページ」>「[付属メニュー] ページ」>「[デフォルトのラベル] ページ」> 「[一致ルール] ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
1	選択した比較可能な属性を[一致ルールの優先度]表示枠または[一致する必要 がある属性]表示枠に移動するときにクリックします。複数の属性を選択するには、 CTRL キーを押したままにします。
¥	属性を[一致ルールの優先度]表示枠または[一致する必要がある属性]表示枠か ら削除するときにクリックします。
m	すべての属性を[一致ルールの優先度]表示枠または[一致する必要がある属性] 表示枠に移動するときにクリックします。
444	すべての属性を[一致ルールの優先度]表示枠または[一致する必要がある属性] 表示枠から削除するときにこのボタンをクリックします。
<	上下ボタンを使用して、一致ルールの順序を設定します。
比較可 能な属 性	選択した CI タイプのすべての属性のリスト(比較可能修飾子を選択した状態)。
ー 致 ルー ルの優先 度	定義された優先度に応じて,選択した属性が設定マネージャで使用されて,一致 ルールが満たされているかどうかを判断します。
一致する必要がある属性	選択した属性の値は、設定マネージャの一致ルールを満たすために一致する必要が あります。

[リスト / 一覧定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは,新しいリストまたは列挙を定義できます。作成したリストまたは列挙の 定義は,[システムタイプマネージャ]ダイアログ・ボックスに表示され,必要に応じて編集できます(詳 細については,403ページ「[システムタイプマネージャ]ダイアログ・ボックス」を参照してください)。

利	[システム タイプ マネージャ]ダイアログ・ボックスで[追加]ボタンをクリックします。
用	
方	

法	
重要情報	状態マネージャからも[列挙定義の作成]および[列挙定義の更新]ダイアログ・ボックスに アクセスできます。詳細については,『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「状態マネージャ」 を参照してください。
関連タスク	378ページ「リストと一覧の定義の作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要 素	詳細
表示 名	システム・タイプ定義のリストに表示する名前を入力します。 このフィールドを空のままにす ると, [名前]フィールドのエントリが使用されます。
列挙	値の定義済みリストを作成し,各値に色を割り当てることもできます。詳細について は,400ページ「[列挙定義]領域」を参照してください。
リスト	値の定義済みリストを作成できます。詳細については, 399ページ「[リスト定義]領域」を 参照してください。
Name	属性に一意の名前を入力します。

[リスト定義]領域

この領域では、値の定義済みリストを作成できます。

利用方法	リスト/列挙定義の作成]ダイアログ・ボックスで[リスト]を選択します。
重要情報	たとえば、Location属性は、次の値が含まれた場所リストで定義できます。
	New York
	• Boston
	Baltimore

含まれている要素は次のとおりです(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要 素	詳細
÷	リストの定義を追加します。行内をダブルクリックして、表示されたカレンダーから日付を選択 するか([日付]タイプを選択した場合)、必要な値を入力します。
×	リストの定義を削除します。

UI 要 素	詳細
₽↓	リストをアルファベット順に並べ替えます。
タイプ	次のフィールド・タイプのいずれかを選択します。 • Date • Double • Integer • Long • String

[列挙定義]領域

この領域では、すべての値に色を割り当てる機能などを使って、値の定義済みリストからリストを作成できます([**リスト**]と同様)。

利用 方法	[リスト/列挙定義の作成]ダイアログ・ボックスで[列挙]を選択します。
重要 情報	列挙は状態による重要度値リストとして使用するように設計されています。キー値を必 要とするリストには列挙を使用できます。
関連 情報	379ページ「列挙定義の作成 - ワークフロー」

UI 要	
素	詳細
÷	列挙定義を追加します。
×	列挙定義を削除します。
色	重要度を示す色を選択します。
	注:灰色は、タイプ[管理]の列挙を作成するときにのみ有効になります。
†	カテゴリの重要度リストを記述する数字を入力して、列挙を作成します。
	次のルールに従って、キー値を割り当てます。
	 キー値のリストは、必ずゼロ(0)から始める必要があります(ゼロは標準状態を示します)。そうしないと、状態マネージャにリストが表示されません(詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「状態マネージャ」を参照してください)。

UI 要 素	詳細
	 リストは必ず連続してナンバリングする必要があります。 列挙定義の例については、379ページ「列挙定義の作成 - ワークフロー」を参照してください。
 値	い。 文字列または数字の値(Red やmy value など)を入力します。値はIT ユニバース・マ ネージャで CI のツールチップに表示されます。

[Excel への選択した CIT のエクスポート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI タイプを Excel レポートにエクスポートできます。

利用方法	CI タイプ・マネージャでは, [クラス モデルをエクスポート] ボタン ^全 をクリックして, [選択した CIT を Excel ヘエクスポート]を選択します。
重要情	レポートのルート CI タイプとルート関係として機能する CIT と関係を選択できます。 CIT また は関係を選択しない場合,標準設定が使用されます。 ルート CIT とルート関係は互いに 独立しています。
報	レポートは, ルート CIT とすべての子 孫 の CIT を表 示します。 レポートには, 次 のページが含 まれます。
	 CIT Hierarchy: ツリー形式でルート CIT の下に属性へのリンクとともに CIT を表示します。
	• 関係階層:ツリー形式でルート関係の下に属性へのリンクとともに関係を表示します。
	 CIT Attributes :CIT の下に各 CIT の CIT 属性の名前,タイプ,説明,および表示レベル を表示します。
	 関係属性:ルート関係の下に各関係の関係属性の名前,タイプ,説明,および表示レベルを表示します。
	 有効な関係:ルート CIT の下に各 CIT の有効な関係のすべてを表示します。
	• 列挙 :システム・タイプ・マネージャからのすべての列挙定義を表示します。(ルート CIT またはルート関係には依存していません)。
	 リスト:システム・タイプ・マネージャからのすべてのリスト定義を表示します。(ルート CIT またはルート関係には依存していません)。
	レポートに表 示 するページを選 択 できます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
ルート Cl タイ プ	省略記号のボタン をクリックして、 ルート CI タイプとして機能する CIT を選択 します。 CIT を選択しない場合、標準設定のルート CI タイプが使用されます。標 準設定値を変更するには、 インフラストラクチャ設定マネージャで[オブジェクト ルート]設定を編集します。
ルート関係	省略記号のボタン をクリックして、ルート関係として機能する関係を選択します。関係を選択しない場合、標準設定のルート関係が使用されます。標準設定値を変更するには、インフラストラクチャ設定マネージャで[リンク ルート]設定を編集します。
表示するペー ジを選択	レポートで表示するページを選択します(必要なすべてのページのチェック・ボックス を選択します)。次のオプションを利用できます。
	• [CIT ワークシート]: CIT 階層とCIT 属性のワークシートが含まれます。
	• [関係ワークシート]: 関係階層と関係属性のワークシートが含まれます。
	• [有効な関係ワークシート]: 有効な関係ワークシートが含まれます。
	• [タイプ定義 ワークシート]:列挙およびリストのワークシートが含まれます。

[PDF への選択した CIT のエクスポート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI タイプを PDF レポートにエクスポートできます。

利用	CI タイプ・マネージャでは, [クラス モデルをエクスポート]ボタン ^全 をクリックして, [選択した
方法	CIT を PDF ヘエクスポート]を選択します。
重要 情報	このダイアログ・ボックスの出力は、UCMDB CI タイプと関係情報 PDF になります。 Universal Data Model(UDM) について説明しています。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
All Data	選択した CIT のすべての情報を表示するように選択します。
Changes Only	前のデータ・モデルから選択した CIT の変更内容のみを表示するように選択します。
СІТ	省略記号のボタン 🔤 をクリックして, エクスポート する CIT を選択します。
Filter attributes by qualifiers	レポートの属性を修飾子でフィルタするように選択します。必要な修飾子を ボックスに入力します。このレポートは、選択した修飾子を持つ属性のみを表示 します。
関係	省略記号のボタン 🔜 をクリックして, エクスポートする関係を選択します。

UI要素	詳細
プロパティを表	選択したCITと関係の範囲を選択します。
示	• UDM: UDM からの CIT と関係 が含まれます。
	• CMS: CMS で使用されている CIT と関係のみが含まれます。
Show Qualifiers	エクスポートしたレポートに修飾子の情報が含まれるように選択します。
Show Relationships	エクスポートしたレポートに関係の情報が含まれるように選択します。
Show Valid Links	エクスポートしたレポートに有効なリンク情報が含まれるように選択します。有効なリンクのセクションは、選択した CIT の有効な関係のすべてを表示します。

[システム タイプ マネージャ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、 [リスト/列挙定義の作成]ダイアログ・ボックスで定義した属性タイプを表示できます。

利用方法	Cl タイプ・マネージャで, [Cl タイプ]>[システム タイプ マネージャ]を選択します。
関連タスク	378ページ「リストと一覧の定義の作成」
関連情報	379ページ「列挙定義の作成 – ワークフロー」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
+	属性タイプを定義する値の定義済みリストを作成します。次の属性タイプの定義 を作成できます。
	 リスト定義
	• 列挙定義
	これらの属性タイプについては、398ページ「[リスト / 一覧定義の作成 / 更新] ダイ アログ・ボックス」 を参照してください。
Ø	既存の定義を編集できます。詳細については、398ページ「[リスト / 一覧定義の 作成 / 更新] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
×	既存の定義を削除します。削除するシステム・タイプ定義を選択して、 [削除]ボ タンをクリックします。
<システム・タ イプ定義>	システム・タイプ・マネージャで作成した列挙およびリスト定義の一覧です。

第12章

エンリッチメント・マネージャ

本章の内容

エンリッチメント・マネージャー概要	404
エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ	. 406
エンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加	409
新規テナント関連付けルールの定義	410
エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース	411

エンリッチメント・マネージャー概要

エンリッチメント・ルールは、次に示すいくつかの目的で使用できます。

- 新しい CI および関係を CMDB に追加
- CMDB から特定の CI インスタンスを削除
- CMDB内の特定のCIインスタンスの属性値を更新

エンリッチメント・クエリ・ノードと関係は、検出プロセスによって自動的に検出できない実際の関係と CIを表す概念上のものであるという点で、ほかのクエリ・ノードと関係と異なります。

エンリッチメント・クエリ・ノードと関係は TQL クエリの一部として作成されます。 TQL のほかの TQL クエ リ・ノードは通常のもの、つまりすでに CMDB内に存在している TQL クエリ・ノードです。 TQL クエリの 詳細については、17ページ「トポロジ・クエリ言語(TQL)」を参照してください。

次の例では、Node タイプの通常のクエリ・ノードが Composition エンリッチメント 関係で Websphere AS エンリッチメント・クエリ・ノードにリンクされています。



TQL クエリコンテキスト内にエンリッチメント・クエリ・ノードを配置することで、 クエリはノードの属性から データを取得し、それを使用して CMDB に新しい情報を挿入します。

エンリッチメント・ルールを作成すると、次の結果になる可能性があります。

• CMDB が拡張される:現在 CMDB に含まれていないエンリッチメント・クエリ・ノードと関係が追加 されます。

次のエンリッチメント・ルールの例では,通常のWindows クエリ・ノード(すでに CMDB に存在)が Composition エンリッチメント関係で Log File エンリッチメント・クエリ・ノードに接続されています。



このエンリッチメント・ルールは、CMDB にあるすべての Windows CI インスタンスについて、新しい Log File CI インスタンスが作成され、Composition 関係で Windows CI にリンクされることを示し ています。

- CMDB から特定の CI インスタンスが削除される:例については、406ページ「エンリッチメント・ルー ルの定義 - シナリオ」を参照してください。
- CI属性の値が更新される:エンリッチメント・ルールを使用して,すでに CMDB に存在する CIの 属性を更新します。

次のエンリッチメント・ルールの例は、通常の Windows クエリ・ノード(すでに CMDB に存在) がエンリッチメント・ルールで更新されたことを示しています。



このエンリッチメント・ルールは、CMDB にあるすべての Windows CI がエンリッチメント・ルールで定義 された属性値で更新されることを示しています。

エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ

このタスクでは、次のエンリッチメント・ルールを作成する方法について説明します。

IP アドレス CI は同一の2つの Node CI に接続されます。1つの Node CI は IP アドレスで識別され、もう1つは最下層 MAC アドレスで識別されます。このようなインスタンスすべてについて、IP アドレスで識別される Node CI を CMDB から削除します。

注:必要な結果に到達するためには、次のそれぞれの手順を実行する必要があります。

本項の内容

- 406ページ「エンリッチメント TQL クエリの作 成」
- 408ページ「最下層 MAC アドレスで識別される, Node タイプのクエリ・ノードの定義」
- 408ページ「IP アドレス で識別 される, Node タイプのクエリ・ノードの定義」
- 409ページ「エンリッチメント・ルールの定義」

1. エンリッチメント TQL クエリの作成

エンリッチメント TQL クエリを作成するには、エンリッチメント・ルールを定義し、次にクエリを定義する通常の TQL クエリ・ノードと関係を追加する必要があります。

注: エンリッチメント・クエリ・ノードと関係の追加は、少なくとも1つの通常のクエリ・ノードがクエリに追加された後に行うことができます。

[マネージャ]>[モデリング]>[エンリッチメント マネージャ]を選択します。エンリッチメント TQL クエ リの作成方法の詳細については、419ページ「新規エンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルー ルのプロパティ/エンリッチメント・ルールとして保存ウィザード」を参照してください。クエリにクエリ・ ノードと関係を追加する方法の詳細については、25ページ「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の 追加」を参照してください。

エンリッチメント TQ	L クエリの例
doubleHosts1 チメント・マネージャ	という新しいエンリッチメント TQL クエリ(Network フォルダの下) がエンリッ に作成されます。
ルール名:	doubleHosts1
ルールの詳細:	Delete incomplete host
▼ ルールを有効	

doubleHosts1 エンリッチメント・ルールは、 [エンリッチメント・ルール]表示枠に表示されます。



このエンリッチメント TQL クエリでは, IP アドレスクエリ・ノードが Containment 関係で2つの Node タイプのノードにリンクされています。 TQL 結果は, 矢印の方向に適合する必要があります。



注:TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については,80ページ「トラブルシュー ティングおよび制限事項」を参照してください。

2. 最下層 MAC アドレスで識別される, Node タイプのクエリ・ノードの定義

[エンリッチメント マネージャ]ページの上部で**クエリ・**モードを選択します。編集表示枠で,必要な Node タイプのクエリ・ノードを右クリックし, [**クエリノードのプロパティ**]を選択して[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスを開きます。次に[属性]タブで属性条件を定義します。属性条件の定義方法の詳細については, 63ページ「[クエリ・ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

最下層 MAC アドレスでノードを識別する属性条件定義の例

[属性]タブで、この属性条件定義が最下層 MAC アドレスによって該当のノードを識別します。

- 属性名 Node is Complete
- 演算子等しい
- 值 True

3. IP アドレス で識別される, Node タイプのクエリ・ノードの定義

[エンリッチメント マネージャ]ページの上部で **クエリ・**モードを選択します。編集表示枠で,必要な Node タイプのクエリ・ノードを右クリックし, [**クエリノードのプロパティ**]を選択して[クエリノードのプロパティ]ダイアログ・ボックスを開きます。次に[属性]タブで2つの属性条件を定義します。 属性条件の定義方法の詳細については, 63ページ「[クエリ・ノード/関係のプロパティ]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

IP アドレスでノードを識別できるようにするための属性条件の例

これは, IP アドレスによってノード・タイプのクエリ・ノードを識別できるようにするために[属性]タブに定義する必要がある1つ目の属性条件です。

属性名 Node is Complete

演算子等しい

值 False

これは, IP アドレスによってノード・タイプのクエリ・ノードを識別できるようにするために[属性]タブに定義する必要がある2つ目の属性条件です。

属性名 Node is Complete

演算子 null

値値は変更できません

4. エンリッチメント・ルールの定義

IP アドレスで識別される Node タイプのクエリ・ノードのすべてのインスタンスを削除 するエンリッチメント・ルールを定義します。ツールバーからエンリッチメント・モードを選択します。[エンリッチメント ルール]表示枠でdoubleHosts1エンリッチメント・ルールを選択します。IP アドレスで識別される Node タイプのクエリ・ノードを右 クリックし, [関係/クエリノードを削除]を選択します。

削除済みインジケータを含む Node タイプのクエリ・ノードの例

Node タイプのクエリ・ノードには、同一の属性とカーディナリティ設定を持つすべてのノード・ インスタンスが CMDB から削除されることを示す削除済みインジケータが付きました。エンリッ チメント・クエリは次のようになります。



エンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加

本 項 では, エンリッチメント・マネージャでエンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL ク エリに追加する方法について説明します。

エンリッチメント・クエリ・ノードと関係を TQL クエリに追加するには、次の手順を実行します。

- [エンリッチメント ルール]表示枠のツリーで、エンリッチメント・クエリ・ノードと関係を追加するエン リッチメント・ルールを選択するか、または新しく作成します。詳細については、419ページ「新規エ ンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ルールとして保存ウィ ザード」を参照してください。
- 2. ページ上部の[クエリ/エンリッチメント]ドロップダウンで,エンリッチメント・モードを選択します。

エンリッチメント モード 💌	
TQLモード	
エンリッチメント モード	

 CI タイプ・セレクタに表示されるツリーで、エンリッチメント・クエリ・ノードとして機能させるクエリ・ ノードをクリックし編集表示枠にドラッグします。これらの TQL クエリ・ノードがクエリに含まれます。
 追加したエンリッチメント・クエリ・ノードには、[追加済み]・インジケータが表示されます。

注: ルールには複数のエンリッチメント・クエリ・ノードを追加できます。

4. エンリッチメント・クエリ・ノードを既存のTQLノード(1つまたは複数)にリンクして,操作に必要な 内容を持ったエンリッチメント・クエリ・ノードを提供します。

次に示すエンリッチメント・ルールを検証してください。

- ルールでは、新しいエンリッチメント・クエリ・ノードを既存のTQL クエリ・ノードの少なくとも1つにリンクする必要があります。
- エンリッチメント・クエリ・ノードは、エンリッチメント関係を持つ相手とのみリンクできます。
- 新しいエンリッチメント・クエリ・ノードを(CIT 定義に従って)別のクエリ・ノードに含める必要がある場合は、Composition関係を使って、このエンリッチメント・クエリ・ノードを既存のTQLクエリ・ノードに接続する必要があります。
- エンリッチメント・クエリ・ノードを非表示のTQL クエリ・ノードにリンクすることはできません。
- 5. 2つのクエリ・ノードの間に関係を追加するには、次のいずれからの手順で行います。
 - CTRL キーを押しながら TQL クエリ・ノードをクリックして必要なクエリ・ノードを選択し、右ク リックして[**関係の追加**]を選択します。
 - [関係を作成] ^[] アイコンをクリックし, 必要なクエリ・ノードの間に線を引きます。

追加したエンリッチメント関係には、 [追加済み] * インジケータが表示されます。

[関係の追加]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については,47ページ「[関係の追加/編集]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

6. [OK]をクリックします。選択したクエリ・ノードが、選択した関係によってリンクされます。

新規テナント関連付けルールの定義

次タスクで、テナント関連付けルールを定義する方法について説明します。

注:このボタンは、マルチテナンシーの有効時にのみ関連します。

1. [新規テナント関連付けルール]ウィザードが実行されます。

エンリッチメント・マネージャで、[新規エンリッチメント ルール] ¹⁰の横の矢印をクリックし、[新規 テナント関連付けルール]を選択します。各ウィザード・ページに、一般属性とベース・クエリの情報を入力します。詳細については、422ページ「新規テナント関連付けルール/テナント関連付 けルールのプロパティ/テナント関連付けルールとして保存ウィザード」を参照してください。 **注**: ウィザードの[ルールのー 般属性]ページで[ルールを有効にする]チェックボックスを選択して、ルールを有効にします。

2. ルール・クエリの構築

新規クエリでテナント関連付けルールに基づく場合,必要な CI をキャンバスにドラッグし,必要な関係をドラッグすることで,クエリを構築します。

3. 選択したクエリ・ノードの所有者テナントの更新

[テナント関連付けルール]によって更新するクエリ・ノードを右クリックし、[所有者テナントを更新]を選択します。[所有者テナントを更新]ダイアログ・ボックスが開きます。所有者テナントを更新]を選択し、選択したオプションの必要パラメータを選択します。[OK]をクリックします。詳細については、429ページ「[利用者テナントを更新]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

注: ルール内で複数のクエリ・ノードの所有者テナントを更新できます。

4. 選択したクエリ・ノードの[利用者テナント]の更新

[テナント関連付けルールによって更新するクエリ・ノードを右クリックし, [利用者テナントを更新]を選択します。[利用者テナントを更新]ダイアログ・ボックスが開きます。 顧客テナントを更新する方法([値別]または[属性別])を選択し, 選択したオプションの必要パラメータを選択します。[OK]をクリックします。詳細については, 428ページ「[利用者テナントを更新]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

注:

- ルール内で複数のクエリ・ノードの利用者テナントを更新できます。
- 同じクエリ・ノードの所有者テナントと利用者テナントの両方を,単一のテナント関連付 けルールで更新できます。
- 5. ファイルの保存

[保存] ■をクリックしてテナント関連付けルールを保存します。ルールは、その優先度で定義した頻度に従って実行されます。

エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容

- 412ページ「[エンリッチメント マネージャ] ページ」
- 419ページ「新規エンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ルールとして保存ウィザード」
- 422ページ「新規テナント関連付けルール/テナント関連付けルールのプロパティ/テナント関連付けルールとして保存ウィザード」
- 425ページ「[クエリノード / 関係の定義]ダイアログ・ボックス」
- 427ページ「[クエリノード定義]-[詳細な属性]ダイアログ・ボックス」

- 428ページ「[利用者テナントを更新]ダイアログ・ボックス」
- 429ページ「[利用者テナントを更新]ダイアログ・ボックス」

[エンリッチメント マネージャ] ページ

このページでは, エンリッチメント・ルールを定義できます。これらのルールは特定の TQL クエリに基づい ており, 次のような目的で使用できます。

- 新しい CI および関係を CMDB に追加
- CMDB から特 定 の CI インスタンスを削除
- CMDB内の特定のCIインスタンスの属性値を更新

利用方法	ナビゲーション・メニューから[エンリッチメント マネージャ]を選択するか, [マネージャ]> [モ デリング]> [エンリッチメント マネージャ]を選択します。
重要情報	エンリッチメント・マネージャでは2つのモードを使用できます。 ツールバーのエンリッチメント・ モード/クエリ・モードのリストを常にチェックして,現在選択しているモードを確認してください。
関連タ	406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」 410ページ「新規テナント関連付けルールの定義」
スク	

[エンリッチメント ルール]表示枠

定義済みのフォルダおよびエンリッチメント・ルールの階層ツリー構造を表示します。各エンリッチメント・ルールは TQL クエリに関連付けられています。

UI 要素	詳細
•	新しいフォルダを作成します。
*	エンリッチメント・ルールを作成します。 [新規エンリッチメント ルール]ウィザードが開きます。

モデリング・ガイド 第12章:エンリッチメント・マネージャ

UI 要素	詳細
	注 :マルチテナンシ環境では,下部右側にある小さな矢印をクリックしてオプションを表示します。[新規エンリッチメント ルール]を選択すると,新規エンリッチメント・ルール・ウィ ザードが開きます。[新規テナント関連付けルール]を選択すると,新規テナント関連付 けルール・ウィザードが開きます。
×	選択したフォルダまたはエンリッチメント・ルールを削除します。
	ほかのユーザによって変更された可能性がある階層ツリー構造のデータ内容が更新さ れます。
	(エンリッチメント・ルールが作成されたか、既存のエンリッチメント・ルールに変更が加えられた場合にのみ有効)エンリッチメント・ルールを CMDB に保存します。
P	[エンリッチメント ルールのプロパティ]ウィザードが開きます。 エンリッチメント・ルールの説明 やアクティブ化 の状態を変更できます。
Q	選択したエンリッチメント・ルールの結果のプレビューを生成します。
	注:このボタンは、マルチテナンシが有効の場合は使用できません。
	フォルダを表します。
Ð	エンリッチメント・ルールを表します。
20-	テナント関連付けルールを表します。
	注:このアイコンは、マルチテナンシーが有効な場合にのみ関連します。
<エン	既存のエンリッチメント・ルールがソリー形式で表示されます。
リッチメ ント・ ルール・ ツリー>	注 :ツリーにはエンリッチメント・ルールのみが表示されます。 TQL クエリ・タイプのエンリッチ メント (モデリング・スタジオで作成)はこのツリーに表示されません。

フォルダまたはエンリッチメント・ルールを右クリックすると、次の要素を使用できます。

UI 要素	詳細
削除	選択したフォルダまたはエンリッチメント・ルールを削除します。
XML へ エクス ポート	標準の保存ダイアログ・ボックスを表示され, エンリッチメント・ルールを XML スクリプトと して保存できます。 このオプションは, 関連する TQL クエリも再配置されるという条件 で, ワークステーション間でエンリッチメント・ルールを移動するのに使用できます。
XML か らイン ポート	保存されたエンリッチメント・ルールを含む XML ファイルをエンリッチメント・マネージャにイ ンポートします。
新規エ ンリッチ メント	エンリッチメント・ルールを作成します。 [新規エンリッチメント ルール]ウィザードが開きます。

UI 要素	詳細
ルール	
新規フォ ルダ	新しいフォルダを作成します。
新規テ ナント関 連付け ルール	テナント関連付けルールを作成します。[テナント関連付けルール]ウィザードを新規に 起動します。
プレ ビュー	選択したエンリッチメント・ルールの結果のプレビューを生成します。
プロパ ティ	[エンリッチメント ルールのプロパティ]ウィザードが開きます。 ルールの説明 やアクティブ化の状態を変更 できます。
フォルダ の名前 の変更	フォルダの名前を変更します。
保存	(エンリッチメント・ルールが新規に作成されたか、既存のエンリッチメント・ルールに変更が加えられた場合にのみ有効)エンリッチメント・ルールを CMDB に保存します。
名前を 付けて 保存	[エンリッチメント ルールに名前を付けて保存]ウィザードを表示します。 このウィザード で, クエリの新しい名前や説明を定義できます。 このオプションは,既存のエンリッチメン ト・ルールに基づく新しいエンリッチメント・ルールの作成に使用できます。

編集表示枠

エンリッチメント・クエリ・ノードおよび関係を作成, 定義します。

重	• [エンリッチメント ルール]表示枠でフォルダを選択すると、編集表示枠は空の状態です。
要 情 報	• [エンリッチメント ルール] 表示枠内のエンリッチメント・ルールを選択した場合, 編集表示枠には, TQL クエリで定義された TQL クエリ・ノードとTQL ノード間の関係で構成された選択したルール, および作成してルールに追加されたエンリッチメント・クエリ・ノードと関係が表示されます。
	 エンリッチメント・マネージャでは、[エンリッチメント]モードと[クエリ]モードの2つのモードを 使用できます。
	作業しているモードによって, ショートカット・メニューに表示されるオプションが異なります。詳 細については, 後述の編集表示枠を参照してください。
	 エンリッチメント・ルールの結果として作成されたインスタンスの数を計算できます。また、エンリッチメント・ルールから作成されたインスタンスをCMDBから削除できます。詳細については、141ページ「追加数」と145ページ「エンリッチメント結果を削除する」を参照。
関連	406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」
タ スク	

関 TQL クエリの作成方法の詳細については、25ページ「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の
 追加」を参照してください。
 報

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI要素	詳細
+	追加されたエンリッチメント・クエリ・ノードまたは関係を示します。
—	CMDB から削除されたクエリ・ノードまたは関係を示します。
π	更新されたクエリ・ノードまたは関係を示します。
エンリッチメントモード V TQLモード	エンリッチメント・マネージャでは、 [エンリッチメント]モードと[クエリ]モードの 2 つのモードを使用できます。
1) 1) 1) 1) 1) 1) 1) 1) 1) 1) 1) 1) 1) 1	次 の作 業 ができます。
クエリ モード とエンリッ チメント モード	• クエリ・モードでは, 通常の(エンリッチメントではない)関係とクエリ・ノー ドを定義し, それらを定義済みの TQL クエリに追加できます。
	• エンリッチメント・モードでは、エンリッチメントの関係とクエリ・ノードを定 義し、それらを定義済みの TQL クエリに追加できます。
<メイン・メニュー>	詳細については、138ページ「メイン・メニュー」を参照してください。
<クエリノード>	TQL クエリの構築元となるコンポーネントです。
<関係>	2 つのクエリ・ノード間の関係を定義するエンティティです。
<ショートカット・メ ニュー>のオプション	詳細については, 32ページ「ショートカット・メニュー・オプション」 を参照して ください。
<ツールバー>	詳細については、141ページ「ツールバー・オプション」を参照してください。
<ツールチップ>	クエリ・ノードまたは関係の上にカーソルを置いたままにすると、そのノード または関係のツールチップが表示されます。
	このツールチップには次の情報が含まれます。
	• 要素名: クエリ・ノードの名前です。
	 CI タイプ:CI タイプ・マネージャで定義されているクエリ・ノードの CIT です。詳細については、372ページ「CI タイプ・マネージャ」を参照してください。
	• 選択したクエリ・ノードと関係の定義:属性条件です。詳細について は63ページ「[クエリ・ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を 参照してください。

CIタイプ・セレクタ

この領域には、 CMDB にある CI タイプの階層 ツリー構造が表示されます。

- **スク** 24ページ「TQL クエリの定義」
 - 213ページ「パターン・ビューの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
Ų	[CI タイプをマップに追加]をクリックすると、選択した CI タイプが[編集]表示枠 に移動します。
Q	[更新]をクリックすると、 CI タイプ・ツリーが更新されます。
ď	[検索]をクリックすると、入力した CI タイプが検索されます。
卻	[すべてを展開]をクリックすると、CI タイプ・ツリー内のすべてのサブツリーが展開されます。
5	[すべてを折りたたむ]をクリックすると、CI タイプ・ツリー内のサブツリーが折りたたまれます。
<検索ウィンド ウ>	検索する CI タイプの名前または名前の一部を入力します。

ショートカット・メニュー・オプション

CIタイプ・セレクタでは、CIタイプを右クリックしたときに以下の要素を選択できます。

メニュー項 目	詳細
CI タイプ をマップに 追加	選択すると,選択した CI タイプが編集表示枠に追加されます。
CI タイプ の定義へ 移動	CIT マネージャ内の選択した CI タイプに直接移動します。
CIT イン スタンスを 表示	[CIT インスタンス]ウィンドウが開き, 選択した CIT のすべてのインスタンスが表示されます。詳細については, 58ページ「[要素 インスタンス] ダイアログ・ボックス」 を参照して ください。

詳細表示枠

この領域には、選択したクエリ・ノードおよび関係のプロパティ、条件、およびカーディナリティが表示されます。

重要情報	[詳細]表示枠は、モデリング・スタジオ、インパクト・アナリシス・マネージャ、エ ンリッチメント・マネージャ、インプット・クエリ・エディタ、DFM のトリガ・クエリ・エ ディタの各マネージャとユーザ・インタフェースで、ウィンドウ下部に表示されま す。 データを含んでいるタブの横には、小さな緑色のインジケータ*が表示されま す。
関連タスク	• 357ページ「影響ルールの定義 - ワークフロー」
	• 406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」
	 24ページ「TQL クエリの定 義」
	• 213ページ「パターン・ビューの作成」
	• 214ページ「テンプレートの作成」
	• 215ページ「パースペクティブの作成」

UI要素	詳細
	ウィンドウの幅が狭くてすべてのタブが表示されない場合は、 左矢印または右 矢印を使って必要なタブに移動します。
Þ	[リストを表示する]をクリックすると,現在のモジュールで使用できるタブのリストが表示されます。このリストからタブを選択できます。
属性	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された属性条件が表示されます。詳 細については,65ページ「[属性]タブ」を参照してください。
カーディナリティ	カーディナリティは,関係のもうー方の端にあることが期待されるクエリ・ノードの数を定義します。たとえば、ノードとIPアドレスの関係でカーディナリティが1:3である場合,TQLクエリは1~3個のIPアドレスに接続されているノードのみを取得します。詳細については、67ページ「[カーディナリティ]タブ」を参照してください。
データソース	選択したクエリ・ノードのデータ・ソース・セットが表示されます。
	注 :このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
詳細	次の情報が表示されます。
	• CI タイプ/要素タイプ:選択したクエリ・ノード/関係のCITです。
	• 要素名 :クエリ・ノード/関係の名前です。モデリング・スタジオにのみ表示されます。
	• クエリ結果に表示:緑色のチェック記号は、選択したクエリ・ノード/関係

UI要素	詳細
	がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは,表示されないことを示します。 モデリング・スタジオでは, [はい]または[いいえ]という語によって示されます。
	 サブタイプを含める:緑色のチェック記号は、選択した CI とその子の両方がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、選択した CI だけが表示されることを示します。この項目はモデリング・スタジオでは 表示されません。
編集	[編集]をクリックすると、選択したタブに対応するダイアログ・ボックスが開きます。
要素レイアウト	選択したクエリ・ノード/関係での選択属性が表示されます。クエリ結果に含めるために選択された属性が一覧表示されます([特定の属性]が属性条件として選択されている場合)。また,除外された属性と、属性で選択されたすべての修飾子も一覧表示されます。詳細については、71ページ「[要素レイアウト]タブ」を参照してください。
	注 :このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
要素タイプ	クエリ・ノードまたは関係に対して定義されたサブタイプ条件が表示されます。詳細については, 69ページ「[要素タイプ]タブ」を参照してください。
	注 :このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
エンリッチメント ルール	選択したクエリ・ノード/関係に対して定義されたエンリッチメント・ルールが表示されます。エンリッチメント・ルールを使って CI の属性を更新する場合は、必要に応じて[編集]をクリックして[クエリ・ノード/関係の定義]ダイアログ・ボックスを開き、ルールを編集します。詳細については、425ページ「[クエリノード/関係の定義]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	注 :このタブはエンリッチメント・マネージャにのみ表示されます。
影響を受けるクエ リノード	選択したトリガ・クエリ・ノードで発生する変更の影響を受けるクエリ・ノードが 表示されます。必要な場合は、[編集]をクリックして、[影響を受けるクエリ ノード]ダイアログ・ボックスを開いて変更できます。詳細については、366ペー ジ「[影響を受けるクエリノード]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	注:このタブは影響分析マネージャにのみ表示されます。
修飾子	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された修飾子条件が表示されます。 詳細については,73ページ「[修飾子]タブ」を参照してください。
	注 : このタブは, エンリッチメント・マネージャと影響分析マネージャにのみ表示 されます。
選択された ID	TQL クエリ結果に含める必要があるものを定義するために使用される要素インスタンスが表示されます。詳細については、75ページ「[ID]タブ」を参照してください。

新規エンリッチメント・ルール / エンリッチメント・ルールのプロパティ / エンリッチメント・ルールとして保存ウィザード

このウィザードでは、エンリッチメント・ルールを作成または変更できます。

利用方法	 新規エンリッチメント・ルールを作成するには、 [エンリッチメント ルール]表示枠のどこかを 右クリックして[新規エンリッチメント ルール]をクリックするか、 [新規エンリッチメント ルー ル] * ボタンをクリックします。
	 既存のエンリッチメント・ルールを変更するには、[エンリッチメント ルール]表示枠でエンリッチメント・ルールを右クリックして、[プロパティ]を選択します。
	 既存のクエリに基づいて新しいエンリッチメント・ルールを作成するには、[エンリッチメント ルール]表示枠でエンリッチメント・ルールを右クリックして、[名前を付けて保存]を選択します。
重要	 新規エンリッチメント・ルールを作成する場合、ルールに必要な TQL クエリの変更はアプリケーションが許可しないことに留意してください。これらの変更は次のとおりです。
情 報	どの関係にも接続しなくなるクエリ・ノードが発生するような、エンリッチメント TQL クエリからエンリッチメント・クエリ・ノードに接続されているクエリ・ノードまたは関係を削除する操作。
	 エンリッチメント・ルールで使用しているクエリ・ノードまたは関係のカーディナリティ定義を0(不要)に変更することはできません。関係カーディナリティの詳細については、63ページ「[クエリ・ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	 エンリッチメント・ルールの基礎として機能するエンリッチメント TQL クエリはー 定の検証制限を受けます。詳細については、80ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。
関 連タ スク	406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」
ウィードマプ	「新規エンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ルールとして保存ウィザード」には、次のページが含まれています。
	「[ルールー 般 属 性] ページ」>「[ルール ベース クエリ] ページ」
関連情報	17ページ「トポロジ・クエリ言 語 (TQL) 」

[ルールー般属性]ページ

このウィザード・ページでは、エンリッチメント・ルールの一意の名前と説明を入力できます。

重要情報	 エンリッチメント・ルールの基礎として機能するエンリッチメント TQL クエリはー 定の検証制限を受けます。詳細については、80ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。 TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、419ページ「新規エンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ルールとして保存ウィザード」を参照してください。
	 標準設定では、このウィザードは[ようこそ]ページを表示するように設定されています。 ユーザ・プリファレンスを変更して、このページを表示しないようにできます。詳細については、80ページ「[ユーザプリファレンス]ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウィ ザー ド・	「新規エンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ルールとして保存ウィザード」には、次のページが含まれています。
マップ	「[ルールー 般属性]ページ」>「[ルールベースクエリ]ページ]
関連	17ページ「トポロジ・クエリ言 語 (TQL) 」
情 報	

UI 要 素	詳細
レル詳細	ルールの詳細を入力します(任意指定)。
ルル有効にる	このオプションを選択すると、ルールが保存されたらすぐにシステム内で有効になります(任意 指定)。
	 標準設定:選択されていない 注: 有効なエンリッチメント・ルールが無効化された場合([ルールを有効にする]チェック・ボックスをクリア), CMDB で発生したルールに関連するすべての変更がシステムから削除されます。エンリッチメント・ルールを無効化すると、[エンリッチメント ルール]表示枠でエンリッチメント・ルールの横に赤い[X]が表示されます。 ルールを再度有効にするには、[エンリッチメント ルール]表示枠でルールを右クリックして、[プロパティ]を選択します。[ー般属性]ページで[ルールを有効にする]を選択します。
ルル名	エンリッチメント・ルールの一意の名前を入力します。ルール名には、\/:"<> %?の文字 を含むことができません。\/:"<> %?.最後の文字を空白スペースにすることはできません。 注 :ルール名が空の状態であるか、別のエンリッチメント・ルールで使用している名前が含ま れているか、無効な文字を使用している場合、[次へ]および[完了]ボタンは使用できません。

[ルールベースクエリ]ページ

このウィザードでは, エンリッチメント・ルールのベースとなる TQL クエリのプロパティを定義できます。

重要情報	 エンリッチメント・ルールの基礎として機能するエンリッチメント TQL クエリはー 定の検証制限を受けます。詳細については、80ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。 TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、419ページ「新規エンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ルールとして保存ウィザード」を参照してください。
	 標準設定では、このウィザードは、このページで「次へ]をクリックすると[ウィザードの完了] ページを表示するよう設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、[ウィザードの 完了]ページを表示しないようにできます。詳細については、80ページ「[ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウザドマプ	「新規エンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ルールと して保存ウィザード」には、次のページが含まれています。 「[ルールー般属性]ページ」>「 [ルールベースクエリ]ページ」
関 連 情 報	17ページ「トポロジ・クエリ言 語 (TQL) 」

UI要素	詳細
新しいクエリのエ ンリッチメントに 基づく	新しい TQL クエリをエンリッチメント・ルールのベースにする場合は、このチェック・ ボックスを選択します。 TQL 結果は、新しい TQL クエリに定義した属性に基づ いたものになります。
既存のクエリの エンリッチメント に基づく	既存の TQL クエリをエンリッチメント・ルールのベースにする場合は、このチェック・ ボックスを選択します。必要なエンリッチメント TQL クエリをドロップダウン・リスト から選択します。
ベース クエリ詳 細	TQL クエリの説明を入力します(任意指定)。
ベース クエリ名	エンリッチメント TQL クエリの一 意 の名 前を入 力します。
	[既存の TQL のエンリッチメント ルールに基づく]オプションを選択した場合, ルールの基礎とするエンリッチメント TQL クエリを選択します。
ベース クエリの 優先度	新しい TQL クエリの優先度(低,中,高,至急)を選択します。この設定により、システムが CMDB から更新情報を取り込むためにこのクエリを自動的に再 実行する頻度が決定します。

UI 要素	詳細
現在の定義に 基づいて新規ク	選択すると、エンリッチメント・ルールの定義に基づいて新しい TQL クエリが保存 されます。
エリを 保 存 	注 :このフィールドは、[エンリッチメント ルールに名前を付けて保存]ウィザードにのみ表示されます。

新規テナント関連付けルール/テナント関連付けルールのプロパティ/テナント関連付けルールとして保存ウィザード

このウィザードでは、テナント関連付けルールを作成、変更できます。

利用方法	● 新規テナント関連付けルールを作成するには、 [エンリッチメントルール]表示枠の任意
	の場所で右クリックして[新規テナント関連付けルール]をクリックするか, [新規] ^{**} ボタ ンの横の下向き矢印をクリックして[新規テナント関連付けルール]を選択します。
	 既存のテナント関連付けルールを変更するには、[エンリッチメント ルール]表示枠でテナント関連付けルールを右クリックして、[プロパティ]を選択します。
	 既存のクエリに基づいて新しいテナント関連付けルールを作成するには、[エンリッチメントルール]表示枠でテナント関連付けルールを右クリックして、[名前を付けて保存]を選択します。
鱼画	💩 アクティブなテナント関連付けルールを表します。
へ 情 報	🖧 非アクティブなテナント関連付けルールを表します。
TIA	注:
	 このウィザードは、マルチテナンシが有効な場合のみ使用できます。
	 テナント関連付けルールの基礎として機能するTQL クエリはー定の検証制限を受けます。詳細については、80ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。
関	410ページ「新規テナント関連付けルールの定義」
連タ スク	
さず	「新規テナント関連付けルール/テナント関連付けルールのプロパティ/テナント関連付け ルールとして保存ウィザード」には、次のページが含まれています。
ド・ マッ プ	「[ルールー 般 属 性] ページ」>「[ルール ベース クエリ] ページ」
関	17ページ「トポロジ・クエリ言 語 (TQL) 」
連 情 報	
TIX.	

[ルールー般属性]ページ

このウィザード・ページでは、テナント関連付けルールの一意の名前と詳細を入力できます。

重要情報	 エンリッチメント・ルールの基礎として機能するエンリッチメント TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、80ページ「トラブルシューティングおよび制限事項」を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。 TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、419ページ「新規エンリッチメント・ルール/エンリッチメント・ルールのプロパティ/エンリッチメント・ルールとして保存ウィザード」を参照してください。 標準設定では、このウィザードは[ようこそ]ページを表示するように設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、このページを表示しないようにできます。詳細については、80ページ「[ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ウザ・マプ	「新規テナント関連付けルール/テナント関連付けルールのプロパティ/テナント関連付け ルールとして保存ウィザード」には、次のページが含まれています。 「[ルールー般属性]ページ」>「[ルールベースクエリ]ページ」
関 連 情 報	17ページ「トポロジ・クエリ言 語 (TQL) 」

UI 要 素	詳細
ル— ルの 詳細	ルールの詳細を入力します(任意指定)。
ルル有効にる	このオプションを選択すると、ルールが保存されたらすぐにシステム内で有効になります(任意 指定)。
	標準設定:選択されていない
	注:
	 有効なテナント関連付けルールが無効化された場合([ルールを有効にする]チェック・ボックスをクリア), CMDB で発生したルールに関連するすべての変更がシステムから削除されます。テナント関連付けルールを無効化すると、[エンリッチメントルール]表示枠でルールの横に赤い[X]が表示されます。
	 ルールを再度有効にするには、[エンリッチメント ルール]表示枠でルールを右クリックして、[プロパティ]を選択します。[一般属性]ページで[ルールを有効にする]を選択しま

UI 要 素	詳細
	す。
トート	テナント関連付けルールの一意の名前を入力します。 ルール名には, \/:"<> %?の文 字を含むことができません。\/:"<> %?.最後の文字を空白スペースにすることはできません。
	注 :ルール名が空の状態であるか、別のテナント関連付けルールで使用している名前が含まれているか、無効な文字を使用している場合、[次へ]および[完了]ボタンは使用できません。

[ルールベースクエリ]ページ

このウィザード・ページでは, テナント関連付けルールの基礎とする TQL クエリのプロパティを定義 できます。

UI要素	詳細
Base the Tenant Association rule on a new query	新しい TQL クエリをテナント関連付けルールのベースにする場合は、この チェック・ボックスを選択します。 TQL 結果は、 新しい TQL クエリに定義し た属性に基づいたものになります。
Base the Tenant	既存のTQL クエリをテナント関連付けルールのベースにする場合は、この

UI要素	詳細
Association rule on an existing query	チェック・ボックスを選択します。 必要な TQL クエリをド ロップダウン・リストから選択します。
ベース クエリ詳細	TQL クエリの説明を入力します(任意指定)。
ベース クエリ名	TQL クエリの一意の名前を入力します。
	[Base the Tenant Association rule on an existing query]オプション を選択した場合、ルールの基礎とするエンリッチメント TQL クエリを選択し ます。
ベース クエリの優先度	新しい TQL クエリの優先度(低,中,高,至急)を選択します。この設 定により、システムが CMDB から更新情報を取り込むためにこのクエリを 自動的に再実行する頻度が決定します。
現在の定義に基づい て新規クエリを保存	選択すると、テナント関連付けルールの定義のベースとなる新しい TQL ク エリが保存されます。
	注:このフィールドは、[テナント関連付けルールとして保存]ウィザードに のみ表示されます。

[クエリノード / 関係の定義] ダイアログ・ボックス

選択したクエリ・ノード/関係の属性を表示します。キー属性と選択したクエリ・ノードの必須属性は太字で表示されます。

利用方法	エンリッチメント モード([エンリッチメント マネージャ]ページの上 部 で[クエリ/エンリッチメント]ド ロップダウンから[エンリッチメント]を選 択)の場 合, クエリ・ノードまたは関 係を右 クリックし, [関係を更新]または[クエリノードを更新]を選 択します。
重要情報	エンリッチメント・ルールを使用して, CMDB内のCI属性の値を更新するか, 現在値が設定されていない属性にデータを追加します。たとえば, このオプションを使用して, すべてのCI インスタンスに同時にメモを追加できます。
報	キー属性とエンリッチメント・クエリ・ノードの必須属性の値を入力する必要があります。これらの値の定義に使用する方法で,作成されるインスタンス数が決まります。
	動的な値を入力すると, 膨大な数のインスタンスを作成できます。 たとえば, CIT Node の host_key または CIT IpAddress の IP アドレス属性に動的な値を入力します。
関 連 タ スク	406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」

[属性]領域

UI 要 素	詳細
Name	属性名です。
タイプ	選択した属性のフィールドのタイプです。
値	次のいずれかで値が定義されます。
	• [属性の設定]領域の[値]ボックス。
	• [属性の設定]領域の複数の[属性別]ボックスの値の組み合わせ。
	• [クエリノード定義 — 詳細な属性]ダイアログ・ボックスの[タイプ]カラムで[簡易]を選 択した場合, [値]カラム。
	• [クエリノード定義 — 詳細な属性]ダイアログ・ボックスの[タイプ]カラムで[属性別]を 選択した場合, [値]カラムと[値]カラムの右側のカラムの値の組み合わせ。

[属性の設定]領域

UI 要 素	詳細
	(フィールド・タイプの属性に[文字列]を選択した場合にのみ表示)[クエリノード定義 - 詳細な属性]ダイアログ・ボックスが開きます。
	単純または複雑な表現を使用して、 文字列 タイプのクエリ・ノードと関係の属性を定義 します。また、正規表現形式を使用して複雑な表現を作成することもできます。
詳細 設定	(フィールド・タイプの属性に[文字列]を選択した場合にのみ表示)[クエリノード定義 - 詳細な属性]ダイアログ・ボックスで定義された属性値を表示します。
属性	TQL クエリのほかのクエリ・ノードの属性を使用して属性を定義します。
別	 左側のボックスで必要なクエリ・ノードを選択します。
	• 右側のボックスでクエリ・ノードの必須属性を選択します。
	属性定義は[属性]領域の[値]カラムに表示されます。
正規 表現 グル ー プ	(フィールド・タイプの属性に[文字列]を選択した場合にのみ表示)正規表現構文を使用して正規表現を追加した場合にのみグループ番号を入力します。これは、正規表現 パターンのうち、属性を作成するときに注目する部分を表します。括弧()のセットでグ ループとみなされます。
正規 表現	(フィールド・タイプの属性に[文字列]を選択した場合にのみ表示)正規表現構文を使 用して正規表現を追加します。正規表現パターンを入力します。
値 ([属 性の	定数値を定義します。[値]ボックスに必要な値を入力するか、[値]リストから値を選択します。
設定] 領域)	注:値の定義は「属性」領域の「値」カラムに表示されます。

[クエリノード定義] - [詳細な属性]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、単純または複雑な表現を使用して、文字列タイプのクエリ・ノードと関係の属性を定義できます。また、正規表現形式を使用して複雑な表現を作成することもできます。

利用	[クエリノード定義]ダイアログ・ボックスの 文字列 タイプの属性を選択します。[詳細]を
方法	選択し, [詳細]ボタンをクリックします。
関連 タスク	406ページ「エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ」

UI 要 素	詳細
÷	単純または複雑な表現を使用して属性値を定義します。 [タイプ]カラムに新しいエントリ を作成します。新しいエントリをクリックし, [単純]または [属性別]を選択します。詳細に ついては,後述の [タイプ]カラムの説明を参照してください。
×	属性値を削除します。
	選択した行を上へ移動します。
\downarrow	選択した行を下へ移動します。
詳細 な値	([タイプ]カラムで[属性別]を選択している場合にのみ利用可能)ボックス内のエントリ をクリックし, 必須属性を選択します。
連結	このダイアログ・ボックスに一覧表示されているすべての属性値を使用します。
正 規 グ ル ー プ	([タイプ]カラムで[属性別]を選択している場合にのみ利用可能)[正規表現グループ] カラム内をクリックし、 ボックスの[値]にグループ番号を入力します。これは、正規表現パターンのうち、属性を作 成するときに注目する部分を表します。括弧()のセットでグループとみなされます。
正規 表現	([タイプ]カラムで[属性別]を選択している場合にのみ利用可能)[正規表現]カラム内 をクリックして ボックスの[値]に正 規表現パターンを入力します。
タイプ	[タイプ]カラム内のエントリをクリックし,次のいずれかのオプションを選択します。
	• 単純:単純表現を使用して定数値を定義します。
	• 属性別: TQL のほかのクエリ・ノードの属性を使用して属性を定義します。
	標準設定 ∶単純
値を 持つ 最初	このダイアログ・ボックスに一覧表示されている空ではない最初の属性値を使用します。

UI 要 素	詳細
の属 性を 使用	
値	• [タイプ]カラムで[単純]を選択した場合, [値]カラム内をクリックして ボタン をクリックし, [単純]ダイアログ・ボックスの[値]に必要な値を入力します。
	注:1つの単純表現のみを使用して属性値を定義した場合, [値]カラムを空白にできません。
	• [タイプ]カラムで[属性別]を選択した場合, [値]カラム内をクリックし, リストから必要な値を選択します。

[利用者テナントを更新]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CIの利用者テナントの更新ルールを定義できます。

利用方法	[エンリッチメント マネージャ]で[エンリッチメント モード]を選択します。[テナント関連付け ルール]で,必要なクエリ・ノードを右クリックし, [利用者テナントを更新]を選択します。
重要情報	このダイアログ・ボックスは, マルチテナンシーの有効時にのみ使用できます。

UI 要素	詳細
選択した値を 元の値に追加	このオプションを選択すると,選択した利用者テナントが,更新したクエリ・ノード の元の利用者テナントに追加されます。
属性値の取 得元	選択したクエリ・ノードのテナント属性を選択して, 更新したクエリ・ノードに適用 します。次のオプションを使用できます。
	• 所有者テナントの属性:選択したクエリ・ノードの所有者テナントを,更新したクエリ・ノードの利用者テナントとして適用します。
	• 利用者テナントの属性:選択したクエリ・ノードの利用者テナントを,更新したクエリ・ノードの所有者テナントとして適用します。
	注:この要素は、[属性別]を選択した場合にのみ関連します。
 元の値を上書 き	このオプションを選択すると、選択した利用者テナントが、更新したクエリ・ノードの元の利用者テナントと置き換わります。
ノードを選択	選択したクエリ・ノードを, [利用可能なノード]ペインから[選択済みのノード]ペインに, 矢印ボタンを使用して移動します。

UI要素	詳細
	注:この要素は、[属性別]を選択した場合にのみ関連します。
テナントの選択	選択したテナントを, [利用可能なテナント]ペインから[選択済みのテナント]ペ インに, 矢印ボタンを使用して移動します。
	注:この要素は、[值別]を選択した場合にのみ関連します。
利用者テナン	顧客テナントの更新方法を選択します。次のオプションを使用できます。
トを更新	• 値別 :利用者テナントから直接テナントを選択します。
	• 属性別: ルールでその他のクエリ・ノードを選択します。 更新したクエリ・ノード には、選択したクエリ・ノードの所有者テナントが割り当てられます。

[利用者テナントを更新]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、 CI の所有者テナントの更新ルールを定義できます。

利用方法	[エンリッチメント マネージャ]で[エンリッチメント モード]を選択します。[テナント関連付け ルール]で,必要なクエリ・ノードを右クリックし,[所有者テナントを更新]を選択します。
重要情報	このダイアログ・ボックスは、マルチテナンシーの有効時にのみ使用できます。

UI 要素	詳細
テナントの選	ドロップダウン・リストからテナントを選択します。
沢	注: この要素は、 [値別]を選択した場合にのみ関連します。
所有者テナン	ドロップダウン・リストからクエリ・ノードを選択します。
トの選択元	注:この要素は、 [属性別]を選択した場合にのみ関連します。
所有者テナン	所有者テナントの更新方法を選択します。次のオプションを使用できます。
トを更新	• 値別 :ドロップダウン・リストからテナントを直接選択します。
	• 属性別:ルールで別のクエリ・ノードを選択します。更新したクエリ・ノードには,選択したクエリ・ノードの所有者テナントが割り当てられます。

HP Universal CMDB データ・モデル



UCMDB データ・モデルの概要

本章の内容

ユニバーサル・データ・モデル(UDM)の概要

Universal Data model(UDM)は、共通言語を使用してHP ソフトウェア製品を統合可能にするための情報モデルを提供します。UDMは、CI タイプの形式で語彙とそれらの間の関係、および属性を提供します。この語彙と語彙から派生した作成物は、エンタープライズ環境でのインテグレーションだけでなく、迅速な設計とデプロイメントを可能にし、メンテナンスと統合の進化を容易にするために使用されます。UDMは、HP Universal CMDBおよびそのインテグレーションを含む多くの管理製品とソリューションに適用されます。

UCMDB CI タイプと関係情報 PDF を生成できます。これは、UDM 内の特定のCI タイプと関係に 関する情報を提供します。詳細については、402ページ「[PDF への選択した CIT のエクスポート] ダイ アログ・ボックス」を参照してください。UDM Powerpoint ドキュメントは HP Live Network でも見つかり ます。

第14章

UCMDB データ・モデルの UML ツールへのエクスー ポート

本章の内容

クラス・モデルのエクスポート	432
UML ツールへのエクスポート – 概要	433
クラス・モデルの選択部分のXMLを変換	433
UML へのエクスポート・ツールのユーザ・インタフェース	434
ツール・プラグイン入力	435

注:現在, Altova UModel バージョン 2008 と 2009 がサポート されています。

クラス・モデルのエクスポート

このタスクでは, [クラス モデルの UML ツールへのエクスポート] ウィザード の使 用 方 法 について説 明します。

本項の内容

- 432ページ「前提条件」
- 432ページ「UML ツールの実行」
- 432ページ「エクスポートしたファイルの Altova での表示」
- 1. 前提条件

次のzipファイルを任意の場所に展開してツールをセットアップします。

<Volume> : \hp\UCMDB\UCMDBServer\tools\ExportClassModel.zip

2. UML ツールの実行

[クラス モデルの UML へのエクスポート] ウィザードを使用して, UML ツールにエクスポート する CIT とその属性を選択します。

[UML へのエクスポート] ウィザードを使用した作業の詳細については、434ページ「UML へのクラス・モデルのエクスポート・ウィザード」を参照してください。

3. エクスポートしたファイルの Altova での表示

- a. Altova では, [ファイル]>[XMI ファイルからインポート]を選択します。
- b. XMI ファイルを選択します。[モデルツリー]表示枠にクラス・モデル・エントリが表示されます。
c. エントリを右クリックして[新規ダイアグラムに表示]>[コンテンツ]を選択します。[OK]をクリックします。

UML ツールへのエクスポート – 概要

UML ツールへのエクスポートでは、UCMDB クラス・モデルの選択したセクションを UML ツールと互換性のある形式にエクスポートし、モデルを UML 図として表示 できます。

ツールへの入力項目は, UCMDB 9.0のJMX サービス, UCMDB:service=Class Model Services/ exportClassModelToXml()によって取得されるUCMDB クラス・モデル XML ファイルです。

注: JMX コンソールにアクセスするには、ブラウザのアドレスにhttp://<サーバ名>:8080/jmxconsole と入力します。ここで、<サーバ名>は、HP Universal CMDB がインストールされている マシンの名前です。

クラス・モデルの選択部分の XML を変換

このタスクでは、クラス・モデルの選択部分のXMLをUMLツール形式に変換するカスタム・プラグインの使用方法について説明します。

Java クラスまたは XSLT テキスト・ファイルのプラグインを使用できます。 Java クラスを使用する場合, ITransformToUML(ExportToUML.jar)インターフェイスを実装する必要があります。 transformToUML()メソッドが XML ストリングをパラメータとして受信し, 出力ファイルに書き込まれるバイトアレイとして返します。

カスタム・プラグイン入力の詳細については、435ページ「ツール・プラグイン入力」を参照してください。

本タスクの手順は次のとおりです。

- 433ページ「Java クラスを使用したプラグインのアクティブ化」
- 433ページ「XSLT テキスト ファイルを使用したプラグインのアクティブ化」

Java クラスを使用したプラグインのアクティブ化

表示名と完全修飾クラス名を、次のように ExportToUML ディレクトリのconfig.xmlファイルに追加します。

<ConverterToUML> <Name><表示名></Name> <Class><完全修飾クラス名></Class> </ConverterToUML>

クラス・モデルをエクスポートする手順を続行します。詳細については,432ページ「クラス・モデルのエク スポート」を参照してください。

XSLT テキスト ファイルを使用したプラグインのアクティブ化

この場合には, 指定したファイルの XSLT がクラス・モデル XML に適用され, 出力ファイルに書き込まれます。

表示名とXSLT ファイルのフル・パスを,次のように ExportToUML ディレクトリのconfig.xmlファイルに追加します。

```
<ConverterToUML> <Name><表示名></Name>
<XsltFile><XSLT ファイルのフル・パス></XsltFile>
</ConverterToUML>
```

クラス・モデルをエクスポートする手順を続行します。詳細については、432ページ「クラス・モデルのエクスポート」を参照してください。

UML へのエクスポート・ツールのユーザ・インタフェース

本項の内容

• 434ページ「UML へのクラス・モデルのエクスポート・ウィザード」

UML へのクラス・モデルのエクスポート・ウィザード

このウィザードでは、UML ツールにエクスポートする CIT とその属性を選択できます。

利用 方法	ツールを展開した場所を参照します。ExportClassModel ディレクトリで ExportClassModel.jar を右クリックします。 [アプリケーションから開く]>[Java 2 プラット フォーム SE バイナリ]を選択します。
重要 情報	標準設定では、ツールによりExportClassModel ディレクトリの ClassModel.xml ファイル が開かれます。[ファイル]>[クラス・モデル ファイルを開く]メニューでほかのファイルを開くこと ができます。
関連 タスク	432ページ「クラス・モデルのエクスポート」
ウィ ザー ド・ マップ	[クラス・モデルの UML へのエクスポート] ウィザードには、以下のページが含まれています。 434ページ「UML へのクラス・モデルのエクスポート・ウィザード」 > 435ページ「有効なリンクの選択」 > 435ページ「選択した項目のエクスポート」
関連 情報	435ページ「ツール・プラグイン入力」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI要素	詳細
ファイル	XML ファイルのリストを表示します。 クラス・モデルを含むファイルを開きます。
[属性の選択]表示枠	UML ツールに表示する属性を選択します。
	選択した CIT の属性はこの表示枠に表示されます。属性の色は次の とおりです。
	 親 CIT から継承する属性は黒です。
	 この CIT に固有の属性は濃い青です。
[CI タイプの選択] 表	ここに表示される CIT は, ClassModel.xml ファイルから取得されます。
示枠	UML ツールにエクスポートする CIT とそのサブ・ノードを選択します。
	サブインデックスをすべて選択またはすべてクリアするには, ボタンを使用 します。

有効なリンクの選択

このウィザード・ページでは, 2つの CIT 間で使用できるリンクを選択できます。

重要情報	ウィザードに関するー 般情報は, 434ページ「UML へのクラス・モデルのエクスポート・ ウィザード」 で入手できます。
ウィザード・ マップ	[クラス・モデルの UML へのエクスポート] ウィザードには, 以下のページが含まれています。
	「有効なリンクの選択」>「選択した項目のエクスポート」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
8	このボタンをクリックすると, CIT のリストからフィルタが削除されます。
適用 フィルタ	有効なリンクのリストをフィルタ処理できます。CIT のリストをフィルタ処理し,CIT または 関係ごとにリストを並べ替えできます。

選択した項目のエクスポート

このウィザード・ページでは、選択した CIT とその属性を UML ツールにエクスポートできます。

重要情報	ウィザードに関するー 般情報は,434ページ「UML へのクラス・モデルのエクスポート・ ウィザード」で入手できます。
ウィザード・ マップ	[クラス・モデルの UML へのエクスポート] ウィザードには,以下のページが含まれています。
	「有効なリンクの選択」>「 選択した項目のエクスポート」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要 素	詳細
エクス ポート	クリックして, UCMDB CIT とその属性を追加する XMI 形式の UML ファイルを参照します。
	CIT のペアの有効なリンクがない場合は、「有効なリンクなし」メッセージが[有効なリンクの選択]ページに表示されます。

ツール・プラグイン入力

プラグインへの入力は、次の形式のXML文字列(選択したクラス/属性/有効なリンク)です。

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?> <Class-Model> <Class class-name="hostresource" display-name="Host Resource"
```

visibility="public"> <Attribute name="isvirtual" displayname="Is Virtual" visibility="public"/> <Attribute name="city"</pre> display-name="City" visibility="public"/> </Class> <Class class-name="host node" display-name="Computer" visibility="public"> <Derived-From class-name="host"/> </Class> <Class class-<Attribute name="vax" display-name="VAX" visibility="public"> name="root actualdeletionperiod" display-name="Actual Deletion Period" visibility="public"/> <Attribute name="data allow auto discovery" display-name="Allow CI Update" visibility="public"/> <Derived-From</pre> class-name="host node"/> </Class> <Class class-name="host" display-name="Host" visibility="public"> <Attribute name="host"</pre> iscomplete" display-name="Host Is Complete" visibility="public"/>

<Attribute name="host_isroute" display-name="Host Is Route"
visibility="public"/> <Attribute name="host_hostname" displayname="Host Name" visibility="public"/> <Attribute name="host_os"
display-name="Host Operating System" visibility="public"/>

</Class> <Class class-name="unix" display-name="Unix" visibility="public"> <Derived-From class-name="host node"/>

</Class> <Valid-Link ID="host_member_host" displayname="Member" visibility="public"> <End1 class-name="host"/>

<End2 class-name="host"/> </Valid-Link> <Valid-Link
ID="host_container_f_hostresource" display-name="Container link"
visibility="public"> <End1 class-name="host"/> <End2 classname="hostresource"/> </Valid-Link> </Class-Model>





テーブルでの作業

本章の内容

カラムのインタフェース

本項の内容

- 438ページ「[カラムの選択] ダイアログ・ボックス」
- 439ページ「[カラムコンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックス」

[カラムの選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、表示する情報を選択できます。カラムを非表示にするか、非表示状態のカラムを表示するように選択できます。

詳細	[カラムの選択] 🏧 ボタンをクリックします。 このボタンはレポート内の各テーブルの上に表示されます。
重要情報	リストのカラム順序(可視カラムの表示枠内)により、テーブルに表示されるカラムの順序が決定されます。テーブル・カラムの順序を変更するには、上下の矢印ボタンを押すか、カラムを新しい場所にドラッグして必要な位置へ移動します。

含まれている要素は次のとおりです。

UI 要素	詳細
	カラムを表示します。選択したカラムを[利用可能なカラム] 表示枠から[可視カラ ム] 表示枠に移動します。
1 U	選択したカラムを非表示にします。選択したカラムを [可視カラム] 表示枠から [利 用可能なカラム] 表示枠に移動します。
m	すべての非表示カラムを表示します。 すべてのカラムを [利用可能なカラム] 表示枠 から [可視カラム] 表示枠に移動します。
UU	すべてのカラムを非表示にします。すべてのカラムを[可視カラム]表示枠から[利用 可能なカラム]表示枠に移動します。
♠	[可視カラム] 表示枠のリスト中で,選択したカラムを上に移動します。
\Rightarrow	[可視カラム] 表示枠のリスト中で,選択したカラムを下に移動します。

UI 要素	詳細
利用可能 なカラム	この表示枠内のカラムはテーブルに表示されません。
[可視カラ ム]	この表示枠内のカラムはテーブルに表示されます。

[カラム コンテンツの並 べ替 え] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テーブルに表示されるエントリの並べ替え順序を設定、変更できます。

詳細	[カラム コンテンツの並 ベ替 え] ボタン ^{主1} をクリックします。
画	1 つのカラムを基準にしたテーブルの並べ替えは,次の手順を実行します。
要 情 報	カラム名を[利用可能なカラム] から[並べ替えられたカラム] リストに移動します。名前を選択 し, 該当するボタンをクリックして昇順(上向きの三角形)または降順(下向きの三角形)のい ずれで並べ替えるかを決めます。
	2 つ以上のカラムを基準にしたテーブルの並べ替えは、次の手順を実行します。
	カラム名 (複数)を [利用可能なカラム] から [並べ替えられたカラム] リストに移動します。 各カ ラムについて, 昇順または降順のいずれで並べ替えるかを決めます。
	カラムの並べ替え順序を変更するには,次の手順を実行します。
	[並べ替えられたカラム] リストでエントリを選択し、上向きまたは下向き矢印を選択して順序 を変更します(リスト内の上部にあるエントリがまず並べ替えられ、その後、下部にあるエントリ が並べ替えられます)。テーブルのカラムのヘッダーに数が表示されます。
	注 :並べ替えることができるのは,表示されているカラムのみです。テーブル内に表示するカラムとその表示順序を定義する方法の詳細については,438ページ「[カラムの選択] ダイアログ・ ボックス」 .参照してください。

含まれている要素は次のとおりです。

UI要素	詳細
	選択したカラムを [利用可能なカラム] 表示枠から [並べ替えられたカラム] 表示枠に 移動します。 この手順は,選択したカラムをダブルクリックすることでも行えます。
¢	選択したカラムを[並べ替えられたカラム] 表示枠から[利用可能なカラム] 表示枠に 移動します。
m	すべてのカラムを[利用可能なカラム] 表示枠から[並べ替えられたカラム] 表示枠に 移動します。
*	すべてのカラムを[並べ替えられたカラム] 表示枠から[利用可能なカラム] 表示枠に 移動します。
₩ ♠	リスト内で選択したカラムを上または下に移動して、すでに決められている並べ替え 順序内での優先順位を上げ下げできます。

UI要素	詳細
lit ≣i	カラムの内容を昇順または降順に並べ替えることができます。
	[並べ替えられたカラム] 表示枠でカラム名を選択し、昇順または降順ボタンをクリック します。
利用可	内容が並べ替えられていないカラムです。
能なカラ ム	注:複数のカラムを選択できます。
並べ替え られたカラ ム	内容が昇順または降順で並べ替えられたカラムです。

第16章

正規表現の例

本章の内容

正規表現の例

• IP アドレス (aa.yy.zz.mm)を定義する正規表現は、次のように入力します。

目的	最初のフィールドへの入力内容	2 つ目のフィールドへの入力内容
aa でラベルを作成する	(.*)([.].*[.].*[.].*)	1
yy でラベルを作成する	(.*[.])(.*)([.].*[.].*)	2
zz でラベルを作成する	(.*[.].*[.])(.*)([.].*)	2
mm でラベルを作成する	(.*[.].*[.].*[.])(.*)	2

• 次のように正規表現を入力して、選択された属性の最初または最後の文字でラベルを作成できます。

目的	最初のフィールドへの入力 内容	2 つ目のフィールドへの入力 内容
最初の文字でラベルを作成す る	(.)(.*)	1
最後の文字でラベルを作成す る	(.*)(.)	2
最初の2文字でラベルを作成 する	()(.*)	1
最後の2文字でラベルを作成 する	(.*)()	2



